

**グローバル COE プログラム**  
**生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点**



**平成 21 年度**  
**自己点検評価報告書**

## 目次

1. はじめに 1
2. プログラムの目標と進捗 2
3. 運営体制の整備 6
  - 3.1 運営体制と教育研究プログラム
  - 3.2 委員会・部会組織と人員配置
  - 3.3 事務局体制の整備
  - 3.4 平成 21 年度予算と配分状況
  - 3.5 情報基盤の整備
4. 運営委員会の活動 10
  - 4.1 概要
  - 4.2 特定助教(G-COE)、特定研究員(G-COE)および研究員(時間雇用)の採用
5. 人材育成センターの活動 11
  - 5.1 大学院教育部会および若手養成・研究部会の組織運営
  - 5.2 新専攻「グローバル地域研究」、持続型生存基盤講座の設置について
  - 5.3 海外派遣助成
  - 5.4 アジア・アフリカ人材育成
6. 研究イニシアティブ 27
  - 6.1 パラダイム研究会
  - 6.2 研究イニシアティブ 1
  - 6.3 研究イニシアティブ 2
  - 6.4 研究イニシアティブ 3
  - 6.5 研究イニシアティブ 4
7. 広報成果発信部会 46
  - 7.1 研究成果発信
  - 7.2 ニュースレター
  - 7.3 ウェブページ

<b>8. 基盤整備部会</b>	<b>57</b>
8.1 データベース	
8.2 図書	
<b>9. 国際アドバイザーボードの活動</b>	<b>61</b>
9.1 国際シンポジウムとの連携	
9.2 国際アドバイザーボードによる外部評価	
<b>10. 平成 21 年度 主な外部資金一覧</b>	<b>64</b>
<b>11. 自己点検評価委員会</b>	<b>67</b>
<b>12. おわりにー今後の展望ー</b>	<b>70</b>
<b>Appendix</b>	
<b>G-COE 平成 21 年度業績リスト</b>	
<b>G-COE ワーキングペーパーリスト</b>	

## 1. はじめに

本プログラムは、アジア・アフリカ地域の持続的発展に関する学際的研究を、グローバルで長期的な視野から、多面的に行うために創出された。われわれは、アジア・アフリカの地域研究に携わる研究者と、先端技術の開発に関わる科学者との学問的対話を促進するために、「持続型生存基盤パラダイム」という新しい考え方を提案し、地球温暖化のアジア・アフリカの地域社会への影響といった緊急の課題に対応しつつ、ローカルな、あるいはリージョナルな持続的発展径路を追究したいと考える。

本プログラムの主幹部局である東南アジア研究所は、強い学際的な志向を持った京都大学の地域研究の伝統のなかで発展してきた。本プログラムは、アジア・アフリカ地域研究研究科が東南アジア研究所と協力して行った 21 世紀 COE プログラム（2002－2007 年）の成果を受け継ぎ、フィールドワークと臨地教育にもとづく大学院教育を継続するとともに、「持続型生存基盤コース」を新設し、若手研究者の養成を図る。さらに、生存圏研究所などから森林科学・木質科学、気象学・大気圏科学、物質循環論、エネルギー科学など「サステナビリティ学」に関連するハードサイエンスの領域を加えて、地域研究における科学的研究の幅を広げる。それによって、先端科学技術の知識を、伝統的な地域研究を支えてきた生態学、政治学・経済学、社会学・人類学、歴史学、医学の知識と融合させ、これまでの体制よりもはるかに幅広い人文科学、社会科学、自然科学の諸分野につうじた地域研究の専門家や科学者を養成する。

3 年目にあたる平成 21 年度の第一の目標は、7 月に実施された中間評価ヒアリングの準備と並行して、中間的な成果をまとめることだった。なかでもパラダイム形成を現段階で総括した論文集『地球圏・生命圏・人間圏 - 持続的な生存基盤を求めて』（杉原薫・川井秀一・河野泰之・田辺明生編著、京都大学学術出版会、2010 年 3 月）の刊行に大きな力を割き、その編集過程でメンバーの知的協働を深めることができた。他方、引き続き、広い学際性を維持しつつ共通の枠組を発展させるために、パラダイム研究会を 11 回、国際シンポジウム・セミナーを 13 回、その他、イニシアティブ研究会・ワークショップを多数主催・共催した。さらに、その成果を速報として公開するワーキングペーパー 14 冊を刊行した。

教育面では、本プログラムの開始を契機として、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科において、平成 21 年 4 月に「グローバル地域研究専攻」が設置され、そのなかに「持続型生存基盤論講座」が設置されて、学生定員 8 名（新専攻全体）でスタートした。持続型生存基盤論講座に準備された講義には、他講座、他専攻からも多くの院生が参加した。

このように、本プログラムは、パラダイム形成と人材育成を両輪として、着実に進展している。幸い中間評価でも、「とくに優れた拠点」との評価をいただいた。次年度においては、最終成果に向けて、数巻の持続型生存基盤論講座と英文論文集の刊行の準備を始めたい。東南アジアにおける森林プロジェクトの具体化も進める予定である。

平成 22 年 5 月 31 日

拠点リーダー 杉原 薫

## 2. プログラムの目標と進捗

### パラダイムの形成

本拠点形成の第一の目的は、自然生態、政治経済、社会文化を包摂した総合的・地域研究に人類の生存基盤を左右する先端的科学技術研究を融合させて、「持続型生存基盤パラダイム」研究を創成することである。

近年のアジア・アフリカにおける総合的・地域研究の成果から、人間の活動範囲が政治経済のグローバリゼーションによって地理的・空間的に拡大しつつあることに加え、地域はグローバリゼーションの単なる受け手ではなく、地域間交流などを通じて、グローバリゼーションそのものに影響を与える能動的な主体であることが明らかになった。一方、現代社会の要請に応え、地球環境問題、エネルギー問題を視野に入れた21世紀世界を展望するには、資本主義が前提としてきた私的所有権からの発想を相対化し、地表から宇宙までの空間的広がりをもった「生存圏」の物質・エネルギー循環に関わる研究を取り込み、ローカルにもグローバルにも持続可能で、かつ、科学技術・社会制度・価値観の考察を包摂した、新たな生存基盤持続型発展径路を構築するためのパラダイムを創出する必要がある。

具体的には以下の4つの研究イニシアティブを通じてパラダイム研究を推進する。イニシアティブ1「環境・技術・制度の長期ダイナミクス」は、人類が「生存基盤の確保」を主たる課題としてきた社会から、生活水準の向上や人口の増加、国力の増大を目指す「開発」型の社会に変化してきた過程を歴史的に解明し、先端科学の知見とつきあわせることによって、現代のアジア・アフリカ地域の環境、技術、制度にかかわる問題群を再検討する。イニシアティブ2「人と自然の共生研究」は、従来の地域に根ざした資源利用システム研究と、物質・エネルギー循環の危機を背景にした新しい研究・知見を融合させて、社会文化的に実現可能な資源利用システムを提言する。イニシアティブ3「地域生存基盤の再生研究」では、より大きな一地域（スマトラ・リアウなど）をとりあげ、森林の再生、第一次産品輸出経済の発展と周囲の植生、制度、雇用、地方政治との絡み合いを総合的に考察し、持続型発展のモデルを追究する。イニシアティブ4「地域の知的潜在力研究」は、人類の多様性を保証してきた文化、価値観のなかに、生存基盤の持続的発展の要因を探る。

これら4つの研究イニシアティブにおける取り組みの成果として、これまでに明らかになった知見は、次の三点にまとめられる。その第一は、人間と自然環境の関係を、これまでのように人間（開発）の側からだけ、あるいは自然環境の維持の立場だけから考えるのではなく、両者の相互関係を考慮した上で、人類の「生存基盤」をどのように持続させていくかという視点が重要だということである。われわれは、そうした視点を確立するために、グローバル・ヒストリーを書き直したり、生命を連鎖体として見る在来の「生存基盤の思想」を読み解いたりした。

第二は、人間と自然環境との関係を二項対立的に捉えるのではなく、「地球圏」、「生命圏」、「人間圏」という、長い歴史と固有の運動の論理をもった三つの圏が交錯して成立する「生存圏」として捉えることによって、これまで注目されていなかったさまざまな領域の問題を可視化し、総合化することができるのではないかということであ

る。具体的には、大気の動きと降雨、植生の関係を学際的に研究することによって「熱帯生存圏」の諸相を理論的に解明するとともに、東南アジアの大規模植林をとりあげて、そこにおける生態系と生物多様性の維持、地域社会との関係、バイオエネルギーの開発などのテーマを総合的、体系的に解明しようとした。

第三に、人間開発指数に代わる「生存基盤指数」の開発を試みた。従来の指数が一人当たり GDP、教育、健康など人間圏にかかわる指標のみを対象としていたのに対し、われわれは地球圏（災害への対応力、エネルギーの確保など）、生命圏（生物多様性、バイオキャパシティーなど）にかかわる指標を人間圏と同等に重要なものとして扱うことによって、地域社会の生存基盤の実態に迫ろうとした。

最後に、本年度から、4つのイニシアティブとは別に「図書・資料ユニット」を立ち上げ、持続型生存基盤研究のためのハンドブックを作る基礎作業を始めた。とりあえず、われわれの会話に日常的に登場する文理融合型のコンセプトについて、専門分野に近いメンバーに割り当てて用語解説を書いてもらい、それらを専門分野を超えて多面的に理解できるものにするために、10回ほどの研究会を開催した。

## **成果の発信**

持続的生存基盤パラダイム形成の現時点での成果を、「生産から生存へ」、「地表から生存圏へ」、そして「温帯から熱帯へ」の3つの視点を柱としてとりまとめた単行本『地球圏・生命圏・人間圏 - 持続的な生存基盤を求めて』（京都大学学術出版会）を刊行した。本書は、アジア・アフリカ熱帯地域の社会と生態に関する文理融合的な知見に基づき、温帯の経験を中心に構築された既存の学的枠組みを批判しつつ、21世紀における持続的な生存基盤を学際的に構築する試みである。また平成21年度においては、本プログラムメンバーに加えて、国内外から関連研究者を招へいして、パラダイム研究会を11回、国際シンポジウム・セミナーを13回、その他、イニシアティブ研究会・ワークショップを多数主催・共催した。また、その成果を速報として公開するワーキングペーパー14冊を刊行した。国際会議での招待講演も、British Academy Conference on ‘Writing the History of the Global: Challenges for the 21<sup>st</sup> Century’ における“The European Miracle in Modern Global History: A View from East Asia and Beyond”（杉原薫）など、積極的に実施した。こうした成果に加えて、『東南アジア研究』、『アジア・アフリカ地域研究』、*Kyoto Review of Southeast Asia, African Study Monographs* などにおいても本プログラムに関する論考が現れつつある。

## **教育・人材養成**

本拠点の第二の目的は、パラダイム形成の現場に触れた、本格的な文理融合型研究を担う若手研究者を養成することである。本プログラムの特徴は、21世紀 COE プログラム「世界を先導する総合的地域研究拠点の形成」によってアジア・アフリカ地域に設置した14ヶ所のフィールド・ステーションを継承・発展させ、フィールドワークから国際ワークショップにいたるまで、研究パラダイム形成の現場に博士後期課程の大学院生・ポスドク研究員・助教からなる若手研究者を主体的に参加させることによって、人材育成と研究を融合させるところにある。そのために、「生存基盤地域研究人

材育成センター」を設置して、グローバルな人材発掘からはじめ、研究・教育を経て、国際キャリア支援にいたる、文理融合型の国際的人材育成システムを構築する。

また、海外の地域研究拠点（コーネル大学・ロンドン大学・ライデン大学・オーストラリア国立大学等）と連携し、アカデミック・ディベートを通じて地域研究や専門分野を超えたパラダイム形成能力を養成する。国際的発信能力強化のために、国際学術雑誌への論文掲載や単行本出版のための支援を行うとともに、コミュニケーション能力の向上や研究会・プロジェクトの企画運営能力の向上を目的とした人材育成プログラムを推進する。

これらのプログラムによって、これまでの実績以上の博士修了者を、世界の学界を先導する大学・研究機関そして世界で活躍する民間企業に送り込む。また、国際連合、世界銀行、世界自然保護連合などの国際機関、政府行政機関、世界各地で活動を展開している NGO にもアジア・アフリカ研究の専門家を輩出し、持続型生存基盤の構築に向けた国際的な公論形成に貢献する人材や、地域に根ざした技術開発をリードできる人材を供給する。

平成 21 年度においては、大学院生を対象としたフィールド・ステーション派遣、海外観測拠点派遣支援や論文投稿料支援、若手研究者を対象とした次世代研究イニシアティブ助成や海外派遣助成を実施した。また平成 20 年度に、アジア・アフリカ諸国の優秀な若手研究者を本拠点に招へいし、最先端の研究現場での議論への参加を促進する若手研究者交流を実施したことを受け、平成 21 年 4 月からは、アジア・アフリカ諸国の優秀な修士号取得者を対象として、京都大学への編入により博士号の取得を支援するプログラムを開始した。

これらの成果を踏まえて、新しいパラダイムのもとの人材育成を制度化するため、平成 21 年 4 月より、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科にグローバル地域研究専攻を新設した。新専攻に設置される持続型生存基盤論講座に新規で教授 2 名を採用する。本講座は、「持続型生存基盤研究の方法」や「国際環境医学論」、「熱帯乾燥域生存基盤論」、「熱帯森林資源論」、「人間環境関係論」、「生存圏科学論」等の科目を提供し、本プログラム終了後の教育・人材育成の中核を担っている。

## **世界拠点の形成**

生存基盤地域研究人材育成センターは、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科における「持続型生存基盤講座」の新設を全面的にサポートした。

本プログラム終了後、このセンターを、京都大学の将来構想と連動させ、持続型生存基盤パラダイムによる科学技術研究融合型地域研究の展開と戦略的な人材育成を目的とする京都大学地域研究グローバルユニット（仮称）として再編する。本ユニットは、アジア・アフリカ地域だけでなく欧米を含む世界の関連教育研究ネットワークの中心となる。将来的には学内の新たな教育研究組織として発展・改組を構想している。

持続型生存基盤パラダイムの創出により、地域研究が国際的に活性化され、世界の学術イニシアティブにおける地域研究の地位が向上し、さらにこれらを通じて日本の総合的学術研究の国際的プレゼンスが強化される。また国際機関などにおける環境・エネルギー研究をアジア・アフリカ地域の実態を踏まえたものにし、アジア・アフリ

カ地域社会における価値観や政策を持続型発展へと方向づけ、それらの転換における日本の発信力の向上に貢献する。



### 3. 運営体制の整備

#### 3.1 運営体制と教育研究プログラム

本プログラムは、地域研究を核とした幅広い文理融合による持続型生存基盤パラダイムの構築、パラダイム形成の現場における教育・人材育成、そしてこれらを通じた世界に類を見ない学際融合の拠点形成を目指すものである。そのために、以下の3点に配慮した運営を実施した。

- 1) プログラムに参加する研究者の研究領域間、そして所属する教育研究組織間での円滑で効率的な連携を推進すること
- 2) 国内での教育・人材育成とアジア・アフリカ地域でのフィールドワークの現場での教育・人材育成をリンクさせること
- 3) 最先端の研究活動と大学院教育・若手研究者の育成をリンクさせること

運営体制は、平成19年度と基本的に同様である。プログラム全体を総括し、運営の基本方針に関する意思決定を担う運営委員会のもとに、人材育成センターと大学院教育部会、若手養成・研究部会、広報成果発信部会、拠点基盤整備部会の4つの部会を配置した。これらのセンター・部会が、大学院教育制度の整備、海外拠点を活用した臨地教育、若手研究者のイニシアティブによる研究活動の支援などの人材育成と拠点整備を担っている。また、情報基盤整備を強化するために、これまで拠点基盤整備部会の小部会として機能していた情報基盤整備小部会を事務局直属の小部会として配置換えを行った。

また、研究活動については、持続型生存基盤パラダイムの構築に向けて、研究領域を横断するテーマを掲げる4つの研究イニシアティブとそれらを統合するためにパラダイム研究会を組織した。パラダイム研究会、4つの研究イニシアティブ、さらにそのもとで展開される個別の研究プロジェクトと重層的な研究推進体制とすることにより、研究領域間の融合を促進している。

さらに、これらの諸活動を点検・評価するために、自己点検評価委員会と国際アドバイザーボードの活動に継続して取り組んだ。自己点検評価委員会は、毎年度、自己点検評価報告書を取りまとめ、プログラム運営の絶えざる改善に努める。また国際的に活躍する研究者をメンバーとする国際アドバイザーボードからは、世界に類を見ない学際融合の拠点形成の推進に向けたアドバイスをお願いしている。

#### 3.2 委員会・部会組織と人員配置

本プログラムは、23名の事業推進担当者に加えて、東南アジア研究所、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、生存圏研究所、地域研究統合情報センター等に所属する多数の教員、研究員および大学院生の協力によって実施している。そこで、これらの関係者全員がいずれかの研究イニシアティブに参加し、研究活動を展開するととも

に、中核メンバーはセンター・部会に参加し、本プログラムの運営を担っている。いずれのイニシアティブ、あるいはセンター・部会に関しても、人員配置が研究組織・領域横断的になるよう配慮した。

### 3.3 事務局体制の整備

事務局は、総務、会計などの一般事務のみならず、情報基盤やホームページ、ニューズレターなど、拠点形成にとって不可欠な研究支援業務の補佐も担っている。そこで、複数の教員、研究員に加えて、一般事務に事務補佐員2名、研究支援業務に技術補佐員4名を配置した。事業推進の日常活動のエンジンとして、健全に機能している。

### 3.4 平成21年度予算と配分状況

平成21年度予算は、直接経費150,010,500円、間接経費22,501,500円で、合計172,511,500円であった。これを、プログラム開始後、4つの部会と研究グループ、事務局で配分した。ほぼ当初の予定通りに予算を執行することができた。

表3-1 平成21年度予算と配分状況 (単位：円)

平成21年度	G-COE 直接経費								間接経費	合計
	大学院教育部会	若手養成・研究会	広報・成果出版部会	拠点基盤整備部会	研究グループ	事務局	人材育成センター	小計		
設備備品費	0	0	0	2,630,000	1,250,000	0	0	3,880,000	500,000	4,380,000
支出額	212,100	219,349	132,000	715,350	2,176,928	498,704	0	3,954,431	435,550	4,389,981
(残高)	-212,100	-219,349	-132,000	1,914,650	-926,928	-498,704	0	-74,431	64,450	-9,981
国内旅費	0	990,000	250,000	500,000	3,010,000	0	250,000	5,000,000	500,000	5,500,000
支出額	117,520	1,379,280	0	0	2,754,575	64,760	257,060	4,573,195	0	4,573,195
(残高)	-117,520	-389,280	250,000	500,000	255,425	-64,760	-7,060	426,805	500,000	926,805
外国旅費	11,400,000	3,670,000	0	1,000,000	10,030,000	5,200,000	500,000	31,800,000	0	31,800,000
支出額	10,573,940	3,545,033	0	0	9,288,294	4,724,911	1,959,201	30,091,379	0	30,091,379
(残高)	826,060	124,967	0	1,000,000	741,706	475,089	-1,459,201	1,708,621	0	1,708,621
人件費	3,150,000	29,210,000	4,060,000	4,060,000	7,170,000	7,200,000	20,690,000	75,540,000	11,920,000	87,460,000
支出額	734,193	22,635,913	715,300	1,390,943	2,368,681	5,271,192	17,455,857	50,572,079	10,918,402	61,490,481
(残高)	2,415,807	6,574,087	3,344,700	2,669,057	4,801,319	1,928,808	3,234,143	24,967,921	22,838,402	47,806,323
事業費	1,550,000	1,280,000	6,650,000	6,690,000	4,040,000	660,000	250,000	21,120,000	3,581,500	24,701,500
支出額	4,439,115	7,919,676	10,195,585	13,259,953	6,902,209	4,313,526	1,668,855	48,698,919	5,147,548	53,846,467
(残高)	-2,889,115	-6,639,676	-3,545,585	-6,569,953	-2,862,209	-3,653,526	-1,418,855	-27,578,919	-1,566,048	-29,144,967
その他	0	2,750,000	0	0	0	0	0	2,750,000	0	2,750,000
支出額	0	2,199,997	0	0	0	0	0	2,199,997	0	2,199,997
(残高)	0	550,003	0	0	0	0	0	550,003	0	550,003
予算額合計	16,100,000	37,900,000	10,960,000	14,880,000	25,500,000	13,060,000	21,690,000	140,090,000	16,501,500	156,591,500
支出額合計	16,076,868	37,899,248	11,042,885	15,366,246	23,490,687	14,873,093	21,340,973	140,090,000	16,501,500	156,591,500
残高合計	23,132	752	-82,885	-486,246	2,009,313	-1,813,093	349,027	0	0	0
生存圏研究所										
予算額合計	1,300,000	0	0	3,120,000	5,500,000	-	-	9,920,000	6,000,000	15,920,000
支出額合計	2,034,091	0	0	2,640,239	5,245,670	-	-	9,920,000	6,000,000	15,920,000
残高合計	-734,091	0	0	479,761	254,330	-	-	0	0	0
総計										
総予算額合計	17,400,000	37,900,000	10,960,000	18,000,000	31,000,000	13,060,000	21,690,000	150,010,000	22,501,500	172,511,500
総支出額合計	18,110,959	37,899,248	11,042,885	18,006,485	28,736,357	14,873,093	21,340,973	150,010,000	22,501,500	172,511,500
総残高合計	-710,959	752	-82,885	-6,485	2,263,643	-1,813,093	349,027	0	0	0

### 3.5 情報基盤の整備

本年度は、広報活動および研究支援環境強化をおこない、安全に配慮しつつ円滑な広報・研究活動の推進を図ることが出来た。主な活動は下記の通りである。

#### ① 遠隔会議サポート

本プログラムが共催した「International Workshop 2010 on Area Informatics Exploring Humansphere and Urbanization of Hanoi」(2010年2月1～2日)において、ベトナム国家大学と接続し、プレゼン資料共有も含め距離を感じさせない活発な議論が行われた。



遠隔会議の様子  
(ベトナム国家大学映像)



遠隔会議の様子  
(東南アジア研究所側映像)

#### ② ホームページの情報基盤強化

京都大学学術情報メディアセンターのレンタルサーバ刷新に伴い新設された占有ヴァーチャルサーバへの移行を行い、ホームページに関する処理速度を飛躍的に向上させた。その結果、アクセス数増大に伴うウェブサーバへの負荷が軽減され、Google Map, Google Earth 連携システムの強化や電子書籍などの新たなサービスを展開できるようになり、情報発信機能を強化することができた。同時に、占有システムになったことで、作業効率化システム導入を行うことができ、ホームページ更新速度を向上させることができたことも特記すべきである。

#### ③ 研究および研究支援活動の情報基盤環境強化

本プログラムで利用しているデータベース、メール、メーリングリスト、データ共有、障害対策(バックアップ)などの事務処理、研究促進環境を安全・安定に提供するため、不正侵入対策、統合管理型端末セキュリティ対策の抜本見直しおよび作業環境の強化・整備を行なった。特に近年、新型コンピュータウィルスの到来とともに、研究対象地域だけでなく国内外からやってくるウィルスの頻度が爆発的に増え続けている。そのため、東南アジア研究所の組織的な対策見直しと連携して対策した結果、従来検知できなかった多くのコンピュータウィルスにも対応でき、より安全で安心できる環境での研究および研究支援を行うことができるようになった。

④ サーバ移転とネットワーク強化

稲盛財団記念館サーバ室へのサーバ移転を行い、より安全にサーバを運用できるようになった。また、現在東南アジア研究所で整備中の新たな組織ファイアウォールが設置されれば、ネットワーク利用帯域は現行の 100Mbps から 1Gbps(1000Mbps)へ拡張され、資料のよりシームレスなダウンロードや編集、データ共有ができる予定である。

## 4. 運営委員会の活動

### 4.1 概要

運営委員会は、拠点リーダーと人材育成センター、4つの部会、自己点検委員会、国際アドバイザーボードの担当者、パラダイム研究会と4つの研究イニシアティブの幹事、事務局長によって構成し、本プログラムの活動計画について審議するとともに、活動内容を確認した。プログラム開始以来、毎月一回、定例で開催してきたが、プログラム運営が順調に推移している現状を踏まえ、運営委員会の開催を2カ月に1回、奇数月に開催することとした。平成21年度の開催日は以下のとおりである。

第21回運営委員会	2009年4月6日
第22回運営委員会	2009年5月11日
第23回運営委員会	2009年6月1日
第24回運営委員会	2009年7月6日
第25回運営委員会	2009年9月7日
第26回運営委員会	2009年11月2日
第27回運営委員会	2010年1月5日
第28回運営委員会	2010年3月1日

### 4.2 特定助教 (G-COE)、特定研究員 (G-COE) および研究員 (時間雇用) の採用

本プログラムを推進するために、2007年8月と2008年1月に、特定助教 (G-COE) および特定研究員 (G-COE) を公募し、2007年10月1日に特定助教 (G-COE) 1名と特定研究員 (G-COE) 3名、2008年4月1日に特定助教 (G-COE) 2名と特定研究員 (G-COE) 4名を採用した。このうち、2007年10月1日に採用した特定研究員 (G-COE) 1名は、2008年4月1日付けで埼玉大学経済学部専任講師として異動し、また2008年4月1日に採用した特定助教 (G-COE) は2009年4月1日付けで東南アジア研究所准教授に昇進した。

本年度は、若手主要メンバーの大規模な入れ替えがあった。2007年10月1日に採用した特定助教 (G-COE) 1名は、2009年9月1日付けで岡山大学大学院環境学研究科の准教授として異動、2008年4月1日に採用した特定助教 (G-COE) 1名は、2010年4月1日付けで富士常葉大学社会環境学部准教授として異動した。また、2008年4月1日に採用した特定研究員 (G-COE) のうち、1名は2009年12月1日付けで立命館アジア太平洋大学に、1名は2009年1月15日付けで筑波大学大学院生命環境科学研究科に、それぞれ助教として異動した。

上記の状況を鑑み、2009年9月に特定助教 (G-COE) 2名を内部公募し、2007年10月1日に採用した特定研究員 (G-COE) 2名が、11月16日付けで特定助教 (G-COE) に昇進した。また、2009年11月と2010年1月に特定研究員および研究員 (時間雇用) の公募を行い、特定研究員 (G-COE) 1名と、研究員 (時間雇用) 4名の採用 (うち2名は博士論文提出を条件とする) を決定した。2010年4月1日現在の人員は、特定助教 (G-COE) 2名、特定研究員 (G-COE) 3名、研究員 (時間雇用) 2名である。

## 5. 人材育成センターの活動

人材育成センターの主たる責務は、本プログラムにおいて展開される先端的な研究と人材育成を融合させるとともに、文理融合型の国際的人材育成システムを構築することである。そのために推進すべき柱として、次の3つを掲げてきた。すなわち、(1) アジア・アフリカ地域に設置したフィールド・ステーションをさらに発展させ、そこにおいて博士後期課程の（またはそれに相当する）大学院生の積極的な参加を得て、フィールドワークや国際ワークショップを活発に展開すること、(2) 博士後期課程の大学院生・ポスドク研究員・助教からなる若手研究者がプログラム全体に主体的に参画することを促進して、彼らを新世代研究者として育成するとともに、若手研究者がパラダイム形成から個別研究に至るまで実質的に貢献できるよう支援すること、(3) 地域研究の全国的・国際的な拠点としての京都大学の将来構想と連動しつつ、新世代研究者の育成を図るための制度設計をおこない、文理融合型の地域研究の国際的拠点を発展させる戦略立案をおこなうこと、である。

### 5.1 大学院教育部会および若手養成・研究部会の組織運営

(1)(2) のために、大学院教育部会および若手養成・研究部会を設け、集中的な活動展開をおこなってきた（詳細については、5-1 および 5-2 を参照のこと）。また、若手育成を推進するための具体的施策として、選抜した若手研究者を長期に海外に派遣することをおこなった（詳細については、5.3 を参照のこと）。

### 5.2 新専攻「グローバル地域研究」、持続型生存基盤講座の設置について

(3) については、本プロジェクト終了後に構想していた「京都大学地域研究グローバルユニット（仮称）」に関連して、初年度に、研究と人材育成を融合するための構想の立案を集中的におこなった結果、大学院教育において研究成果を還元すると同時に、本プロジェクトが開拓する新分野の若手研究者を育成していくことがもっとも重要であるとの結論を得た。そのため、プロジェクトの終了を待たずに、ただちにその実現に向かって着手することとなった。

具体的には、本プロジェクト参加部局の中で、大学院教育に特化している京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科（ASAFAS）において、他の本プロジェクト参加部局、特に東南アジア研究所、生存圏研究所、地域研究統合情報センターの協力を得ながら、「グローバル地域研究」専攻を新設することを企画した。文科省、大学設置・学校法人審議会への申請を経て、平成21年4月より「グローバル地域研究」専攻が設置された。この新専攻では、本プロジェクトによる持続型生存基盤研究と連動する「持続型生存基盤論」講座、従来から ASAFAS の東南アジア地域研究専攻にあった連環地域論講座（南・西アジア地域研究）を発展させた「イスラーム世界論」講座、「南アジア・インド洋世界論」講座が設置された。後者の2講座も、持続型生存基盤に関する研究において、持続型生存基盤論講座と緊密に連携する体制をとっている。

本プロジェクトの全体的な進展との関連で言えば、当初の計画では、第2年度をめどに「持続型生存基盤コース」を設置することをうたっていたが、「コース」の段階を

超えて、第3年度に一気に持続型生存基盤論を研究する大学院生に博士号を授与することができる制度的な発展をなしたことは、特記すべき成果であろう。プロジェクト終了後に設置を予定していた「京都大学地域研究グローバルユニット（仮称）」についても、その基幹部分の機能がすでに実現したことになり、成果の制度化という観点から見ると、予定を大きく前倒しすることができた。また、新専攻を通じて本プロジェクトの発展や成果をただちに大学院教育に直結させることによって、さらに所期の目的をよりよく達成していく見通しがたった。

### 5.3 海外派遣助成

国際的なディベート力を向上するために、若手研究者海外派遣助成を実施している。平成21年度には、特定助教1名を1ヶ月間、カリフォルニア大学サンタクルーズ校に派遣した。これにより、派遣者の英語での研究発表およびディベート能力が格段に向上するとともに、研究ネットワークを北米へと広げる効果があった。

### 5.4 アジア・アフリカ人材育成

優秀な大学院生に対する経済的支援は本プログラムの目的の一つである。そこで、平成20年度より博士号取得支援と若手研究者交流を開始した。

博士号取得支援については、平成21年1月に3名の若手研究者（マレーシア、バングラデシュ、インドネシア各1名）を招へいし、ワークショップを開催するとともに、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科への編入を推薦した。3名とも編入が認められ、平成21年4月から当大学院に編入した。このうち1名については、編入後、本プログラムのRAとして採用、1名は日本学術振興会特別研究員（DC）（グローバルCOE枠）に採用、そして残りの1名は本国政府からの奨学金を財政的基盤とするものである。

3名の研究の進展を確実なものとするため、本プログラムの運営委員会の中に指導教員群（各3名）と連携する「リエゾン委員」を設け、適宜研究状況のモニターをおこなってきた。21年度において、3名とも順調に研究活動を遂行した。

## 5-1 大学院教育部会

大学院教育部会では今年度、主に次の二つのことに取り組んだ。一つは、①大学院アジア・アフリカ地域研究研究科（ASAFAS）の第三の専攻として平成21年4月に設置されたグローバル地域研究専攻のもとで「持続型生存基盤論講座」を開設し、本プログラムが掲げる持続型生存基盤に関する講義および演習を実施した。いま一つは、②大学院アジア・アフリカ地域研究研究科が掲げる臨地教育を推進する目的でアジア・アフリカ諸国に設置されているフィールド・ステーションを活用し、若手研究者の育成を推進するための大学院生派遣プログラムである。

### 5-1.1 ASAFAS 新専攻「グローバル地域研究」および「持続型生存基盤論講座」について

大学院アジア・アフリカ地域研究研究科では継続的にカリキュラムの改善を推進しており、平成20年度からは、本プログラムで創出しようとしている持続型生存基盤論（Humanosphere Studies）の中核科目として、同研究科の共通科目「持続型生存基盤研究の方法」、「イスラーム世界生存基盤論」、「国際環境医学論」の提供を開始した。

さらに平成21年4月、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科グローバル地域研究専攻および持続型生存基盤論講座を新設した。また同講座に新規で教授ポスト2を措置した。事業推進担当者を中心とする他部局の関連教員も、この講座の教育研究活動に協力教員として参画することにより、本プログラムで創生する持続型生存基盤研究（Humanosphere Studies）を自主的・恒常的に継続・発展させることができる。同講座では、平成21年度に、「持続型生存基盤研究の方法Ⅰ」、「持続型生存基盤研究の方法Ⅱ」、「熱帯乾燥域生存基盤論」、「熱帯森林資源論」、「人間環境関係論」、「国際環境医学論Ⅰ」、「国際環境医学論Ⅱ」、「生存圏科学論」の8つの講義を開講し、自然生態、政治経済、社会文化を包摂した総合的地域研究と人類の生存基盤を左右する先端的科学技術研究を融合させた教育研究活動の継承・発展に取り組んできた。これらの講義の概要は以下の通りである。

#### 持続型生存基盤研究の方法Ⅰ（前期2単位、杉原薫）

アジア・アフリカ地域の生存基盤（人間社会とそれをとりまく「生存圏」－森林や水域、大気圏なども含む－）の構造と変動を考察するためのさまざまなアプローチを紹介しつつ、歴史的な観点からの総合化を図る。理科系、文化系を問わず、地域研究の側から環境問題に関心を持つ大学院生を対象とする。

#### 持続型生存基盤研究の方法Ⅱ（後期2単位、河野泰之）

東南アジアを中心とする熱帯における農業開発、水利開発、農村開発委、農業生産と環境保全の競合などを含む自然資源の利用と開発、管理に関する基本的な視点を考察し、社会経済的側面を含む総合的な調査研究手法を学ぶ。



#### 熱帯乾燥域生存基盤論（前期2単位、小杉泰）

熱帯乾燥域である中東・北アフリカについて、歴史的にどのような生存基盤持続型の社会・経済・政治システムが展開してきたのか、その特徴とは何か、またそのような文明的な遺産を現代的に展開しつつあるイスラーム金融などの発展からいかなる将来的な展望が描きうるのか、考察する。

#### 熱帯森林資源論（後期2単位、小林 繁男）

熱帯林における生態資源の現状を地域住民の生活との関連で説く。森林生態資源を生物資源と環境資源に区分し、前者を住民の生存基盤として人間の安全保障、後者を生存基盤として地球環境問題との関連性を言及し、熱帯林生態資源の持続的利用について考察する。

#### 人間環境関係論（前期2単位、田辺 明生）

人間と環境の相互作用的な関係について、社会と技術と生態の連関に注目しながら論じる。持続型生存基盤の構築に向けて、人間と環境の関係をどのように再構築できるかを地球と地域の両方の視点から考察する。

#### 国際環境医学論A（前期2単位、松林公蔵）

疾病と老化に関する基本的事項を総論的に解説したのち、人の疾病、老化と自然生態系ならびに文化に関する諸問題について、各受講生の関心領域との関連で、自由討議をおこなう。この過程を経て、各自のテーマと医学は関連する事項を考察する。

#### 国際環境医学論B（後期2単位、松林公蔵）

東南アジア諸国における地域在住高齢者の健康実態に関するフィールド医学的知見を紹介し、個々の問題点に関する各論的討論を通じて、より具体的な課題の発見とその解決法を模索する。

#### 生存圏科学論（後期2単位、山本衛 他）

人類の生存圏である人類生活圏、森林圏、大気圏、宇宙圏などにおいて、人類社会の持続的発展を考える上で重要となる自然あるいは人為起源の現象がどのように生起しているのかについて明らかにする。特に、地球大気環境の精密な計測手法について紹介するとともに、観測情報の統合的な解析を通してそのメカニズムを総合的に分析する。また、森林の作用に注目しながら、生命科学的観点から森林資源としての木質の形成機構の解析・統御方法について考察するとともに森林の環境修復を目指した研究を紹介する。

また、これらを補完するために、地球環境学舎を受け皿として全学的な講義体制を構築している京都サステイナビリティ・イニシアティブ (KSI) のサステイナビリティ学コースにおいて、以下の講義を提供した。

生存圏開発創成科学論（前期 2 単位、川井秀一・矢野浩之・大村善治 他）

人類の生存圏である人類生活圏、森林圏、大気圏、宇宙圏などにおいて、人類の生存を脅かすさまざまな事象が発生している。この生存圏の悪化の現状を打破し「治療」に結びつく方策について考察するとともに、宇宙空間から地表に至る生存圏の新たな開発創成の可能性について、太陽エネルギーの利用を軸として、持続的社会の構築に向けた木質資源の循環システム構築のための技術開発、および宇宙太陽発電や人類の宇宙活動を左右する宇宙電磁環境の衛星観測や計算機シミュレーションなど人類の宇宙への生存圏の拡大のための技術開発の現状と展望について述べる。

東南アジアの環境と社会（後期 2 単位、安藤和雄・速水洋子・河野泰之・水野広祐・松林公蔵・清水展）

東南アジアとその周辺域における自然資源の持続的利用、およびより広く環境と人間生活に関わる諸問題について、技術的・生態学的観点からのみならず、民族、開発、社会経済システムやポリティクスといった点からも幅広くとりあげ、南アジア、日本との比較の視点を含め個別事例的に検討する。

大学院アジア・アフリカ地域研究研究科は、5 年一貫制大学院であり、これらの科目はいずれも、博士前期課程・後期課程を区別せず履修することができる。多くの大学院生は、第一年次や第二年次にこれらの科目を履修し、第三年次以降は、研究分野を横断する 3 名の指導教員による指導のもと、博士論文に向けた研究に専念している。

### 5-1.2 TA・RAプログラム

RA については、以下の要領で公募を実施した。

---

京都大学  
GCOE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」  
平成 21 年度リサーチ・アシスタント募集要項

平成 21 年 2 月 13 日

GCOE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」では、アジア・アフリカ地域におけるフィールド調査にもとづいた地域研究を推進する目的で、広く学内よりリサーチ・アシスタント（RA）を募集します。

1. 採択予定者数：2 名

2. 採用期間： 10 ヶ月（平成 21 年 5 月～平成 22 年 2 月）
3. 勤務時間および待遇：  
週 19 時間を上限に勤務予定を組んで頂きます。勤務日および時間は相談に応じます。  
時給は原則として 1,407 円です。
4. 応募資格：
  - (1) 大学院博士後期課程（5 年一貫制の場合は 3 年次以上）に在籍し、本プログラムの趣旨に沿った研究補助に従事することができる者は、所属研究科を問わず応募資格があります。
  - (2) 国費留学生、日本学術振興会特別研究員、および他のプログラム等で RA に採用されている者は応募資格がありません。
5. RA の職務および責務：  
海外フィールドワークの実施およびその成果の公開に関連した研究補助が主な職務です。加えて、GCOE が主催する研究会に積極的に参加することが望まれます。
6. 応募方法  
RA 申請書に必要事項を記入の上、宛に送信してください。応募締め切りは X 月 X 日です。
7. 審査方法および採用通知  
GCOE 教育部会 ASAFAS 委員会において審査の上、採否を決定します（必要に応じて面接をおこなうことがあります）。選考結果は X 月 X 日までに通知します。
8. GCOE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」とは  
本プログラムは、アジア・アフリカ地域の持続的発展に関する学際的研究を、グローバルで長期的な視野から、多面的に行うために創出されました。われわれは、アジア・アフリカの地域研究に携わる研究者と、先端技術の開発に関わる科学者との学問的対話を促進するために、「持続型生存基盤パラダイム」という新しい考え方を提案し、地球温暖化のアジア・アフリカの地域社会への影響といった緊急の課題に対応しつつ、ローカルな、あるいはリージョナルな持続的発展径路を追究したいと考えます。  
本プログラムの主幹部局である東南アジア研究所は、強い学際的な志向を持った京都大学の地域研究の伝統のなかで発展してきました。本プログラムは、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科が東南アジア研究所と協力して行った 21 世紀 COE プログラムの成果を受け継ぐとともに、生存圏研究所などから森林科学・木質科学、気候学・大気圏科学、物質循環論、エネルギー科学など「サステナビリティ学」の専門家を加えて、地域研究における科学的研究の幅を広げます。それによって、先端科学技術の知識を、伝統的な地域研究を支えてきた生態学、政治学・経済学、

社会学・人類学、歴史学、医学の知識と融合させることによって、これまでの体制よりもはるかに幅広い人文科学、社会科学、自然科学の諸分野につうじた地域研究の専門家や科学者を養成します。

こうした試みは、国際的に見ても例のない、知のフロンティアへの挑戦であると同時に、地域社会にとって喫緊の課題とも直接の関わりを持つ、実践的な性格も持っています。

詳しくは、本プログラムのウェブページをご覧ください。

<http://www.humanosphere.cseas.kyoto-u.ac.jp/>

---

この公募に対して1名の応募があり、次の1名を採用した。

溝内克之（平成21年9月～平成22年3月）

RAの活動としては、フィールド・ステーション派遣の対象者に対して、渡航計画書を作成するための指導補助、および調査報告書を提出するための指導補助を行った。

### 5-1.3 フィールド・ステーションを活用した若手研究者の育成

フィールド・ステーションを活用した若手研究者の育成に関して大学院教育部会のASAFAS委員会では、前・後期の二回にわけて公募を行うこととし、前期の募集期間を平成20年3月10日～3月19日、後期を8月21日～9月11日に設定してそれぞれ募集した。なお、募集要領（前期分）は以下の通りである。

---

グローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」  
2009年度フィールド・ステーション等派遣経費支援の申請について

グローバルCOE大学院教育部会

下記の通り、フィールド・ステーション等派遣支援の募集を行います。これは、グローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」（<http://www.humanosphere.cseas.kyoto-u.ac.jp/>）の一環として、ASAFASが臨地教育の拠点としてきたフィールド・ステーションを継承、発展させながら、大学院生の教育研究を推進しようとする事業です。当支援では、博士予備論文の内容を拡充し、それを博士論文につなげるためのフィールド調査を奨励しています。

希望者は申請書に記入の上、電子メールに添付して**3月19日正午までにGCOE教**

育部会事務局宛に送信してください。送信先のアドレスは <gcoe\_eduoffice@cseas.kyoto-u.ac.jp> とし、件名は「フィールド・ステーション等派遣経費の申請」としてください。

1. 申請資格

申請者は、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の大学院生で、博士予備論文を提出し合格した院生、他研究科で修士号を取得して本研究科に編入・転研究科した院生、および本研究科の研修員で博士号を取得していない者にかぎります。フィールド調査を予定している国や地域に ASAFAS のフィールド・ステーションがなくても応募できます。なお申請にあたっては、必ず指導教員の承諾を得てください。

2. 助成内容

2009 年度中の派遣に対して、旅費、滞在費等を支援します。ただし、備品の購入は対象外です。

3. 選考基準

研究計画の質、実行可能性、博士予備論文との関連性、ならびに博士論文への発展性を考慮して選考を行います。

4. 審査結果の通知

提出された申請書は、グローバル COE プログラム教育部会において厳正に審査の上、3 月末日までに審査結果をメールで通知します。

注意事項

1. 報告書の提出

派遣を終了し帰国した日から 45 日以内に、調査結果を要約した報告書の提出を求めます。報告書は、[1]派遣報告書 (A4 一枚の簡単なもの)、[2]ホームページ掲載用の和文報告書 (2,000 字以下)、および [3]ホームページ掲載用の英文報告書 (400 語程度) の三点を提出してもらいます。また[2]および[3]には、調査研究の様子がわかる写真を添付してもら必要があります。

2. 本派遣事業の成果として論文が出版された場合には、論文の謝辞あるいは Acknowledgement に、グローバル COE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」の支援を受けた事を明記してください。

和文例) 本稿は、グローバル COE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」における研究成果の一部である。

英文例) This paper is a part of the outcome of the JSPS Global COE Program "In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa".

以上

---

公募の結果 ASAFAS では、前期 14 名、後期 14 名、計 28 名の応募があり、応募締め切り直後に選考委員会を開催して、前期 12 名、後期 8 名の派遣を決定した(表 5-1)。

海外拠点を活用した研究教育支援体制の充実は、本プログラムにおける重要課題の一つである。本プログラムのもとで運営・整備されている海外拠点は、アジアに 4 カ所(ラオス国立大学、イエジン農業大学等(ミャンマー)、ハサヌディン大学(インドネシア)、タミルナードゥ農業大学(インド))、アフリカに 6 カ所(アジスアベバ大学(エチオピア)、ナイロビ大学等(ケニア)、ソコイネ農業大学等(タンザニア)、ザンビア大学、ナミビア砂漠研究所、ヤウンデ第一大学(カメルーン))のフィールド・ステーションと、6 カ所の海外観測拠点(インドネシア科学院生物材料研究センター、パムング MF レーダー観測所、ポンティアナック MH レーダー観測所、赤道大気観測所、ムシフタンペルサダ社造林地(以上、インドネシア)、ペルサハーン・コシナール社造林地(マレーシア))が設置されている。これらのフィールド・ステーションや海外観測拠点は、大学院生の研究活動に活用されている。またこれら拠点には、教員が頻繁に訪問しており、現地調査期間中も教育・論文指導を実施できる体制を構築している。

表 5-1. 平成 21 年度の大学院生派遣(大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

氏名	専攻	指導教員	渡航先国	支給額			申請書の渡航期間		調査題目
				(千円)	出発日	帰国日	日数		
1 加川真美	アジア	小林繁男	フィリピン	220	09/08/20	09/09/21	33	フィリピン農村部における生活の変化と生存保障機構の推移	
2 佐藤慶子	アジア	藤田幸一	インド	410	09/07/04	09/10/03	92	南インド半乾燥地帯における農村＝都市人口移動の動態と構造の解明	
3 Nipaporn Ratchatapattanakul	アジア	小泉順子	タイ	290	09/08/05	09/09/26	53	バンコクの社会史――近代における公衆衛生をめぐる諸問題を中心に	
4 山本佳奈	アフリカ	伊谷樹一	タンザニア	650	09/08/02	10/03/01	212	季節湿地の文化のおよび環境的機能に関する研究	
5 遠藤聡子	アフリカ	島田周平	フルキナフアンソ	650	09/05/25	09/08/25	93	西アフリカにおけるパーニユを用いた衣装の成立過程と衣服供給システム	
6 宮田寛草	アフリカ	重田真義	トーゴ	750	09/05/20	10/03/29	314	トーゴ南部における宗教実践と社会関係の変容	
7 山根裕美	アフリカ	山越言	ケニア、タンザニア	650	09/04/08	10/02/07	306	ケニア、ナイロビ国立公園およびその周辺地域におけるヒョウ(Panthera pardus)と地域住民の関係	
8 矢野原佑史	アフリカ	木村大治	カメルーン	495	09/04/30	09/07/03	65	カメルーン・ヤウンデにおいてフランコフォンの若者たちが実践するヒップホップ・カルチャーの考察	
9 Dilu Shaleka	アフリカ	重田真義	エチオピア	650	09/05/15	09/09/11	120	A Study of a Local Religious Institution among the Sidama of Southern Ethiopia	
10 八塚春名	アフリカ	伊谷樹一	タンザニア	300	09/06/01	09/07/30	60	タンザニア、サンダウエの環境利用の変遷をめぐる政治生態学的研究	

11	泉直亮	アフリカ	太田至	ケニア	650	09/09/01	10/03/31	212	東アフリカ牧畜地域の産業開発と社会変容：生業 牧畜の商業化への地域住民の対応
12	太田雅子	アフリカ	高田明	セネガル	750	09/07/01	10/01/31	215	写真を通じたアフリカの生活世界と家族の変容の 歴史的考察－セネガル人の記念写真を事例に－
13	徳岡泰輔	アジア	足立明	バングラデシュ	250	09/10/26	09/11/20	26	参加型開発の限界と可能性：バングラデシュ、ハ カルキ・ハオールにおけるコミュニティ・ベースの 環境保全プロジェクトを事例として
14	坂川直也	アジア	伊藤正子	ベトナム、ラオス	350	09/11/20	10/03/21	122	ベトナムにおける、革命、戦争に関する国民的記 憶の創出と変容の歴史的考察
15	Kurniawati Hastuti Dewi	アジア	岡本正明	インドネシア	225	09/11/04	09/12/25	52	Power and Leadership: Muslim Female Political Leaders and Local Politics in Java In Post New Order Indonesia.
16	Yap Cherry	アジア	Reforma	フィリピン	225	09/10/19	09/11/27	40	The Philanthropy of the Filipino Diaspora
17	高田洋平	アジア	藤倉達郎	ネパール	400	09/11/12	10/03/31	140	ネパール・カトマンズのストリートチルドレンの生活 世界
18	Muhammad Hakimi	アジア	小杉泰	エジプト	300	09/12/05	10/02/05	63	Theory of Sharecropping from An Islamic Economic Perspective: A Study in Peninsular Malaysia
19	大門碧	アフリカ	太田至	ウガンダ	490	09/12/21	10/03/15	85	アフリカ都市の流動状況を生きたる若者たちが生み 出す大衆芸能「カリオキ」の歴史
20	山本雄大	アフリカ	重田真義	エチオピア	490	09/12/25	10/03/25	91	エチオピアにおける嗜好品作物チャット(khat)をめ ぐる人々の営み

後  
期  
申  
請  
者



## 5-2 若手養成・研究部会

若手養成・研究部会の活動は、主に以下の2本の柱から成る。1) 特定助教 (G-COE) 4名 (うち2名は11月16日着任) と特定研究員 (G-COE) 4名に対して、本プロジェクトの中核となって調査研究を推進することを指導し支援した。2) 15件の個人・グループの調査研究のために、総額665万円の「次世代研究イニシアティブ助成」を支給し、その活動を支援した。

それら理系・文系の広い分野にまたがる若手研究者が、随時研究会を開いて情報・意見交換を行い、生存基盤持続型の発展を目指した学際的共同研究の可能性を積極的に探求することを奨励した。その他、成果の英語出版 (単著、論文) を目的としたセミナーを2回開催した。また、生存圏研究所およびインドネシア科学院 (LIPI) とともに、平成21年8月インドネシア・リアウ州において「生存圏科学スクール (Humanosphere Science School)」を共催した。

特定助教と特定研究員の他に、若手養成・研究部会が研究を支援した若手研究者は、平成19年度が博士課程大学院生11名、ポスドク研究員18名、平成20年度が博士課程大学院生16名、ポスドク研究員13名であった。平成21年度は、博士課程大学院生6名、ポスドク研究員14名に対し、生命圏科学スクール参加への助成や、次世代研究イニシアティブ助成等により、総額700万円以上の支援を行った。

若手養成・研究部会の支援を受けた者のうち、新たな職を得た者は、特定助教の生方史数 (岡山大学大学院環境学研究科准教授、平成21年9月1日)、木村周平 (富士常葉大学社会環境学部准教授、平成22年4月1日)、特定研究員の小林祥子 (立命館アジア太平洋大学助教、平成21年12月1日)、孫暁剛 (筑波大学大学院生命環境科学研究科助教、平成22年1月15日)、また特定研究員の佐藤孝宏と西真如については、プロジェクト推進への多大な貢献と自身の研究業績を高く評価し、平成21年11月16日付で特定助教に任命した。加えて、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科特任助教の細田尚美 (香川大学インターナショナルオフィス講師、平成22年4月1日)、ポスドク研究員の中山節子 (宇都宮大学国際学部講師、平成21年5月12日)、宮本万里 (北海道大学スラブ研究センター研究員、平成21年10月1日)、海田るみ (東京農業大学応用生物科学部研究員、平成22年4月1日)、黒崎龍悟 (福岡教育大学教育学部講師、平成22年4月1日)、山根悠介 (常葉学園大学教育学部講師、平成22年4月1日) が新たに職を得た。

### 5-2.1 特定助教 (G-COE)・特定研究員 (G-COE) の活動

4名の助教と4名の研究員は、各自が各々の専門分野の論文を執筆するとともに、生存基盤に係わる問題系に積極的に取り組んで調査研究を行った。個々人の主な業績を以下に簡単に紹介する。

特定助教について、生方は、英語論文2本、日本語論文4本を発表したほか、7回の口頭発表を行った。木村は、日本語の論文4本を発表したほか、6回の口頭発表を行った。佐藤は、日本語論文2本、英語論文1本を発表したほか、2回の口頭発表を行った。西は、日本語論文1本を発表したほか、4回の口頭発表を行った。

特定研究員について、藤田は、英語論文を1本、日本語論文を2本発表したほか、2回の口頭発表を行った。和田は、8本の英語論文、4本の日本語論文を発表したほか、8回の口頭発表を行った。孫は、1本の英語論文、1本の日本語論文を発表したほか、3回の口頭発表を行った。

### 5-2.2 次世代研究イニシアティブ・研究助成の交付

以下の15件の若手研究者・グループに対して、総額665万円の助成を行った(氏名、所属、研究課題、助成額の順に記載)。

1. 石坂晋哉(東南アジア研究所・研究員)「インド環境運動による「生存基盤持続型発展」の規範・制度の構築」(35万円)
2. 伊藤義将(ASAFAS・研究員)「エチオピア南西部、山地森林域における生存基盤としての『コーヒーの森』の持続的利用の可能性」(50万円)
3. 海田るみ(生存圏研究所・研究員)「熱帯人工林持続のための樹木の育種研究」(50万円)
4. 北守顕久(生存圏研究所・助教)「東南アジア諸地域における次世代現地型構法の開発に向けた木造建築実態調査」(25万円)
5. 佐川徹(ASAFAS・研究員)「東アフリカ紛争多発地域において外部介入が生存基盤の再生に果たす役割」(80万円)
6. 藤田素子(東南アジア研究所・特定研究員)「熱帯大規模アカシア植林地における鳥類相の変化に起因する物質循環への影響」(55万円)
7. 西真如(東南アジア研究所・特定研究員)「エチオピア南西部の農村における生産・労働とHIV/AIDSの影響を受けた世帯の生存基盤」(55万円)
8. 宮本万里(東南アジア研究所・研究員)「ブータンの民主化プロセスにおける開発・環境政策の変容と村落社会の価値体系の再編に関する政治人類学的研究」(25万円)
9. 渡辺一生(東南アジア研究所・研究員)「東北タイ農民の生存戦略における自給的稲作の位置づけ」(40万円)
10. 渡邊一哉(東南アジア研究所・研究員)「東南アジア沿岸域が提供する生態資源と利用するヒトの動態」(35万円)
11. 浜元聡子(東南アジア研究所・研究員)「被災地に生きる選択——生存基盤の確保と地域防災対策をめぐる研究」(35万円)
12. Haris Gunawan (ASAFAS) "The Ecological Characteristic of Peatland Ecosystem in Giam Siak Kecil -Bukit Batu Biosphere Reserve, in RiauProvince, Sumatra, Indonesia." (30万円)
13. 古市剛久(ASAFAS・特任助教)「東南アジアでの自然災害に際しての現場情報ニーズと研究機関の情報提供」(55万円)
14. 小林祥子(東南アジア研究所・特定研究員)「マイクロ波合成開口レーダ(SAR)の偏波散乱行列データ解析による森林バイオマス量の推定」(45万円)
15. 山根悠介(東南アジア研究所・研究員)「インド亜大陸北東域における竜巻など瞬発性気象災害の実態解明に関する研究」(50万円)

### 5-2.3 研究会・シンポジウム等の開催

以下の研究会・シンポジウムを開催した。

次世代研究イニシアティブ報告会 (2009/4/2)

2008 年度次世代研究イニシアティブ助成の対象となった 13 の研究課題の成果報告会を開催した。報告者および発表題目は以下のとおりである。

1. 藤田素子 (GCOE 研究員) 「熱帯大規模アカシア植林地における生物多様性の評価および鳥類相の変化に起因する物質循環への影響」
2. 和田泰三 (GCOE 研究員) 「地域在住高齢者の老年症候群とそのケアの実態：タイ・日本の国際間比較」
3. 木村周平 (GCOE 助教) 「ローカルな潜在知としての災害の記憶：トルコ・台湾・インドネシアの地域間比較から」
4. 甲山治 (GCOE 助教) 「多くの水問題を抱える国際河川流域における問題解決型の水文学の実践：中央アジア・アラル海流域を事例として」
5. 海田るみ (生存圏研究所研究員) 「熱帯人工林持続のための樹木の育種研究」
6. 田畑悦和 (生存圏・理学研究科院生) 「インドネシア海洋大陸域における日変化特性の研究」
7. 黒崎龍悟 (ASAFAS 研究員) 「農村開発のフィードバック・プロセスを内包した実践的地域研究の確立に関する研究」
8. 白石壮一郎 (ASAFAS 非常勤研究員) 「持続的な社会を構築するための「参加的民主主義」の検討：現代アフリカにおけるローカルな政治実践の経験から学ぶ」
9. 藤岡悠一郎 (ASAFAS 院生) 「南部アフリカ・乾燥地域における農牧民の生存基盤としてのローカル・フロンティアの役割とその動態」
10. 孫曉剛 (GCOE 研究員) 「アジアとアフリカの牧畜社会における生業の多角化と持続型発展に関する比較研究」
11. 古市剛久 (東南研非常勤研究員) 「島嶼部東南アジアにおける流域スケールの土地利用変遷とその主要な影響としての表土流出」
12. 相馬貴代 (ASAFAS 院生) 「導入樹種 *Leucaena leucocephala* の除去がワオキツネザルの生態に及ぼす影響」
13. 近藤史 (ASAFAS 研究員) 「タンザニア南部高地における造林焼畑の持続可能性の検討：アフリカ農村の社会基盤に根ざした「人為植生の循環利用」モデルの構築にむけて」

「実践的地域防災教育研究会『被災地に関わる災害研究とは』」(2009/11/27)

趣旨：2006 年 5 月に発生した中部ジャワ地震を契機に、東南アジア研究所有志による社会的災害復興支援・地域研究が、とりおこなわれることとなりました。この間、京都大学大学院工学研究科と共同で、毎年 8 月から 9 月にかけて、ジョグジャカルタ特別周および中ジャワ州の被災地において、主として小学生を対象とした防災教育普及活動に取り組んできました。2009 年度は、立命館大学国際部の協力も得て、

三者による防災教育活動を実施いたしました。本活動報告会では、直接的には自然災害を専門とはしない教員・研究員・大学院生・学部学生が、緊急時のボランティアや短期的な調査研究の枠にとどまらず、いかに被災地と関わってきたか、その経験について報告します。

1. 間中光／立命館大学大学院社会学研究科博士課程前期「大学生による長期的な被災地支援の可能性～立命館による災害復興支援を事例に～」
2. 長神新之介／京都大学大学院工学研究科「インドネシアにおける防災教育活動と現状」
3. 浜元聡子／東南研「被災地に生きる選択」

「人間圏を解き明かす—人間の生存、人びとのつながり」(2010/3/14-16)

趣旨：エネルギー問題や大規模な環境問題が顕在化しつつある現在、必要なのは何を「持続可能性」の核とすべきか、という問いである。本グローバルCOEは、それを「生存基盤」だと考え、地球圏・生命圏・人間圏の相互作用のなかで、生存基盤の持続をもたらすような発展はどのようになされるのかを考えてきた。こうした背景に基づきながら、本シンポジウムは、人間の多様な社会、またそこにある知識や価値、制度や歴史を包摂する広い概念としての「人間圏」に焦点を当て、生を支える社会関係や環境がいかに形づくられているかについて議論したい。植民地主義や近年のグローバル化の大きな流れの中で、都市や地域社会ではどのような問題が現われ、どのように対処されているのか。生存を支える信仰や思想は、今どのようなあり方をしているのか。多様な社会状況についての事例を通じて、こうした問題を明らかにしたい。

1. 石坂晋哉（京大東南研）「『たたかひの政治』から『つながりの政治』へ—現代インドの環境運動」
2. 安田章人（京大ASAFAS）「『持続可能な』野生動物管理の政治と倫理—カメルーン・ベヌエ国立公園地域におけるスポーツハンティングと地域住民の関係を事例に」
3. 中川千草（関西学院大学）「トウヤ制度の変更と社会文節の再編プロセス—三重県熊野灘沿岸部・相賀浦 地区を例に」
4. 富田敬大（立命館大学）「ポスト社会主義期の地方社会と牧畜経営—モンゴル北部・オルホン郡の事例から」
5. 二宮健一（神戸大学）「ジャマイカの『ダンスホール・ゴスペル』—パフォーマティブに構築されるキリスト教徒の『男らしさ』の考察」
6. 八木百合子（総合研究大学院大学）「アンデス高地農村における聖人信仰と祭礼をめぐる社会関係」
7. 松原康介（東京外国語大学）「中東における都市保全計画の変遷—フランス植民地主義から世界遺産保全へ」
8. 山田協太（京大ASAFAS）「近代都市あるいは都市の近代—南アジアのオランダ植民都市、コロンボ、コーチン、ナーガパッティナムの経験をつうじて」

9. 清水貴夫（名古屋大学）「少年の移動『ストリート・チルドレン』—ワガドゥグの事例を中心に」
10. 日下渉（京大人文研）「『買票』か『福祉サービス』か？—マニラ首都圏の地方選挙におけるモラルティ」

#### 5-2.4 インドネシア・チビノンで開講された生存圏科学国際スクールとシンポジウムへの若手部会のメンバー派遣

生存圏研究所、東南アジア研究所、G-COE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」、およびインドネシア科学院 (LIPI) の共催により、平成 21 年 8 月 4-5 日に開催された第 3 回生存圏科学スクール (Humanosphere Science School; 以下 HSS) に、特定研究員 (G-COE) の藤田素子、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科研究員の樺沢麻美、および同研究科大学院生の西本希呼を派遣した。

1. 藤田素子 “Biodiversity in plantation: case studies in acacia plantation on birds, termites and fungi”
2. 西本希呼 “A descriptive study of the Anandroy dialect of Malagasy: concept of time and space”
3. 樺沢麻美 “Ecotourism in Indonesia: seeking models for developing ecotourism in Riau”

#### 5-2.5 G-COE 国際シンポジウムでの発表

平成 21 年 12 月 14-17 日に開催された国際シンポジウム “Changing Nature of Nature: New Perspectives from Transdisciplinary Field Science” において、特定研究員の藤田素子が第 1 セッション “Rethinking Human Disturbance” の議長 (convener) を、特定助教の木村周平が第 4 セッション “Defining the Scale and Scope of Enquiry” の議長をそれぞれ務めた。総合討論においては、他の特定助教、特定研究員も含め若手研究者が積極的に討論に参加した。またこの国際シンポジウムにおいて特筆すべきは、その企画段階から若手研究者が積極的に参加し、それぞれの専門分野と生存基盤プロジェクトを具体的にいかに結びつけ、発展させるかを真剣に考え議論したことである。

## 6. 研究イニシアティブ

### 6.1 パラダイム研究会

研究イニシアティブは、プログラムのメンバーが4つのイニシアティブにわかれて共同研究を行うために設置された。パラダイム研究会は、本報告書の2で述べた「パラダイム形成」という目標を担うとともに、イニシアティブ相互の関連や全体の流れを議論する、本プログラムの中心となる研究会である。平成21年度は10回（特別研究会を含めると11回）開催された。詳細は以下の通りである。

#### ➤ 第17回研究会（2009/4/20）

「生存基盤持続型発展を目指した研究活動報告」

藤田幸一（京都大学東南アジア研究所）「農業社会から工業社会へ、それからどこへ」

藤田素子（京都大学東南アジア研究所）「都市環境における鳥と人との相互作用系」

林隆久（京大大学生存圏研究所）「リアウにおけるG-COE再構築」

速水洋子（京都大学東南アジア研究所）「人間圏における生のつながり：生存基盤としての再生産再考」

#### ➤ 第18回研究会（2009/5/18）

「東京の都市再生：歴史とエコロジーの視点から」

陣内秀信（法政大学デザイン工学部）「東京の都市再生：歴史とエコロジーの視点から」

討論者：藤井滋穂（京都大学地球環境学堂・グローバルCOE「アジア・メガシティの人間安全保障工学拠点」）、岩城孝信（法政大学）

#### ➤ 第19回研究会（2009/6/12）

「インドネシアの泥炭：森林における火災と炭素管理」

大崎満（北海道大学）「インドネシアの泥炭：森林における火災と炭素管理」

討論者：甲山治（京都大学東南アジア研究所）

#### ➤ 第20回研究会（2009/6/15）

「トランスサイエンスとは何か：STS的視角から」

小林傳司（大阪大学 コミュニケーションデザイン・センター）「トランスサイエンスとは何か：STS的視角から」

討論者：生方史数（京都大学東南アジア研究所）、篠原真毅（京大大学生存圏研究所）

#### ➤ 第21回研究会（2009/7/13）

「健全な生態系とは何か？生物多様性条約は何を守るのか」

松田裕之（横浜国立大学・環境情報研究院）「健全な生態系とは何か？生物多様性条約は何を守るのか」

討論者：山尾政博（広島大学）

#### ➤ 第22回研究会（2009/9/7）

「インドネシアにおける赤道大気研究」

津田敏隆（京都大学 生存圏研究所）「インドネシアにおける赤道大気研究」

討論者：甲山治（京都大学 東南アジア研究所）

➤ 第 23 回研究会（2009/10/19）

「人間の安全保障と開発：国際規範の指標化は可能か？」

峯陽一（大阪大学グローバルコラボレーションセンター）「人間の安全保障と開発—国際規範の指標化は可能か？」

討論者：佐藤孝宏・和田泰三（京都大学東南アジア研究所）、生方史数（岡山大学）

➤ 特別研究会（2009/10/19）

“Biosphere Reserves in Indonesia”

Endang Sukara（LIPI インドネシア科学院次官）“Biosphere Reserves in Indonesia”

➤ 第 24 回研究会（2010/1/18）

「熱帯森林生命圏と人間圏・地球圏の繋がり」

川井秀一（京都大学生存圏研究所）「熱帯森林生命圏と人間圏・地球圏の繋がり」

討論者：生方史数（岡山大学）、甲山治（京都大学東南アジア研究所）

➤ 第 25 回研究会（2010/2/15）

「東アジアモンスーン地域における生存基盤の展開：持続的農業の視点から」

田中耕司（京都大学地域研究統合情報センター）「東アジアモンスーン地域における生存基盤の展開：持続的農業の視点から」

討論者：渡辺隆司先生（京都大学生存圏研究所）

➤ 第 26 回研究会（2010/3/23）

「南アジア地域における農業の発展経路」

脇村孝平（大阪市立大学）「南アジア地域における農業の発展経路—生態・社会・技術」

田辺明生（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）「南アジアの発展経路と社会的分業」

討論者：大島真理夫先生（大阪市立大学）

平成 21 年度においては、昨年度に引き続き、篠原を中心に、杉原、河野、清水、神崎と GCOE 助教・研究員のメンバーでアイデアを出し合い、必要に応じて外部から報告者、討論者、参加者を招待するかたちで研究会を設定していった。今年度開催された 10 回（特別研究会を含めると 11 回）のパラダイム研究会では「生存圏」の概念を導入した新しい地域研究について活発な議論を行った。パラダイム研究会では毎回講演者と討論者、及びフロアで活発な議論が行われ、2 時間の予定時間をいつも超過し、懇親会でも議論が継続されることがほとんどである。

地域研究に社会・制度・経済等のグローバル化の視点を導入することはこれまでも行われてきたが、この研究会ではさらに気候や生態等の自然科学の視点とテクノロジーの視点を取り入れることで視野の拡大を図っている。逆に理論・技術の一般化の限界が叫ばれ、研究の複合化が期待される自然科学者や技術者にとってローカルな視点、歴史的視点を導入することは、研究を新たな地平へと導くこととなる。

パラダイム研究会の活動を通じ「生産から生存へ」「圏間のつながり」「生のつながり」「親密圏と公共圏」等のキーワードが生まれた。また生存基盤指数の策定を念頭に置いて「国際規範の指標化」が議論されたことに加え、東南アジアや南アジアといった諸地域の生存基盤をマルチディシプリナリーな視点から長期の発展経路として理解しようとする議論も行われた。パラダイム研究会の活動は4つのイニシアティブの活動に/からスピノフ/インされ、グローバル COE としてパラダイム形成に向けた議論の深化に貢献している。

### 第3回国際シンポジウム

パラダイム研究会を通じた議論を踏まえ、第3回国際シンポジウム「*Changing Nature of Nature - New Perspectives from Transdisciplinary Field Science -*」が、2009年12月14日~17日に京都大学稲盛財団記念館で開催された。滋賀県の里山地域におけるフィールドトリップによって始まった当シンポジウムは、4つのセッション（各セッション4本の報告、合計16本の研究報告）と総括セッションから構成された。

現代社会における「自然」「非自然」の境界生成と可塑性に注目し、その歴史・地域限定的な背景要因とこれに起因する動態理解の方法論を、パッチ、ランドスケープ、コミュニティ、領域国家など様々な分析スケールから検討した。論文発表者は、生態学、人文地理学、自然地理学、文化人類学、歴史学、国際関係論、水文学、植物学、地球物理学、社会学、地域研究などの専門家からなり、自然科学と人文・社会科学を架橋し、「攪乱」、「コネクション」、「スケール」などを鍵概念としながら、社会システムと自然システムの接合動態の検討の方法論を模索した。

各セッションでは、生命圏(biosphere)における商品連鎖、水害に代表される地球圏(geosphere)による在地コミュニティに対する攪乱、政治経済的な力学要因としての水資源、ポスト産業造林社会の里山観、植物分類体系の地域比較、人為攪乱下での生物多様性、地震や干ばつなど大規模自然災害のもとでの在地社会の歴史動態、さらには自然と社会の関係理解のための時間的/空間的分析単位に関する方法論的議論など分野横断的な議論が交わされた。

本プログラムのメインになる国際シンポジウムとしては、これが3回目になるが、いつも総括セッションで問題になるのが、なぜパラダイムを形成しなければならないか、という問いである。過去2回のシンポジウムでは、パラダイムが新しい視点からの研究を誘発する可能性に力点を置いてわれわれの営為を正当化してきたが、今回はさらに踏み込んで、ある大きな目標の設定（たとえば地球温暖化の可視化）が、さまざまな分野（たとえば歴史学や経済学）の対象領域の設定に影響し、目的意識を共有することによって古い分野が新しいテーマを獲得するといったレベルの貢献にも注目する必要があることが指摘された。



国際シンポジウムプログラム

JSPS Global COE Program  
*In Search of Sustainable Humansphere in Asia and Africa*

The Third International Conference  
**Changing Nature of *Nature*: New Perspectives from Transdisciplinary  
Field Science**

**Program (Updated on Dec. 7<sup>th</sup>, 2009)**

December 14, 2009

Field Trip to Satoyama (Shiga Prefecture)

December 15, 2009

8:30 Registration

9:00-9:15 Keynote speech by Noboru Ishikawa (Kyoto University)

***Session 1: Rethinking Human Disturbance***

(Conveners: Masayuki Yanagisawa, Kusumaningtyas Retno, and Motoko Fujita)

9:15-9:20 Introduction

9:20-9:55 Ryoji Soda (Osaka City University)  
“River Improvement History in Japan: Rethinking Human-nature Interactions”

9:55-10:30 Katsue Fukamachi (Kyoto University)  
“The Role of Sustainable Management of Traditional Satoyama Landscape Elements: A Case Study from the Ecological Viewpoint.”

10:30-10:40 Coffee break

10:40-11:15 Sara Cousins (Stockholm University)  
“Slow Species in Fast Landscapes”

11:15-11:50 Eben Kirksey (University of Pittsburgh)  
“The NaturalCultural History of Palo Verde, Costa Rica”

11:50-12:20 Discussion

12:20-13:30 Lunch

13:30-13:50 Short film by Eben Kirksey

***Session 2: Cross-continental Connections***

(Conveners: Kunio Tsunoda, Hiromu Shimizu and Noboru Ishikawa)

13:50-14:00 Introduction

14:00-14:35 Heather Swanson (University of California, Santa Cruz)  
“Patterns of Nature-cultures: The spatial redistribution of Pacific Salmon”

14:35-15:10 Eric Tagliacozzo (Cornell University)  
“A Sino-Southeast Asian Circuit: Ethno-histories of the Marine Goods Trade”

15:10-15:20 Coffee break

15:20-15:55 Anna L. Tsing (University of California, Santa Cruz)  
“Blasted Landscapes (and the gentle arts of mushroom picking)”

15:55-16:30 Fumito Koike (Yokohama National University)  
“Biological Invasions as a Cause of Irreversible Change”

16:30-17:00 Discussion

18:00 Reception

Place: Hakusanso, Hashimoto Kansetsu Garden and Museum (Fee: 1500 yen)

December 16, 2009

***Session 3: Water Resources as a Driving Force of Social Change***

(Conveners: Toshitaka Tsuda, Yasuyuki Kono and Osamu Kozan)

9:00-9:10 Introduction

9:10-9:45 Kenneth Pomerantz (University of California, Irvine)  
“Drought, Climate Change, and the Political Economy of Himalayan Dam-Building”

9:45-10:20 Shinjiro Kanae (Tokyo Institute of Technology)  
“A State-of-the Art Global Water Resources Assessment and its Future Extension for Sustainability”

- 10:20-10:30 Coffee break
- 10:30-11:05 Fumiaki Inagaki (Keio University)  
“The Water Management of Central Asia in Transformation”
- 11:05-11:40 James Warren (Murdoch University)  
“Climate Change and the Impact of Drought on Human Affairs and Human History in the Philippines, 1582 to 2009”
- 11:40-12:10 Discussion  
December 17, 2009  
*Session 4: Redefining the Scale and Scope of Enquiry*  
(Conveners: Shigeru Araki, Naoki Shinohara and Shuhei Kimura)
- 9:00-9:10 Introduction
- 9:10-9:45 Anthony Reid (Kyoto University / The Australian National University)  
“Seismology and Human Settlement: Global Contexts for Local (Sumatra) Patterns”
- 9:45-10:20 Miyako Koizumi (Research Institute for Humanity and Nature)  
“Objective and Methodology of Natural Science and Its Limitations to Deal with Environmental Problems”
- 10:20-10:30 Coffee break
- 10:30-11:05 Sanga-Ngoie Kazadi (Ritsumeikan Asia Pacific University)  
“GIS and Remote Sensing for Wildlife Monitoring and Management in Eastern Africa”
- 11:05-11:40 Sing Chew (Humboldt State University / Helmholtz Centre for Environmental Research - UFZ)  
“Nature–Culture Relations over World History: Globalization, Crises, and Time”
- 11:40-12:10 Discussion
- 12:10-14:00 Lunch
- 14:00-16:30 **General Discussion** Chair: Noboru Ishikawa
- 17:00-18:00 Advisory board meeting

## 6.2 研究イニシアティブ1

研究イニシアティブ1「環境・技術・制度の長期ダイナミクス」の課題は、人類が技術と制度の発展を通じてアジア・アフリカ地域の環境に与えてきた影響を歴史的にたどることによって、将来の技術・制度変化の方向を探ることである。3年目の平成21年度は、2年目に引き続き、4つの研究班の研究を継続発展させつつ、研究班相互の研究交流を促進することによって、全体としての方向づけをすることに努力を傾注した。

### 全体研究会

- イニシアティブ1研究会（アジアの政治・経済・歴史）（2009/5/11）  
中岡哲郎（大阪市立大学経済学部名誉教授）「後発工業化と労働集約性をめぐりいくつかの疑問について」
- イニシアティブ1研究会（日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究B「化石資源世界経済」の形成と森林伐採・環境劣化の関係に関する比較史的研究」と共催）（2009/6/28）  
杉原薫（京都大学）「趣旨説明「化石資源世界経済」の形成と森林伐採」  
斎藤修（一橋大学）「森林の環境経済史：課題と比較」  
柳澤悠（千葉大学）「入会地の日・印比較：管理体制・肥料・森林の変容」  
水野祥子（九州産業大学）「大戦間期イギリス帝国における環境危機論」  
西村雄志（松山大学）「英領インドにおける鉄道建設と森林の商業化、1890-1913年：枕木交易統計の一考察」
- イニシアティブ1研究会（2010/1/29）  
「自然と非自然の境界生成に関する学際的研究」  
Paul Kratoska（シンガポール国立大学）Rice in Southeast Asia - From Empires to Nations (1920s-1950s)  
コメント：Anthony Reid（京都大学東南アジア研究所客員研究員）
- イニシアティブ1研究会（アジアの政治・経済・歴史）（2010/2/22）  
柿崎一郎（横浜市立大学国際総合科学部）「『タイ経済と鉄道』からインドシナ交通論へ」

### 「古典のなかのアジア経済史」研究会（代表 籠谷直人）

現時点におけるアジア経済史研究でしばしば言及される文献を取り上げて、その研究史的意義を検討する。

- 第11回研究会（2009/4/25）  
籠谷直人「一年のまとめと展望」  
神田さやこ「クリス・ベイリー論」
- 第12回研究会（2009/6/27）  
籠谷直人「浅香末起がみた「南方圏」」
- 第13回研究会（2009/10/24）  
坂本優一郎「大塚久雄『株式会社発生史論』をめぐって」

- 第14回研究会 (2009/12/19)  
木谷名都子「合名会社、合資会社、株式会社」  
籠谷直人「第一次大戦期の日本の株式会社化について」

- 第15回研究会 (2010/2/6)  
上田貴子「石田興平論のなかの満州経済」

国際ワークショップ (2010/3/9-10)

Institutions and Dynamics of the Pre-Modern Global Trade、Asia and North America in the 18th to 19th Centuries、Co-Sponsored by JSPS Project “The Transformation of the World Order in East Asia: The Tributary System and Hushi from the 14th to the Early 20th Century” and JSPS Project “The Global Trade Expansion and Reorganization of Transaction Systems: Historical Analyses of Asia and the North America in 19th to 20th Century”に参加。

「中東・イスラーム地域における環境・技術・制度の長期ダイナミクス」研究会 (代表 小杉泰)

(1) 生存基盤持続型のイスラーム・システムの史的展開、(2) 湾岸地域と産油経済の長期戦略、(3) 資本主義のオルタナティブとしてのイスラーム経済、を主たるテーマとして研究する。平成21年度は、以下のような研究会・ワークショップを行った。

- G-COE/KIAS/ダラム大学国際ワークショップ (2009/7/23-24)

“Evaluating the Current Practice of Islamic Finance and New Horizon in Islamic Economic Studies”

発表1 : Dr. Zurina Shafii (Universiti Sains Islam Malaysia)"Risk Management in Islamic Finance: A Review of Risk Transfer Practices"

発表2 : Dr. Shahida Shahimi (Universiti Kebangsaan Malaysia)"Corporate Governance and Risk Management in Islamic Banks"

発表3 : Hylmun Izhar (Durham University)"Identifying Operational Risk Exposures in Islamic Banking"

発表4 : Rifki Ismal (Durham University)"How Do Islamic Banks Manage Liquidity Risk?"

発表5 : Ros Aniza Mohd.Shariff (Durham University)"The Global Banking Crisis: Is There a Total Immunity for Islamic Banking and Finance?"

発表6 : Nazim Zaman (Durham University)"Building Human Capital in an Islamic Development Paradigm: Trust and Faith in the Makkan Model"

発表7 : Dr. Shinsuke Nagaoka (JSPS, Kyoto University)"Conflict and Coordination between Economic Feasibility and Sharia Legitimacy in Islamic Finance"

発表8 : Dr. Mehboob ul-Hassan (JSPS, Kyoto University)"Khurshid Ahmad's Contribution in Islamic Economics"

発表9 : Zulkifli Hasan (Durham University)"Regulatory Framework of Shari'ah Governance System in Malaysia, GCC Countries and the UK"

発表10 : Mohd Rahimie Abd Karim (Durham University)"Islamic Investment Vs

Unrestricted Investment: An Unlevel Playing Field?"

発表 11 : Nobutada Takaiwa (Hitotsubashi University)"Waqf and Trust: A Consideration of Property Arrangements in Islam and the West"

発表 12 : Shamsiah Bte Abdul Karim (Durham University)"Contemporary Shari'ah Compliant Structuring for the Management and Development of Waqf Assets"

発表 13 : Suhaili Almaamun (Durham University)"Islamic Estate Planning: Malaysian Experience"

発表 14 : Muhammad Hakimi (Kyoto University)"Theory of Sharecropping from Islamic Economics Perspectives"

➤ G-COE/KIAS/TUFS 国際ワークショップ (2009/7/30)

“Globalization and Socio-political Transformation: Asian and the Middle Eastern Dimension”

発表 1 : Yushi CHIBA: Political Power, Islamic Legitimacy and Mass Media in Modern Egypt

発表 2 : Maja VODOPIVEC: Without Right to Remember or How did the Bruce Lee Stayed Without his First World`s Monument

発表 3 : Ali GOLMOHAMMADI: Modernization and the Response of Political Elites (A Comparative Study of Qajar Iran and Tokugawa Japan)

発表 4 : Emiko SUNAGA: Historical Discourses in Pakistan: A Case Study of School Textbooks

発表 5 : Koji HORINUKI: Administrative Reform and Globalization Strategy in Dubai: Its Characteristics, Achievements and Impacts for Economic Development

発表 6 : Jun HAGIHARA: Socio-Economic Transformation of Saudi Arabia after King Faysal

発表 7 : Aiko HIRAMATSU: The Changing Nature of the Parliamentary System in Kuwait: the National Elections in the Recent Decades

発表 8 : Christopher DAVIDSON: Abu Dhabi and Dubai: A Tale of Two Emirates

発表 9 : Housam DARWISHEH: Parliamentary Elections and Electoral Systems under the Mubarak Rule in Egypt: Determinative Factors in the Process of Electoral Participation

発表 10 : Yusuke KAWAMURA: Political Liberalization in 1970s' Egypt

発表 11 : Intisar al-FARTTOOSI: Forced Displacement in Iraq Triggered by conflict post-2003

発表 12 : Shizuka IMAI: The Elastic Nature of Jordanian Nationality: Fluctuating Relations of Nationality and Passport between the Two Banks of the Jordan River

➤ G-COE/KIAS ワークショップ (2009/9/26)

「現代湾岸諸国におけるグローバル化と政治・経済体制」

保坂修司「日本と湾岸地域」

大野元裕「アラブ首長国連邦における部族的紐帯の今日的意味：90年代のアブ・ダビ首長国を中心に」

堀抜功二「労働力自国民化をめぐる政治経済論争：アラブ首長国連邦におけるエミラティゼーションの30年」

松尾昌樹「湾岸アラブ諸国におけるエスノクラシー体制」

平松亜衣子「クウェートにおける議会政治とイスラーム復興運動：女性の政治参加を焦点として」

萩原淳「サウディアラビアにおける近代化と伝統的価値」

討論者：長沢栄治（東京大学）

➤ G-COE/KIAS ワークショップ（2009/11/26）

"Islamic Economics Workshop on Regional and Historical Diversities of Islamic Finance"

発表 1 :Dr. Noor Inayah Yaakub (UKM-Graduate School of Business, Universiti Kebangsaan Malaysia, Malaysia): "Diversity of Islamic Finance from the Malaysian Perspective"

発表 2 : Dr. Shinsuke Nagaoka(JSPS at CSEAS, Kyoto University): "Diversity of Islamic Finance from the Middle Eastern Perspective"

発表 3 : Dr. Wan Kamal Mujani(Faculty of Islamic Studies, Universiti Kebangsaan Malaysia, Malaysia): "Historical Diversity of Islamic Economic System"

➤ NIHU プログラム「イスラーム地域研究」カイロ国際会議、G-COE/KIAS セッション（2009/11/13）

Theme: Islamic Economics in the Age of Globalization

Convenor and Chairperson: KOSUGI Yasushi (Kyoto University, Japan)

Speakers:

Prof. Abdel-Rahman Yousri (Alexandria University, Egypt): Methodology and Philosophy of Islamic Economics

Dr. Nagaoka Shinsuke (Kyoto University, Japan): Conflict and Coordination between Economic Feasibility and Sharia Legitimacy in Islamic Finance

Dr. Mehmet Asutay (Durham University, UK): Endogenising Ethico-Moral Dynamics in Corporate Governance for Islamic Finance Institutions: Maslahah-Based Approach in Stakeholder Management

Discussant: Dr Shehab Marzban (Durham University, UK)

➤ イニシアティブ1 研究会（G-COE/KIAS/TUFS 国際ワークショップ）（2010/2/6）  
“Conflicts, State-building, and Civil Society in the Muslim Societies”

Chair and Opening and Closing Remarks: Prof. Keiko SAKAI, Prof. Yasushi KOSUGI

Special Lecture: Prof. Salwa ISMAIL (SOAS, University of London): "New Trends of Islamization in the Middle East: A Political Economy View"

DAI Yamao (Kyoto University): Why State-building Policy got confused?: Iraqi Islamists from Historical Perspective “

Junichi HIRANO (Kyoto University): “Islamic Rapprochement Movement in the Mid-20 : Towards a Historical Fatwa by Mahmud Shaltut”

Rateb Muzafary SAYED (TUFS): “Presidentialism in a Divided Society/ Afghanistan 2004-2009”

- Shirine JURDI (TUFS): “Empowerment of Women: Literature Review”
- Shiho SAWAI (TUFS): “Women’s Liberation or Containment? Social Organization of Indonesian Muslim Female Domestic Workers in Hong Kong”
- Intissar Al-FARTTOOSI (TUFS): “Internal Forced Displacement : as a result of Political Mobilization in Iraq post 2003 ”
- Yushi CHIBA (Kyoto University): “Media and Society in Contemporary Egypt ”
- Ai KAWAMURA ((Kyoto University): “Re-Islamization of Finance and the Related Legal Issues: From a Regional Comparative Perspective”
- Emiko SUNAGA (Kyoto University): “Islamic Revival in South Asia: A Case of Pakistan”
- Hasibullah MOWAHED (TUFS): "The Emergence of Maktab-e-Tauhid (Monotheism School) in Afghanistan: A New Trend in the Sufism Thought”
- Hiroshi YOSHIKAWA (Kyoto University): “Yemen's Foreign Policy and Strategy as an Aid Recipient”
- Shizuka IMAI (Kyoto University): “Breakdown of the Middle East Peace Process and Redefinition of Jordan”
- Mohamed Omer ABDIN (TUFS): “Peace-building and Elections in Sudan”

「日本の自治村落とアジアの農村」研究会（代表 藤田幸一）

わが国では近世以来の小農社会の成立に伴って、現在にいたる農村制度の骨格ができてきた。高度な自治機能を備える「自治村落」はその中核的存在の1つである。本研究では、近世に起源をもつ農村諸制度の発展の歴史的過程を念頭に置き、その研究を深化させるとともに、それとの対比でアジア農村の諸制度について分析・考察する。

本年度は、第1回研究会を2009年6月14日（日）に京都大学東南アジア研究所で開催し、有本寛（東京大学）「コミュニティ動員型政策と農村社会構造」、佐藤慶子（ASAFAS）・藤田幸一（CSEAS）「南インドの集落レベルのカースト自治組織」、樋渡雅人（北海道大学）「ウズベキスタンのマハッラにおける社会的紐帯」の3つ報告と討議を行った。第2回研究会は、2009年11月1日（日）に京都大学東南アジア研究所バンコク連絡事務所にて開催し、大野昭彦（青山学院大学）「インド北西部のふたつの村から」、岡江恭史（農林水産政策研究所）「ベトナム北部村落における銀行融資と社会関係」、生方史数（岡山大学）「タクシン政権以降のタイ農村社会構造と組織」の3つの報告と討議を行い、また翌2日（月）には、バンコク近郊・ナコンパトム県の農村を視察し、地方分権化の象徴的存在である行政区（タンボン）を訪問してその機能の実態を見るとともに、日本輸出向けのアスパラガス産地を視察した。第3回研究会は、2010年1月30日（土）、31日（日）の2日間をかけて、京都大学東南アジア研究所で開催し、松本武祝（東京大学）「植民地朝鮮における農業水利秩序の改編—萬頃江流域の事例」、小林知（京都大学）「カンボジア農村における社会構造研究の展望」の2つの報告と討議を行った。以上のように本年度は、アジア各地の地域研究者による各地域農村社会構造に関連した研究会を開催し、日本の自治村落を比較軸にした討論



を重ねた。

- 第1回研究会（東南アジア研究所・公募共同研究「アジア農村社会構造の比較研究」（代表：藤田幸一）と共催）（2009/06/14）  
有本寛（東京大学大学院）「コミュニティ動員型政策と農村社会構造」  
佐藤慶子（ASAFAS）・藤田幸一（CSEAS）「南インドの集落レベルのカースト自治組織」  
樋渡雅人（北海道大学大学院）「ウズベキスタンのマハッラにおける社会的紐帯」
- 第2回研究会（東南アジア研究所・公募共同研究「アジア農村社会構造の比較研究」（代表：藤田幸一）と共催）（2009/11/1）  
大野昭彦（青山学院大学国際政治経済学部・教授）「インド北西部のふたつの村から」  
岡江恭史（農林水産政策研究所・研究員）「ベトナム北部村落における銀行融資と社会関係」  
生方史数（岡山大学大学院環境学研究科・准教授）「タクシン政権以降のタイ農村社会構造と組織」
- 第3回研究会（東南アジア研究所・公募共同研究「アジア農村社会構造の比較研究」（代表：藤田幸一）と共催）（2010/01/30-31）  
松本武祝（東京大学大学院・教授）「植民地朝鮮における農業水利秩序の改編—萬頃江流域の事例」  
小林知（京都大学東南アジア研究所・助教）「カンボジア農村における社会構造研究の展望」

「東南・南アジアの工業化と資源」研究会（代表 杉原薫）

本グループでは、西洋の資本集約型・資源集約型工業化とは異なる労働集約型・資源節約型の工業化が東南・南アジアでどの程度実現したのか、そしてそれはそれぞれの地域の資源・エネルギーの賦存状況とどのように関係していたのかについての理解を深めようとしている。

このうち、東南アジア研究所の拠点事業（2006-2008年度）との共催で行ってきた東南アジアのプロジェクトは、今年度は研究会を開催せず、成果刊行に向けた準備年度とした。

科学研究費補助金基盤研究B「インドにおける労働集約型経済発展と労働・生活の質に関する研究」（2006—2008年度）との共催で行ってきた南アジアのプロジェクトは、2009年8月にユトレヒトで開催された世界経済史会議でセッションを組織し、成果を発表した（オーガナイザーは脇村・杉原）。報告内容は次のとおり。

Kohei Wakimura, 'Scarcity of Land, Division of Labour and the Service Sector: The Labour-Intensive Path of Development in Modern South Asia'

Kaoru Sugihara, 'The South Asian Path of Economic Development: A Comparison with East Asia'

Haruka Yanagisawa, 'Village Common Land, Manure, Fodder and the Intensification of Agricultural Practices: South Indian Agriculture since the Middle of the Nineteenth Century'

Takashi Oishi, 'Workmen, Machines, Schemes Shifted from Japan to India: Mobility of Labour Intensive Production in the Cases of Matches and Glass wares, 1900-1940'

Tirthankar Roy, 'Labour Intensity and Indian Industrialization: An integrated view'

Sayako Kanda, 'Fuel Crisis and Conditions of Salt Workers in Early Nineteenth Century Bengal'

Takeshi Nishimura and Kaoru Sugihara, 'Railway Construction, Sleepers and the Commercialisation of Forests in British India, 1890-1913: A Preliminary Analysis of Trade Statistics'

Discussants: Linda Grove, Peter Robb, Masayuki Tanimoto

なお、この研究会のうち、資源・エネルギーに関する研究の部分は、実質的には新しく始まった科学研究費補助金基盤研究 B 『『化石資源世界経済』の形成と森林伐採・環境劣化の関係に関する比較史的研究』（代表研究者杉原）に継承されている。とくに脇村、杉原、神田、西村・杉原の各報告とグローブのコメントは、労働集約型工業化関係のプロジェクトよりも、本イニシアティブで議論した、資源・エネルギーに注目するパラダイム形成に関わる内容であり、新しい動向として注目された。また、その成果の一部は、COE 全体の成果『地球圏・生命圏・人間圏－持続的な生存基盤を求めて－』の第 1 章にも取り入れられた。

### 6.3 研究イニシアティブ 2

研究イニシアティブ 2 では、人間の生存圏 (humanosphere) が sustainable であるためには、地球圏 (geosphere) や生命圏 (biosphere) に蓄積された資源を切り取って利用するのではなく、地球圏における水・熱・大気の循環する力と、生命圏における動植物の再生する力を利用した新しい人と自然の関係について考えることを課題としてかかげた。人間側の論理を前提にするのではなく、地球圏や生命圏の成立の歴史を理解し、その論理を十分にふまえた未来型の技術開発や制度構築を考えるために、我々の活動方針を Nature-Inspired Technology and Institutions として議論を進めた。そのために、2009 年度は、国内研究会、海外連携フィールドワーク、国際シンポジウムの 3 つの活動を通じて考えてきた。以下では、それぞれの活動について述べる。

#### 国内研究会

国内研究会では、特に熱帯地域の気象変動と地域社会の対応を検討する「熱帯の気象変動研究会」、人為的な自然の攪乱が自然をどのように改変し、それが逆に人間社会にいかに関与をおよぼすかを検討する「人為攪乱研究会」、熱帯地域の自然環境の特徴と農業との関係を検討する「熱帯の農業研究資料研究会」とを実施した。これらの研究会は単独で存在するというよりもむしろ、当該テーマのもとで、さまざまな研究会と共催しながら議論を深めるための研究会であった。具体的な研究会の発表者・タイ

トルは以下の通りである。

- イニシアティブ 2 研究会（東南アジアの自然と農業研究会第 139 回定例会）  
（2009/4/17）  
笹岡正俊（財団法人自然環境研究センター）「アーボリカルチャ（arboriculture）が結ぶ野生動物と人：インドネシア東部島嶼部住民による「半自然」的な森の創出」
- イニシアティブ 2 研究会（東南アジアの自然と農業研究会第 140 回定例会）  
（2009/6/19）  
福島万紀（島根県中山間地域研究センター・京都大学地域研究統合情報センター）  
「焼畑耕作が創出する空間的多様性ータイ北部の「焼畑休閑林」および「焼畑停止林」に存在する植物資源ー」
- イニシアティブ 2 研究会（2009/7/23）  
JOKO SULISTYO（生存圏研究所居住圏環境共生分野，ガジャマダ大学教員）  
“Status, Prospects and Development Effort of Charcoal in Indonesia”
- イニシアティブ 2 研究会（熱帯における気象変動と地域社会研究会）（2009/10/9）  
甲山治（京都大学東南アジア研究所）「変動から見た東南アジア島嶼部の気象の特徴」
- イニシアティブ 2 研究会（人と自然の共生研究会・第 142 回東南アジアの自然と農業研究会共催）（2009/10/30）  
「タンザニアの農村における慣習の変化と農業へのインパクトー土地利用と労働力確保に注目してー」  
山根裕子（名古屋大学農学国際教育教育協力研究センター）「タンザニアの山地農村における土地利用とクランを中心とする土地保有との関係について」  
一條洋子（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）「タンザニア農村における労働慣行の変容と農家の生計戦略」
- イニシアティブ 2 研究会（2009/11/9）  
小池文人（横浜国立大学大学院環境情報研究院）「日本の里山と外来植物」
- イニシアティブ 2 研究会（2009/11/16）  
上田義勝（京都大学生存圏研究所）「木炭の多目的利用」

#### 海外連携フィールドワーク

国内研究会での議論を受け、アジア・アフリカの現場で異分野の研究者が共通のテーマについて議論する場を持つため、海外連携フィールドワークを実施した。今年度は、インドネシアを中心に、択伐林調査（2009年9月23日～10月3日、2010年3月16日～26日）と、技術の多目的利用調査（2009年12月6日～13日）を行った。

択伐林とは、ターゲットとなる樹種のみを選定して伐採し、伐採跡地には植林を施して再生産を促すと同時に、伐採地以外の森林を維持することで、木材伐採と森林の再生・保護を両立しようとする森林のことである。インドネシアでは企業による森林伐採が森林面積の減少の大きな要因のひとつであるが、カリマンタンの中央部に、国際

機関による森林認証制度を取得した広大な面積の択伐林が残されている。海外連携フィールドワークによって、実際に現地を訪問し、木材伐採システムと動植物に関する生態学的な調査とを行った。詳しい調査は継続中であるが、広大な面積の森林における人為的利用と植生の再生とが両立するためのユニークな事例であることがわかった。

技術の多目的利用調査では、インドネシア中部のジョクジャカルタ近郊の森林における木炭生産現場を訪問し、木炭の多様な生産方法についての調査を行った。材木として利用不可能な多種多様な材木や間伐材を利用した木炭生産技術が存在し、森林を維持しつつ、森林が生み出すバイオマスを効率的な熱エネルギーに転換するための優れたシステムであるといえる。また、宇宙太陽光発電のような巨大テクノロジーの開発にとってキーテクノロジーの開発が重要であり、そのためには、地域社会の多様な利用を考慮した技術開発の方向性を模索する必要があることがわかった。

#### 国際シンポジウム

2009年12月14日~17日に開催されたG-COE国際シンポジウム“Changing Nature of Nature: New Perspectives from Transdisciplinary Field Science”では、国内研究会で議論した熱帯の気象変動や人為攪乱をテーマとした発表が組み込まれ、議論された。

また、ラオスフィールドステーション国際ワークショップ (Faculty of Agriculture, NUOL および京都大学東南アジア研究所の共催) (2010/2/17-19) “The Alternative value of Traditional Agriculture for Education, Research and Development”を開催した。

### 6.4 研究イニシアティブ3

近年、インドネシアでは森林破壊が急速に進行し、泥炭湿地の野焼きが加わって地球温暖化の原因となってきている。自然林がやがて大規模な産業人工林に変換し、これが地域の林業や産業として持続的生存基盤のひとつとなりつつある。生存圏研究所と東南アジア研究所は、これまで様々な東南アジア諸国において研究活動を行ってきたが、持続的生存基盤の実学を共同で研究することになった。これまで共通のフィールドを探してきたが、スマトラ島リアウ州のバイオスフィアをフィールドにすることで昨年度末に一致した。森林持続の科学と森林周辺に住む地域住民の生存基盤の仕組みを理系と文系の研究者が互いに融合（文理融合）できる場として「持続的森林圏」の創生を研究課題とした。なおRiau Biosphere Reserve (78万ha)は、2009年6月にユネスコに登録され、バイオスフィアの名称がThe Giam Siak-Bukit Batu Biosphere Reserve of Riauと定められた。これを祝って、7月1日にペカンバルで記念祝賀会が開催され、林が代表として出席した。

また7月31日~8月1日には、本GCOEメンバー、LIPI研究者およびリアウ大学研究者らで、バイオスフィアのコアゾーンであるBukit Batu自然林に入り、乾季の泥炭湿地の状況、違法伐採や野焼きの現状などを視察した。このツアーを参考に、樺沢氏がHSスクールで、インドネシアのエコツーリズムの可能性について講演した。

8月には生存圏科学スクール(HSS)を実施し、本GCOEメンバー9名、LIPI研究者5名およびリアウ大学研究者4名の演者に加えて、JICA研究者1名、インドネシア林業省自然林庁から1名、インドネシア科学技術省から1名、SinarMas社研究所から1

名が講演した。

また本 GCOE 代表の杉原薫氏と LIPI 次官の Endang Sukara 氏の間で、10月19日に LOA 調印を行った。3通の LOA 文書はそのままリアウ大学に送付し、リアウ大学共同研究担当副部長 Adhy Prayitno 氏のサインを受け取った (LOA 締結日 2010年1月30日)。

加えて2月4日には、LIPI 研究者1名およびリアウ大学研究者1名、SinarMas 社から2名を迎え、京都大学においてリアウ・バイオスフィアに関するシンポジウムを開催した。このシンポジウムの目的は、若手研究者の育成およびインドネシア研究者との交流促進を通して、リアウ・バイオスフィアに関するプロジェクトの推進および将来の共同研究への展開を促すことである。

### 2009年度の主な活動

- International Symposium on the Giam Siak-Bukit Batu Biosphere Reserve of Riau, Indonesia (2010/2/4)
- GCOE 代表杉原薫氏と LIPI 次官 Endang Sukara によるリアウバイオスフィア共同研究に関する LOA 調印式 (2010/10/19)
- Humanosphere Science School 2009 (2009/8/4-5)
- Ecotour on the Giam Siak-Bukit Batu Biosphere Reserve of Riau (2009/7/31-8/2)
- リアウにおけるサイト研究の現状報告と活動について (2009/7/13)
  - 「リアウ生物圏ユネスコ登録に関する報告」
  - 「リアウ大学 HS スクールについて連絡と今後の研究活動」講演：竹田匠 (岩手生物工学研究センター生物資源研究部)「岩手県におけるバイオエネルギー構想とその取り組み」
- インドネシアの泥炭：森林における火災と炭素管理 (パラダイム研究会と共催) (2009/6/12)
- Results and Potential Research at Nominated Giam Siak Kecil-Bukit Batu Biosphere Reserve (2009/5/15)
- Enny Sudarmonowati (Research Centre for Biotechnology-LIPI) “Results and Potential Research at Nominated Giam Siak Kecil-Bukit Batu Biosphere Reserve”  
コメンテーター：水野広祐、甲山治、木村周平
- フェルカタの挿し木増殖 (2009/4/27)  
横山峰幸 (資生堂新成長領域研究開発センター)「新規生理活性物質を用いたフェルカタの挿し木増殖」
- リアウワークショップ報告・研究、HS スクールなどについて (2009/3/31)

### リアウ・バイオスフィアにおける共同研究について

インドネシアスマトラ島リアウ州にある自然林、観光林および SinarMas 社の産業人工林が複合した Riau Biosphere Reserve (78 万 ha) を共通のフィールドとして特定した。このサイトにおいて、本 GCOE メンバー、リアウ大学とインドネシア科学院 (LIPI) が共同研究を展開する。共同研究を行うために、3者による LOA を締結し、HS スク

ールやシンポジウムを開催することが、年度初めに決められた。

生存圏研究所と LIPI が行っている HS (Humanosphere Science) スクールを 8 月にリアウ大学で行った。Riau Biosphere Reserve エリアにおける研究活動を明確に定めた。研究費については、リアウへ行って調査・研究することを目的とした旅費に配分した。研究テーマと講師の招聘については、Riau Biosphere Reserve エリアにおける研究テーマと関連深い研究を行っている研究者を招聘し、レクチャーを依頼して研究会を開催した。

下に 6 つの研究チームとその共同研究者を記す。

- (1) Collaborative natural resource management between local community and timber plantation (Equitable partnerships between corporate and small-holder partners in timber plantation industry), Culture, Empowerment of local people, Eco-tourism, Illegal logging and encroachment  
[リアウ大学: Syaiful; LIPI: Savitri, Enny; GCOE: Retno, 水野]
- (2) Dynamic evaluation of forest biomass in plantation forest using ground-based and satellite remote sensing data  
[リアウ大学: Nurul; LIPI: Bambang, Ismail; GCOE: 川井, 大村, 小林]
- (3) Water/carbon cycle and soil moisture control, hydrological mapping, weather observation in the peat swamp  
[GCOE: 甲山]
- (4) Case study on biofuel production: from pulp to bioethanol  
[リアウ大学: Chairul, Titania, Misri, Sulistyati; LIPI: Enny; GCOE: 海田, 林, 角, 馬場]
- (5) Biodiversity observation of Riau biosphere reserve: Aquatic and Terrestrial (Conservation status) / Valuation and development  
[リアウ大学: Defri, Fajar, Sugiarto, Muhibbuddin, Siti, Sujarwati, Ahmad, Khairijon, Fitmawati, Titania, Yuana, Fifi, Tetty, Delita, Setyaningsih, Yusfiaty, Koto, Chaidir, Muhammad, Haris; LIPI: Tukirin, Harmastini, Purwanto; GCOE: 藤田, 吉村, 生方]
- (6) Peat land Management and conservation: Fire peat land, Hydrology management, Restoration / Peat land physical and nutrition improvement  
[リアウ大学: Ahmad, Besri, Haris; GCOE: 小林]

#### 6.5 研究イニシアティブ 4

本研究イニシアティブは、生存基盤持続型発展のための、地域の知的潜在力を発見し理解することを目的としている。2008 年度においては、生存基盤の成り立ちについて、生命論、再生産論、在来知論、災害・リスク論、科学技術論、貧困論などの観点から原理論的に考察すると同時に、生存を確保するためのいかなる知的潜在力が世界の諸地域に存在するのかについて人類学的・社会学的・歴史的な検討を行った。その結果、生存基盤を考えるためには、単に食糧や住居などの要素を単独で考えるのではなく、むしろ生命過程を支える社会生態的なネットワークの全体的な質を視野に入れ

なくてはいけないことがあきらかになった。そのなかで、人間圏と生命圏と地球圏をつなぐ「連鎖的生命」の働きや、生命のかたちを後世へと伝えていく「イノチのつながり」、生存基盤を構築する「人ともとの生きもののネットワーク」、そうした生存基盤を持続し発展するための「在来知」と現代技術の媒介の可能性などについて、キーワードがあぶりだされ、議論が焦点化してきた。今後はこうした概念の有効性について、実際のフィールドにおいて検証していくことが重要となるだろう。

3年目となる今年は、10回の研究会、1回のシンポジウム、1回の国内フィールドトリップを開催した。

#### 研究会・ワークショップ

- イニシアティブ4研究会（2009年5月26日）  
石川容平（村田製作所シニアフェロー・次世代技術研究所 所長・京都大学生存圏研究所客員教授）「グローバル化に伴う職創出の地域バランス：社会の安定化と持続発展の両立を目指して」
- イニシアティブ4研究会（2009年6月1日）  
「地域社会における「つながり」の再生産」  
松尾瑞穂（日本学術振興会／京都大学人文科学研究所）「つながりの模索と調律—インド村落における不妊女性にとっての生存基盤と希望」  
高田明（京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科准教授）「社会化と社会変容—クン・サンにおける子どもの歌／踊り活動の分析から」
- 第1回環境・制度・STS・人類学に関する勉強会（2009年6月2日）  
Tsing, Anna (2005) *Friction: An Ethnography of Global Connection*. Princeton UP. 輪読
- 第2回環境・制度・STS・人類学に関する勉強会（2009年6月30日）  
Tsing, Anna (2005) *Friction: An Ethnography of Global Connection*. Princeton UP. 検討・討論
- 第3回環境・制度・STS・人類学に関する勉強会（2009年7月7日）  
Nevins, Joseph and Nancy Lee Peluso (eds.) 2008 *Taking Southeast Asia to Market*. Cornell UP. 議論
- イニシアティブ4研究会（2009年7月13日）  
岩佐光広（国立民族学博物館 研究戦略センター 機関研究員）「ライフ・エシックス：バイオエシックスの人類学的転回を目指して」
- 第4回環境・制度・STS・人類学に関する勉強会（2009年9月26日）  
Arun Agrawal (2005) *Environmentality: Technologies Of Government And The Making Of Subjects*. Duke UP. 輪読
- イニシアティブ4フィールドトリップ+研究会（2009年9月30日）  
「災害と多文化の共生」  
フィールドトリップ：たかとりコミュニティセンター訪問  
研究会：思沁夫（大阪大学 GLOCOL）「ゲルという小宇宙：ゲルから考えるモンゴル人の自然観」
- 第5回環境・制度・STS・人類学に関する勉強会（2009年11月6日）

Cori Hayden (2003) *When Nature Goes Public: The Making and Unmaking of Bioprospecting in Mexico*. Princeton UP.

- イニシアティブ4研究会 (2009年11月20日)  
小野真由美 (東京大学総合文化研究科博士課程)「国際退職移住とロングステイターリズム：日本人高齢者のマレーシア移住」  
討論者：細田尚美 (京都大学大学院アジアアフリカ地域研究研究科)
- シンポジウム「人間圏を解き明かす—人間の生存、人びとのつながり」(イニシアティブ4と若手養成・研究部会の共催)(2010年3月14-16日)※詳細は若手養成・研究部会の項を参照



## 7. 広報成果発信部会

広報成果発信部会の活動は、大きく三つに分かれる。1) 本プログラムの研究成果発信の場を設け、あるいは、既存の研究成果発信の場を本プログラムの研究成果発信のために補助促進する。2) ニュースレターの発行。3) ウェブページ作成、である。この他、本プログラムを推進していく上での、対外的なPRに関わる業務も、事務局と共同で進めている。例えば、発足当初のロゴの作成なども本部会が担当した。これらの業務を、四つの基幹部局の教員・若手スタッフと、事務局メンバーとで担っている。以下、追って平成21年度の活動を紹介する。

### 7.1 研究成果発信

- ① 既存の Kyoto Working Paper Series on Area Studies に、G-COE Series を設け、年度内に10号出版した。既刊のものと合わせて出版号数は87号である。  
Appendix 1 参照のこと。
- ② African Monograph Series  
African Study Monograph の下記3号の刊行にあたり出版を補助した。
  - ・ African Study Monograph No.30-2
  - ・ African Study Monograph No.30-3
  - ・ African Study Monograph No.30-4
  - ・ African Study Monograph Supplementary Issue No.40  
Historical Change and its Problem on the Relationship between Natural Environments and Human Activities in Southern Africa Edited by Kazuharu Mizuno
- ③ Kyoto Review of Southeast Asia (ネットジャーナル)  
2010年3月ネット掲載の8本の論文を中心とする11号を刊行。
- ④ 京都大学東南アジア研究所叢書出版  
2010年刊行 Urano, Mariko *The Limits of Tradition: Peasants and Land Conflicts in Indonesia*.  
2009年刊行 Tran Duc Vien; A.Terry Rambo; and Nguyen Thanh Lam, eds *Farming with Fire and Water: The Human Ecology of a Composit Swiddening Community in Vietnam's Northern Mountains*.  
上記二冊の刊行に向けて一部、校閲等の支援
- ⑤ 若手投稿費助成  
21年度は、若手の投稿・出版を促進するために、(A) 英文投稿論文の校閲費助成 (B) 査読雑誌への投稿費用の助成 の2項目について申請ベースで助成を行った(下記参照)。応募件数は7件(A-3件、B-4件)であった。応募要件が若

干渉しかつたため、思うほど応募件数が増えなかった。

### (A) 英文校閲費用助成

#### 概要

若手の研究者（大学院生・研究員・助教）の国際誌投稿論文発表を促進するために、英文校閲の費用を支援します。

#### (1) 応募資格

G-COE プログラムに関連する研究科・研究室に在籍する大学院生と研究員・助教。G-COE メンバー教員（当該論文の関連分野の教員であれば誰でも可）によって、対象となる論文が国際的な学術誌に投稿するにふさわしいものであることが確認されたものにかぎります。

(2) 申請方法 メールタイトルを（申請者氏名\_\_英文校閲費用助成申請）として本文に

1) 氏名（共著者含め） 2) 所属 3) 論文タイトルと要旨 4) 投稿予定先（ジャーナル名・インパクトファクター\*） 5) 現時点での頁数 6) 確認した GCOE メンバー教員名とメールアドレス 7) 校閲費用概算

を記載して、wp\_gcoe@cseas.kyoto-u.ac.jp（広報部会長 速水洋子）あて校閲前の原稿を添付送信ください。

\* 国際的に認知度の高い雑誌への投稿を奨励します。インパクトファクターがなくても認知されている地域研究等の雑誌は少なくありませんので、その場合は、その雑誌の国際的な位置づけがわかるような説明を付してください。単行本も応募可です。

申請書は委員会で審議した後、広報成果出版部会で決定されます。申請は1月末まで随時受け付けます。（毎月3-4編程度、合計30-40編程度を予定。既定の数に達し次第打ち切ります。）

また、申請にある国際誌への投稿を進める準備段階における、GCOE ワーキングペーパーシリーズへの投稿を歓迎します。

なお、受け取った論文の審議中・審議後における取扱いには十分に注意し、情報の漏れが生じないよう細心の注意を払います。

### (B) 投稿料・掲載料助成

#### 概要

若手の研究者、とりわけ大学院生・研究員・助教の投稿論文発表を促進するために、査読つきジャーナルへの投稿料・掲載料の費用を支援します。

#### (1) 応募資格

G-COE プログラムに関連する研究科・研究室に在籍する大学院生と研究員・助教。対象となる GCOE 関連論文が投稿後、審査されて受諾済みであることが応募の条件となります。

投稿料・掲載料以外に、ページチャージが支援の対象となります。カラー印刷代・別刷代は対象外とします。申請は論文の掲載決定後に行ってください。

## (2) 申請方法

メールタイトルを(申請者氏名\_\_投稿料助成申請)として本文に1) 氏名(共著者含め) 2) 所属 3) 論文タイトルと要旨 4) アクセプトされた雑誌名(ジャーナル名・インパクトファクター\*) 5) アクセプトを証明するメール本文のコピー 6) GCOE 関連論文であることを確認した教員名とメールアドレス 7) 投稿料費用を記載して、wp\_gcoe@cseas.kyoto-u.ac.jp へて論文の proof(PDF)を添付送信ください。

## 7.2 ニュースレター

本年度は2009年7月に第4号、2010年3月に第5号を発刊した。ニュースレター国内2,850カ所のみならず、海外680カ所にも送付している。

第4号(全22頁)は、和田泰三研究員の編集担当により、前年度3月9-11日に開催した国際シンポジウム「生命圏の再評価—グローバルな発展経路の修正に向けて」を特集し、シンポジウムのセッションや、付随して行われた里山フィールドトリップ、また同時に日本学術振興会「若手研究者交流支援事業—東アジア首脳会議参加国からの招聘」事業の報告、および参加者の手記を掲載した。執筆はすべて若手の手により、内容の濃い号となった。

第5号(全22頁)は、甲山治助教の編集担当により、12月14-17日に開催した第三回国際シンポジウムを紹介するとともに、インドネシア・リアウにおけるバイオスフィア・リザーブをめぐる活動を参加しているインドネシア、日本両側の多様な視点から紹介し、現在進行中の議論や活動を紹介する号となった。

## 7.3 ウェブページ

本年度のWEB運営は、初年度に導入したCMS(Content Management System)機能利用を深めつつ、その周辺システムを刷新することで、情報公開ページの増大のみならず新たな公開手法を取り入れた質の高い情報公開を大いにすすめることができた。

### ① HP コンテンツについて

平成20年度に設置した「HP運営体制」と「コンテンツ基盤構築」を基に、コンテンツ作成を円滑にすすめることができた。

### 研究活動の報告

本プログラムに関する「研究活動の報告」の掲載について、和文・英文ともに継続してすすめられた。本年度は、英文中心の報告数が特に増え、和文報告数を上回った。

### 【研究活動報告の種類】

- ・次世代イニシアティブ成果報告
- ・若手研究者交流報告
- ・大学院派遣報告
- ・研究会活動報告（G-COEパラダイム研究会・イニシアティブ1～4、若手養成・研究部会、国際集会・国際シンポジウム、連携国際集会）

▶報告掲載数 合計：300件（和文：146件／英文：154件）

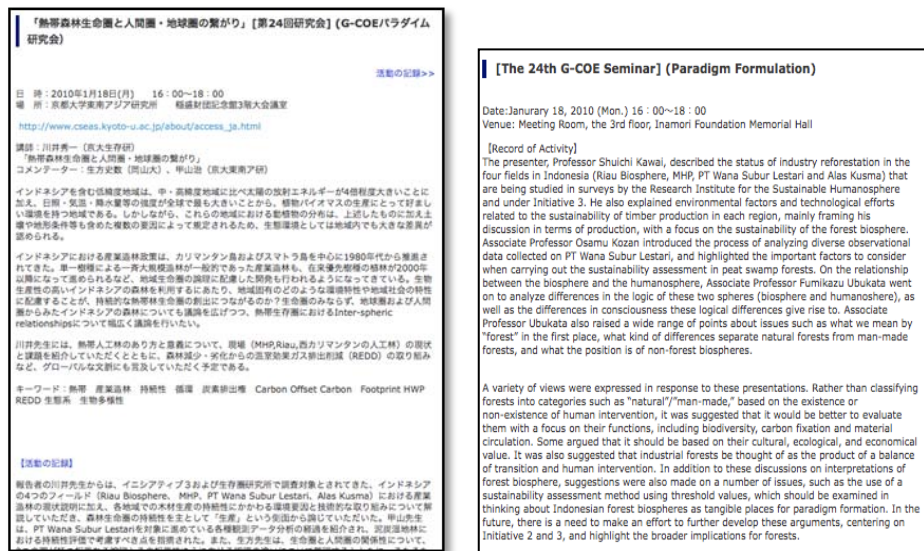


図1：研究会情報「活動の記録」左：日本語ページ 右：英文ページ

## 書籍ページ

成果発信の一つとして、プログラムメンバー書籍情報の掲載を本格的にすすめた。

- ・ 書籍紹介、目次、書評などが掲載されている。
  - 書籍情報数 77 件



図 2 : 書籍紹介ページ

## デジタルブック

より手軽に読める情報公開を目指し、冊子情報のデジタルブック化を始動し WEB での公開をすすめた。现阶段では、平成 20 年度の自己点検報告書を公開しており、下記の特徴がある。

- ・ 付箋掲載、書き込み、文字検索が可能である。
- ・ 必要な部分のみ読み込むため、低速ネットワーク環境でも閲覧が出来る。



図 3 : デジタルブック化された自己点検報告書

## メディアギャラリー

プログラムメンバーが調査で撮影してきた写真やシンポジウム写真、ポスター、出版物などの画像をアーカイブしている。地点情報入力ソースともしても活用できるようにすすめている。

- 画像掲載数 911 件



図 4 : メディアギャラリー画面

## ②システム構築と開発

本プログラムでは、開発した汎用システムについては広く一般公開することをポリシーとしている。そのため開発段階から開発者コミュニティと密接に連携しながら、より使いやすく汎用性のある仕組みを取り入れている。この社会貢献活動は、IT系ニュースサイトで何度か紹介されており、その認知度は日増しに高まっている。

### 社会貢献：GoogleMapAPI 導入と CMS プラグイン開発（第2弾）

本システムは、2008年5月に公開し、その後開発者コミュニティと共にバージョンアップが図られ、そのダウンロード数は1519にのぼる。今回、Google Map上に自前で持っている地図画像をオーバーレイすることのできるバージョン2を開発したことで、研究に必要な古地図など取り扱うことができるようになった。現在は公開に向けて調整を重ねている。

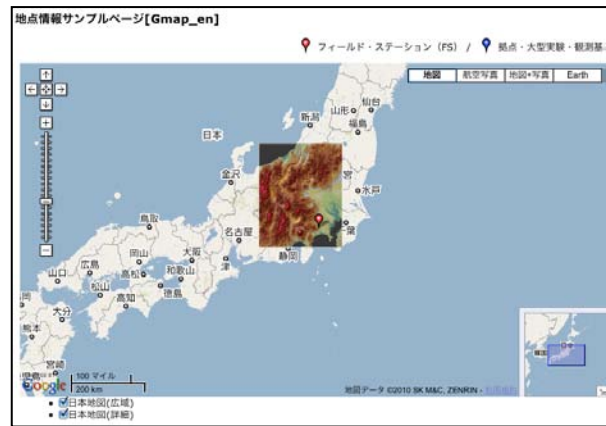


図5：地点情報サンプルページ

### システム管理

2009年6月 CMS（日本語サイト）のシステムバージョンアップ

2010年1月 CMS（英語サイト）のシステムバージョンアップ

2010年2月 tkgmaps2.0.3を組み込み、Google Map上で様々な地図画像のオーバーレイが可能となった

2010年3月 新サーバへ移行し、処理能力の向上および周辺システム刷新を実施、デジタルブックの導入と実験

### サーバ移行

本年度のシステム構築面において最も大きな点といえば、サーバの移転である。サーバを一新することで、今までシステムが古く利用できなかった機能が新たに使えるようになった。このことは大きなメリットである。しかしながらサーバ移転には大きなリスクも生じる。それは最新システムであるが故に、一般PCのOSバージョンアップの際に生じる互換性問題と同等の問題が生ずるからである。すなわち、既存システムがそのままでは利用できなくなることを意味する。この点は、開発者コミュニティとも連携しながら、実験と検証を積み重ねることで移行をすることができた。このことから、コミュニティとの緊密な連携と開発システムの公開は、単なる社会貢献活動であるにとどまらず、開発したシステムを生かし続けるための1つの解を提示できたといえる。

## 地点情報

情報基盤部会と共同で、WEB サイトから地点情報のインポートとエクスポートができるシステムおよびレイヤー表示システム（前述した **tkgmaps** のことである）を開発し、導入を行った。

前者によって、異なるデータベース間の地点を含む情報共有や地点情報の入力容易となった。今後は、このシステムを活用し、コンテンツの充実を図る予定である。

図 6：地点情報入力手順書

## ③その他：インターネットを扱った広報活動

### メールマガジン

アジア・アフリカ地域研究研究科（ASAFAS）よりメールマガジン配信がすすめられている「アジア・アフリカ地域研究情報マガジン」について、2008年9月から発行協力を開始した。

- メールマガジンタイトル：アジア・アフリカ地域研究情報マガジン
- メールマガジン URL：<http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kaikaku/index.html>
- 発行周期：月刊
- 発行部数（購読申し込み数）：1005

メールマガジンの内容には、ASAFAS 活動情報の他、本プログラムの HP にて掲載された報告紹介や研究活動などが掲載されている。



#### ④ウェブサイト解析と今後の課題

##### ウェブサイトのページ数

解析期間：2007年11月30日～2010年3月31日

日本語ページ数：1,714 ページ 英語ページ：851 ページ

➤ 総ページ数：2,565 ページ

##### アクセス数(日本語・英語ページ)

###### [解析期間]

日本語ページ：2007年11月30日～2010年3月31日

英語ページ：2008年1月28日～2010年3月31日

※解析ツール：Google Analytics (<http://www.google.com/analytics/ja-JP/index.html>)

###### [セッション：訪問者数]

日本語ページ：77,326 英語ページ：22,349

➤ 訪問者総数：99,675

###### [ページビュー：ページ閲覧数]

日本語ページ：497,233 英語ページ：109,046

➤ ページ閲覧総数：606,279

###### [Google Pagerank での評価]

➤ 6/10

本サイトへの、「セッション」「ページビュー」ともに多くの数が示された。

また、Google Pagerank(ページランク)評価においても、6/10 という値がしめされた。これは、SEO 対策の効果であり、HP 運営が軌道に乗り、本サイトへのニーズが高くなっていると述べられる。

さらに、初年度解析(図6)では、海外から訪問された国の種類が42カ国であったのが、本年度(図7)では、136カ国に増えている。これは、世界からも本サイトに多くの関心がよせられていると述べられる。

また、「海外からの訪問者」解析の他に、図9「海外からの閲覧状況」からは、「滞在時間」と「ページ閲覧数」の双方の数を表示することにより、閲覧頻度が高い国について注目することができる。こういった、別要素からの視点に於いても解析をおこない、WEB構成の取り組みをすすめる予定である。



[海外からの訪問者：国別の割合と訪問者数]

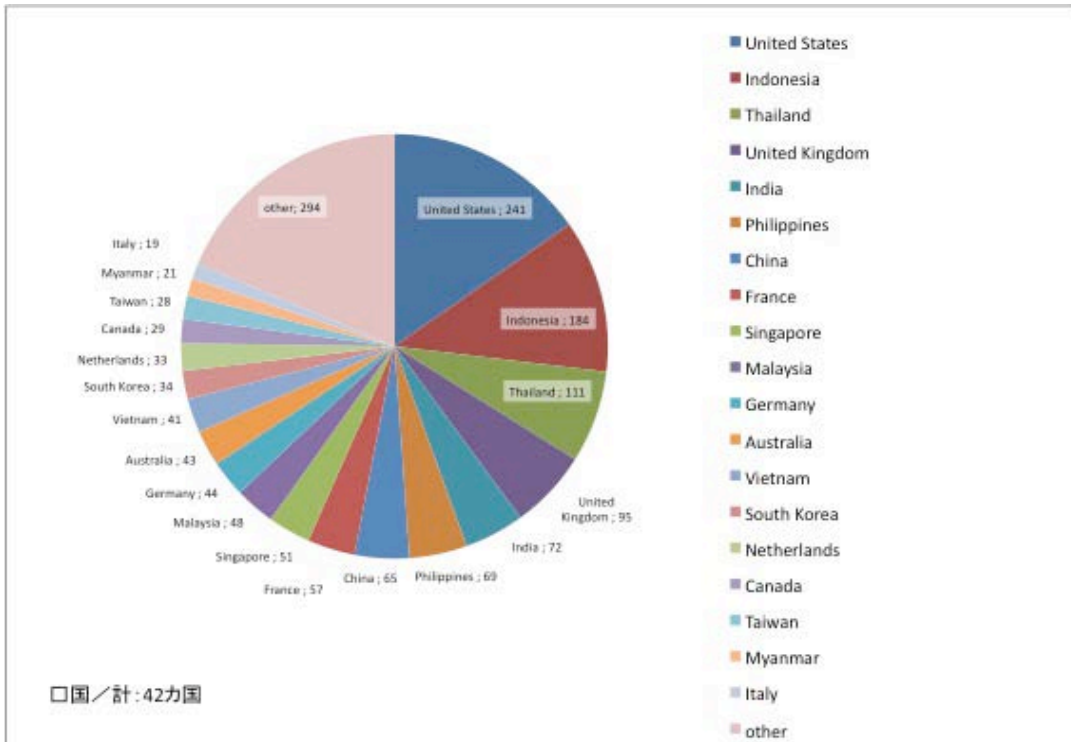


図7：海外からの訪問者（平成19年度）（英語ページ解析）  
（英語サイト解析）

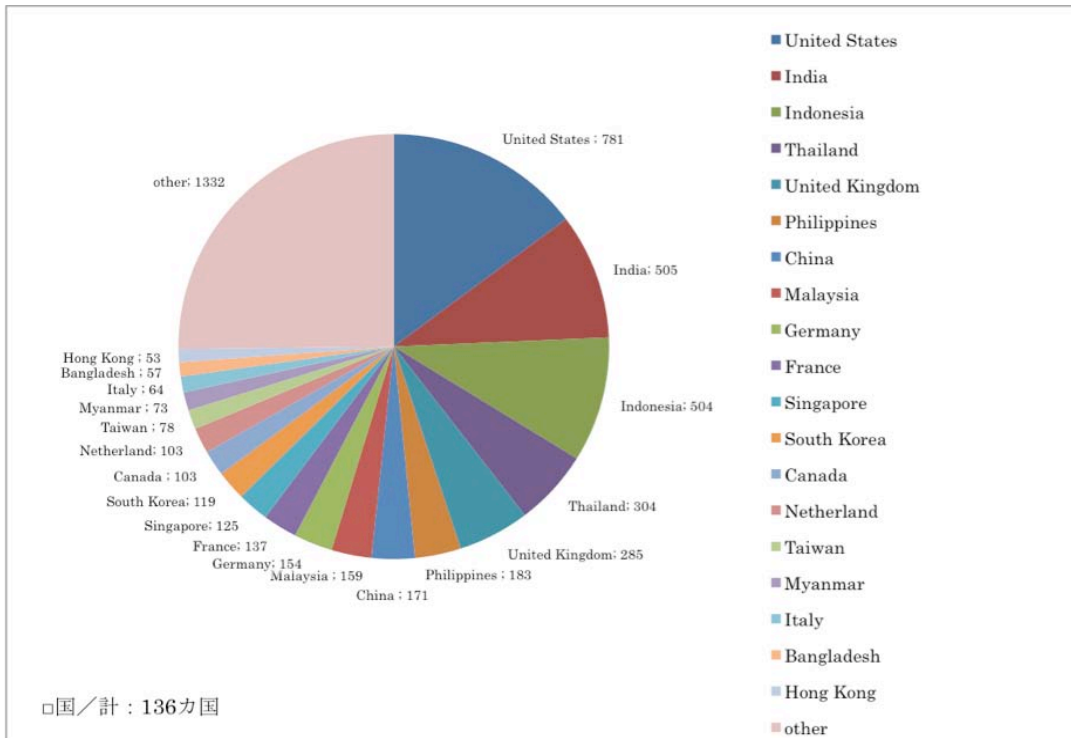


図8：海外からの訪問者解析（平成19～21年度）（英語ページ解析）  
（英語サイト解析）

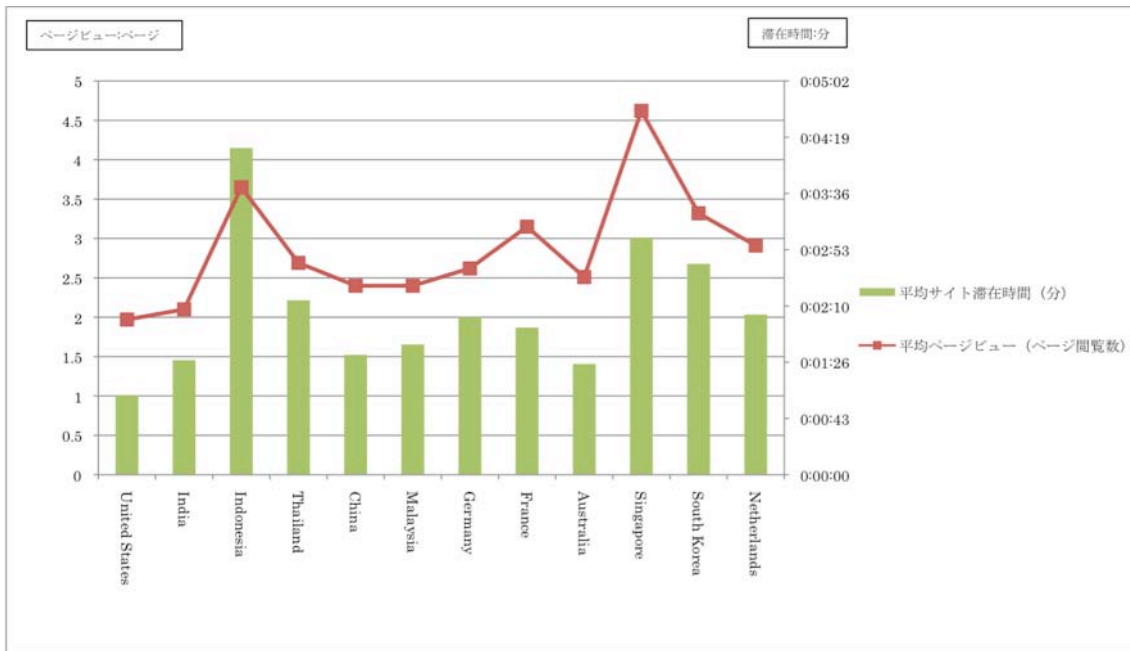


図9：海外からの閲覧状況（上位セッションを表示）（英語ページ解析）

#### まとめ

本年度も HP 運営体制のもと、日々円滑に HP コンテンツ作成がすすめられてきた。

その成果として公開されたページ数は、日・英ページ合わせて 2,565 ページにのぼり、1年間で約 1,000 ページの掲載がすすめられたことになる。

これは、HP 担当者がコンテンツ情報発信にむけて、各部会との深い連携による情報収集や翻訳などの作業を円滑にすすめられた成果である。

また、HP システム面においても、メンテナンスや HP サービス向上への努力をすすめたことを指摘できる。サーバ移転作業においては、新たにアクセス解析作業がおこなえるよう環境を整えている。

今後も引き続き、利用価値の高い WEB サイトをめざし HP 運営をすすめたい。

#### 7.4 書籍の刊行

「地球圏・生命圏・人間圏 - 持続的な生存基盤を求めて」杉原 薫・川井秀一・河野泰之・田辺明生編著 京都大学学術出版会 2010年3月

「持続型生存基盤パラダイム」の創成をめざした総合的地域研究と先端的科学研究を融合した文理横断型の研究活動の最初の研究成果として、単行本「地球圏・生命圏・人間圏 - 持続的な生存基盤を求めて」を京都大学学術出版会より刊行した。本事業の中核を成す議論の骨子をまず初期からの二年間の議論を中心に提示している。

産業革命以降、温帯地域の諸国は経済成長に力を注ぎ「先進国」となった。新興国・発展途上国はその恩恵に与れない一方、資源の枯渇や地球温暖化の悪影響を被ることになる。生物多様性や生態系の持続性に鑑み、人類の生存基盤をどう構築すべきか。アジア・アフリカ地域研究の偏った認識枠組を質し、熱帯の生態・環境・社会の理解

に根ざし、生産中心から生存へと転換した新しいパラダイムに向けた議論である。

序章 持続型生存基盤パラダイムとは何か（杉原 薫）

第1編 環境・技術・制度の長期ダイナミクス

第1章 グローバル・ヒストリーと複数発展径路（杉原 薫）

第2章 東アジアモンスーン地域の生存基盤としての持続的農業（田中耕司）

第3章 乾燥オアシス地帯における生存基盤とイスラーム・システムの展開（小杉泰）

第2編 地球圏・生命圏の中核としての熱帯

第4章 地球圏の駆動力としての熱帯（甲山 治）

第5章 生存基盤としての生物多様性（神崎 護・山田明徳）

第6章 水の利用からみた熱帯社会の多様性（河野泰之・孫 暁剛・星川圭介）

第3編 森林からの発信 —バイオマス社会の再構築—

第7章 熱帯林生命圏の創出（川井秀一）

第8章 大規模プランテーションと生物多様性保全 —ランドスケープ管理の可能性—（藤田素子）

第9章 歴史のなかのバイオマス社会 —熱帯流域社会の弾性と位相転移—（石川登）

第10章 産業構造の大転換 —バイオリファイナリーの衝撃—（渡辺隆司）

第4編 人間圏の再構築

第11章 グローバル化時代の地域ネットワークの再編 —遠隔地環境主義の可能性—（清水 展）

第12章 われわれの〈つながり〉 —都市震災を通じた人間圏から生存基盤への再編成—（木村周平）

第13章 生存基盤の思想 —連鎖的生命と行為主体性—（田辺明生）

終章 生存基盤指数からみる世界（佐藤孝宏・和田泰三）

## 8. 基盤整備部会

### 8.1 データベース

I. 本年度は、現在集積されつつあるパラダイム、各イニシアチブ研究の成果を公開、データベース化するためのシステム開発を、広報成果出版部会と共同して行なった。すでに HP 上ではフィールドステーション活動を紹介するために、グーグルマップ機能を援用した地点情報表示システムを公開しているが、同様のシステムを本プログラムの活動の全体に広げる目的で以下の機能開発を行なった。

1. 地点情報入力機能：プロジェクトメンバーが、オンラインで地点情報を入力し、メディアギャラリーに登録されている写真と合わせてグーグルマップ上に表示する機能。これにより、写真により詳しい記載情報やリンクによる他情報との関連付けが可能になった。

GCOEWEBページからポイント情報を追加する

URL [http://www.humanosphere.csees.kyoto-u.ac.jp/en/staticpages/index.php/gmap\\_sample](http://www.humanosphere.csees.kyoto-u.ac.jp/en/staticpages/index.php/gmap_sample)

GCOE英語ページにログイン  
\*<http://www.humanosphere.csees.kyoto-u.ac.jp/en/>  
↓  
管理者メニュー：静的ページ  
↓  
編集するページタイトル左の鉛筆ボタン  
↓  
ページ編集画面が表示される

ポイント作成コードを追加します

例) GCOEサイトのメディアギャラリー画像を使用して、ポイントを作成する場合  
\*メディアギャラリーに画像を先にアップロードしておきます

下記のコードを  
[mapshow]の前に入力します。□は半角スペースです。\*コードの各要素の詳細は、別紙表1を参照

```
[map:point 35.420392,139.150065 title:オーバーレイのテスト  
icon:http://www.humanosphere.csees.kyoto-u.ac.jp/images/library/image/gmap/mm\_20\_red.png  
iconsize:32,32  
iconshadow:http://www.humanosphere.csees.kyoto-u.ac.jp/images/library/image/gmap/mini\_shadow.png  
iconshadowsize:32,32  
<a href="http://www.humanosphere.csees.kyoto-u.ac.jp/mediagallery/media.php?f=0&sort=0&no=20080318111811607">  
  
</a>  
<br>■ Title: 吹き出しの中のタイトル  
<br>  
<a href="http://www.humanosphere.csees.kyoto-u.ac.jp/en/article.php?story=20080214">  
■ Information: Seminar.....  
</a>  
<br>  
<a href="http://www.humanosphere.csees.kyoto-u.ac.jp/staticpages/index.php/efs">  
■ Other Info: EFSHP  
</a>  
<br>  
<br>■ Date Taken: 20100310  
<br>■ Place: Ethiopia  
<br>■ Taken by: KANEKO Morie]
```

Preview: A map overlay showing a photo of a seminar and metadata: Title: 吹き出しの中のタイトル, Information: Seminar, Other Info: EFSHP, Date Taken: 20100310, Place: Ethiopia, Taken by: KANEKO Morie.

図1. 地点情報入力画面

2. オーバーレイ機能：  
メンバーが作成した複数の主題図を、任意にグーグルマップ上でオーバーレイさせ

る機能。これにより、地点情報のより重層的な解析と関連付けが可能となった。

主題図のレイヤー画像を追加

URL: [http://www.humanosphere.cseas.kyoto-u.ac.jp/en/staticpages/index.php/gmap\\_sample](http://www.humanosphere.cseas.kyoto-u.ac.jp/en/staticpages/index.php/gmap_sample)  
 現在こちらの作業は、WEB上で編集のみになります。

マップコードのオーバーレイ部分は、`[maps:overlay<id>]`になります。

[maps:overlay<主題図項目のID(id)>]使用する画像URL(img) 南西の座標(sw) 北東の座標(ne)選択での名称(name)

例) `[maps:overlayjapan3/images/map/N37.5-E137.5.jpg 35,137.5 37.5,140 日本地図(詳細)]`

項目	内容
id	主題図のグループ化と内部名称に利用しますので、英文字のみ
img	オーバーレイ用の画像のURLです。(事前にアップロードしておきます) (アップロード先: <code>html/images/map</code> )
sw	オーバーレイ用画像の地図上での南西位置です
ne	オーバーレイ用画像の地図上での北東位置です
name	地図の下に出るチェックボックスの名称で日本語も可能

図 2. オーバーレイの結果表示画面

### 3. インポート、エクスポート機能：

以上によって蓄積される地点情報を、テキストファイルを経由して異なるデータベース間で共有するための、インポート、エクスポート機能を開発した。これにより、21COE プログラムで構築した地図画像データベース

(<http://areainfo.asafas.kyoto-u.ac.jp/pdb/>) や、『仮想地球』統合データベース

(<http://areainfo.asafas.kyoto-u.ac.jp/ve/>) との情報共有が可能となった。

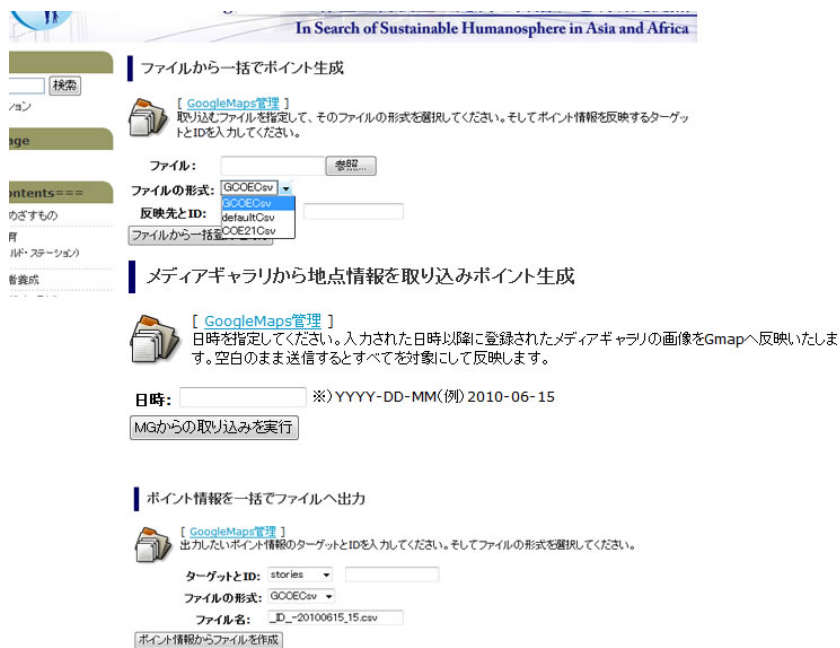


図 3. インポート・エクスポート操作画面

以上の機能追加によって、パラダイム研究会や、各研究イニシアチブの活動、研究成果を集積し公開する活動を、次年度以降継続し、最終年度には、生存基盤データベースとして完成させる予定である。

## II. 生存基盤指数関連データ：

これまでイニシアティブ 1 のサブグループ「生存基盤指数の構築」に関連して購入・収集した各種統計データ 181 点を、基本地図(2)、地球圏関連指標 (32)、生命圏関連指標 (81)、人間圏関連指標 (66) として分類後、GIS ソフトウェア (ArcGIS9.2) を用いて地図化を行い、G-COE ワーキングペーパーNo.87『地球圏・生命圏・人間圏の世界地図 ―生存基盤指数の構築に向けて―』として発行した。

平成 22 年度以降は、「生存基盤指数の構築」に関する研究は、第 2 パラダイム研究会としてグローバル COE 参加メンバー全員による議論が進められていくことになっている。現時点では、上述のワーキングペーパーを適宜参照しながら、生存基盤指数の考察範囲や評価方法に関する議論が進められているが、具体的な評価項目が決定次第、データベース小部会とも連携しながら各種データの整理・加工を進め、Web 上での「持続型生存基盤パラダイム」の発信につなげてゆく予定である。

### Health-adjusted life expectancy at birth. Total 2000

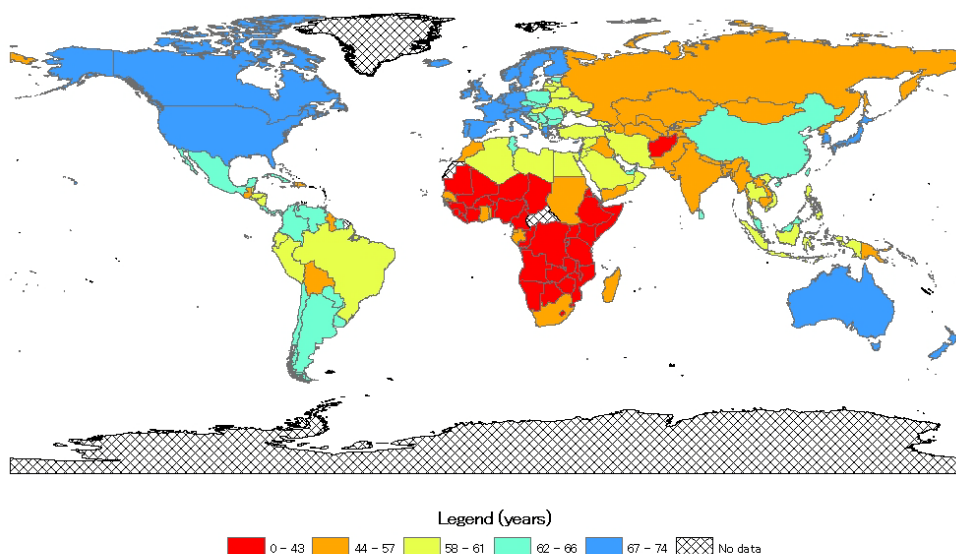


図 4. 生存基盤指数関連のデータ集積例（障害調整健康余命：WHO）

## 8.2 図書

### ① 持続型生存基盤関連図書の整備

各イニシアティブで研究上必要な資料に加え、新たにアジア・アフリカ地域研究研究科に設置されたグローバル地域研究専攻の教育のために必要な資料を生存基盤関連図書として1箇所配架した。平成21年度までに400冊強の書籍を購入した。これらの書籍は、アジア・アフリカ地域研究研究科図書室が購入・整理・貸出し業務を行なっている。

### ② 地域研究関連図書の整備

現地語諸資料を中心とする図書の整備拡充を図るため、平成21年度には、東南アジア関係図書293冊、マイクロフィルム78リール、南アジア関係図書518冊、西アジア図書631冊、雑誌16タイトル、アフリカ関係図書389冊が購入された。これらは各部局の図書室に配架されているが、依然として圧倒的に収納スペースが不足しているのが現状である。

### ③ 書籍登録、分類等

図書予算の約2割を非常勤雇用にあて、書誌情報の入力、図書整理をおこなっている。

### ④ HP公開

図書小部会では、本プログラムのHPに、新着情報、図書リスト、推薦図書などのコンテンツからなる購入図書情報を掲載している。



## 9. 国際アドバイザーボードの活動

### 9.1 国際シンポジウムとの連携

平成20年3月、平成21年3月および平成21年12月に開催した以下の国際集会に連携する形式で、国際アドバイザーミーティングを計4回開催した。国際集会への参加ならびに本プログラム参加者との交流を通して、助言を求めた外国人研究者からより質の高いアドバイスを受けることを目的とした。

**The First International Conference "In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa"** (平成20年3月12日~14日)

**The Second International Conference "Biosphere as a Global Force of Change"** (平成21年3月9日~11日)

**The Third International Conference "Biosphere as a Global Force of Change"** (平成21年12月14日~17日)

### 9.2 国際アドバイザーボードによる外部評価

アドバイザーボードによる本プログラムへの評価や助言は、各イニシアティブやパラダイム研究会のもとでの調査研究活動を、国際的な学的环境に位置づけ、これをより良きものとするために必須である。初年度は、本プログラムのもとで推進されている諸活動を真に利するアドバイザーボード決定のための重要な準備期間として位置づけ、プログラム・リーダーと各イニシアティブの代表がそれぞれの活動に深く関わる海外の一線級の研究者との交信を開始した。このうちの若干名は平成19年3月12日~14日に行われた第一回国際会議に招聘し意見交換を行った。また、平成20年度においては、計二回のアドバイザーミーティングを通して、本プログラムに対する意見の収集を行った。第一回会合は、平成21年2月25日、第二回会合は平成21年3月11日に京都で開催した。プロジェクト三年目になる本年度は、上述の第3回国際会議終了直後の平成21年12月17日に、京都大学稲盛財団記念館において開催した。これまでの会合参加者は以下の通りである。

平成20年

アンガス・マディソン (グローニンゲン大学・教授) 経済史学

ケネス・ポメラント (カリフォルニア大学アーバイン校・教授) 歴史学

パトリック・オブライエン (ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・教授) 歴史学

ルドルフ・デコンニク (モントリオール大学・教授) 地理学

ジェームス・スコット (エール大学・教授) 政治学

アンドリュー・ウォーカー (オーストラリア国立大学・太平洋・アジア研究所・教授) 文化人類学



アルフレッド・クロスビー（テキサス大学オースチン校・教授）歴史学  
デヴィッド・クリスチャン（カリフォルニア大学サンディエゴ校・教授）歴史学  
デヴィッド・ソネンフェルド（ニューヨーク州立大学アルバニー校・教授）社会学  
エンデン・スカラ（インドネシア科学院・研究部長）生態学  
サラ・ベリー（ジョンズホプキンス大学・教授）文化人類学  
ナンディニ・スンダー（デリー大学人類学部・教授）文化人類学  
アナ・ツィン（カリフォルニア大学サンタクルーズ校・教授）文化人類学

#### 平成 21 年

パスック・ポンパイチット（チュラロンコン大学・教授）経済学  
クリス・ベーカー（オックスフォード大学出版会）歴史学  
ビシユア・バラ（ジャムシェドゥプル大学ビジネス・人間資源学部・教授）開発経済学  
ジェームス・ニッカム（東京女学館大学）生態学  
サラ・カズンズ（ストックホルム大学部・准教授）自然地理学  
アンドレ・ファージ（ユトレヒト大学）経済学  
テラス・マクベィ（コロラド大学）文化人類学  
ハロ・マート（ワゲニンゲン大学）エネルギー科学  
ディヴィッド・ピエツ（ワシントン州立大学）歴史学

#### 平成 22 年

サラ・カズンズ（ストックホルム大学部・准教授）自然地理学  
イブン・カークセイ（ピッツバーグ大学）文化人類学  
ヘザー・スワンソン（カリフォルニア大学サンタクルーズ校）文化人類学  
エリック・タグリオゴッツ（コーネル大学）歴史学  
アンナ・ツィン（カリフォルニア大学サンタクルーズ校）文化人類学  
ケネス・ポメラント（カリフォルニア大学アーバイン校）歴史学  
ジェームス・ウォーレン（マードック大学）歴史学  
アンソニー・リード（オーストラリア国立大学）歴史学  
サンガ・ンゴイエ・カザディ（立命館アジア太平洋大学）環境学  
シン・チュウ（フンボルト州立大学）歴史学

平成 22 年度のアドバイザリーミーティングにおいては、以下のような意見が寄せられた。

#### 1. 研究テーマ

・このような多岐にわたる専門分野を統合した学際研究は、他に類を見ないものであり、今後の学際研究の進展に多大な貢献をするものと思われる。

・「Nature of “Nature”」というテーマ設定は、専門分野を超えた会話を促進するのにとても有意義だった。

## 2. 論点・疑問点に対するアプローチ

・人と環境の関わり方について研究するために必要な、自然科学と社会科学の統合に様々な方法があることを学ぶことができ、大変有意義だった。

・前回の会議に比べて、自然科学者の参加が少なかったのではないかな？

## 3. 各イニシアティブにおける研究テーマ・研究活動について

・特定分野での研究を通じて、G-COE 全体の目指すパラダイム形成を図ろうとしている点を評価する。

・活動をより若手主体の体制に移行すべきではないか

## 4. 新進研究者に与える効果について

・大学院学生や若手研究者に、学際研究を行う場を作り出していることは評価するが、個々の専門分野におけるアピールもキャリア形成のためには不可欠である。

## 5. 他の研究組織との連携について

・学際研究を行っている諸外国の研究機関に若手研究者を短期派遣するプログラムを行ってはどうか。

## 6. 「生産から再生産へ」というパラダイムシフトについて

・多様な専門分野を統合するには、非常に重要なパラダイムと思われる。

・興味深い観点だが、自然科学者の立場から見ると表現の曖昧さが気になる。

## 7. 「温帯中心主義から熱帯中心主義へ」というパラダイムシフトについて

・バイオ燃料や排出権取引のような温帯諸国からの需要や決定が、熱帯生態系に大きな影響を与えていることを考えると非常に興味深い。

## 8. その他

・シンポジウム開始前の里山フィールドトリップは、シンポジウムでの議論を活性化するためにも非常に有意義だった。

第4年度以降、国際アドバイザーボードからの意見へのより良いフィードバックの具体化を念頭に、研究成果の国際的発信、臨地調査のための諸研究機関との制度的連携強化、学際研究のグローバル・ネットワーク構築などを、研究活動をさらに発展させてゆく必要がある。

## 10. 平成21年度 主な外部資金一覧

研究費の名称	期間	研究課題等	交付を受けた者	研究等経費総額 (千円)
科研費基盤 (S)	平成17-21年	地域情報学の創出—東南アジアを中心にして—	柴山 守	16,120千円
科研費基盤 (A)	平成21-23年	東南アジアにおける複ゲーム状況の人類学的研究	杉島敬志	43,000千円
科研費基盤 (A)	平成19-21年	アフリカ牧畜社会におけるローカル・プラクティスの復権/活用による開発研究の新地平	太田至	33,600千円
科研費基盤 (A)	平成18-21年	アフリカ熱帯林における人間活動と環境変化の生態史的研究	木村大治	28,700千円
科研費基盤 (A)	平成20-22年	歴史的建造物由来古材の材質評価データベースと海外研究協力ネットワークの構築	川井秀一	27,900千円
科研費基盤 (A)	平成19-22年	産業利用を目的とした遺伝子組換えポプラの野外試験	林 隆久	47,000千円
科研費基盤 (A) 海外	平成21-25年	東南アジア大陸山地林の攪乱動態と山地民の生活環境保全	竹田晋也	5,000千円
科研費基盤 (B)	平成21-24年	社会運動と開発—南アジアの事例を通して	藤倉達郎	2,000千円
科研費基盤 (B)	平成21-23年	「化石資源世界経済」の形成と森林伐採・環境劣化の関係に関する比較的研究	杉原 薫	8,060千円 (間接経費含)
科研費基盤 (B)	平成20-22年	ドバイで働くフィリピン女性のアイデンティティの再編—キリスト教徒とムスリムの比較	細田尚美	690万円
科研費基盤 (B)	平成18-21年	東南アジア大陸部における土地利用変化のメカニズム—フィールドワークとRSの結合—	河野泰之	14,100千円
科研費基盤 (B)	平成20-23年	アフリカ諸語における統語構造と声調	梶 茂樹	3,700千円
科研費基盤 (B)	平成20-23年	ホイッスラーモード相対論加速による放射線帯形成過程の研究	大村 善治	12,950千円
科研費基盤 (B)	平成19-22年	遺伝子組換え樹木：野外試験の海外調査	林 隆久	10,660千円
科研費基盤 (B)	平成21-23年	国境地域における自然資源管理のクロスナショナル・ガバナンス	Wil de Jong	4,300千円
科研費基盤 (B)	平成19-22年	ラオス地方文書とオーラル・ヒストリーの組織的収集・保存体制の構築	増原善之	10,600千円
科研費基盤 (B)	平成20-22年	熱帯雲霧林の林冠内植物の多様性と動態/気候変動モニタリングに向けたサイト構築	神崎 護	3,200千円
科研費基盤 (B) 海外	平成20-22年	熱帯大規模人工林における木材劣化生物の多様性評価と持続的管理	吉村 剛	4,600千円
科研費基盤 (B) 海外	平成20-23年	グローバル化時代の東南アジアにおける地方政治の新展開—首都、エネルギー、国境	岡本正明	12,700千円
科研費基盤 (C)	平成21-23年	地域在住高齢者の抑うつ危険因子とグループワークによる介入効果の縦断的検討	和田泰三	1,000千円
科研費基盤 (C)	平成21-23年	経済的・文化的資源としての民族文化観光の可能性：ケニアの「マサイ」を事例として	中村香子	3,500千円
科研費基盤 (C)	平成19-21年	韓国軍のベトナム戦争参戦の記憶をめぐる韓越比較研究	伊藤正子	1,170千円 (間接経費含)
科研費基盤 (C)	平成21-23年	耐乾性外来樹の拡大と地域水文/経済への影響	佐藤孝宏	1,700千円
科研費基盤 (C)	平成21-23年	非化石資源のみから構成される木質材料の開発	梅村研二	3,400千円

研究費の名称	期間	研究課題等	交付を受けた者	研究等経費総額 (千円)
科研費基盤 (C)	平成21-23年	民主主義の人類学—ヴァナキュラー・デモクラシーの課題と可能性	田辺明生	1560千円
科研費基盤 (C)	平成21-23年	タイ・ミャンマー国境域移動者の生活実践：少数民族の社会ネットワークと文化再生産	速水洋子	3,300千円
科研費若手 (S)	平成19-23年	養育者—子ども間相互行為における責任の文化的形成	高田 明	10,100千円
科研費若手 (A)	平成21-23年	木造建築の部材・接合部の生物劣化を考慮した残存耐力の評価法に関する基礎的研究	森 拓郎	13,340千円
科研費若手 (B)	平成20-21年	英国東インド会社トンキン商館文書を用いた近世ベトナム史の新研究	蓮田隆志	910千円 (間接経費含)
科研費若手 (B)	平成21-24年	カンボジア仏教の再生と変容に関する総合的研究：ヒト・モノ・カネの移動と制度の再編	小林 知	900千円
科研費若手 (B)	平成21-23年	開発実践の福祉効果と住民活動の創造的展開—タンザニアにおける農村開発の事例	黒崎龍悟	1,040千円
科研費若手 (B)	平成21-22年	<核軍縮・不拡散の現実主義>の理論的基盤—再保証のコミットメントに着眼して	佐藤史郎	650千円
科研費若手 (B)	平成19-22年	南部アフリカにおける開発政策と先住民運動にともなう狩猟採集社会の再編に関する研究	丸山淳子	800千円
科研費若手 (B)	平成20-22年	資源を巡る対立・協調の多元性と固有性：東南アジアの事例から	生方史数	2,700千円
科研費若手 (B)	平成20-22年	ミャンマー・カレン村落の焼畑土地利用履歴と森林生態系の長期的変遷に関する研究	鈴木玲治	3,200千円
科研費若手 (B)	平成21-23年	トルコ地方小都市、世俗主義とイスラームのはざまの<社会>：震災復興の経験から	木村周平	3,400千円
科研費萌芽研究	平成19-21年	ベトナム紅河デルタにおける可変的社会制度の村落間比較研究	柳澤雅之	600千円
科研費、新学術領域研究 (研究課題提案型)	平成21-23年	泥炭湿地における大規模植林が水・熱循環および周辺環境に与える影響評価手法の構築	甲山 治	18,070千円
科研費 研究成果公開促進費	平成21年	森棲みの生態誌	木村大治	2,400千円
京都大学若手スタートアップ研究費	平成20-21年	地域在住高齢者の抑うつ危険因子とグループワークによる介入効果の縦断的検討	和田泰三	260千円
組織的な若手研究者等海外派遣プログラム	平成22年3月1日-平成25年2月28日	地域と世界を架橋する東南アジア研究の展開を目指す若手研究者海外派遣	河野泰之	65,800千円
京都大学地域研究統合情報センター共同利用研究 (萌芽研究)	平成21年	グローバル経済下の生産・生存・環境	生方史数	500千円
三井物産環境基金	平成21-23年	森林の水循環における諸機能を流域管理計画に導入する戦略に関する研究	谷 誠	34,510千円
財団法人トステム建材産業振興財団第17回助成	平成20-21年	スギ材の大気浄化機能の基礎応用開発	川井秀一	2,000千円
パナソニック電工(株)	平成21年	高強度植物繊維を用いた複合材料の開発	川井秀一	2,700千円
財団法人海堀奨学会奨学金	平成20-22年	熱帯造林木の持続的な生産・利用と環境貢献	川井秀一	7,500千円

研究費の名称	期間	研究課題等	交付を受けた者	研究等経費総額 (千円)
宇宙利用促進経費	平成21-24年	偏波合成開口レーダデータを用いた大規模植林地のマイクロ波散乱メカニズムの解明とバイオマス推定手法の開発	大村善治	3,611千円
新エネルギー技術研究開発 NEDO先導技術開発	平成20-21年	糖化され易い熱帯早生樹の研究開発	林 隆久	19,952千円
生存基盤科学研究ユニットサイト研究	平成21年	湖水及び流水圏におけるバイオマス評価と利用	林 隆久	6,700千円
独立行政法人森林総合研究所	平成21-23年	地域住民による生態資源の持続的利用を通じた湿地林保全手法に関する研究	竹田晋也	5,667千円
JICA草の根支援事業	平成20-22年	コクタイン合作社の市場化対応 「capacity building」プロジェクト - ベトナム紅河デルタの「村おこし」モデルの形成	日本ベトナム研究者会議	4,650千円
生存基盤科学研究ユニットサイト型機動研究	平成21年	在地と都市がつくる循環型社会再生のための実践型地域研究	水野広祐	17,000千円
財団法人住友財団環境研究助成	平成20-21年 5月	人口増加に伴う樹木利用の精緻化とその定量的評価：セネガル共和国セレーン社会の事例	平井將公	1,800千円
財団法人日本科学協会笹川研究助成	平成21年	共有資源の持続化に果たす生態的実践の役割：西アフリカ・サバンナ帯セレーン社会の事例	平井將公	750千円
(独) 科学技術振興機構産学連携事業本部「シーズ発掘試験」	平成21年	衛星ビーコン・デジタル受信機の自律観測システム開発	山本 衛	2,000千円
寄付金	平成21年	地域情報学における学術研究の展開	柴山 守	686千円

## 11. 自己点検評価委員会

自己点検評価委員会は、平成21年度自己点検評価報告書の原案を同委員会に一任・作成することを、第28回運営委員会（2010年3月）において提案し、承認された。昨年度の様式を基本に原案を提示し、その後、報告書案の目次と分担にしたがって執筆を依頼し、部会および委員会からの原稿を取りまとめた。原稿取りまとめと編集にあたっては、本委員会委員のほか、事務局の協力を得た。

報告書の様式、目次案と分担を参考に記載する。

グローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」

### 平成21年度自己点検報告書（案）

自己点検委員会 川井、佐藤、西

書式：A4，上下左右マージン 30mm、

MS明朝 11ポイント、40字／行、40行／頁

原稿締切：5月31日事務局宛提出

5月上旬、事務局より前年度原稿に加筆訂正した粗案を担当者宛送付します

6月委員会で整理・取りまとめ、7月印刷・配布

刷り上がり：約70ページ（予定）

印刷部数：200部（配布先を確認のうえ、最終決定）

目次と分担、分担ページ（目安）

1. はじめに（杉原） 1p
2. プログラムの目標と進捗（杉原） 2p
  - パラダイムの形成
  - 成果の発信
  - 教育・人材育成
  - 世界拠点の形成
3. 組織・運営体制（河野） 3p
  - 3.1. 運営体制と教育研究プログラム
  - 3.2. 委員会・部会組織と人員配置
  - 3.3. 事務局体制の整備
  - 3.4. 情報基盤の整備
  - 3.5. 平成21年度予算と配分状況
4. 運営委員会の活動（事務局） 5p
  - 4.1 概要
  - 4.2 特定助教（グローバルCOE）、特定研究員（グローバルCOE）および研究員（時間雇用）の採用
5. 人材育成センターの活動（小杉、伊谷、清水） 15p
  - 5.1 大学院教育部会

5.1.1 新専攻「グローバル地域研究」、持続型生存基盤コースの現況について

5.1.2 TA・RA プログラム

5.1.3 フィールドステーションを活用した若手研究者の育成

5.2 若手養成・研究部会

5.2.1 G-COE 助教・研究員の活動

5.2.2 次世代研究イニシアティブ・研究助成の交付

5.2.3 研究会・シンポジウム等の開催

5.2.4 生存圏科学国際スクールへの若手部会メンバーの派遣

5.2.5 G-COE 国際シンポジウムでの発表

5.3 海外派遣助成

5.4 アジア・アフリカ人材育成

6. 研究イニシアティブ 15p

6.1 パラダイム研究会（杉原）

6.2 研究イニシアティブ 1（藤田）

6.3 研究イニシアティブ 2（柳沢）

6.4 研究イニシアティブ 3（林）

6.5 研究イニシアティブ 4（田辺）

6.6 図書資料ユニット（東長）

7. 広報・成果出版部会（速水・林） 20p

7.1 研究成果発信

7.2 ニュースレター

7.3 ウェブページ

7.4 書籍の刊行

8. 拠点基盤整備部会（荒木） 5p

8.1 データベース

8.2 図書（東長）

9. 国際アドバイザーボード部会（石川） 1p

9.1 国際シンポジウムとの連携

9.2 国際アドバイザーボードによる外部評価

10. 自己点検評価委員会（川井） 1p

11. おわりにー今後の展望ー（川井） 1p

Appendix 1. G-COE ワーキングペーパー リスト(2010年3月現在)

Appendix 2. G-COE 20年度業績リスト

(1) 論文

(2) 著書

(3) 講演、発表

(4) G-COE 関連国際会議の成果としてのプロシーディングス等出版物

(5) その他文章、および社会貢献

- (6) 受賞
- (7) 学位論文
- (8) 特許

注) 各項目の内容は提案で決まったものではありません。必要に応じて追加訂正ください、また、ページは目安、参照程度に考えてください。

#### サンプル

### 1. はじめに (タイトル:ゴチック)

(1行空け)

今回は、農業発展径路に焦点をあてます。農耕の開始により人類は、人口支持力の増大、さまざまな・・・・



## 12. おわりに—今後の展望—

アジア・アフリカの地域研究に携わる研究者と、先端技術の開発に関わる科学者との学問的対話を促進するために、「持続型生存基盤パラダイム」という新しい考え方を提案し、地球温暖化のアジア・アフリカの地域社会への影響といった緊急の課題に答えるべく、ローカルな、あるいはリージョナルな持続的発展径路を追究することを目標として発足した本プログラムの21年度の活動を点検し、若干の評価と今後の展望について記す。

第一は研究分野横断型の研究推進についてである。平成21年度にはパラダイム研究会を11回、国際シンポジウム・セミナーを13回、その他、イニシアティブ研究会・ワークショップを多数主催・共催し、研究成果の国際的な発信を積極的に推進した。また、その成果を速報として公開するワーキングペーパー14冊を刊行した。上記国際シンポジウム”The Third International Conference "Biosphere as a Global Force of Change"開催時のアドバイザリーミーティングにおいて、G-COE全体の目指すパラダイム形成、「生産から再生産へ」というパラダイムシフト、ならびに自然科学と社会科学の統合手法に高い評価が与えられた。

同時に、4つの研究イニシアティブとそれらを総括するパラダイム研究会の活動も活発に展開することができた。これらを通じて見出された知見は次の二点にまとめられる。その第一は、人間と（自然・生態）環境の関係を、これまでのように人間（開発）の側からだけ、あるいは自然環境の維持の立場だけから考えるのではなく、両者の相互関係を考慮した上で、人類の「生存基盤」をどのように持続させていくかという視点が重要だということである。われわれは、そうした視点を確立するために、グローバル・ヒストリーを書き直したり、人間開発指数に代わる「生存基盤指数」の開発を試みたり、生命を連鎖体として見る在来の「生存基盤の思想」を読み解いたりした。第二は、人間と環境との関係を二項対立的に捉えるのではなく、「地球圏」、「生命圏」、「人間圏」という、長い歴史と固有の運動の論理をもった三つの圏が交錯して成立する「生存圏」として捉えることによって、これまで注目されていなかったさまざまな領域の問題を可視化し、総合化する試みである。

これら作業の中間的な成果を、「生産から生存へ」、「地表から生存圏へ」、そして「温帯から熱帯へ」の3つの視点を柱としてとりまとめ、単行本『地球圏・生命圏・人間圏 - 持続的な生存基盤を求めて』（京都大学学術出版会）を刊行した。次年度は、これらの知見をさらに練り上げ、国際学術誌への発表を活発化するとともに、英文図書としてとりまとめ世界の公論形成への貢献を目指す。その他の成果出版物として既存のKyoto Working Paper Series on Area Studies に、G-COE Series を設け、年度内に10号出版した。既刊のもの合わせて出版号数は87号となった。

第二は大学院教育の制度整備についてである。大学院アジア・アフリカ地域研究研究科（ASAFAS）に持続型生存基盤研究講座を設置する方向で制度改革の努力を進めてきた。新しいパラダイムのもとでの人材育成を制度化するため、ASAFAS と人材育成センターの緊密な連携のもとに、協力部局の全面的なサポートを得て、当初計画の

「持続型生存基盤コース」よりもさらに本格的な講座設置を推進し、平成21年4月より大学院アジア・アフリカ地域研究研究科にグローバル地域研究専攻を新設した。新専攻に設置される持続型生存基盤論講座に新規で教授2名を採用する。本講座は、「持続型生存基盤研究の方法」や「国際環境医学論」、「熱帯乾燥域生存基盤論」、「熱帯森林資源論」、「人間環境関係論」、「生存圏科学論」等の科目を提供し、本プログラム終了後の教育・人材育成の中核を担う予定である。

第三は、大学院生・若手研究者に対する支援体制についてである。平成21年度においては、大学院生を対象としたフィールド・ステーション派遣、海外観測拠点派遣支援や論文投稿料支援、若手研究者を対象とした次世代研究イニシアティブ助成や海外派遣助成を実施した。これにより、大学院生の研究活動を当初計画通りに活性化することができた。また平成20年度に、アジア・アフリカ諸国の優秀な若手研究者を本拠点に招へいし、最先端の研究現場での議論への参加を促進する若手研究者交流を実施したことを受け、平成21年4月からは、アジア・アフリカ諸国の優秀な修士号取得者を対象として、京都大学への編入により博士号の取得を支援するプログラムを開始した。

以上のように、共同研究によるパラダイム形成と人材育成のための制度改革を両輪とする本プログラムの構想は着実に進展している。平成21年度には『グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点中間評価』を受け、その結果、本拠点は【特に優れている拠点】に選ばれた。

グローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」を開始して3年が経過した。次年度以降においては、これまでの各種研究会や国際会議での議論などを通じて蓄積されてきた「持続型生存基盤パラダイム」の関する知見を、各研究イニシアティブの代表者から発信するとともに、プロジェクト終了までの残り2年間を見据えた方向性を具体的に提示し、プロジェクト全体の今後の研究活動を幅広く議論する場としたい。さらに、「第2パラダイム研究会」を新たに設置し、生活機能評価の視点から生存基盤指数の構築に向けた研究活動を開始すると共に、最終成果を目指して「持続型生存基盤論講座(全5巻および別巻)」の刊行を企画・推進したい。

拠点リーダー  
自己点検評価委員会委員長  
事務局長

杉原 薫  
川井秀一  
河野泰之

## G-COE 平成 21 年度業績リスト

1. 論文	
篠原真蒙	<p>Kensuke Takahashi, Jin-Ping Ao, Yusuke Ikawa, Cheng-Yu Hu, Hiroji Kawai, Naoki Shinohara, Naoki Niwa, and Yasuo Ohno, "GaN Schottky Diodes for Microwave Power Rectification", Japanese Journal of Applied Physics (JJAP), Vol.48, No.4, 2009, pp.04C095-1 - 04C095-4</p> <p>Blgovest Shishkov, Kozo Hashimoto, Hiroshi Matsumoto, Naoki Shinohara and Tomohiko Mitani, "Direction Finding Estimators of Cyclostationary Signals in Army Processing for Microwave Power Transmission", Pilska Stud. Math. Bulgar., Vol.19, 2009, pp.245-268</p> <p>Taro Sonobe, Tomohiko Mitani, Naoki Shinohara, Kan Hachiya, Susumu Yoshikawa, "Plasma Emission and Surface Reduction of Titanium-Dioxides by Microwave Irradiation", Japanese Journal of Applied Physics (JJAP), Vol. 48 No. 11, 2009, pp.116003-1 - 116003-7</p>
田中雅一	<p>田中雅一 2009 「スリランカの民族紛争——その宗教的位相」『現代宗教』2009, 165-182 ページ</p> <p>田中雅一 2009 「エイジェントは誘惑する——社会・集団をめぐる闘争モデル批判の試み」河合吏編『集団——人類社会の進化』京都大学学術出版会, 275-292 ページ</p> <p>田中雅一 2009 「戦後日本の米兵と日本人売春婦——もうひとつのグローバルゼーション」『Globalization, Localization, and Japanese Studies in the Asia-Pacific Region Volume 2 (国際日本文化研究センター)』pp.27-35</p>
藤井千晶	<p>Fujii, Chiaki, "Ritual Activities of Tariqas in Zanzibar" African Study Monographs, Kyoto University, No. 41, pp. 91-100, 2010.</p>
平松亜衣子	<p>平松亜衣子 2009 年クウェイト国民議会総選挙 『中東研究』第 506 号 2009</p>
木村大治	<p>Lingomo B. and D. Kimura 2009 "Taboo of eating bonobo among the Bongando people in the Wamba region, Democratic Republic of Congo" African Study Monographs 30-4 pp.209-225.</p> <p>木村大治, 安岡宏和, 古市剛史 2010 「コンゴ民主共和国・ワンバにおけるタンパンバ質獲得活動の変遷」『森棲みの生態誌 —アフリカ熱帯林の人・自然・歴史 I』木村大治, 北西功一編 pp.333-351 京都大学学術出版会</p> <p>木村大治 2010 「農耕民と狩猟採集民における相互行為研究」『森棲みの社会誌 —アフリカ熱帯林の人・自然・歴史 II』木村大治, 北西功一編 pp.67-73 京都大学学術出版会</p> <p>木村大治 2010 「バカ・ピグミーは日常会話を語っているか」『森棲みの社会誌 —アフリカ熱帯林の人・自然・歴史 III』木村大治, 北西功一編 pp.239-261 京都大学学術出版会</p> <p>木村大治 2010 「インタラクションと双対図式」(木村大治, 中村美知夫, 高梨克也 編) 『インタラクションの境界と接続 —サル・人・会話研究から』pp.3-18 昭和堂</p> <p>木村大治 2010 「Co-act」『切断』—バカ・ピグミーとボンガンドにおける行為接続(木村大治, 中村美知夫, 高梨克也 編) 『インタラクションの境界と接続 —サル・人・会話研究から』pp.231-252 昭和堂</p>
吉村 剛	<p>鈴木養樹, 大村和香子, 吉村 剛: シロアリ口器の力学的性質—強度と咬合力測定の実験—, 材料, 58(5), 424-429 (2009).</p> <p>Aya Toyumi, Sakae Horiwara, Tsuyoshi Yoshimura, Shuichi Doi and Yuji Imamura: The effect of different foundation systems on the fungal flora in the crawl space of a new wooden Japanese house. Building and Environment, 45, 1054-1060 (2010).</p> <p>Kazushi Nakai, Tomohiko Mitani, Tsuyoshi Yoshimura, Kunito Tsunoda and Yuji Imamura: Effects of microwave irradiation on the drywood termite <i>Incisitermes minor</i> (Hagen). Jpn. J. Environ. Entomol. Zool., 20(4), 179-184 (2009).</p> <p>Niken Subekti and Tsuyoshi Yoshimura: α-amylase activities of <i>Sdaliwa</i> from three subterranean termites: <i>Macrotermes formosus</i> Shiraki and <i>Reticulitermes speratus</i> (Kolbe). Jpn. J. Environ. Entomol. Zool., 20(4), 191-194 (2009).</p> <p>吉村 剛, エリアア・インドラヤニ: アフリカカンザインアリの基礎知識と総合防除に向けた取り組み, 環境管理技術, 27(2), 10-20 (2009).</p> <p>古川法子, 吉村 剛, 今村祐嗣: ヒラタケイムシ類による家屋被害調査, 木材保存, 35(6), 260-264 (2009).</p> <p>吉村 剛, 川口聖真, 青柳秀紀: シロアリとエネルギー, 環境昆虫, 20(4), 153-164 (2009).</p>
木村周平	<p>木村周平 2010 「ナステナブルな文化資源としての記憶? : トルコにおける地震の記憶から」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 156 集, pp.39-56.</p> <p>阪本真由美, 木村周平, 松多信尚, 松岡格, 矢守克也 2009 「地震の記憶とその語り継ぎに関する国際比較研究: トルコ・台湾・インドネシアの地域間比較から」『京都大学防災研究所年報』第 52 号 B, pp.181-194.</p>

増原善之	増原善之, 2009, 「ラオス・ランサン王国行政文書から見た地方統治制度についてー地方国・アン・ソーンイ(現フアベン県ピエンサイ郡)の事例からー」, 平松幸三編『研究報告書(CD版)平成17-20年度科学研究費補助金基盤研究(A)課題番号 17201048「ヤンゴンーハノイ」トランセクトにおける生態環境の履歴(代表者:平松幸三)』.
藤岡悠一郎	Yuichiro Fujioka 2010 "Changes in natural resource use among Owambo agro-pastoralists of north-central Namibia resulting from the enclosure of local frontier". <i>African Study Monographs Supplementary Issue</i> , 40: 129-154.
白石壮一郎	白石壮一郎 (2009) 「序論ー生活資源へのローカル・ガバナンス」, 白石壮一郎編『アフリカ地域社会における資源管理とガバナンスの再編ー住民の生計戦略をめぐる協働とコンフリクト』, <i>Kyoto Working Papers on Area Studies</i> , No.84. 京都大学東南アジア研究所, pp.1-7.
高田 明	Takada, A. (2010). Changes in Developmental Trends of Caregiver-Child Interactions among the San: Evidence from the !Xun of Northern Namibia. <i>African Study Monographs, Supplementary Issue</i> , 40, 155-177.  Takada, A. (2008). Recapturing space: Production of inter-subjectivity among the Central Kalahari San. In A. Irving, A. Sen, & N. Rapport (Eds.), <i>Journeys: The International Journal of Travel and Travel Writing</i> , 9(2), Senses of spatial equilibrium and the journey: Confounded, decomposed, recomposed. New York: Berghahn Journals (pp.114-137).
生方史教	高田 明 (2010). 相互行為を変えるブラダマティックな制約:セントラル・ガハラ・サンにおける模倣活動の連鎖組織. 木村大治・中村美知夫・高梨克也(編), <i>インダクシヨンの境界と接続: サル・人・会話研究から</i> , 京都: 昭和堂, pp.358-377.  Ubukata, F. Jun. 2009. "Science as a Decontextualization: Contested Rationalities on 'Eucalyptus Debate' in Thailand." In <i>Proceedings for the First KASEAS/CSEAS Interdependency of Korea, Japan and Southeast Asia: the Migration, Investment, and Cultural Flow</i> , pp.21-36.  Ubukata, F. Sep. 2009. "Formal/Informal Gap as a Factor in 'Green' Environmental Issues," In <i>Conference Papers, "International Environmental Treaties: their Role, their Possibilities, their Risks and Limitations,"</i> Nanzan University Institute for Social Ethics, pp.97-107.  生方史教 2010年3月 研究レポート:変化を読む 2「コモンズにみる『見える手』」 <i>SEEDer</i> 2. 74-78.  市川昌弘, 生方史教, 内藤大輔 2010年3月 「森林管理制度の歴史的展開と地域住民」市川昌弘, 生方史教, 内藤大輔編 2010『熱帯アジアの人々と森林管理制度:現場からのガバナンス論』人文書院 7-22.  生方史教 2010年3月 「コミュニティ林政策と要求のせめぎあい:タイの事例から」市川昌弘, 生方史教, 内藤大輔編 2010『熱帯アジアの人々と森林管理制度:現場からのガバナンス論』人文書院 109-127.  生方史教, 市川昌弘, 内藤大輔 2010年3月 「ローカル・ナショナル・グローバルをつなぐ」市川昌弘, 生方史教, 内藤大輔編 2010『熱帯アジアの人々と森林管理制度:現場からのガバナンス論』人文書院 243-261.
和田泰三	Hirosaki M, Ishimoto Y, Kasahara Y, Konno A, Kimura Y, Fukutomi E, Chen WL, Nakatsuka M, Fujisawa M, Ishine M, Okumiy K, Otsuka K, Wada T, Matsubayashi K. Self-rated health and comprehensive geriatric functions in community-living elderly in Japan. <i>J Am Geriatr Soc</i> :58(1):207-209.  2010  Matsubayashi K, Wada T, Ishine M, Sakamoto R, Okumiy K, Otsuka K, Moods disorders in the community-dwelling elderly in Asia. <i>J Am Geriatr Soc</i> :58(1):213-214.2010  Wada T, Ishimoto Y, Hiroasaki M, Konno A, Kasahara Y, Kimura Y, Nakatsuka H, Sakamoto R, Ishine M, Okumiy K, Fujisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K. Twenty-one-item Fall Risk Index Predicts Falls in Community-dwelling Japanese Elderly. <i>J Am Geriatr Soc</i> :57(12):2369-71.2009  Hirosaki M, Ishimoto Y, Kasahara Y, Kimura Y, Konno A, Sakamoto R, Nakatsuka M, Ishine M, Wada T, Okumiy K, Fujisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K. Community-dwelling elderly Japanese people with hobbies are healthier than those lacking hobbies. <i>J Am Geriatr Soc</i> :57(6):1132-3.2009  Ishimoto Y, Wada T, Hiroasaki M, Kasahara Y, Kimura Y, Konno A, Nakatsuka M, Sakamoto R, Ishine M, Okumiy K, Fujisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K. Age and sex significantly influence fall risk in community-dwelling elderly people in Japan. <i>J Am Geriatr Soc</i> :57(5):930-2.2009  Kimura Y, Wada T, Ishine M, Ishimoto Y, Kasahara Y, Konno A, Nakatsuka M, Sakamoto R, Okumiy K, Fujisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K. Food diversity is closely associated with activities of daily living, depression, and quality of life in community-dwelling elderly people. <i>J Am Geriatr Soc</i> :57(5):922-4.2009  松林公蔵, 和田泰三. 特集:高齢者のうつ病をめぐって 各論 地域在住高齢者の抑うつ-フィールド医学の視点から-, <i>Geriatric Medicine</i> 47(11):1453-1456. 2009

和田泰三	和田泰三, 奥宮清人, 松林公蔵: ガイドライン 介護予防ガイドライン, 理学療法ジャーナル 43 (9) 819-826, 2009
和田泰三	和田泰三, 松林公蔵: 転倒危険者の早期発見から予防まで 最新のエビデンスから マタボリックシンドロームは転倒の危険因子か? <i>Geriatric Medicine</i> 47 (6) 707-709, 2009
河野泰之	河野泰之, 2009. 「ベトナムマップ作成と情報の地図化—地域研究のための GIS」, 水島司, 柴山守編『地域研究のための GIS』, pp. 11-17, 東京: 古今書院.
河野泰之, 宮川修一, 渡辺一生	河野泰之, 宮川修一, 渡辺一生. 2009. 「1つの村の水稲収量図から社会の変化を読み取る—東南アジアの農業発展—」, 水島司, 柴山守編『地域研究のための GIS』, pp. 81-93, 東京: 古今書院.
河野泰之, 2009.	河野泰之, 2009. 「半乾燥地域の稲作」, 春山成子, 藤巻正巳, 野間晴雄編『朝倉世界地理講座3 東南アジア』, pp. 167-179, 東京: 朝倉書店.
Leisz, S. J., Kono, Y., Fox, J., Yanagisawa, M. and Rambo, A. T. 2009.	Leisz, S. J., Kono, Y., Fox, J., Yanagisawa, M. and Rambo, A. T. 2009. Land use changes in the uplands of Southeast Asia: Proximate and distant causes, <i>Southeast Asian Studies</i> 47(3), pp. 237-243.
Dao Minh Truong, Kono, Y., Yanagisawa, M. and Leisz, S. J. and Kobayashi, S. 2009.	Dao Minh Truong, Kono, Y., Yanagisawa, M. and Leisz, S. J. and Kobayashi, S. 2009. Linkages of forest policies and programs with land cover and land use changes in the Northern mountain region of Vietnam: A Village-level case study, <i>Southeast Asian Studies</i> 47(3), pp. 244-262.
Saphangthong, T. and Kono, Y. 2009.	Saphangthong, T. and Kono, Y. 2009. Continuity and discontinuity in land use changes: A case study in Northern Lao villages, <i>Southeast Asian Studies</i> 47(3), pp. 263-286.
Kono, Y., Badenoch, N., Tomita, S., Douangsavanh, L. and Nonaka, K. 2010.	Kono, Y., Badenoch, N., Tomita, S., Douangsavanh, L. and Nonaka, K. 2010. Agency, opportunity and risk: Commercialization and human-nature relationships in Laos, <i>Southeast Asian Studies</i> 47(4), pp. 365-373.
河野泰之, 孫晴剛, 星川圭介. 2010.	河野泰之, 孫晴剛, 星川圭介. 2010. 「水の利用から見た熟耕社会の多様性」, 杉原薫他編『地球圏・生命圏・人間圏—持続型生存基盤とは何か—』, pp. 185-209, 京都: 京都大学学術出版会.
渡辺一生, 河野泰之, 宮川修一, 舟橋和雄, 星川和俊. 2009.	渡辺一生, 河野泰之, 宮川修一, 舟橋和雄, 星川和俊. 2009. タイ国東北部・ドンデン村におけるコマ自給構造の変化—約 30 年間に渡るコマ収量調査に基づく時空間データベースの構築—, 『熱帯農業研究』Vol.2, Extra issue 1, pp.77-78.
渡辺一生, 河野泰之, 舟橋和夫, 宮川修一, 星川和俊. 2009.	渡辺一生, 河野泰之, 舟橋和夫, 宮川修一, 星川和俊. 2009. タイ国東北部天田集落における過去 20 年間の水田耕作の変遷—農社統合 GIS データベースを用いた世帯レベルでの把握—, 『システム農学会誌』25 (別 2), pp. 29-30.
河野泰之. 2009.	河野泰之. 2009. 「水資源問題への地域研究からのアプローチ」, 『SEEDer』, pp. 60-61.
青山卓史	Aoyama, T. (2009) Phospholipid signaling in root hair development. in "Root Hairs, Excellent Tools for the Study of Plant Molecular Cell Biology" (eds., Emons, A.M.C. and Katselar, T. Springer, Berlin Heidelberg New York) pp171-189.
Taniguchi, Y.Y., Taniguchi, M., Tsuge, T., Oka, A., and Aoyama, T. (2010)	Taniguchi, Y.Y., Taniguchi, M., Tsuge, T., Oka, A., and Aoyama, T. (2010) Involvement of <i>Arabidopsis thaliana</i> phospholipase D2 in root hydrotropism through the suppression of root gravitropism. <i>Planta</i> 231:491-497.
草野博彰, 青山卓史	草野博彰, 青山卓史 根毛形成における極性の確立・維持機構: リン脂質シグナルに焦点を当てて「蛋白質・核酸・酵素」54: 649-655.2009.
伊藤正子	伊藤正子 2009 「ベトナムの「民族法」の行方—「伝統文化」の保護から少数民族管理へ—」『東南アジア—歴史と文化—』(東南アジア学会)No.38.
伊藤正子	伊藤正子 2009 「先住民を認めることができないうベトナム」『人権と部落問題』特集, 先住民の権利宣言, No.782.
山越 言	Hockings KJ, Yamakoshi G, Kabasawa A, Matsuzawa T. (2009) Attacks on Local Persons by Chimpanzees in Bossou, Republic of Guinea: Long-term Perspectives. <i>American Journal of Primatology</i> 71: 1-10.
山越 言 (2009)	山越 言 (2009) 「ギニア南部森林地域における村落林の生態史—ドーナツ状森林の機能と成因」池谷和信編『地球環境史からの問い』岩波書店, 東京, pp.208-16.
山越 言 (2009)	山越 言 (2009) 「野生動物とともに暮らす知恵: 西アフリカ農村の動物観とチンパンジー保全」『ヒトと動物の関係学会誌』23: 22-26.
杉原 薫	Sugihara, Kaoru "The European Miracle and the East Asian Miracle: Towards a New Global Economic History", in Kenneth Pomeranz ed., <i>The Pacific in the Age of Early Industrialization</i> , Ashgate, Farnham, 2009, pp.1-22. (1996 年論文のリプリント)
Sugihara, Kaoru	"The East Asia—Middle East—US/Europe Oil Triangle: Seeing Patterns of Trade and the Growth of the World Economy", <i>Middle East Institute Viewpoints: The 1979 Oil Shock: Lessons, Linkages, and Lasting Reverberations</i> , <a href="http://www.mei.edu">http://www.mei.edu</a> , August 2009, pp. 60-63.
Sugihara, Kaoru	"The Resurgence of Intra-Asian Trade, 1800-1850", in Giorgio Riello and Tirthankar Roy eds (with collaboration of Om Prakash and Kaoru Sugihara), <i>How India Clothed the World: The World of South Asian Textiles, 1500-1850</i> , Brill, Leiden, 2009, pp. 139-69.
杉原 薫	杉原 薫 「生産と生存」『叢』39 号、小特集「追悼杉原四郎」、241-43 頁。

杉原 薫	杉原 薫 「19世紀前半のアジア交易圏—統計的考察—」藤村孝平・籠谷直人編『帝国とアジア・ネットワーク—19世紀—』世界思想社、2009年11月、250-81頁。 杉原 薫 「共有」をグローバル・ヒストリーから見ると「経済における二重秩序の研究のために」三谷博・並木順寿・月脚達彦編『大人のための近現代史 19世紀編』東京大学出版会、2009年10月、17-18、130-31、283頁。「最晩年の杉原四郎」『河上肇記念會報』95号、2010年1月25日、51-52頁。 杉原 薫 「歴史的遺産を知るための基本文献」『講座・日本経営史』(全6巻、ミネルヴァ書房)、推稿文、2010年1月。 杉原 薫 「フランクフルト/オリエント—アジア時代のグローバル・バル、エコノミー」『創業20周年記念アンケート 心に残る藤原書店の本』、藤原書店、2010年3月、42-43頁。
水野一晴	Stugihara, Kaoru "Formation of an Industrialization-Oriented Monetary Order in East Asia", in Shigeru Akita and Nicholas J. White eds. <i>The International Order of Asia in the 1930s and 1950s</i> , Ashgate, Farnham, Surrey, pp.61-102.
甲山治	Mizuno, K. (2010): Environmental Change and Vegetation Succession along an Ephemeral River: the Kuiseb River in the Namib Desert, African Study Monographs, Supplementary Issue, 40, 3-18. 甲山治. 2009. 「オアシス周辺域における夜間の水蒸気フラックスの推定」『土壌水分ワーキングショップ2009 論文集』 pp.52-55. (アブストラクトのみ査読あり) 甲山治, 佐原将史, 實肇. 2009. 「分布型流出モデルを用いた融雪洪水の再現計算」『京都大学防災研究所年報』第52(B), pp.67-76. (査読なし)
小林知	小林知. 2009. 『ボルネオ時代以後のカンボジア農村における宗教活動の復興—寺院建造物の再建をめぐる民族誌的研究—』富士ゼロックス小林節太郎基金研究助成論文 Kobayashi Satoru. 2010. The Reconfiguration of Cambodian Rural Social Structure: With Special Focus on the People called Chen and Khmae. Kyoto Working Papers on Area Studies No. 88 (G-COE Series 867 Cambodia Area Studies 5), Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University.
鈴木玲治	小林知・吉田香世子. 編集作業中. 「カンボジアとラオスの仏教」林行夫編『新アジア仏教史 第8巻 躍動する仏教—スリランカと東南アジア』佼成出版社。 頁調整中 鈴木玲治(2010)「メゴロ—山地におけるタウナヤ農民の土地選取行動と土地条件に関する農学的検討」、『ヒマラヤ学誌』11: 143-157.
川井秀一	Roy N. win, Reiji Suzuki and Shinya Takeda (2009) "Forest cover changes under selective logging in the Kabung Reserved Forest, Bago Mountains, Myanmar." <i>Mountain Research and Development</i> 29(4): 328-338. Reiji Suzuki, Shinya Takeda and Hla Maung Thein (2009) "Effect of slash-and-burn on nutrient dynamics during the intercropping period of taungya teak reforestation in the Bago Mountains, Myanmar." <i>Tropical Agriculture and Development</i> 53(3): 82-89. Kenji Umemura, Keiji Kaito, Shuichi Kawai: Characterization of Bagaasse-Rind Particleboard Bonded with Chitosan. J. Appl. Polym. Sci. 113(4), 2103-2108, 2009 Yokoyama M, Grit J, Matsuo M, Yano H, Sugiyama J, Clair B, Kubodera S, Misutani T, Sakamoto M, Ozaki H, Imamura M, Kawai S: Mechanical characteristics of aged Himoki wood from Japanese historical buildings. <i>COMPTES RENDUS PHYSIQUE</i> , 10(7), 601-611, 2009 Miyuki Matsuo, Miso Yokoyama, Kenji Umemura, Joseph Grit, Ken'ichiro Yano, and Shuichi Kawai: Color changes in wood during heating: kinetic analysis by applying a time-temperature superposition method, <i>Applied Physics A: Materials Science &amp; Processing</i> , (online publication), 2010
籠谷直人	籠谷直人「近代東アジアにおける自由貿易原則の浸透」、遠藤乾編『グローバル・ガバナンスの人と思想』有斐閣、2010年1月、217-242頁。 籠谷直人「神戸華僑歴史博物館創設30周年記念ワークショップ」(2009年10月3日)日本華僑華人関係資料の収集・整理・保存・公開』神戸華僑歴史博物館、2010年3月、1-50頁。 籠谷直人「近代東アジアにおける自由貿易原則の浸透と華僑」総合地球環境学研究所・深見奈緒子編『第三回全球都市全史研究会報告集 生態系からみた都市とそのネットワーク』2010年3月、32-42頁。
島田周平	島田周平 2009 「アフリカ農村社会の脆弱性分析序説」日本地理学会 E-Journal GEO Vol.3(2) pp.1-16.

島田周平	島田周平 2009 「脆弱性の視点から見るアフリカ農林・農業考」『アフリカレポート』49, pp.3-7.
島田周平	島田周平 2009 「アフリカの民族問題と新しい地域紛争」『歴史と地理』No.623, pp.43-50.
山田協太	山田協太, 2009. 「植民都市研究: 開発と近代」, 『布野修司先生業績目録』, 115-129 頁
Kyota YAMADA	2009, "Dutch Overseas Expansion and Laying out of Colonial Cities: Materialization of Simon Stevin's Ideal Model for the Early Capitalist City and its Transformation", Academic Achievements of Professor Shuji Funo, 149-155
水野広祐	水野広祐, ハリス クラウン, 2010, 「インドネシアにおける低炭素社会化と泥炭地炭素排出・保全問題」佐和隆光編『グリーン産業革命—社会経済システムの改編と技術戦略』日経BP, 2010 年 3 月, 158-171 ページ (査読あり)
水野広祐	2010 「輸出指向開港主義とインドネシアのオールドナラティブ」『東亜』No.512, 2010 年 2 月号, 10-11 ページ (査読なし)
谷 誠	Takamashi S, Kosugi Y, Ohkubo S, Matsuo N, Tani M Abdul Rahim N.: Water and heat fluxes above a lowland dipterocarp forest in Peninsular Malaysia, Hydrological Processes 24: 477-480, 2009.
Ohkubo S, Yokoyama N, Kosugi Y, Takamashi S, Matsuo N, Tani M: Estimating vertical distribution of CO2 efflux in a temperate cypress forest, Journal of Agricultural Meteorology, 65, 339-348, 2009	
Hayashi T., Kaida R., Kaku T., Baba K. (2010) Loosening xyloglucan prevents tensile stress in tree stem bending but accelerates the enzymatic degradation of cellulose. <i>Russian J. Plant Physiol.</i> 57, 316-320.	
Kaida R., Kaku T., Baba K., Oyadomari M., Watanabe T., Nishida K., Kanaya T., Shani Z., Shoseyov O., Hayashi T. (2009) Loosening xyloglucan accelerates the enzymatic degradation of cellulose in wood. <i>Mol. Plant</i> 2, 904-909.	
Kaida R., Kaku T., Baba K., Hayashi T. (2009) Enzymatic saccharification and ethanol production of <i>Acacia mangium</i> and <i>Paraserianthes falcataria</i> wood, and oil palm trunk. <i>J. Wood Sci.</i> 55, 381-386.	
Tomomi Kaku, Satoshi Serada, Kei'ichi Baba, Fumio Tamaka, Takahisa Hayashi (2009) Proteomic analysis of the G-layer in poplar tension wood, <i>J Wood Sci</i> 55:250-257.	
Kaida R., Kaku T., Baba K., Hartati S., Sudarmonowati E., Hayashi T. (2009) Enhancement of saccharification by overexpression of poplar cellulase in sengon. <i>J. Wood Sci.</i> 55,435-440.	
Kaida R., Satoh Y., Bulone V., Yamada Y., Kaku T., Hayashi T., Kaneko T. (2009) Activation of b-galactosidase by wall-bound purple acid phosphatase in tobacco cells. <i>Plant Physiol.</i> 150, 1822-1830.	
Baba K., Park W.P., Kaku T., Kaida R., Takeuchi M., Yoshida M., Hosoo Y., Ojio Y., Okuyama T., Taniguchi T., Ohmiya Y., Kondo T., Shani J., Shoseyov O., Awano T., Serada S, Norioka N., Norioka S., Hayashi T. (2009) Xyloglucan for generating tensile stress to bend tree stem. <i>Mol. Plant</i> 2, 893-903.	
Hayashi T., Kaida R., Mistuda N., Ohme-Takegi M., Nishikubo N., Kidou S., Yoshida K. (2009) Enhancing primary raw materials for biofuels. <i>In Biomass to Biofuels</i> , Wiley, pp-459-489.	
林 隆久:セルロースの生合成, 木質の化学, 日本木材学会編, p. 5-12, 文永堂出版 2010 年 5 月 11 日	
田辺明生 「植民地期インド・オランダにおける社会変容—歴史人類学的検討」『人文学報』第 98 号 1-79 頁 2009 年 12 月	
足立 透	Adachi, T., S. Cummer, J. Li, Y. Takahashi, R.-R. Hsu, H.-T. Su, A. B. Chen, S. B. Mende, and H. U. Frey (2009), Estimating lightning current moment waveforms from satellite optical measurements, <i>Geophys. Res. Lett.</i> , 36, L18808, doi:10.1029/2009GL039911.
Takahashi Y., A. Yoshida, M. Sato, T. Adachi, S. Kondo, R.-R. Hsu, H.-T. Su, A. B. Chen, S. Mende, H. Frey, and L.-C. Lee (2010), Absolute optical energy of sprites and its relationship to charge moment of parent lightning discharge based on measurement by ISUAL/AP, <i>J. Geophys. Res.</i> , accepted and in print.	
Adachi, T., M. Yamaoka, M. Yamamoto, Y. Otsuka, H. Liu, C.-C. Hsiao, A. B. Chen, and R.-R. Hsu (2010), Midnight latitude-altitude distribution of 630-nm airglow in the Asian sector measured with FORMOSAT-2/ISUAL, <i>J. Geophys. Res.</i> , in press.	
山本博之 2010 「人道支援と地域研究: アジアの災害対応における日本の新たな役割」山本博之編著「支援の現場と研究をつなぐ—2009 年西スマトラ地震におけるジェンダー、コミュニティ、情報」大阪大学大学院人間科学研究科「共生人道支援研究班」, pp.4-18.	
山本博之 2010 「選挙と反乱: インドネシアの 1955 年総選挙とイスラム国家建設」山本博之編著『ガラム』の時代—マレー・イスラム世界の「近代」』CIAS Discussion Paper No.13, pp.26-32.	

山本博之	山本博之 2010 「序 『カラム』の時代:マレー・イスラム世界の「近代」」山本博之編著『カラム』の時代——マレー・イスラム世界の「近代」』CIAS Discussion Paper No.13, pp.4-9. 山本博之 2010 「流動性の高い社会における公正性の確保:ジェフリー・キティガン著『サバに公正を』の公正観」西尾寛治・山本博之編著『マレー世界における公正/正義概念の展開』CIAS Discussion Paper No.10, pp.41-47. 山本博之 2010 「1 つのアダイル, それぞれのアダイル:マレー世界における公正/正義概念の展開」西尾寛治・山本博之編著『マレー世界における公正/正義概念の展開』CIAS Discussion Paper No.10, pp.6-11. 山本博之 2010 「人道支援活動とコミュニティの形成」林鶴男編著『自然災害と復興支援』明石書店, pp.361-382.
西芳美,山本博之	西芳美,山本博之 2009 「災害対応を通じてコミュニティ再編の可能性:2006年ジャワ島中部地震におけるコミュニティ・バーバー祭行の事例から」日本災害復興学会 2009 長岡大会論文集, pp.67-70.
山本博之	山本博之 2009 「2008年総選挙後のマレーシア政治の行方:ゾミアン政策, イスラム国家, 州の機能」『季刊マレーシアレポート』, 2(1):5-20.
玉田芳史	玉田芳史 2010 「クワータとその後:タイ陸軍の人事異動と政治介入」『国際情勢紀要』80号, 151-183頁.
玉田芳史	玉田芳史 2009 「タイのポピュリズムと民主化:タックシン政権の衆望と汚名」島田幸典・木村幹編『ポピュリズム, 民主主義, 政治指導』ネルゲン書房, 75-96頁.
Tamada, Yoshitumi	Tamada, Yoshitumi 2009. "Democracy and Populism in Thailand", Mizuno and Pasuk (eds), <i>Populism in Asia</i> (Singapore: NUS Press), pp.94-111.
玉田芳史	玉田芳史 2009. 「どう政権を倒したのか」『海外事情』2009年4月号, 71-89頁.
藤田幸一	Fujita, K., "Worlds Apart: Peasants in Japan and Agricultural Laborers in Bangladesh", <i>International Journal of South Asian Studies</i> , Volume 2, 2009, 87-104.
Jegadeesan, M. and K. Fujita,	Jegadeesan, M. and K. Fujita, Aspects of Tank Irrigated Agrarian Economy in Tamil Nadu, India: A Study of Three Villages, Kyoto Working Papers on Area Studies No.77, August 2009.
梅村研二	Kenji Umemura, Keiji Kaiho, Shuichi Kawai: Characterization of Bagasse-Rind Particleboard Bonded with Chitosan. <i>J. Appl. Polym. Sci.</i> 2009, 113(4), 2103-2108. Miyuki Matsuo, Misao Yokoyama, Kenji Umemura, Junji Sugiyama, Shuichi Kawai, Joseph Gril, Shigeru Kubodera, Takumi Mitsutani, Hiromasa Ozaiki, Minoru Sakamoto, and Mineo Imamura: Color changes in wood during heating: kinetic analysis by applying a time-temperature superposition method. <i>Applied Physics A</i> , 99, 47-52 (2010).
清水 展	清水 展 「世界遺産の棚田村におけるグローバル時代の開発:フイビン・イフガオ先住民の権林運動と国際協力」長津一史・加藤剛(編)『開発の社会史』風響社, pp.315-352, 2010年3月
大村善治	M. Hikishima, S. Yagitani, Y. Omura, and I. Nagano, "Full particle simulation of whistler-mode rising chorus emissions in the magnetosphere", <i>Journal of Geophysical Research</i> , 114, A01203, doi:10.1029/2008JA013625, 2009. Y. Kasahara, Y. Miyoshi, Y. Omura, O.P. Verkhoglyadova, I. Nagano, I. Kimura, and B. T. Tsurutani, "Simultaneous Satellite Observations of VLF Chorus, Hot and Relativistic Electrons in a Magnetic Storm "Recovery" Phase", <i>Geophysical Research Letters</i> , 36, L01106, doi:10.1029/2008GL036454, 2009.
	O. P. Verkhoglyadova, B. T. Tsurutani, Y. Omura, and S. Yagitani, "Properties of dayside nonlinear rising tone chorus emissions at large L observed by GEOTAIL", <i>Earth Planets Space</i> , 61, 625-628, 2009.
	Y. Omura, M. Hikishima, Y. Katoh, D. Summers, and S. Yagitani, "Nonlinear mechanisms of lower band and upper band VLF chorus emissions in the magnetosphere", <i>Journal of Geophysical Research</i> , 114, A07217, doi:10.1029/2009JA014206, 2009.
	M. Hikishima, S. Yagitani, Y. Omura, and I. Nagano, "Coherent nonlinear scattering of energetic electrons in the process of whistler-mode chorus generation", <i>Journal of Geophysical Research</i> , 114, A10205, doi:10.1029/2009JA014371, 2009.
	M. Shoji, Y. Omura, B. T. Tsurutani, O. P. Verkhoglyadova, and B. Lembège, "Mirror instability and L-mode electromagnetic ion cyclotron instability: competition in the Earth's magnetosheath", <i>Journal of Geophysical Research</i> , 114, A10203, doi:10.1029/2008JA014038, 2009.
	H. Fukuhara, H. Kojima, Y. Ueda, Y. Omura, Y. Katoh, and H. Yamakawa, "A new instrument for the study of wave-particle interactions in space: One-chip Wave-Particle Interaction Analyzer", <i>Earth Planets Space</i> , 61, 765-778, 2009.
	H. Nakashima, Y. Miyake, H. Usui, Y. Omura, "OHHelp: A Scalable Domain-Decomposing Dynamic Load Balancing for Particle-in-Cell Simulations", <i>International Conference on Supercomputing</i> , June 8-12, 2009, Yorktown Heights, New York, USA, 2009.



大村善治	K. H. Lee, Y. Omura, L. C. Lee, and C. S. Wu, "Nonlinear saturation of cyclotron maser instability associated with energetic ring-beam electrons", <i>Physical Review Letters</i> , 103, 105101. DOI: 10.1103/PhysRevLett.103.105101, 2009.
佐藤孝宏	佐藤孝宏, 和田泰三, 黒崎龍伍, 2010. 地球圏・人間圏の世界地図—生存基盤指針の構築に向けて—, <i>Kyoto Working Papers on Area Studies No. 89 (G-COE Series 87)</i> . Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University.
宮本万里	T. Sato, 2010. Mechanism of the agricultural transformation in semi-arid area: A case study in Madurai District. In <i>Proceedings of the international conference on Environment, Agriculture and Socio-economic Change in India</i> , Centre of Asian Studies, Kyungpook National University, Daegu, KOREA.
宮本万里	宮本万里「現代ブータンの環境主義と国民形成—国立公園政策からみた自画像のポリアイクス」『多民族社会における宗教と文化』第13号, 雪城学院女子大学, キリスト教文化研究所, 2009年。
宮本万里	宮本万里, 「ブータンの変遷—依存を通じた自立の戦略—」, 『東洋文化』, 第89号, 東京大学東洋文化研究所, 2009年。
梶 茂樹	梶 茂樹 「アフリカにおける言語と社会」, 梶 茂樹・砂野幸絵 (編)『アフリカのことばと社会—多言語状況を生きるということ』, 三元社, 2009年, pp.9-30.
梶 茂樹	梶 茂樹 「コンゴ民主共和国の言語問題—多言語使用と教育用言語を巡って」, 梶 茂樹・砂野幸絵 (編)『アフリカのことばと社会—多言語状況を生きるということ』, 三元社, 2009年, pp.225-247.
細田尚美	細田尚美, 2009. 「ドバイ在住のフィリピン人の生存戦略」『UAE』46:25-28.
柳澤雅之	Stephen J.Leisz; Kono, Y.; Fox, J.; Yanagisawa, M.; and Rambo, T. 2009. "Land use changes in the uplands of Southeast Asia: Proximate and distant causes", <i>Southeast Asian Studies</i> , 47: 237-243
黒崎龍伍	Dao Minh Trung; Kono, Y.; and Yanagisawa, M.; Leisz, S.J.; and Kobayashi S. 2009. "Linkage of forest policies and programs with land cover and land use changes in the Northern Mountain region of Vietnam: A village-level case study", <i>Southeast Asian Studies</i> , 47: 244-262
黒崎龍伍	Ryugo Kurosaki (in press). Endogenous movements for water supply works and their relationships to rural development assistance African Study Monographs
黒崎龍伍	黒崎 龍伍 (印刷中)「タンザニアにおけるコーヒー市場の自由化と農地利用の変化」法政大学「人間学論集」
黒崎龍伍	黒崎龍伍, 伊谷樹一 2009 「住民参加型開発の『副次効果』」 掛谷誠編『地域研究を基礎としたアフリカ型農村開発に関する総合的研究』科学研究費補助金 (基礎研究 S) 研究成果報告書 397-415
黒崎龍伍	黒崎龍伍 2009 「農民グループ協議会の形成過程」 掛谷誠編『地域研究を基礎としたアフリカ型農村開発に関する総合的研究』科学研究費補助金 (基礎研究 S) 研究成果報告書 417-435
黒崎龍伍	黒崎龍伍 2009 「タンザニア、マテンゴ高地における農村開発の展開と住民の対応—住民参加型開発の副次効果分析から」 <i>Kyoto Working Papers on Area Studies No.39 (G-COE Series 37)</i> , 25p
佐川 徹	佐川 徹 2009 「東アフリカ牧畜社会の地域紛争と近年の変化」, 『海外事情』57(5): 37-53.
佐川 徹	佐川 徹 2009 「患者になる経験—ダサネッチの戦争と自己決定」, 『アジア・アフリカ地域研究』9(1): 30-64.
佐川 徹	佐川 徹 2009 「東アフリカ牧畜社会における横断的紐帯の持続」, 『アジア・アフリカ言語文化研究』78: 131-163.
佐川 徹	Sagawa, Toru 2009 War experiences and self-determination of the Daasanach in the conflict-ridden area of northeast Africa. <i>Nilo-Ethiopian Studies</i> , 14.
佐川 徹	Sagawa, Toru 2009 Dynamics of enmity and amity and its future prospect among pastoral peoples of East Africa. In Kato Tsuyoshi and Aysun Uyar (ed.). <i>The Question of Poverty and Development in Conflict and Conflict Resolution</i> . pp. 53-65. Kyoto, Ryukoku University.
古市副久	Furuichi, T., 2009. Can 137Cs be used for the study on soil and sediment movement in Southeast Asia? In: <i>Proceedings of the International Workshop on Low-level Measurement of radionuclides and its Application to Earth and Environmental Sciences</i> (eds. Yamamoto, M., Nagao, S., Hamajima, Y., Inoue, M., Komura, K.), 158-163, Kanazawa, Japan, November 5-6, 2009.
田中耕司	Furuichi, T., 2009. Land-use change in the Lake Inle catchment, Myanmar: Implications for acceleration of soil erosion and sedimentation. <i>Kyoto Working Papers on Area Studies No.26 (G-COE Series 24)</i> .
田中耕司	田中耕司「森林と農地の境界をめぐる自然資源とコミュニティ」『地球環境史からの問い』岩波書店, pp. 296-313, 2009年10月 (査読あり)

藤田素子	Motoko FUJITA and Fumito KOIKE. 2009. Landscape Effects on Ecosystems: Birds as Active Vectors of Nutrient Transport to Fragmented Urban Forests versus Forest Dominated Landscapes. <i>Ecosystems</i> 12(3):391-400
石川 登	Ishikawa, Noboru. 2009. Centering Peripheries: Flows and Interfaces in Southeast Asia. Kyoto Working Papers on Area Studies No.10 (ISPS Global COE Program "In Search of Sustainable Humankind in Asia and Africa", Sub-Series No.8), Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, PP. 1-13 (査読無)
柴山 守	<p>(単著)Mamoru Shibayama: Hanoi's Urban Transformation in the 19th and 20th Centuries: An Area Informatics Approach, <i>Journal of Southeast Asian Studies</i>, Vol.46, No.4, pp.496-518, 2009</p> <p>(共著)Ho Dinh Duan and Mamoru Shibayama: STUDIES ON HANOI URBAN TRANSITION IN LATE 20th CENTURY BASED ON GIS/RS. <i>Journal of Southeast Asian Studies</i>, Vol.46, No.4, pp.532-540, 2009</p> <p>(共著)Surat Lertlum and Mamoru Shibayama: Application of Geo-Informatics for Cultural Studies in the Southeast Asia: Royal Road from Angkor to Phimai, <i>Journal of Southeast Asian Studies</i>, Vol.46, No.4, 541-553, 2009</p> <p>(単著)柴山 守: 地域情報学—地域研究と情報学の新たな地平—序論、『東南アジア研究』, Vol.46, No.4, pp.481-191, 2009</p> <p>(単著)柴山 守: 時空間概念に基づく地域・歴史事象の写像と知識獲得—地域情報学の視点から見る歴史知識学—, <i>人工知能学会誌</i>, Vol.25, No.1, pp.42-49, 2010</p>
矢野浩之	<p>Y. Okahisa, A. Yoshida, S. Miyaguchi and H. Yano: Optically transparent wood-cellulose nanocomposite as a base substrate for flexible Organic Light-Emitting Diode displays, <i>Composites Science and Technology</i>, 69, 1958-1961(2009).</p> <p>L. Suryanegara, A.N. Nakagaito, H. Yano: The effect of crystallization of PLA on the thermal and mechanical properties of microfibrillated cellulose-reinforced PLA composites*, <i>Composites Science and Technology</i>, 69, 1187-1192 (2009)</p> <p>A. N. Nakagaito, A. Fujimura, T. Sakai, Y. Hama, H. Yano: Production of microfibrillated cellulose (MFC)-reinforced polylactic acid (PLA) nanocomposites from sheets obtained by a papermaking-like process, <i>Composites Science and Technology</i>, 69(7-8), 1293-1297(2009).</p> <p>S. Itoku, M. Nogi, K. Abe, M. Yoshioka, M. Morimoto, H. Saimoto and H. Yano: Preparation of chitin nanofibers with a uniform width as <math>\gamma</math>-chitin from crab shells, <i>Biomacromolecules</i>, 10(6), 1584-1588(2009)</p> <p>M. Nogi and H. Yano: Optically transparent nanofiber sheets by deposition of transparent materials – A concept for a roll-to-roll processing –, <i>Applied Physics Letters</i>, 94, 233117(2009).</p> <p>Abe K, Yano H "Comparison of the characteristics of cellulose microfibril aggregates of wood, rice straw and potato tuber" <i>Cellulose</i>, 16 (6), 1017-1023 (2009)</p> <p>Abe K, Nakatsubo F, Yano H "High-strength nanocomposites based on fibrillated chemi-thermomechanical pulp" <i>Composites Science and Technology</i>, 69 (14), 2434-2437 (2009)</p> <p>Shinsuke Itoku, Tsuji Manami, Minoru Morimoto, Hiroyuki Saimoto, Hiroyuki Yano: "Synthesis of silver nanoparticles templated by TEMPO-mediated oxidized bacterial cellulose nanofibers", <i>Biomacromolecules</i> 10, 2714-2717 (2009).</p> <p>Ishikura Y, Abe K, Yano H "Bending properties and cell wall structure of alkali-treated wood" <i>Cellulose</i>, 17 (1), 47-55 (2010)</p> <p>F. Quero, M. Nogi, H. Yano, K. Abdulsalam, S. M. Holmes, B. H. Sakakini, and S. J. Eichhorn "Optimization of the Mechanical Performance of Bacterial Cellulose/Poly(L-lactide) Acid Composites, <i>ACS Applied Materials &amp; Interfaces</i> 2321-330(2010)</p> <p>T. T. Nge, M. Nogi, H. Yano, J. Sugiyama: Microstructure and mechanical properties of bacterial cellulose/chitosan porous scaffold, <i>Cellulose</i> 17, 349-363 (2010)</p> <p>M.I. Shams, H. Yano: Compressive deformation of phenol formaldehyde (PF) resin impregnated wood related to the molecular weight of resin, <i>Wood Science and Technology</i>: DOI 10.1007/s00226-010-0310-1 (2010)</p> <p>Shinsuke Itoku, Masaya Nogi, Masafumi Yoshioka, Minoru Morimoto, Hiroyuki Yano, Hiroyuki Saimoto: "Fibrillation of dried chitin into 10-20 nm nanofibers by a simple method under acidic conditions", <i>Carbohydrate Polymers</i>, 81, 134-139, (2010).</p> <p>Abe K, Yano H "Comparison of the characteristics of cellulose microfibril aggregates isolated from fiber and parenchyma cells of Moso bamboo (<i>Phyllostachys pubescens</i>)" <i>Cellulose</i>, 17 (2), 271-277 (2010)</p> <p>能木雅也、矢野浩之: 世紀の紙 —セルロースナノファイバー—低熱膨張性透明材料. <i>J. Jpn. Soc. Colour Mater.</i> 82(2009)351-356</p>

矢野浩之	<p>S. J. Eichhorn, A. Duffresne, M. Aranguren, N. E. Marcovich, J. R. Cupadona, S. J. Rowan, C. Weder, W. Thielemans, M. Roman, S. Rennecker, W. Gindl, S. Veigel, J. Keckes, H. Yano, K. Abe, M. Nogi, A. N. Nakagaito, A. Mangalam, J. Simonsen, A. S. Benight, A. Bismarck, L. A. Berglund, T. Peijs; Review: current international research into cellulose nanofibers and nanocomposites, <i>J. Mater. Sci.</i> 45(2010)1-33</p> <p>A. N. Nakagaito, M. Nogi, H. Yano: Displays from transparent films of natural nanofibers. <i>MRS Bulletin</i>, 35(3) (2010) 214-218</p> <p>能木雅也、阿部賢太郎、岩本伸一朗、矢野浩之:バイオナノファイバーからつくる透明ナノマテリアルの新たな展開、<i>ウェブ・ジャーナル</i>, 102(2009)28-30</p> <p>Masaya Nogi, Antonio Norio Nakagaito, Hiroyuki Yano :Transparent Nanofiber paper -21st century paper-, Sustainable Humansphere, Bulletin of research institute for sustainable humansphere, Kyoto university, No.5 (2009) 7, ISSN 1880-6503</p> <p>能木雅也、岩本伸一朗、阿部賢太郎、矢野浩之:セルロースナノファイバーから製造した「折り畳めるガラス」、<i>ニューガラス</i>, 25(1) (2010)12-15</p> <p>北村由美, 2009. 「交渉成功—インドネシアにおける儒教の再公認化と華人」『華僑華人研究』6, pp.20-39</p> <p>Yumi Kitamura. 2010. Pemakaian dan Perubahan Bahasa Cina dalam Linguistic Landscape di Jakarta, in <i>Geliat Bahasa Selayar Zaman</i>, edited by Mikihito Moriyama and Manneke Budiman, pp.372-404, Jakarta: Gramedia</p>
Wil de Jong	<p>de Jong, W., Forest rehabilitation and its implication for forestry transition theory <i>Biotropica</i>, 42(1): 3-9</p> <p>Pacheco, P., Wil de Jong, James Johnson. The evolution of the timber sector in lowland Bolivia: Examining the influence of three disparate policy approaches. <i>Forest Policy and Economics</i>, 12 271-276</p> <p>Cronkleton, P.; M. A. Albornoz; G.Barnes; K. Evans; W. de Jong. Social geomatics: Participatory forest mapping to mediate resource conflict in the Bolivian Amazon. <i>Human Ecology</i> 38:65-76</p> <p>Evans, K., W. de Jong, P. Cronkleton. Participatory methods for planning the future in forest communities. <i>Society and Natural Resources</i> 23 (7): 1-16. <a href="http://pdfserve.informaworld.com/68309_732447697_922399220.pdf">http://pdfserve.informaworld.com/68309_732447697_922399220.pdf</a></p> <p>Pokorny, B., C. Sabogal, W. de Jong, P. Pacheco, N. Porro, B. Loumann, D. Stoian. Challenges of community forestry in tropical America. <i>Bois et Forêts des Tropiques</i> 303 (1) 53-66</p> <p>Hoch, L., B. Pokorny, W. de Jong. Do smallholders in the Amazon grow trees? <i>International Forestry Review</i> 11 (3) 1-12</p>
竹田晋也	<p>Roy Ne Win, R. Suzuki and S. Takeda. 2009. Forest Cover Changes under Selective Logging in the Kabaung Reserved Forest, Bago Mountains, Myanmar. <i>Mountain Research and Development</i> 29(4):328-338</p> <p>Suzuki, R., S. Takeda and Hla Maung Thein. 2009. Effect of slash-and-burn on nutrient dynamics during the intercropping period of taungya teak reforestation in the Bago Mountains, Myanmar. <i>Tropical Agriculture and Development</i> 53(3):82-89</p> <p>Kusumaningtyas, R., S. Kobayashi and S. Takeda. 2009. The impact of local community agricultural practices on livelihood security and forest degradation around the Tesso Nilo national park in Riau Province, Sumatra, Indonesia. <i>Tropics</i> 18 (2): 45-55</p> <p>奥宮清人・坂本龍太・月原敏博・竹田晋也・小坂康之・山口哲由・石根昌幸・和田泰三・Tsering Norboo・大塚邦明・松林公藏. 2009. 「インド・ラダックの医学調査と今後の課題」『ヒマラヤ学誌』10: 10-15</p> <p>坂本龍太・奥宮清人・小坂康之・月原敏博・竹田晋也・Tsering Norboo・石根昌幸・和田泰三・大塚邦明・松林公藏. 2009. 「ラダックドムカル訪問記—医療からのケースレポート—」『ヒマラヤ学誌』10: 16-24</p> <p>竹田晋也. 2009. 「ラオス北部カム村における焼畑土壌利用安定化の現状」『熱帯農業』53(別号 2), (印刷中)</p> <p>鈴木晴治・竹田晋也・フラマウンテン. 2009. 「ミャンマー・カレンの営む伝統的焼畑システムにおけるタケの役割」『熱帯農業』53(別号 2):67-68</p> <p>Roy Ne Win, R. Suzuki and S. Takeda. 2009. Canopy Change under the Myanmar Selection System in the Kabaung Reserved Forest, Bago Mountains, Myanmar. <i>Japanese Journal of Tropical Agriculture</i> 53(Extra issue 2):65-66</p> <p>Suzuki, R., S. Takeda, Hla Maung Thein, Saw Kéivin Keh. 2009. Ecological Studies on the Sustainability of Taungya Teak Reforestation in the Bago Mountains, Myanmar. <i>Proceedings of the Conference on Sustainable Forest Management and Indigenous Uses of Forest Resources in Myanmar</i>. University of Forestry, Myanmar. 15-55.</p>

竹田晋也	<p>Rosy Ne Win, R. Suzuki, S. Takeda. 2009. Land Cover Changes under the Myanmar Selection System in the Kabaung Reserved Forest, Bago Mountains, Myanmar. <i>Proceedings of the Conference on Sustainable Forest Management and Indigenous Uses of Forest Resources in Myanmar</i>. University of Forestry, Myanmar. 56-71</p> <p>Fukushima, M., M. Kamazaki, S. Takeda, R. Suzuki, Hla Maung Thein, Yazar Minn. 2009. Fallow Vegetation in the Traditional Karen Swidden Cultivation System in the Bago Mountain Area, Myanmar. <i>Proceedings of the Conference on Sustainable Forest Management and Indigenous Uses of Forest Resources in Myanmar</i>. University of Forestry, Myanmar. 72-93</p> <p>Suzuki, R., S. Takeda, Hla Maung Thein. 2009. Effect of Swidden Cultivation on Long-term Changes in Forest Vegetation around a Karen Village in the Bago Mountains, Myanmar. <i>Proceedings of the Conference on Sustainable Forest Management and Indigenous Uses of Forest Resources in Myanmar</i>. University of Forestry, Myanmar. 94-112.</p> <p>Takeda, S., R. Suzuki, Hla Maung Thein, Min Thant Zin. 2009. Five-Year Monitoring of Swidden Cultivation Fields in a Karen Area of the Bago Mountains, Myanmar. <i>Proceedings of the Conference on Sustainable Forest Management and Indigenous Uses of Forest Resources in Myanmar</i>. University of Forestry, Myanmar. 113-119.</p> <p>鈴木晋也・竹田晋也. 2009. 「焼畑耕作がミャンマー・バゴー山地カレン村落周辺の森林植生の長期的変化に与える影響」 <i>Kyoto Working Papers on Area Studies</i> 52: 1-13.</p>
速水洋子	<p>速水洋子 2009 権野若菜著 『結婚と死をめぐる女の民族誌—クアンア・ルオ社会の寡婦が身を運ぶとき』 文化人類学 74 巻 2 号 347-350.</p>
Patricio N. Abinales	<p>Patricio N. Abinales "The U.S. Army as an Occupying Force in Muslim Mindanao, 1899-1913," in <i>Colonial Crucible: Empire in the Making of the Modern American State</i>, ed. Alfred W. McCoy and Francisco A. Scarano (Madison, Wisconsin: University of Wisconsin Press, 2009)</p>
東長 靖	<p>東長 靖 「クシャイリ」『クシャイリの論』より「スーフーイ列伝」解題・翻訳ならびに「訳注」(スーフーイ列伝・アンソロジー・シリーズ 3)『イヌーム世界研究』巻2号(2010年3月), 406-415頁。</p>
梅澤 俊明	<p>Sonoda, T., Koita, H., Nakamoto-Ohta, S., Kondo, K., Suezaki, T., Ishizaki, Y., Nagai, K., Iida, N., Sato, S., Umezawa, T., Hibino, T. Increasing fiber length and growth in transgenic tobacco plants containing a gene encoding the <i>Eucalyptus camaldulensis</i> HD-Zip class II transcription factor driven by a CaMV35S promoter. <i>Plant Biotechnology</i>, 26, 115-120 (2009)</p>
小松幸平	<p>Suzuki, S., Suzuki, Y., Yamamoto, N., Hattori, T., Sakamoto, M., Umezawa, T., High-throughput determination of thioglycolic acid lignin from rice. <i>Plant Biotechnology</i>, 26, 337-340 (2009)</p> <p>Yamamura, M., Suzuki, S., Hattori, T., Umezawa, T., Subunit composition of hinokiresinol synthase controls enantiomeric selectivity in hinokiresinol formation. <i>Org. Biomol. Chem.</i>, 8, 1106-1110 (2010)</p> <p>Umezawa, T., The cinnamate/monolignol pathway. <i>Phytochemistry Reviews</i>, 9, 1-17 (2010)</p> <p>北守頼久、鄭 基浩、南 宗和、小松幸平、相欠き格子耐力壁の剛性算定に係わる隙間の影響評価-長期的試験における検証-、構造工学論文集、55B、109-116、2009、H21 度業績</p> <p>Jung Kiho, Akhisa Kitamori, Kohei Komatsu : Development of a joint system using a compressed wooden fastener I: evaluation of pull-out and rotation performance for a column-sill joint. <i>Journal of Wood Science</i>, 55(4), 273-282, 2009.</p> <p>村上 了、玉岡富彦、門脇秀伸、小松幸平:押し引き両荷重に対し同等の性能を発揮する片筋違いの開発、日本建築学会技術報告集 第 30 号、p.421-426、2009.</p> <p>南 宗和、北守頼久、鄭 基浩、小松幸平:形厚板を用いた「あらわし床」における床面性能、日本建築学会構造系論文集、第 74 巻 第 644 号、1785-1794、2009.</p> <p>Takeshi Shiratori, A.J.M. Leijten and Kohei Komatsu:The structural behaviour of a pre-stressed column beam connection as an alternative to the traditional timber joint system. <i>Engineering Structures</i>, 31, 2526-2533, 2009.</p> <p>清水秀丸、森 拓郎、村瀬伸吾、立花和樹、五十田 博、小松幸平、吉川盛一、福田康彦:新築木造住宅の重量算定一実大試験体を用いた重量計測一、日本建築学会技術報告集、第 15 巻、第 29 号、115-120、2009.</p> <p>北守頼久、森 拓郎、片岡靖夫、小松幸平:木材の部分横圧縮における余長効果の影響 支持条件における違いの検討、日本建築学会構造系論文集、74(642)、1477-1485、2009.</p>

小松幸平	森 拓郎, 中谷 誠, 小松幸平: 雄ネジタイトのラグスクリューボルトを用いた一方向ラミネーションの開発, 構造工學論文集, Vol.55B, 213-218, 2009.
	中田 欣作, 小松 幸平: 強化 LVL 接合板および接合ピンを用いた木質構造フレームの開発 (第 3 報) 柱梁強化 LVL 接合と柱脚金物接合による門型ラミネーション架橋の性能, 木材学会誌 Vol. 55, No.4, 207-216 (2009).
	中田 欣作, 小松 幸平: 強化 LVL 接合板および接合ピンを用いた木質構造フレームの開発 (第 2 報) モーメント抵抗接合としての強化 LVL 接合の特性, 木材学会誌 Vol. 55, No. 3, 155-162 (2009).
	Wen-Shao Chang, Jonathan Shanks, Akhisa Kitamori and Kohei Komatsu: The structural behaviour of timber joints subjected to bi-axial bending, Earthquake Engineering and Structural Dynamics, 38, pp.739-757, 2009.
荒木茂	荒木茂, 『仮想地球』の試みー地域と地球をつなぐー, 平成 19-21 年度科学研究費補助金_基礎研究(A) 『仮想地球空間』の創出に基づく地域研究統合データベースの構築 研究成果報告書, pp.1-9.
角田邦夫	S. Kubota, H. Okamoto, N. Goto, N. Mito and K. Tsunoda 2009. Uptake of bait toxicant bis trifluro, by foraging workers of Coptotermes formosanus (Blattodea: Rhinotermitidae). <i>Sociobiology</i> 53: 707-717
	N. Katsumata, K.Tsunoda, A.Toyoumi, T. Yoshimura and Y. Inamura 2008. Feeding preference of Coptotermes formosanus (Isoptera: Rhinotermitidae) for gamma-irradiated wood impregnated with bezoylphenylurea compounds under laboratory conditions. <i>Journal of Economic Entomology</i> 101, 880-884.
	K. Nakai, T. Mitani, T. Yoshimura, N. Shinohara, K. Tsunoda and Y. Inamura 2009. Effects of microwave irradiation on the Drywood termite <i>Incisitermes minor</i> (Hagen). <i>Jpn. J. Environ. Entomol. Zool.</i> 20, 179-184.
藤倉達郎	藤倉達郎 「ヨグラーズ・ナヨグラーとネバールのカメライ解放運動」 『人権と部落問題』61(7), 56-61, 2009-06, 部落問題研究所
神崎 護	Singpaalee, Wichaphart, Akira Itoh, Mamoru Kanzaki, Kriangsak Sri-ngernyung, Hideyuki Noguchi, Takashi Mizuno, Sakhan Teejuntak, Masatoshi Hara, Kwanchai Chai-udom, Tatsuhiko Ohkubo, Pongsak Sahamala, Pricha Dhanmanonda, Satoshi Nanaami, Takuo Yamakura, Awan Som-ngai. 2009. Intra- and interspecific variation in wood density and fine-scale spatial distribution of stand-level wood density in a northern Thai tropical montane forest. <i>Journal of Tropical Ecology</i> 25:359-370.
	Murata, Naoki, Seiichi Ohta, Atsushi Ishida, Mamoru Kanzaki, Chongrak Wachirint. Taksin Arachawakom, Hiroyuki Sase. 2009. Comparison of soil depths between evergreen and deciduous forests as a determinant of their distribution, Northeast Thailand. <i>Journal of Forest Research</i> 14:212-220.
	Kanzaki, M., Kawaguchi, H., Enoki, T., Inagaki, Y., Kiyohara, S., Kajiwara, T., Kaneko, T., Ohta, S., Singpaalee, W., Kagotani, Y., Kawasaki, T., Meunpong, P., and Wachirint C., 2009. Long-term study on the carbon storage and dynamics in a tropical seasonal evergreen forest of Thailand. In Puangthit L. and Dloksumpun S. (eds.) <i>Tropical Forestry Change in a Changing World Volume 2: Tropical Forests and Climate Change</i> . Pp.35-51. Kasetsart University Faculty of Forestry, Bangkok.
	Zuidema, Pieter A., Toshihiro Yamada, Heijio J. During, Akira Itoh, Takuo Yamakura, Tatsuhiko Ohkubo, Mamoru Kanzaki, Sylvester Tan and Peter S. Ashton. 2010. Recruitment subsidies support tree subpopulations in non-preferred tropical forest habitats. <i>Journal of Ecology</i> 98(3):636-644.
	Yonekura, Yusuke, Seiichi Ohta, Yoshiyuki Kiyono, Dartul Aksa, Kaohito Morisada, Nageharu Tanaka, Mamoru Kanzaki. 2009. Changes in soil carbon stock after deforestation and subsequent establishment of "Imperata" grassland in the Asian humid tropics. <i>Plant and Soil</i> 329:495-507.
橋本弘藏	Blagovest Shishkov, Koza Hashimoto, Hiroshi Matsumoto, Naoki Shinohara and Tomohiko Mitani. <i>Direction Finding Estimators of Cyclostationary Signals in Array Processing for Microwave Power Transmission</i> , Vol.19, pp.245-268, 2009
	Joko Sulistyono, Toshimitsu Hata, Masashi Fujisawa, Koza Hashimoto, Yuji Inamura, Tamami Kawasaki, Anisotropic thermal conductivity of three-layer laminated carbon-graphite composites from carbonized wood. <i>Journal of Materials Science</i> , 44(3), 734-744, 2009
	橋本弘藏, 第 1 章 3. マイクロ波電力伝送技術ーSPS, "非接触電力伝送技術の最前線 (監修: 松本英敏), シーエムシー出版, 2009,
	橋本弘藏, 宇宙太陽発電衛星, 電子情報通信学会誌, vol.92, no.9, 2009, pp. 755-760
	橋本弘藏, 宇宙太陽発電 (SPS) 計画の概要, 超電導 Web21, 2010/2
	K. Hashimoto, N. Shinohara, T. Fujita, Requirements and Challenges of International Spectrum Management for Future Space Solar Power, An International Symposium on Solar Energy from Space, 2009/9
星川圭介	星川圭介 2009. 「フィールドで見る」情報学的手法で解くー東北タイに見る稲作変化の軌跡ー 『東南アジア研究』46(4), 85-97

渡辺 隆司	Sato, S., Y. Ohashi, M. Kojima, Takahito Watanabe, Y. Honda, Takashi Watanabe, Degradation of sulfide linkages between isoprenes by lipid peroxidation catalyzed by manganese peroxidase, <i>Chemosphere</i> Vol.77, 2009, pp.798-804
	Nishimura, H., K. Muryayama, Takahito Watanabe, Y. Honda, Takashi Watanabe, Absolute configuration of ceriporic acids, the iron redox-silencing metabolites produced by a selective lignin-degrading fungus, <i>Ceriporiopsis subvermispora</i> , <i>Chemistry and physics of Lipids</i> Vol.159, 2009, pp.77-80
	Kaida, R., T. Kaku, K. Baba, M. Oyadomari, Takashi Watanabe, K. Nishida, T. Kanaya, Z. Shani, E. Sudarmonowati and T. Hayashi, Enzymatic saccharification and ethanol production of <i>Acacia mangium</i> and <i>Paraserianthes falcataria</i> wood, and <i>Elaeis guineensis</i> trunk, <i>J. Wood Sci.</i> , Vol.55, 2009, pp.381-386
	Ishizuka, K., D. Ando, Takashi Watanabe, M. Nakamura, threo-2-(2,6-Dimethoxyphenoxy)-1-(4-ethoxy-3-methoxyphenyl)propane-1,3-diol, <i>Acta Cryst E</i> , Vol.65, 2009, pp.1389-1390
畑 俊亮	菊池 光, 畑 俊亮, 今村祐嗣, "直パルス通電法を利用した新規な木質バイオマス急速熱分解装置の開発", <i>材料学会誌</i> , 55(6), 2009, p.p.339-345
	Joko Sulistywo, Toshimitsu Hata, Masashi Fujisawa, Koza Hashimoto, Yuji Imamura, Tamami Kawasaki, Anisotropic thermal conductivity of three-layer laminated carbon-graphitic composites from carbonized wood, <i>J. Mater Sci</i> 45, 2009, pp.1107-1116.
	Tomo Kakitani, Toshimitsu Hata, Takeshi Kajimoto, Hideki Koyanaka and Yuji Imamura, Characteristics of a bioxalate chelating extraction process for removal of chromium, copper and arsenic from treated wood, <i>Journal of Environmental Management</i> 90(5), 2009, 1918-1923
岩田明久	Watanabe, K., T. Abe and A. Iwata, 2009. Phylogenetic position and generic status of the Japanese botiid leach. <i>Ichthyological Research</i> , 56(4): 421-425.
西 真如	西真如「ウイルスと共に生きる社会の倫理—エチオピアの HIV 予防運動にみる自己責任と配慮」『人間環境論集』Vol. 10, No. 2, 2010, pp. 47-61.
	Nishi Makoto, Informaiton Sharing, Local Knowledge, and Development Practises: The Experience of Community-based HIV/AIDS Initiatives among the Gurage, <i>Southern Eithopia. Nilo Ethiopian Studies</i> 15, (forthcoming)
山根悠介	Yamane, Y., Hayashi, T., A. M. Dewan, and F. Akter, (2010). Severe Local Convective Storms in Bangladesh: Part I. <i>Climatology</i> , Atmos. Res., Vol.95., pp.400-406.
	Yamane, Y., Hayashi, T., A. M. Dewan, and F. Akter, (2010). Severe Local Convective Storms in Bangladesh: Part II. <i>Environmental Conditions</i> , Atmos. Res., Vol.95., pp.407-418.
孫 暁剛	SUN Xiaogang 2009. Longitudinal and Comparative Study in Search of the Continuity and Potential in Pastoral Subsistence of East Africa, MILA: A Journal of the Institute of Anthropology, Gender and African Studies, Vol. 10, pp.69-80, University of Nairobi, Nairobi.
太田 至	Ohta, I., 2009. "Pastoralists are proficient in cultivating positive social relationships: Case of the Turkana in northwestern Kenya." <i>Mila (NS)</i> , 10: 24-38.
山本 衛	Otsuka, Y., K. Shiokawa, T. Ogawa, T. Yokoyama, and M. Yamamoto, Spatial relationship of nighttime medium-scale traveling ionospheric disturbances and F-region field-aligned irregularities observed with two spaced all-sky airglow imagers and the MU radar, <i>J. Geophys. Res.</i> , 114, A05302, doi:10.1029/2008JA013902, 2009.
	Yokoyama, T., D. L. Hysell, A. K. Patra, Y. Otsuka, and M. Yamamoto, Zonal asymmetry of daytime 150-km echoes observed by Equatorial Atmosphere Radar in Indonesia, <i>Ann. Geophys.</i> , 27 (3), 967-974, 2009.
	Thampi, S. V., C. Lin, H. Liu and M. Yamamoto, First Tomographic Observations of the Mid-latitude Summer Nighttime Anomaly (MSNA) over Japan, <i>J. Geophys. Res.</i> , 114, A10318, doi:10.1029/2009JA014439, 2009.
	Thampi, S. V., M. Yamamoto, R. T. Tsunoda, Y. Otsuka, T. Tsugawa, J. Uemoto, and M. Ishii, First observations of large-scale wave structure and equatorial spread F using CERTO radio beacons on the C/NOFS satellite, <i>Geophys. Res. Lett.</i> , 36, L18111, doi:10.1029/2009GL039887, 2009.
	前川泰之・柴垣佳明・佐藤亨・山本衛・橋口浩之・深尾昌一郎, 温帯および赤道域での Ku 帯衛星上下回線における伝搬特性の測定, <i>理学技報</i> , AP2009, 19-24, 2009.
	M.K. Yamamoto, T. Kishi, T. Nakamura, N. Nishi, M. Yamamoto, H. Hashiguchi, and S. Fukao, Wind observation around tops of midlatitude cirrus by the MU radar and Raman/Mie lidar, <i>Earth Planets Space</i> , 61, e33-e36, 2009.
	M.K. Yamamoto, M. Abo, T. Kishi, N. Nishi, T. H. Seto, H. Hashiguchi, M. Yamamoto, and S. Fukao, Vertical air motion in midlevel shallow-layer clouds observed by 47-MHz wind profiler and 532-nm Mie lidar: Initial results, <i>Radio Sci.</i> , 44, RS4014, doi:10.1029/2008RS004017, 2009.
	Luce, H., T. Nakamura, M. K. Yamamoto, M. Yamamoto, and S. Fukao, MU radar and lidar observations of clear-air turbulence underneath cirrus, <i>Mon. Wea. Rev.</i> , 138(2), 438-452, doi:10.1175/2009MWR2927.1, 2010.

山本 衛	<p>Thampi, S. V., and M. Yamamoto, First results from the ionospheric tomography experiment using beacon TEC data obtained using a network along 136°E longitude over Japan, <i>Earth Planets Space</i>, 62, 359-364, 2010.</p> <p>Liu H., S. V. Thampi, and M. Yamamoto, Phase reversal of the diurnal cycle in the mid-latitude ionosphere, <i>J. Geophys. Res.</i>, 115, A01305, doi:10.1029/2009JA014689, 2010.</p> <p>Tsunoda, R. T., D. M. Bubenik, S. V. Thampi, and M. Yamamoto, On large-scale wave structure and equatorial spread F without a post-sunset rise of the F layer, <i>Geophys. Res. Lett.</i>, 37, L07105, doi:10.1029/2009GL042357, 2010.</p> <p>Balan, N., K., Shokawa, Y. Otsuka, T. Kikuchi, D. Vijaya Lekshmi, S. Kawamura, M. Yamamoto, and G. J. Bailey, A physical mechanism of positive ionospheric storms at low latitudes and midlatitudes, <i>J. Geophys. Res.</i>, 115, A02304, doi:10.1029/2009JA014515, 2010.</p> <p>Thampi, S. V., M. Yamamoto, H. Liu, S. Saito, Y. Otsuka, and A. K. Patra, Nighttime-like quasi-periodic echoes induced by a partial solar eclipse, <i>Geophys. Res. Lett.</i>, 37, L09107, doi:10.1029/2010GL042855, 2010.</p>
島上宗子	<p>島上宗子「インドネシアにおける村落ガバナンス—共同体か、自治体か、行政末端組織か—」永井史男・船津鶴代編『東南アジアにおける自治体ガバナンスの比較研究』調査研究報告書、日本貿易振興機構アジア経済研究所、2010年3月、110～127頁</p>
佐々木綾子	<p>Shimegami, Motoko, "An Irai Interchange Linking Japan and Indonesia: An Experiment in Interactive Learning and Action Leading toward Community-Based Forest Management" <i>Afrasia Working Papers</i> No. 46, 2009</p> <p>佐々木 綾子, 2009. タイ北部における養蜂食用茶「ミアン」の伝播に関する一考察. <i>ヒマラヤ学誌</i>, 10: 190-196</p> <p>佐々木 綾子, 2009. 養蜂茶文化の地域固有性を考える. <i>茶の世界</i>, 12: 18-19</p>
米澤 剛	<p>Yonzawa Go.: 3-D Topographical Analysis in Hanoi, Vietnam, <i>東南アジア研究</i>, 46 巻, 4 号, 2009, pp. 519-531.</p> <p>米澤 剛, 柴山 守: ハノイの地形と水文環境 - 3次元都市モデルの構築 -, <i>情報処理学会研究報告</i> 2009, 2009-CH-83(19), 2009, pp.1-7.</p>

2. 著書	
篠原真毅	篠原 真毅,『有機薄膜太陽電池の最新技術 II』(監修: 上原 謙, 吉川 運), 第 6 章 有機薄膜太陽電池の応用化とその市場動向 4. 宇宙太陽光発電と関連技術, シーエムシー出版, 2009, pp.304-311
	松本 紘, 篠原 真毅,『京の宇宙学』(松本紘編著), 第 4 章太陽系を食べる, 2009
	篠原 真毅, 丹羽直哉,『非接触電力伝送技術の最前線』(監修: 松本英敏), 2.2 建物内のマイクロ波電力伝送システム, シーエムシー出版, 2009, pp.93-104
	橋本隆志, 岸 則政, 篠原 真毅,『非接触電力伝送技術の最前線』(監修: 松本英敏), 2.3 EV 用無線給電システム(マイクロ波), シーエムシー出版, 2009, pp.105-120
田中雅一	田中雅一「ひとりでだけどふたり?ひとりでだからふたり?——ダブルの民族誌をめぐって」東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所『シングル』と社会—人類学的研究』研究会 2009 年 5 月 6 日
	田中雅一「エイジェントは誘惑する——社会・集団をめぐる闘争モデル批判の試み」東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所『人類社会の進化的基盤研究(2)』研究会 2009 年 6 月 17 日
	田中雅一「歓待の人類学」趣旨説明・コメント京都人類学研究会 7 月季節例会 2009 年 7 月 17 日
	田中雅一「多文化世界としての現代インド」京大大学院人文科学研究センタープロジェクト 2 第 1 回合京大大学院人文科学研究所 2009 年 7 月 24 日
	田中雅一「Education on Religious Culture in Religious Studies and Education in Britain: Some Findings」科学研究費補助金基盤研究(A)「大学における宗教文化教育の質化を図るシステム構築」国際集会国立民族学博物館 2009 年 8 月 10 日。
	田中雅一「Management and Marketing of Globalization Asian Religions」コメント, 国立民族学博物館国際シンポジウム, 2009 年 8 月 11 日-14 日
	田中雅一ハネル「ジェンダー宗教の確立にむけて」コメント, 日本宗教学会第 68 回学術大会 2009 年 9 月 12 日
	田中雅一「京大大学における探検と人類学」国立民族学博物館『日本の人類学史の研究』研究会 2009 年 10 月 17 日
	田中雅一「軍隊——ナショナルとトランスナショナル」日本文化人類学会公開講演会講演「文化人類学から世界を見る」2009 年 11 月 14 日
	田中雅一「異に触れ、異に交わる 文化人類学の立場から」シリーズとニースの会講演 2009 年 11 月 20 日
	田中雅一「多文化世界としての現代インド」人間文化研究機構プログラム「現代インド地域研究」2009 年度全体集会京都大学稲盛ホール 2009 年 12 月 5 日
	田中雅一「21 世紀アジア社会の人類学 回顧と展望」コメント, 南山大学人類学研究所 2009 年 12 月 19 日
	田中雅一「コンタクト・ゾーンとしての占領期ニッポン」京大大学院人文科学研究所『東洋文化接撞領域の人文学』2010 年 2 月 15 日
	田中雅一「国境 デイアスポラ・アート実践」京大大学院現代インド地域研究拠点総括班第 1 回合京大大学院稲盛ホール 2010 年 3 月 23 日
	田中雅一「コンタクト・タイムゾーン」東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所『社会空間論の再検討——時間的視座から』研究会 2010 年 3 月 28 日
	田中雅一「儀礼化をめぐって——制度への実践論的アプローチ」東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所『人間社会の進化的基盤研究(2)』研究会 2010 年 3 月 29 日
	田中雅一「強壮する男性身体」東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所『もの』の人類学的研究——もの、身体、環境のダイナミクス』研究会 2010 年 3 月 30 日
木村大治	木村大治, 北西功一(編著) 2010『森棲みの生態誌 —アフリカ熱帯林の人・自然・歴史 I』xvi+425pp. 京都大学術出版会



木村大治	木村大治, 北西功一 (編著) 2010『森棲みの社会誌 - アフリカ熱帯林の人・自然・歴史 ILJin+388pp. 京都大学学術出版会 木村大治, 中村美知夫, 高梨克也 (編著) 2010『インタラクシオンの境界と接続 - サル・人・会話研究から』445pp. 昭和堂
木村周平	木村周平 2010『われわれのくつながら』『地球圏・生命圏・人間圏: 持続的な生存基盤を求めて』杉原薫・川井秀一・河野泰之・田辺明生 (編) 京都大学学術出版会, pp.337-364. 木村周平 2009『希望の過去, 幻想の未来: 想像力のリアリティ』『経済からの脱出』藤田竜也・深田海太郎 (編), 春風社, pp.57-81. 増原善之, 2009, 『霧が晴れた朝 - フラハバン県古文書調査の「コマから」』, 新谷忠彦他編『タイ文化圏の中のオース: 物質文化・言語・民族』, 慶友社, 125-9 頁.
松林公蔵	Matsubayashi K: Demographic transition and the elderly. In An Illustrated Eco-history of the Mekong River Basin (ed by Akimichi T), White Lotus, pp 118-120, 2009. 松林公蔵 (監修): 登山の医学ハンドブック (改訂2版), 杏林書院, 2009. Matsubayashi K: Demographic transition and the elderly. In An Illustrated Eco-history of the Mekong River Basin (ed by Akimichi T), White Lotus, pp 118-120, 2009. 松林公蔵 (監修): 登山の医学ハンドブック (改訂2版), 杏林書院, 2009. Kimura Y, Wada T, Ishine M, Ishimoto Y, Kasahara Y, Hirotsuki M, Komno A, Nakatsuka M, Sakamoto R, Okumiyu K, Otsuka K, Matsubayashi K: Community-dwelling elderly with chewing difficulties are more disabled, depressed and have lower quality of life scores. Geriatr Gerontol Int 9: 102-104, 2009. Ishimoto Y, Wada T, Hirotsuki M, Kasahara Y, Kimura Y, Komno A, Nakatsuka M, Ishine M, Okumiyu K, Fujisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K: Health-related differences between participants and nonparticipants in community-based geriatric examinations. J Am Geriatr Soc. 57(2):300-2, 2009 Sakamoto R, Ohno A, Nakahara T, Satomura K, Iwanaga S, Kouyama Y, Kura F, Noami M, Kusaka K, Funato T, Takeda M, Matsubayashi K, Okumiyu K, Kato N, Yamaguchi K.: Is driving a car a risk for Legionnaires' disease? Epidemiol Infect. Apr 20:1-8, 2009. Kimura Y, Wada T, Ishine M, Ishimoto Y, Kasahara Y, Komno A, Nakatsuka M, Sakamoto R, Okumiyu K, Fujisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K: Food diversity is closely associated with activities of daily living, depression, and quality of life in community-dwelling elderly people. J Am Geriatr Soc. May;57(5):922-4 2009. Ishimoto Y, Wada T, Hirotsuki M, Kasahara Y, Kimura Y, Komno A, Nakatsuka M, Sakamoto R, Ishine M, Okumiyu K, Fujisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K.: Age and sex significantly influence fall risk in community-dwelling elderly people in Japan. J Am Geriatr Soc. 2009 May;57(5):930-2, 2009. Shimizu Y, Nkshinga M, Takata J, Miyano I, Okumiyu K, Matsubayashi K, Ozawa Y, Yasuda N, Dpt Y: B-type natriuretic peptide is predictive of hospitalization in community-dwelling elderly without heart diseases. Geriatr Gerontol Int 9: 148-154, 2009. Yamamoto N, Hotta N, Takasugi E, Ishikawa M, Murakami S, Yamanaoka T, Yamanaoka G, Hanafusa T, Matsubayashi K, Otsuka K.: The effect of glucose tolerance on central and brachial pressure in elderly people. J Am Geriatr Soc. 2009 Jun;57(6):1120-2 2009. Hirotsuki M, Ishimoto Y, Kasahara Y, Kimura Y, Komno A, Sakamoto R, Nakatsuka M, Ishine M, Wada T, Okumiyu K, Fujisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K.: Community-dwelling elderly Japanese people with hobbies are healthier than those lacking hobbies. J Am Geriatr Soc. Jun;57(6):1132-3, 2009. Yamamoto N, Hotta N, Takasugi E, Ishikawa M, Murakami S, Yamanaoka T, Yamanaoka G, Hanafusa T, Matsubayashi K, Otsuka K. The effect of glucose tolerance on central and brachial pressure in elderly people. J Am Geriatr Soc. 2009 Jun;57(6):1132-3 Yamamoto N, Yamanaoka G, Takasugi E, Ishikawa M, Yamanaoka T, Murakami S, Hanafusa T, Matsubayashi K, Otsuka K. Lifestyle intervention reversed cognitive function in aged people with diabetes mellitus: two-year follow up. Diabetes Res Clin Pract. 2009 Sep;85(3):343-6 Yamamoto N, Yamanaoka G, Ishikawa M, Takasugi E, Murakami S, Yamanaoka T, Ishine M, Matsubayashi K, Hanafusa T, Otsuka K. Cardio-Ankle Vascular Index as a Predictor of Cognitive Impairment in Community-Dwelling Elderly People: Four-Year Follow-Up. Dement Geriatr Cogn Disord. 2009 Aug 20;28(2):153-158

<p>松林公蔵</p>	<p>Sakamoto R, Ohno A, Nakahara T, Satomura K, Iwanaga S, Koyama Y, Kura F, Kato N, Matsubayashi K, Okumiya K, Yamaguchi K. Legionella pneumophila in rainwater on roads. <i>Rmerg Infect Dis</i> . Aug;15(8):1295-1297, 2009</p> <p>Matsubayashi K, Ishine M, Wada T, Ishimoto Y, Kasahara Y, Kimura Y, Nakatsuka M, Sakamoto R, Fujisawa M, Okumiya K, Otsuka K. Changing attitudes of elderly Japanese toward disease. <i>J Am Geriatr Soc</i>. September;57(9), 1732-1733, 2009.</p> <p>Matsubayashi K, Kimura Y, Sakamoto R, Wada T, Ishimoto Y, Hirotsuki M, Konno A, Chen WL, Ishine M, Kosaka Y, Wada C, Nakatsuka M, Otsuka K, Fujisawa M, Wang HX, Dai QX, Yang A, Gao JD, Li ZQ, Qiao HS, Zhang YS, Ge RL, Okumiya K. Comprehensive geriatric assessment of elderly highlanders in Qinhai, China I. Activities of daily living, quality of life and metabolic syndrome. <i>Geriatr Gerontol Int</i> 9 (4):333-341, 2009.</p> <p>Okumiya K, Sakamoto R, Kimura Y, Ishine M, Kosaka Y, Wada T, Wada C, Nakatsuka M, Ishimoto Y, Hirotsuki M, Kasahara K, Konno A, Chen WL, Fujisawa M, Otsuka K, Nakashima M, Wang HX, Dai QX, Yang A, Gao JD, Li ZQ, Qiao HS, Zhang YS, Ge RL, Matsubayashi K, Comprehensive geriatric assessment of elderly highlanders in Qinhai, China II: The association of polycythemia with lifestyle-related diseases among the three ethnic. <i>Geriatr Gerontol Int</i> 9 (4):342-351, 2009.</p> <p>Sakamoto R, Matsubayashi K, Kimura Y, Ishine M, Kosaka Y, Wada T, Wada C, Nakatsuka M, Ishimoto Y, Hirotsuki M, Kasahara K, Konno A, Chen WL, Fujisawa M, Otsuka K, Nakashima M, Wang HX, Dai QX, Yang A, Gao JD, Li ZQ, Qiao HS, Zhang YS, Ge RL, Okumiya K.</p> <p>Comprehensive geriatric assessment of elderly highlanders in Qinhai, China III: Oxidative stress and aging in Tibetan and Han elderly highlanders. <i>Geriatr Gerontol Int</i> 9 (4):352-358, 2009.</p> <p>Kimura Y, Okumiya K, Sakamoto R, Ishine M, Wada T, Kosaka Y, Wada C, Ishimoto Y, Hirotsuki M, Kasahara K, Konno A, Chen WL, Fujisawa M, Otsuka K, Nakatsuka M, Wang HX, Dai QX, Yang A, Gao JD, Li ZQ, Qiao HS, Zhang YS, Ge RL, Matsubayashi K. Comprehensive geriatric assessment of elderly highlanders in Qinhai, China IV: Comparison of food diversity and its relation to health of Han and Tibetan elderly. <i>Geriatr Gerontol Int</i> 9 (4):359-365, 2009.</p> <p>Wada T, Ishimoto Y, Hirotsuki M, Konno A, Kasahara Y, Kimura Y, Nakatsuka M, Sakamoto R, Ishine M, Okumiya K, Fujisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K. Twenty-one-item Fall Risk Index Predicts Falls in Community-dwelling Japanese Elderly. <i>J Am Geriatr Soc</i> 57(12):2369-2371, 2009</p> <p>Hirotsuki M, Ishimoto Y, Kasahara Y, Konno A, Kimura Y, Fukutomi E, Chen WL, Nakatsuka M, Fujisawa M, Sakamoto R, Ishine M, Okumiya K, Otsuka L, Wada T, Matsubayashi K. Self-Rated Health and Comprehensive Geriatric Functions in Community-Living Elderly in Japan. <i>J Am Geriatr Soc</i> 58 (1):207-209, 2010.</p> <p>Matsubayashi K, Sakagami T, Wada T, Ishine M, Sakamoto R, Yamanaka G, Otsuka K, Fujisawa M, Okumiya . Mood Disorders in the Community-Dwelling Elderly in Asia. <i>J Am Geriatr Soc</i>, 58 (1):213-214, 2010.</p> <p>Fujisawa M, Matsubayashi K, Soumah AG, Kasahara Y, Nakatsuka M, Matsuzawa T. Farsightedness (presbyopia) in a wild elderly chimpanzee: The first report. <i>Geriatr Gerontol Int</i> 10:113-114, 2010.</p> <p>Okumiya K, Sakamoto R, Kimura Y, Ishimoto Y, Wada T, Ishine M, Ishikawa M, Nakajima S, Hozo R, Gr RL, Norrbob T, Otsuka K, Matsubayashi K. Strong association between polycythemia and glucose intolerance in elderly high-altitude dwellers in Asia. <i>J Am Geriatr Soc</i> 58 (3):609-611, 2010</p> <p>Matsubayashi K, Ishine M, Wada T, Sakamoto R, Okumiya K, Ishikawa M, Yamanaka G, Yamamoto N, Otsuka K, Nishinaga M, Doi Y, Murakami S, Fujisawa M, Yano S. Community-Based Geriatric Assessment and Preventive Intervention Lowered Medical Expenses for the Elderly. <i>J Am Geriatr Soc</i>, 58 (4):801-804, 2010.</p> <p>松林公蔵:地域における転倒の実態. <i>Geriatric Medicine</i> 47(6):689-692, 2009.</p> <p>和田泰三、松林公蔵:メタボリックシンドロームは転倒の危険因子か? <i>Geriatric Medicine</i> 47(6):707-709, 2009.</p> <p>鈴木隆雄、松林公蔵、小川純人、鳥羽研二:転倒:典型的な老年医学のテーマとしての位置づけ. <i>Geriatric Medicine</i> 47(6):767-779, 2009.</p> <p>和田泰三、奥吉清人、松林公蔵:介護予防ガイドライン. <i>理学療法ジャーナル</i> 43(9): 819-826, 2009</p> <p>松林公蔵:高齢者の QOL. <i>日本医師会雑誌</i> 138: S304-S305 2009.</p>
-------------	---

松林公藏	松林公藏, 和田泰三. :地域在住高齢者の抑うつ—フィールド医学の視点から— Geriatric Medicine 47(11):1453-1456, 2009.
白石壮一郎	白石壮一郎編 (2009). 編著『アフリカ地域社会における資源管理とガバナンスの再編—住民の生計戦略をめぐる協働とコンフリクト』, Kyoto Working Papers on Area Studies, No.84. 京都大学東南アジア研究所
長岡敏介	長岡敏介『イスタンブール—金融と国際経済』山川出版社, 2010年. (小杉泰との共著)
生方史教	市川昌弘, 生方史教, 内藤大輔編 2010年3月『熱帯アジアの人々と森林管理制度:現場からのガバナンス論』人文書院, 278頁
和田泰三	佐藤孝宏, 和田泰三. 終章 生存基盤指数からみる世界, 杉原薫ら編『地球圏・人間圏—持続可能な生存基盤を求めて—』395-420頁, 京都大学出版会, 2010年3月
河野泰之	杉原薫, 川井秀一, 河野泰之, 田辺明生編, 2010. 『地球圏・人間圏—持続可能な生存基盤とは何か—』, 京都大学学術出版会, 427p.
杉原 薫	杉原 薫 『戦後世界システムの変容と東アジア—歴史の展望—』, 浦田秀次郎・財務省財務総合政策研究所編『グローバル化と日本経済』, 勁草書房, 2009年7月
水野一晴	杉原 薫 『地球圏・人間圏—人類にとって生存基盤とは何か—』(川井秀一, 河野泰之, 田辺明生と共編), 京都大学学術出版会, 2010年3月. 序章「持続可能な生存基盤パラダイムとは何か」, 「第1編のねらい」および第1章「グローバル・ヒストリーと複数発展経路」を執筆. Mizuno, K. (2010): Historical Change and its Problem on the Relationship between Natural Environments and Human Activities in Southern Africa. African Study Monographs, Supplementary Issue, No.40, 194p. 水野一晴 (2009): 世界の沙漠—アフリカ. 日本沙漠学会編『沙漠の事典』丸善, 7. 水野一晴 (2009): アフリカの生態. 日本沙漠学会編『沙漠の事典』丸 善, 125.
海田るみ	Kaida R., Serada S., Norioka N., Norioka S., Neumeitler L., Pauly M., Sampedro J., Zarra I., Hayashi T., Kaneko S. T. (2010) Potential role for purple acid phosphatase in the dephosphorylation of wall proteins in tobacco cells. Plant Physiol. (in press) Kaida R., Sugawara S., Negoro K., Maki M., Hayashi T., Kaneko T. (2010) Acceleration of cell growth by xyloglucan oligosaccharides in suspension-cultured tobacco cells. Mol. Plant (in press) Hayashi T., Kaida R., Kaku T., Baba K. (2010) Loosening xyloglucan prevents tensile stress in tree stem bending but accelerates the enzymatic degradation of cellulose. Russian J. Plant Physiol. 57, 316-320. Kaida R., Kaku T., Baba K., Oyedomari M., Watanabe T., Nishida K., Kanaya T., Shani Z., Shoseyov O., Hayashi T. (2009) Loosening xyloglucan accelerates the enzymatic degradation of cellulose in wood. Mol. Plant 2, 904-909. Kaida R., Kaku T., Baba K., Hayashi T. (2009) Enzymatic saccharification and ethanol production of <i>Acacia mangium</i> and <i>Paraserianthes falcataria</i> wood, and oil palm trunk. J. Wood Sci. 55, 381-386. Kaida R., Kaku T., Baba K., Harati S., Sudarmonowati E., Hayashi T. (2009) Enhancement of saccharification by overexpression of poplar cellulase in sengon. J. Wood Sci. 55, 435-440. Kaida R., Saoh Y., Bulone V., Yamada Y., Kaku T., Hayashi T., Kaneko T. (2009) Activation of b-glucan synthases by wall-bound purple acid phosphatase in tobacco cells. Plant Physiol. 150, 1822-1830. Baba K., Park W.P., Kaku T., Kaida R., Takeuchi M., Yoshida M., Hosoo Y., Ojio Y., Okuyama T., Taniguchi T., Ohmiya Y., Kondo T., Shani J., Shoseyov O., Awano T., Serada S., Norioka N., Norioka S., Hayashi T. (2009) Xyloglucan for Generating Tensile Stress to Bend Tree Stem. Mol. Plant 2, 893-903.
甲山治	Hayashi T., Kaida R., Mitsuuda N., Ohime-Takagi M., Nishikubo N., Kidou S., Yoshida K. (2009) Enhancing primary raw materials for biofuels. In Biomass to Biofuels, Wiley, pp 459-489. 甲山治「第4章 地球圏の駆動力としての熱帯」地球圏・人間圏:持続可能な生存基盤とは何か』杉原薫・川井秀一・河野泰之・田辺明生(編), 2010年3月 O. Kozan, "Water Resource Management in the Arid Region of Central Asia under Climate Change". Textbook of the Nineteenth IHP Training Course "Water Resources and Water Related Disasters under Climate Change - Prediction, Impact Assessment and Adaptation -", 8 pages, 2009.

川井秀一	川井秀一:第10章 炭素貯留源としての木材の役割と持続的・循環的な産材利用、p.185-202. 地球温暖化問題への農学の挑戦、日本農学会編、義賢堂、2009
川井秀一	川井秀一:第7章 熱帯林生命圏の創出、地球圏・生命圏—持続的な生存基盤を求めて—、p.215-231、京都大学学術出版会、2010
籠谷直人	籠谷直人、脇村孝平共編著『帝国とアジア・ネットワーク—長期の19世紀』世界思想社、2009年11月。
島田周平	島田周平 2009.11.28 「アフリカ農村開発に求められていること—脆弱性の観点からの提言—」 日本国際地域開発学会
島田周平	島田周平 2010.3.28 「ナイジェリアの地域紛争に関する新しい研究動向」 日本地理学会春季大会
水野広祐	Mizuno Kosuke, Pasuk Phongpatchit, ed., 2009. Populism in Asia, Kyoto CSEAS Series on Asian Studies Volume 2, Singapore: National University of Singapore Press, Kyoto: Kyoto University Press, 2009, 228p. (査読あり)
田辺明生	田辺明生 『カーニストと平等性—インド社会の歴史人類学』東京大学出版会 576頁 2010年2月
藤田幸一	杉原 薫・川井秀一・河野泰之・田辺明生編『地球圏・生命圏——持続型生存基盤とは何か』京都大学学術出版会 427頁全体を共編ほか、「生存基盤の思想——連続的生命と行為主体性」の章を担当 2010年3月
梅村研二	Fujita, K., Re-thinking Economic Development: The Green Revolution, Agrarian Structure and Transformation in Bangladesh, Kyoto UP and Trans Pacific Press, March 2010.
清水 展	梅村研二:クエン酸を結合剤とした新しい木質成形体の開発、プラスチックス、Vol.61, No.2, 62-64(2010)
佐藤孝宏	清水 展 「グローバル化時代の地域ネットワークの再編:遠隔地環境主義の可能性」杉原薫、他(編)『地球圏・生命圏・人間圏:持続的な生存基盤を求めて』京都大学学術出版会 pp.305-336, 2010年3月
渡辺一生	佐藤孝宏、和田泰三、2010. 「生存基盤指教からみる世界」、杉原薫、川井秀一、河野泰之、田辺明生編著『地球圏・生命圏・人間圏—持続的な生存基盤を求めて—』京都大学学術出版会、pp.495-420.
宮本万里	河野泰之、宮川修一、渡辺一生 (2009): 一つの村の水稲収量図から社会の変化を読み取る—東南アジアの農業発展—、水島司、柴山守編『地域研究のためのGIS入門』古今書院、東京、81-91。(査読なし)
梶 茂樹	宮本万里、『自然保護をめぐる文化の政治—ブータン牧畜民の生活、信仰・環境政策』風響社、2009年。
細田尚美	梶 茂樹・砂野幸絵(編)『アフリカのことばと社会—多言語状況を生きるということ』三 元社、2009.4、557p.
柳澤雅之	梶 茂樹・中島由美・林徹(編)『事典 世界のことば141』大修館、2009.4、xxiv+584.
籠谷直人	細田尚美、2009. 「海外就労先の開拓し続けるフィリピン」笹川平和財団「人口変動の新潮流への対処」研究(編)『外国人労働者問題をめぐる資料集1』99-133ページ.
田中耕司	細田尚美、2009. 「フィリピン人にとって移住労働とは」安里和晃・前川典子(編)『始動する外国人人材による看護・介護—受け入れ国と送り出し国の対話』26-29 ページ.
藤田素子	柳澤雅之、2009. 「東南アジア生態史」『東南アジア史研究の展開』東南アジア学会(監修)東南アジア史学会40周年記念事業委員会(編集)pp.156-171.東京: 山川出版社.
	籠谷直人「近代東アジアにおける自由貿易原則の浸透」、遠藤龍寛『グローバル・ガバナンスの人と思想』有斐閣、2009年11月、1-16、79-99頁。
	籠谷直人「自由貿易原則における自由貿易原則の浸透」、遠藤龍寛『グローバル・ガバナンスの人と思想』有斐閣、2009年11月、217-242頁。
	籠谷直人「自由貿易原則に東亜浸透」、李玉主編『東亜の価値』北京大学出版社、2010年1月、160-177頁。
	田中耕司「東アジアモンスーン地域の生存基盤としての持続的農業」杉原 薫他(編)『地球圏・生命圏・人間圏—持続的な生存基盤を求めて』京都大学学術出版会、pp. 61-88, 2010年3月(査読なし)
	藤田素子「大規模プランテーションと生物多様性保全—ランドスケープ管理の可能性—」『地球圏・生命圏・人間圏—持続的な生存基盤を求めて—』(杉原薫、川井秀一、河野泰之、田辺明生共編)京都大学学術出版会、2010年4月。

藤田素子	藤田素子「菜菔種の供給からみる、都市におけるハシブトガラスの役割」『カラスの自然史』(樋口広芳・黒沢令子編)北海道大学出版会から刊行予定。
石川 登	石川 登. 2010. 「歴史のなかのバイオマス社会」形原薫, 川井秀一, 河野泰之, 田辺明生編『地球圏・生命圏・人間圏—持続的な生存基盤を求めて—』京都大学学術出版会, (査読無)
柴山 守	(共編著)水島 司, 柴山 守:『地域研究のためのGIS』古今書院, 平成 21 年 9 月
矢野浩之	矢野浩之, アントニオ・リオ・ナカガイト, 阿部賢太郎, 能本雅也:セルロースナファイバーの製造と利用, “木質系有機資源の新展開Ⅱ”, 船岡正光監修, シーエムシー出版, 東京, pp.183-190 (2009)
	矢野浩之, アントニオ・リオ・ナカガイト, 阿部賢太郎, 能本雅也: バイオナファイバーの製造と利用, “Plastic Age Encyclopedia 進歩編 2010”, Plastic Age Encyclopedia 進歩編編集委員会 2010, プラスチック・エージ, 東京, pp.73-80 (2009)
	能本雅也, 矢野浩之: “第6章3節 バイオナファイバーから作る透明ナノマテリアル”, 製品高付加価値化のためのエレクトロニクス材料, 坂本正典監修 (分担執筆), シーエムシー出版, 東京, 2009, 229-242
	矢野浩之, 阿部賢太郎, 小林陽子, 能本雅也: “フロンテッドエレクトロニクス技術最前線”, 菅沼克昭 (分担執筆), シーエムシー出版, 東京, 2010, 93-97
片岡樹	片岡樹 (2009) “基督教と跨境民族: 泰國拉祜族の族群认同”塚田誠之, 何明主編《中国辺境民族的迁徙流动与 文化动态》云南人民出版社, pp. 351-368.
	片岡樹 (2009) 「アジア周縁社会における移住と国家権力—華南・東南アジア山地民ラフの事例から—」塚田誠之編『中国国境地域の移動と交流—近現代中国の南と北—』有志舎, 261-284 頁
竹田晋也	竹田晋也. 2010. 「熱帯林研究—探検からの系譜」梅棹忠夫監修『DVDブックカラコルム・花嫁の峰』ゴリザニアワールド科学のバイオニアたち』176-185. 京都大学学術出版会, 京都
	Takeda, S. 2009. The opium poppy. In Tomoya Akimichi eds. An Illustrated Eco-history of the Mekong River Basin, White Lotus, Bangkok. 143-145
	Anoulom, viayphone and S. Takeda. 2009. Secondary Forests. In Tomoya Akimichi eds. An Illustrated Eco-history of the Mekong River Basin, White Lotus, Bangkok. 5-7
速水洋子	速水洋子 2009 年 11 月 「カレンとは誰か」エコノリズムにみる芯答と戦略としての自己表象」窪田幸子・野林厚志編『先住民とはたれか』世界思想社 248-272 頁.
風戸真理	風戸真理 (2010) 「モンゴル牧畜社会における銀製品—その経済的価値と文化 的価値」Kyoto Working Papers on Area Studies, No. 87, ISPS Global COE Program Series 85 In Search of Sustainable Humanoosphere in Asia and Africa.
岡本正明	Okamoto Masaaki, Populism under Decentralization in post-Suharto Indonesia. In Mizuno Kosuke and Pasuk Pongpaichit (eds.), Populism in Asia, 2009, 144-164
	岡本正明, 「第 4 章, 政党, 候補者の「創造」—民主化と選挙コンサルタント業, 本名純・川村晃一編『2009 年インドネシア総選挙と新政権の行方』, 2010 年 3 月, 73-90 頁
	岡本正明, 「9 年目のインドネシア地方分権プロジェクト: ガバメント強化の果て」, 永井史男, 船津鶴代『東南アジアにおける自治体ガバナンスの比較研究』(報告書)
	Okamoto Masaaki, Rise of “Realist” Islamist Party, PKS in Indonesia. Ota Atsushi, Okamoto Masaaki and Ahmad Suedeys eds, 2010. Islam in Contenton: The Rethinking of Islam and State in Indonesia. Jakarta: CSEAS, CAPAS and Wahid Institute (forthcoming)
	Ota Atsushi, Okamoto Masaaki and Ahmad Suedeys eds, 2010. Islam in Contenton: The Rethinking of Islam and State in Indonesia. Jakarta: CSEAS, CAPAS and Wahid Institute (forthcoming)
東長 靖	東 長靖, 中西竜也編『イブン・アラビー学派文献目録』京都大学イスラーム地域研究センター, 2010 年 3 月。
梅澤 俊明	梅澤 俊明, “第二世代バイオ燃料の開発と応用展開 (名譽監修: 吉田和哉, 監修: 植田亮美, 福岡英一郎)”, 第 6 章 バイオフィアインリー適応型植物バイオマス 1. リグニンの代謝制御による木質バイオマスの改良, シーエムシー出版, 2009, pp.103-111
荒木茂	荒木茂(編著), 『仮想地球』の試み—地域と地球をつなぐ—, 平成 19-21 年度科学研究費補助金, 基盤研究(A)『仮想地球空間』の創出に基づく地域研究統合データベースの構築』研究成果報告書, 463p.
神崎 護	神崎 護・山田明徳. 2010. 生存基盤としての生物多様性. 杉原薫, 河野泰之, 田辺明生編. 地球研・生命圏・人間圏, pp.153-184. 京都大学出版会, 京都.

星川圭介	福井純明, 星川圭介 2009. 『タムノップータイ・カンボジアの消えつつある塩灘』, めこん
渡辺隆司	渡辺隆司, セルロース系バイオエタノール製造技術, 白色腐朽菌の特異的リグニン分解能を利用した木質バイオマスの酵素糖化前処理, NTS 出版, 2010, pp.133-145 渡辺隆司, 産業構造の大転換ーバイオリアファイナリーの衝撃ー, 地球圏・人間圏 持続的な生存基盤を求めて, 京都大学学術出版会, 2010, pp.281-300 渡辺隆司, ヘミセルロースの反応, 文永堂出版, 木質の化学, 2010, pp.136-153 渡辺隆司, 担子菌・マイクロ波照射前処理と高速発酵細菌を用いる高効率バイオエタノール生産システム, 次世代バイオエタノール燃料製造の最新技術と事業化, フロンティア出版, 2010, pp.287-294 渡辺隆司, リグニセルロースの酵素糖化前処理, 次世代バイオエタノール燃料製造の最新技術と事業化, フロンティア出版, 2010, pp.123-139 渡辺隆司, 木質系有機資源の新展開 II, 糖質の転換利用, シーエムシー出版, 2009, pp.222-234 渡辺隆司, バイオマスハンドブック第二版 (日本エネルギー学会編), 白色腐朽菌によるリグニン分解, オーム社, 2009, pp.189-196 坪田 潤, 渡辺隆司, 第二世代バイオ燃料の開発と応用展開, 木質等難分解性バイオマスのメタン発酵, シーエムシー出版, 2009, pp.209-219
岩田明久	岩田明久, 2009, 桂川におけるアユモドキの保全, pages 262-274, in 西野麻知子編とりとせ! 琵琶湖・淀川の原因風景, サンライズ出版, 彦根. 岩田明久, 鈴木寿之, (2010). ハゼ類, pages 644-648, in 野生動物保護の事典, 朝倉書店, 東京. 岩田明久, 2009, 亀岡の淡水魚(4)ー各論ースナヤツメ, 亀岡植物誌研究会, 亀岡の自然(5): 19-22. 岩田明久, 2009, 亀岡におけるアユモドキの生態とその現状, pages 13-18, in 亀岡市文化資料館編, 第 24 回特別展 国の天然記念物アユモドキと保津川水系のサカナたち, 亀岡市文化資料館, 亀岡市 亀岡 人と自然のネットワーク(岩田明久・川村 敬), 2009, 平成 20 年度アユモドキ保護増殖調査事業報告書(京都府用): 1-48. 岩田明久, 2009, アユモドキ, 学名の歴史・和名の歴史, 魚類自然史研究会報 ボテジヤコ(14): 19-25. 岩田明久, 2010, 亀岡の淡水魚(4)ー各論ータナゴ類, 亀岡植物誌研究会, 亀岡の自然(6):14-20. 池野 旬(2010) 『アフリカ農村と貧困削減ータンザニア 開発と遭遇する地域ー』 京都大学学術出版会。
井合 進	井合 進, 「地球規模での対応戦略」 グリーン産業革命-社会経済システムの改編と技術戦略, 日経 BP 社, 192-203 (2010)
孫 暁剛	河野泰之・孫暁剛・星川圭介 2009, 「水の利用から見た熱帯社会の多様性」, 形原薫・川井秀一・河野泰之・田辺明生 (共編) 『地球圏・人間圏ー持続的な生存基盤を求めてー』 京都: 京都大学学術出版会
太田 至	太田至, 2009 『家畜が伝えること』 日本文化人類学会 (編) 『文化人類学事典』, 丸善, pp.290-291
島上宗子	島上宗子 『フィールドワークという実践』 荒木徹也・井上真嗣 『フィールドワークからの国際協力』, 昭和堂, 2009 年 6 月, 202-203 頁 島上宗子 『インドネシアにおけるコミュニティ林 (Hkm) 政策の展開: ランブアン州ブツァン山麓周辺地域を事例として』, 市川昌広・生方史敷・内藤大輔編 『熱帯アジアの人々と森林管理制度ー現場からのガバナンス論』, 人文書院, 2010

3. 講演、発表	
篠原真毅	(Invited) Naoki Shinohara and Shigeo Kawasaki, "Recent Wireless Power Transmission Technologies in Japan for Space Solar Power Stations/Satellite", 2009 IEEE Radio & Wireless Symposium, San Diego, 2009.1.18-22, Proceedings CD-ROM MO2A-4-234.pdf
	(招待) 篠原真毅, "マイクロ波を用いた電気自動車の無線充電システム", 第13回モーションコントロールシンポジウム, 2009.4.17, pp.G6-1-1 - G6-1-17
	(招待) 篠原真毅, "京都大学におけるSPS研究の取り組みと今後", 第12回宇宙太陽発電システム(SPS)シンポジウム, 2009.11.13-14, 講演集 in print
	(招待) 篠原真毅, "マイクロ波無線電力伝送によるグリーンエネルギー革命 - 利点と課題 -", 2009 Microwave Workshop and Exhibition, 2009.11.25-27, Digest pp.29-34
	(依頼) 篠原真毅, "日本における宇宙太陽発電所 SPS の研究現状", 2010.3.16-19, 電子情報通信学会総合大会 DVD-ROM bs_09_003.pdf
	橋本弘藏, 山川宏, 篠原真毅, 三谷友彦, 高橋文人, 米倉秀明, 平野敬寛, 藤原曜雄, 長野賢司, 川崎繁男, "飛行船からのマイクロ波送電実験", 電子情報通信学会第25回宇宙太陽発電研究会, 2009.4.23, 信学技報SPS2009-03 (2009-04) pp.13-16
	佐藤絵, 小路宗博, 濱島浩志, 浜本研一, 丹羽直幹, 高木賢二, 篠原真毅, 三谷友彦, "建物内マイクロ波配電システムのための機械的に分配比を可変できる導波管型電力分配器", 電子情報通信学会マイクロ波研究会, 2009.5, 信学技報 vol.109, no.62, MW2009-9, pp.1-6
	丹羽直幹, 高木賢二, 本研一, 学治川哲, 篠原真毅, 三谷友彦, 大野泰夫, 取金平, "建築構造物を用いたマイクロ波無線エビキタス電源の実現 その7 実大空間を用いたシステム特性の評価", 日本建築学会大会, 2009.8.29, 予稿集 D-2 環境工学 II pp.1257-1258
	高橋健介, 胡成余, 取金平, 篠原真毅, 丹羽直幹, 大野泰夫, "マイクロ波電力整流用 GaN ショットキーダイオードの S パラメータ解析", 電子情報通信学会ノサイエティ大会, 2009.9.15-18
	三谷友彦, 木村光利, 篠原真毅, "電力可変型位相制御マグネトロンの研究開発", 電子情報通信学会電子デバイス研究会, 2009.10, 信学技報, vol. 109, No. 230, ED2009-127, pp. 59-64
	高橋健介, 取金平, 篠原真毅, 丹羽直幹, 藤原曜雄, 大野泰夫, "マイクロ波無線エビキタス電源用 GaN ショットキーダイオードの開発", 電子情報通信学会電子デバイス研究会, 2009.11, 信学技報, vol. 109, No. 290, ED2009-158, pp. 145-150
	三谷友彦, 藤原曜雄, 長野賢司, 上田英樹, 高橋文人, 米倉秀明, 平野敬寛, 山川宏, 篠原真毅, 橋本弘藏, 川崎繁男, 安藤真, "飛行船実験を通じたマグネトロン送電システムの重量に関する一考察", 第12回宇宙太陽発電システム(SPS)シンポジウム, 2009.11.13-14, 講演集 in print
	篠原真毅, "マイクロ波が関与する新エネルギー技術 - エビキタス電源から宇宙太陽発電まで -", 応用物理学会日本光学会微小光学研究会, 2009.11.27, 講演集 Vol.27, No.4, pp.13-18
	篠原真毅, "宇宙太陽発電のための電力試験衛星に関する一考察", 2010.2.26, 第29回宇宙エネルギーシンポジウム, 講演集 in print
	竹野裕正, 田畑陽平, 中本聡, 八坂保能, 三谷友彦, 篠原真毅, 並木宏徳, "長波長マイクロ波を用いた低侵襲ハイパーサーミアの基礎研究 IV", 電子情報通信学会第28回宇宙太陽発電研究会, 第9回宇宙太陽発電と無線電力伝送に関する研究会, 2010.3.8, 信学技報SPS2009-13 (2010-03) pp.1-5
	根岸絵, 辻正哲, 篠原真毅, 三谷友彦, 荻須正賢, 重場祐太, 高橋友陽, "非破壊検査によるコンクリート中の鉄筋および浮き位置の推定に関する研究", 電子情報通信学会第28回宇宙太陽発電研究会, 第9回宇宙太陽発電と無線電力伝送に関する研究会, 2010.3.8, 信学技報SPS2009-14 (2010-03) pp.7-11
	辻山中雄也, 中川真也, 宮坂寿郎, 大土井克明, 中嶋洋, 清水浩, 橋本弘藏, 篠原真毅, 三谷友彦, "マイクロ波送電電気駆動車の開発 - 小型実験車の製作と通信を用いた送電アンテナの方向制御 -", 電子情報通信学会第28回宇宙太陽発電研究会, 第9回宇宙太陽発電と無線電力伝送に関する研究会, 2010.3.8, 信学技報 SPS2009-16 (2010-03) pp.19-25
	篠原真毅 今津吉昭, 古川実青木勝, 藤原曜雄, "レクテナ技術のバッテリーレス微小電力機器への応用", 電子情報通信学会第28回宇宙太陽発電研究会, 第9回宇宙太陽発電と無線電力伝送に関する研究会, 2010.3.8, 信学技報SPS2009-17 (2010-03), pp.27-32
	小泉昌之, 篠原真毅, 三谷友彦, 外村博史, "電気自動車のマイクロ波無線充電における送電システムの研究", 2010.3.16-19, 電子情報通信学会総合大会 DVD-ROM bs_09_010.pdf
	篠原真毅, 吉川運, "次世代太陽光発電とアジア・アフリカ学術協力: 京大の取り組み", 日本学術会議公開シンポジウム「サハラソーラーブリーダー計画」, 2009.6.30

篠原真毅	篠原真毅, “近傍距離での無線電力伝送-無線電力伝送の新展開-”, AET ワークショップ ニアフィールドテクノロジーが拓く新しいビジネス, 2009.7.2, 講演集 pp.35-60
藤井千晶	篠原真毅, “Energy Harvesting”, NHK 技術局 首都圏技術センター 中央送信部 富瀬久喜ラジオ放送所, 2010.2.18 藤井千晶 「預言者の医学」とは何か—東アフリカ沿岸部の事例からの再検討「京都大学 イスラーム地域研究センター」コミュニティ4「預言者の医学」研究会, 京都, 2009年6月.
平松亜衣子	Fuji, Chiaki, “The Practice of Prophetic Medicine in the Tide of Islamic Revival on the East African Coast”, SIAS-KIAS Joint International Workshop “Depth and Width of Islamic Culture and Society” Kyoto, July 2009. Fuji, Chiaki, “Practice of “the Medicine of the Sunna” on the East African Coast during the Tide of Islamic Revival”, SIAS-KIAS Joint International Workshop “Diversity in the Traditions and Reforms of Islam” Tokyo, February 2010. 平松亜衣子 現代クウェートにおけるイスラームと民主化—市民社会の形成と女性の政治参加を事例に—日本中東学会第25回年次大会 2009年5月17日 広島市立大学 平松亜衣子 クウェートにおける議会政治とイスラーム復興運動—女性の政治参加を焦点として「現代湾岸諸国におけるグローバル化と政治・経済体制」G-COE/KIAS ワークショップ(イニシアティブ1研究会), 2009年9月30日 京都大学 Aiko Hiramatsu, The Changing Nature of the Parliamentary System in Kuwait: the National Elections in the Recent Decades G-COE/KIAS/ Tufs Joint International Workshop on “Globalization and Socio-political Transformation: Asian and the Middle Eastern Dimension” July 30-31, 2009 Kyoto University Aiko Hiramatsu, The Formation of the Civil Society and the Political Participation of Women in Contemporary Kuwait. Second International Conference on “New Horizons in Islamic Area Studies: Identities, Coexistence and Globalization”, December 12-13, 2009 Marriott Hotel, Cairo, Egypt
木村大治	木村大治 「共に在ることの多様性」広聴制度研究会 インフォマルセミナー 2009年4月10日 於 東京
吉村 剛	吉川法子, 中山友栄, 吉村 剛, 今村祐嗣: アフリカヒタキクイムシの分布拡大と食害生態, (株)日本木材保存協会第25回年次大会, 2009年5月21日, 東京 板倉修司, 吉村 剛, 森 拓郎, Emiria Chrysanti, 築瀬佳之, 大村和香子: アメリカンザインシロアリ近縁コロニー間の関連性の推定, 第21回日本環境動物昆虫学会年次大会, 2009年11月15日, 箕面 吉村 剛, 森 拓郎, Emiria Chrysanti, 築瀬佳之, 板倉修司, 大村和香子, 鳥越俊行, 今津節生: 大型 X 線 CT 装置によるアメリカカンザインシロアリ食害材の内部観察, 第21回日本環境動物昆虫学会年次大会, 2009年11月15日, 箕面 築瀬佳之, 吉村 剛, 森 拓郎, Emiria Chrysanti, 板倉修司, 大村和香子: アコーステック・エミッション(AE)及び Termatrac を用いたアメリカカンザインシロアリの食害検出, 第21回日本環境動物昆虫学会年次大会, 2009年11月15日, 箕面 森 拓郎, 築瀬佳之, 田中 圭, 天雲梨沙, 瀧水善吾, 佐藤 烈, 井上正文, 森 浦範, 野田康信, 栗崎 宏, 吉村 剛, 小松幸平: 生物劣化を受けた木材の残存強度特性 その1: トリマツを用いたシロアリ食害と腐朽材の曲げ強度特性, 第60回日本木材学会大会, 2010年3月18日, 宮崎 宮崎
	丸 尚孝, 角田邦夫, 吉村 剛, 今村祐嗣: ペイト工法における誘引・滞留物質の検討, 第60回日本木材学会大会, 2010年3月18日, 宮崎
	西澤翔太, 福永安佑子, 中川明子, 土居修一, 吉村 剛, 堀沢 栄: ヤマトシロアリの摂食行動に対する木材腐朽菌の影響—Fibroporia radialis による摂食抑制効果—, 第60回日本木材学会大会, 2010年3月18日, 宮崎
	古川法子, 吉村 剛, 今村祐嗣: 日本におけるアフリカヒタキクイムシの分布拡大と食害生態, 第60回日本木材学会大会, 2010年3月18日, 宮崎
	豊海 彩, 吉村 剛, 今村祐嗣, 堀沢 栄, 土居修一: 担子菌の床下侵入経路と室業派が木材腐朽菌に与える影響, 第60回日本木材学会大会, 2010年3月18日, 宮崎
	築瀬佳之, 藤原裕子, 藤井幾久, 奥村正悟, 森 拓郎, 吉村 剛, 鳥越俊行, 今津節生: X 線 CT 装置を用いたアメリカカンザインシロアリ食害の可視化の試み, 第60回日本木材学会大会, 2010年3月18日, 宮崎
	山下聡, 服部力, 吉村 剛: 東南アジア熱帯における林業活動が多孔菌類の多様性に及ぼす影響, 第57回日本生態学会大会, 2010年3月18日, 東京
	吉村 剛: 既存住宅のシロアリ被害調査に必要な基礎知識, (株)日本しろあがり対策協会 蟻害・腐朽検査員講習会, 2009年8月19日, 大阪
	吉村 剛: シロアリの生態と被害, (株)日本しろあがり対策協会 シロアリ防除施工士第2次試験指定講習会, 2009年9月10日, 大阪



吉村 剛	吉村 剛: 防除薬剤の現況、(社)日本しるろあり対策協会 シロアリ防除施工士更新研修会、2009年10月2日、広島
吉村 剛: アリカカンザインシロアリの被害状況と対策、生命と財産を守る防除合板セミナー、2009年10月15日、東京	吉村 剛: 防除薬剤の現況、(社)日本しるろあり対策協会 シロアリ防除施工士更新研修会、2009年10月20日、大阪
吉村 剛: アリカカンザインシロアリの生息、平成21年度生活と環境全国大会、2009年10月27日、福岡	吉村 剛: 防除薬剤の現況、(社)日本しるろあり対策協会 シロアリ防除施工士更新研修会、2009年10月28日、大阪
吉村 剛: 日本におけるアリカカンザインシロアリの被害の現状と対策、ジャパンホームショー・技術セミナー、2009年11月11日、東京	吉村 剛: アリカカンザインシロアリの被害状況と対策、生命と財産を守る防除合板セミナー、2009年11月27日、名古屋
吉村 剛: アリカカンザインシロアリの被害の現状と予防、防除の展望、2009年秋期日本木材学会生物劣化研究会、2009年11月30日、宇治	吉村 剛: シロアリ 益虫それとも害虫？、シニア自然大学校、2009年12月12日、大阪
吉村 剛: シロアリの生息、防除技術の現状と将来、兵庫県建築一般労働組合講演会、2009年12月16日、神戸	吉村 剛: シロアリ その加害習性と防除対策、徳島すきこデー・ネイター養成講座、2010年1月23日、徳島
吉村 剛: 防蟻防腐薬剤・腐朽・シロアリの生息と被害、(社)日本しるろあり対策協会 シロアリ防除施工士第1次試験指定講習会、2010年1月25、26日、大阪	吉村 剛: アリカカンザインシロアリの被害状況と対策、生命と財産を守る防除合板セミナー、2010年2月5日、大阪
吉村 剛: 床下設置用防蟻板の野外性能評価・マレーシア産及び日本産シロアリに関する比較行動学的研究、第138回生存圏シンポジウム・DOLLSFに関する全国「国際共同利用研究成果発表会、2010年2月25日、宇治	吉村 剛: シロアリの生息と被害の実態、日経ホームビルダーセミナー、2010年3月9日、東京
吉村 剛: Termite, Environment, Energy, ホンテイエーナ市都市計画局セミナー(インドネシア、ホンテイエーナ)における講演、2009年6月3日	吉村 剛: Wood Preservation in Japan, タンジュンアラ大学(インドネシア、ホンテイエーナ)における特別講義、2009年6月4日
吉村 剛: Termites for New Energy Options, ジュージア大学(米国、アテンス)における特別講義、2010年1月12日	吉村 剛: IPM for Dry-wood Termite, 第7回アジア・オセアニアシロアリ研究グループ大会ポストセミナー(シンガポール)における招待講演、2010年3月4日
Kimura, Shuhei "Works and Lives: Cultural Anthropology in and beyond Tokyo" (with Takano Sayaka) Anthropology Colloquia Winter 2010, at the Department of Anthropology, UCSC, Santa Cruz, United States. 2010.1.13	Kimura, Shuhei, Matsuoka Tadasu, Matsuota Nobuhisa "Memorizing Earthquakes: A comparative study of commemoration in Turkey and Taiwan" The 5th Kyoto University Southeast Asia Forum: Conference of the Earth and Space Sciences, Campus Center ITB, Bandung, Indonesia. 2010.1.7
Kimura, Shuhei "Future earthquakes in Turkey and Japan: Nation, Earth Science, and Risky Future" The Asia Pacific STS Network Conference at Griffith University, Brisbane, Australia. 2009.11.24	木村周平 2009.10.23「トルコ・マルマラ地震から10年: 復興から防災へ」災害対応研究会(於: 関西電力本社ビル)
木村周平 2009.5.30「概要」およびトルコ、イスタンブールにおける耐震都市計画をめぐって」第43回日本文化人類学会研究大会分科会「都市のオペデュエーション」(代表: 木村周平)(於: 大阪国際交流センター)	

木村周平	木村周平 2009.5.17「1939年エルズンジャン地震(トルコ)とその帰結:地震の社会史」日本地球惑星科学連合 2008年大会(於:帯張メッセ)
増原善之	増原善之, 2009, 「村に眠る古文書-タイ国凶国図書館所蔵ランサン王国行政文書の紹介を兼ねて-」, 東南アジア学会関西地区例会, 2009年7月11日, 京都大学.
増原善之, 2009, 「人魚伝説-もう一つの『歴史』へ」, 総合地球環境学研究所「熱帯アジアの環境変化と感染症」プロジェクト・人類生態誌第2回学会「精霊と土地・生態利用」, 2009年10月5日, 総合地球環境学研究所.	
藤岡悠一郎	藤岡 悠一郎 2009年5月 「ナミビア北中部におけるオヴアンガ農牧民の在来果樹利用の変化」日本アフリカ学会 2009.5.23-24
藤岡 悠一郎 2009年6月 「ナミビア農牧社会における在来のアグロフォレスト」の現代的役割:在来果樹マルローラ( <i>Sclerocarya birrea</i> )の利用に注目して」日本熱帯生態学会 2009.6.21	
Yuichiro FUJIOKA Sep, 2009 "Mutual Changes in Tree Use by Local People and in Creation of Semi-natural Vegetation in North-central Namibia". FRIM/Kyoto University/UNU-IAS Joint Workshop on Human-Nature Relationship in Malawi and Southern Africa, 11 Sep, 2009	
松林公藏	松林公藏 「フイールド医学」の創出-香北町からアジアへの展開-第51回日本老年医学会総会会長講演特別企画 パンパピコ横浜 2009/6/19
松林公藏	松林公藏 地域在住高齢者の"こころの健康"をさぐる 第50回日本老年医学会関東甲信越地方会特別講演 東京女子医科大学弥生記念講堂 2009/9/12
松林公藏	松林公藏 登山・探検からフィールド医学へ 京都大学博物館 学術映像博 2009/9/13
松林公藏	松林公藏 世界のお年寄りの実態を知ろう 京都新聞ソフィアがきた 京都市立北梅津小学校 2009/12/11
Matsubayashi K	Matsubayashi K Ageing population and associated problems-How to tackle these issues 6th, Kyoto University Southeast Forum "Health Crisis!!! Business Chances Creation, Mandelin Hotel, Bangkok, 2010/2/6
Matsubayashi K	Matsubayashi K Neurodegenerative Diseases in Papua, International Workshop on Neurological Disease in Papua, Cenderawasih University, Papua, 2010/3/4
白石壮一郎	白石壮一郎 2009年11月 「誰が貧困者か? -ウガンダの参加型調査(UPPAP)報告書を題材として」, 国際開発学会第20回全国大会 企画セッション 「開発を民主化する」(於:立命館アジア太平洋大学)
白石壮一郎	白石壮一郎 2009年11月 「<デモクラシー>の人類学への文脈」, 国立民族学博物館 共同研究「アジア・アフリカ地域社会における<デモクラシー>の人類学-参加・運動・ガバナンス」 第1回研究会 (於:国立民族学博物館)
白石壮一郎	白石壮一郎 2009年5月 「生活資源へのローカル・ガバナンス」, 日本アフリカ学会第46回学会第46回学術大会・地域開発フォーラム (於:東京農業大学)
高田 明	高田 明 (2010). 大会委員会主催公衆シンポジウム: 線描される家族たち: 日本, ハウサ, クンの事例に基づく家族概念の再検討. 日本発達心理学会第21回大会発表論文集, pp.133-137. 於: 神戸国際会議場, 2010-3-26-28 (3-28). (招待シンポジウム, オーガナイザー)
高田 明	高田 明 (2010). クン・サンにおける子ども文化と社会変容. 大会委員会主催公衆シンポジウム: 線描される家族たち: 日本, ハウサ, クンの事例に基づく家族概念の再検討. 日本発達心理学会第21回大会発表論文集, p.134. 於: 神戸国際会議場, 2010-3-26-28 (3-28).
Takada, A. (2010). Participation in rhythm: Socialization through singing and dancing activities among the !Xun San. Paper presented at the AAAACIG symposium: Issues in parent-child, institutionalized, and free play settings, held in American Anthropological Association Childhood Interest Group (AAAACIG) joint meeting with The Society for Anthropological Sciences (SASci) and The Society for Cross-Cultural Research (SCCR), Albuquerque, NM, USA, February 17-20 (February 18). Abstracts, p.8.	
Takada, A. (2009). Language contact and social change in North-Central Namibia: Their impact on child-group interaction among the !Xun. Paper presented at the International Conference of the Global COE Program "Corpus-based Linguistics and Language Education". A Geographical Typology of African Languages jointly with an International Workshop on Khoisan Linguistics, Tokyo, Japan, 12th-14th May 2009 (14th May). Abstracts, p.16. (Invited Speaker)	
高田 明 (2009). 歌・踊りと社会化: クン・サンにおける子ども文化. 大会準備委員会企画シンポジウム: 発達初期の遊びとしての音楽性. 日本赤十字学会第9回学術集会発表論文集, p.25. 於: 滋賀県立大学, 2009-5-16-17 (5-17). (招待講演)	
高田 明 (2010). 会員企画ワークショップ: 「差の文化心理学」と「生成の文化心理学」. 日本発達心理学会第21回大会発表論文集, p.66. 於: 神戸国際会議場, 2010-3-26-28 (3-27). (フアンリテイター)	
Liszowski, U., Brown, P., Callaghan, T., Takada, A., & de Vos, C. (2010). Infant and caregiver pointing across 7 different cultures. Paper presented at the 2010 International Conference on Infant Studies, Baltimore, Maryland, USA, March 10-14 (14th March). Abstracts	
	< <a href="http://icis2010.isisweb.org/schedule/dayview.cfm?code=4">http://icis2010.isisweb.org/schedule/dayview.cfm?code=4</a> >.

高田 明	<p>Takada, A. (2009). Imagined pathways: Co-constructing ecological knowledge in navigation practices among the San of the central Kalahari Desert. Paper presented at the 11th International Pragmatics Conference, Melbourne, Australia, July 12-17(July 17). Abstracts, pp.173-174.</p> <p>高田 明 (2010). 狩猟採集民の子育て: 模倣活動の発達. アフリカ地域研究資料センター 公開講座 第4回「育む」. 於: 京都大学. 2010-1-23.</p>
長岡慎介	<p>長岡慎介 「近代イスラーム経済学史構築の試みと一般経済学史におけるその意義の探究」第 25 回日本中東学会年次大会、口頭発表、2009 年 5 月 17 日、於: 広島市立大学.</p> <p>Shinsuke Nagaoka "A Theoretical Advantage of Islamic Macroeconomic System and its Implication to the Current Financial Crisis." In <i>Invited Paper presented at the Meeting on Managing Assets from an Islamic Perspective in Light of the International Financial Crisis</i>. 招待発表(英語), 2009 年 6 月 10 日、於: サウジアラビア、キングアブドゥルアズィズ大学.</p> <p>Shinsuke Nagaoka "Economics of <i>Fiqh al-Muamalat</i> and the Islamic Macroeconomic System: A Theoretical Analysis of Islamic Financial Products and its Implication to the Economic Fluctuations." Presented at International Workshop on Islamic Economics. <i>Evaluating the Current Practice of Islamic Finance and New Horizon in Islamic Economic Studies</i>. 口頭発表(英語)、2009 年 7 月 24 日、於: 京都大学.</p> <p>Shinsuke Nagaoka "How <i>Sharia</i> Scholars Legitimize Islamic Financial Products? Economic Analysis of <i>Fatwa</i> and its Implication to the Islamic Macroeconomic System." Presented at EKONIS Lecture Series 1/09 (Wacana EKONIS Siri 1/09). 口頭発表(英語)、2009 年 8 月 4 日、於: マレーシア、マレーシア国民大学.</p> <p>Shinsuke Nagaoka "Islamic Economic System as an "Embedded" System: Economic Analysis of <i>Fiqh al-Muamalat</i> and its Macroeconomic Implication to the Current Financial Crisis." Presented at the International Conference on <i>Moral Values and Financial Markets: Islamic Finance and the Financial Crisis</i>. 口頭発表(英語)、2009 年 11 月 18 日、於: イタリア、ミラノ、Fondazione Eni Enrico Mattei.</p> <p>Shinsuke Nagaoka "Re-Evaluating Malaysian Islamic Finance Practice: From the Multiple Diversities Perspective." Presented at the Islamic Economics Workshop on <i>Regional and Historical Diversities of Islamic Finance</i>. 口頭発表(英語)、2009 年 11 月 26 日、於: 京都大学.</p> <p>*"Conflict and Coordination between Economic Feasibility and <i>Sharia</i> Legitimacy in Islamic Finance." Presented at the Second International Conference. <i>New Horizons in Islamic Area Studies on "Identities, Coexistence and Globalization"</i>. 口頭発表(英語)、2009 年 12 月 13 日、於: エジプト、カイロ、マリオットホテル.</p> <p>Shinsuke Nagaoka "Islamic Finance in Economic History: Marginal System or Another Universal System?" Presented at Second Workshop on Islamic Finance. <i>What Islamic Finance Does (Not) Change</i>. 口頭発表(英語)、2010 年 3 月 17 日、於: フランス、ストラスブール大学.</p>
生方史教	<p>Ubukata, F. Jun. 2009. "Science as a Decontextualization: Contested Rationalities on 'Eucalyptus Debate' in Thailand." The First KASEAS/CSEAS Joint International Symposium, Interdependency of Korea, Japan and Southeast Asia: the Migration, Investment, and Cultural Flow, Gyeong-sang National University, Jinju, South Korea, June 19-20, 2009.</p> <p>Ubukata, F. Sep. 2009. "Formal/Informal Gap as a Factor in 'Green' Environmental Treaties: their Role, their Possibilities, their Risks and Limitations, Nanzan University Institute for Social Ethics, Nagoya, September 15-18, 2009.</p> <p>生方史教 2009 年 11 月 「タタン政権以降のタイ農村社会構造と組織」アジア農村社会構造の比較研究: 第2回研究会 京都大学東南アジア研究所/バンコク連絡事務所 2009 年 11 月 1 日.</p> <p>Ubukata, F. Dec. 2009. "Determinant Factors of Communal Forest Management: Cases in Yasothon, Northeast Thailand." International Workshop on Local Conservation and Sustainable Use of Swamp Forest in Tropical Asia, Ranong, December 19, 2009.</p> <p>生方史教 2010 年 1 月 「CBNRM と二つのガバナンス」JICA 研究所「資源ガバナンスと利害協調」研究会 JICA 研究所 2010 年 1 月 15 日</p> <p>生方史教 2010 年 2 月 「アジアの資源利用型産業にみる生産・生存・環境」共同利用研究「グローバル経済下における生産、生存、環境」研究会 京都大学地域研究統合情報センター 2010 年 2 月 17 日</p> <p>生方史教 2010 年 3 月 「共有資源科研」第2回研究会報告「科研」共有資源管理の比較制度研究」第2回研究会 東京大学農学部 2010 年 3 月 1 日</p>
和田泰三	<p>木村友美, 奥宮清人, 坂本龍太, 和田泰三, 石根昌幸, 石本恭子, 笠原順子, 大塚邦明, 松林公藏: 中国青海省における高所居住高齢者の食多様性と健康度との関連 日本老年医学会雑誌 46 巻 Suppl. Page91(2009.05) 日本老年医学会 総会 (横浜) 2009 年 6 月</p> <p>和田泰三, 石本恭子, 石根昌幸, 笠原順子, 坂本龍太, 今野亜希子, 奥宮清人, 大塚邦明, 松林公藏 「転倒スコア」21 項目の感度・特異度の検討: 日本老年医学会雑誌 46 巻 Suppl. Page79(2009.05) 日本老年医学会 総会 (横浜) 2009 年 6 月</p>

和 田 泰 三	<p>坂本龍太, 奥宮清人, 木村友美, 石根昌幸, 和田泰三, 石本恭子, 笠原順子, 松林公藏, チベット高原における老化と酸化ストレス (2009.05)日本老年医学会 総会 (横浜)2009 年 6 月</p> <p>今野亜希子, 和田泰三, 石根昌幸, 坂本龍太, 中塚晶博, 笠原順子, 石本恭子, 木村友美, 松林公藏 「転倒スコアと ADL、QOL との関係」日本老年医学会雑誌 46 巻 Suppl. Page75(2009.05) 日本老年医学会 総会 (横浜)2009 年 6 月</p> <p>笠原順子, 石本恭子, 木村友美, 石根昌幸, 奥宮清人, 大塚邦明, 松林公藏 地域在住高齢者における転倒スコアと ADL、QOL、うつ傾向との関連 日本老年医学会雑誌 46 巻 Suppl. Page75(2009.05) 日本老年医学会 総会 (横浜)2009 年 6 月</p> <p>石本恭子, 和田泰三, 笠原順子, 木村友美, 今野亜希子, 石根昌幸, 奥宮清人, 大塚邦明, 松林公藏 地域在住高齢者における転倒スコア(FRI=21)と年齢,性差に関する検討 日本老年医学会雑誌 46 巻 Suppl. Page66(2009.05) 日本老年医学会 総会 (横浜)2009 年 6 月</p> <p>奥宮清人, 坂本龍太, 木村友美, 石根昌幸, 和田泰三, 笠原順子, 今野亜希子, 藤澤道子, 大塚邦明, 松林公藏 中国青海省高所在住高齢者の多血症と生活習慣病との関連 日本老年医学会雑誌 46 巻 Suppl. Page41(2009.05) 日本老年医学会 総会 (横浜)2009 年 6 月</p> <p>石根昌幸, 木村友美, 石本恭子, 笠原順子, 和田泰三, 奥宮清人, 西永正典, 土居義典, 大塚邦明, 松林公藏 日本地域在住高齢者における“なりたくない病”の変遷 日本老年医学会雑誌 46 巻 Suppl. Page39(2009.05) 日本老年医学会 総会 (横浜)2009 年 6 月</p> <p>和田 泰三,石本 恭子,笠原 順子,木村 友美,今野 亜希子,福富 江利子,増田 美衣子,青山 薫,石根 昌幸,松林 公藏 都市部ケア付き高齢者における事前指示書の作成状況 日本老年医学会 近畿地方会 (大阪) 2009 年 11 月</p>
河 野 泰 之	<p>Kono, Y.,Inaugural workshop of “Transition of shifting cultivation systems at the agriculture/forest frontiers – sustainability or demise?”, Novotel Hotel, Vientiane, Lao PDR, 2009 年 11 月 4-6 日</p> <p>Kono, Y.,Invited talk, “Five decades of Area Studies in Thailand”, 2<sup>nd</sup> Thailand-Japan International Academic Conference (TJIA 2009) “Integrated Research for Sustainable Development”, 京都大学桂キャンパス, 2009 年 11 月 20 日</p>
青 山 卓 史	<p>招待講演、「持続型生存基盤プログラムの構築に向けて」、生存圏フォーラム第 2 回特別講演会、京都大学宇治キャンパス、2009 年 11 月 21 日</p> <p>Kono, Y.,招待コメント、Nagoya University Global COE International Workshop “Understanding the Contemporary Environmental Matters in Mainland Southeast Asia”, 名古屋大学環海総合館、2009 年 12 月 5 日</p> <p>Kono, Y.,口頭発表, Lessons of Agroforestry Practices for Sustainable Humansphere Studies, Kyoto Sustainability Initiatives (KSI) International Workshop “Swidden Agriculture in Southeast Asia: Sustainability and Contribution towards Agroforestry and Forestry”, Kyoto, 2010 年 3 月</p>
伊 藤 正 子	<p>Yukimi Y. Taniguchi, Masatoshi Taniguchi, Naoko Anzai, Yukika Wada, Yohei Ohashi, Tomohiko Tsuge, and Takashi Aoyama The 3rd Asian Symposium on Plant Lipids and The 22nd Japanese Symposium on Plant Lipids “Biological function of the Arabidopsis PX-PH-type phospholipase Ds, PLDz1 and PLDz2”, November 27-November 29, 2009 (Yokohama, Japan).</p> <p>青山卓史 静岡大学・若手グローバル研究リーダー育成プログラムシンポジウム、「植物細胞の極性制御に関わるリン脂質シグナル」2009 年 11 月 11 日</p>
伊 藤 正 子	<p>「Comparative Research about Memories of the Korean Armed Forces in Vietnam: A Korean NGO Preserves Nonofficial Memories」[The First KASEAS-CSEAS Joint International Symposium, 2009 年 6 月 19 日(金)～20 日(土)韓国・晋州 慶尚大学(使用言語:日本語(韓国語通訳付))</p>
山 越 言	<p>伊藤正子 2009 「社会主義国家による民族確定政策の限界」[リジョナリズムの歴史制度論的比較] 京都大学地域研究統合情報センター、CIAS 全国共同利用複合ユニット (共催:東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻)2009 年 10 月 31 日(土)～11 月 1 日(日)東京大学駒場キャンパス</p> <p><a href="http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/index.php/news_detail/id/243">http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/index.php/news_detail/id/243</a></p>
山 越 言	<p>Gen Yamakoshi “Ecological functions and evolution of primate tool behavior” “Understanding Tool Use: Multidisciplinary Perspectives on the Cognition and Ecology of Tool Using Behaviors”, Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology, Leipzig, Germany, December 02-05, 2009</p>
杉 原 薫	<p>山越言「トロロの森はアフリカにあった? - 森と動物を守る知恵 - 」嵯峨野小 学校 PTA 特別講演会, 2009 年 12 月 11 日</p> <p>Sugihara, Kaoru “The European Miracle in Modern Global History: A View from East Asia”, Conference on “Writing the History of the Global: Challenges for the 21st Century”, British Academy, London, 22nd May 2009.</p> <p>杉原 薫 (趣旨説明)「化石資源世界経済」の形成と森林伐採、杉原科研(基盤研究B:「化石資源世界経済」の形成と森林伐採・環境劣化の関係に関する比較的研究)グローバル COE イニシアティブ1(環境・技術・制度の長期ダイナミクス)合同研究会、京都大学東南アジア研究所、2009年6月28日</p>

杉原 薫	杉原 薫 「特航型生存基盤パラダイムとは何か」、「現代インド地域研究」京大拠点・研究グループ1「現代インドにおける生存基盤特航型発展の可能性」第1回研究会、京都大学稲森財団記念館、2009年7月11日
	杉原 薫 「グローバルヒストリーとアジアの経済発展経路」、戦後アジアの政治・経済秩序研究会、サンディー文化財団、京都全日空ホテル、2009年7月20日
	Sugihara, Kaoru (Jury) "Session F1: Dissertation Session: Long 19th Century", the 15th World Economic History Congress, Utrecht University, Utrecht, 3rd August 2009.
	Sugihara, Kaoru (Round table presentation) "Giovanni Arrighi, the Rise of East Asia and the Nature of Capitalism, 'Session E3: Arrighi in Beijing. A Roundtable on Giobanni Arrighi's 'Adam Smith in Beijing. Lineages of the Twenty-first Century', the 15th World Economic History Congress, Utrecht University, Utrecht, 4th August 2009.
	Sugihara, Kaoru (Comments) "Session H5: Changes of Local Market Institutions in the Age of Global Trade Expansion: Asia and North America in the 19th and 20th Centuries", the 15th World Economic History Congress, Utrecht University, Utrecht, 5th August 2009.
	Sugihara, Kaoru "The South Asian Path of Economic Development: A Comparison with East Asia", "Session A7: The Labour-Intensive Path of Development in South Asia: Environment, Division of Labour and the Quality of Life", the 15th World Economic History Congress, Utrecht University, Utrecht, 6th August 2009.
	Sugihara, Kaoru (with Takeshi Nishimura) "Railways, Exports of Primary Products and the Commercialisation of Forests in British India, 1890-1913", "Session A7: The Labour-Intensive Path of Development in South Asia: Environment, Division of Labour and the Quality of Life", the 15th World Economic History Congress, Utrecht University, Utrecht, 6th August 2009.
	World Economic History Congress, Utrecht University, Utrecht, 6th August 2009.
	Sugihara, Kaoru (with Takeshi Nishimura) "Railways, Exports of Primary Products and the Commercialisation of Forests in British India, 1890-1913", "Session A7: The Labour-Intensive Path of Development in South Asia: Environment, Division of Labour and the Quality of Life", the 15th World Economic History Congress, Utrecht University, Utrecht, 7th August 2009.
	Sugihara, Kaoru "Southeast Asia and the Growth of the Asian International Economy, 1800-2009", The 33rd Southeast Asia Seminar "Region' and Regional Perspectives on/from Southeast Asia", Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 8th September 2009.
	杉原 薫 (司会)「情報、信頼、市場の質」社会経済史学会第78回全国大会ハネルデザインセッション、東洋大学、2009年9月27日。
	杉原 薫 「東アジアの奇跡と世界経済秩序」科学研究費補助金・基礎研究A「グローバルヒストリー」研究の展開と近現代世界史像の再考」第2回研究会、東京大学文学部、2009年10月24日。
	杉原 薫 「20世紀世界経済とエネルギー」節約型発展経路」東京大学大学院経済学研究科経済史研究会、東京大学経済学部、2009年10月26日。
	杉原 薫 (西村雄志と共同報告)「世界経済へのインドの統合と森林の商業化、1890-1913年」慶應義塾大学経済学連携グローバルCOE 歴史分析班・科学研究費補助金・基礎研究B「化石資源世界経済」の形成と森林伐採・環境劣化の関係に関する比較的研究」合同ワークショップ「近現代アジアにおける資源利用と資源管理」、慶応大学経済学部、2009年11月7日。
	杉原 薫 (コメント)「(全体セッション)現代インドはどこに向かっているのかー全体的把握のための課題と展望」人間文化研究機構プログラム「現代インド地域研究」2009年度全体集会、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、2009年12月6日。
	杉原 薫 (コメント)「山中大学 インドネシア海大麓の気候・気象と人々の往来」第3回ジャカルタ都市研究会、京都大学東南アジア研究所、2009年12月7日。
	Sugihara, Kaoru (Comments) "Global COE Paradigm and South Asia", Contemporary India Area Studies' First International Workshop "Human and Environment in Contemporary India: Comparative Historical Perspectives", Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University, 13th December 2009.
	Sugihara, Kaoru (Comments) "Global COE Paradigm: Questions, Key Words and Future Directions", The Third Global COE International Conference on "Changing Nature of Nature: New Perspectives from Transdisciplinary Field Science", Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 17th December 2009.
	Sugihara, Kaoru (Comments) "Human Security Index and Humankind Studies: Comments on Dr. Hastings paper", Participation in the video conference from Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, for the International Workshop on Area Informatics—Exploring Humankind and Urbanization of Hanoi-, Vietnam National University and Computer Center of the Engineering and Technology College, Hanoi, 2nd February 2010.
	Sugihara, Kaoru (General comments) "Asian Perspectives of Globalisation: Towards a Multi-headed Vision of Global History", International Conference on 'Sixty Years of Indian Independence: Promoting Regional and Human Security', National Institute for the Humanities Program on

杉原 薫	<p>Contemporary India Area Studies, Graduate School of Asian and African Area Studies, 4th February 2010.</p> <p>Sugihara, Kaoru "Asia in Global Trade Imbalances", First Joint International Workshop of the JSPS Asian Core Program 'Asian Connections: Southeast Asian Model for Co-Existence in the 21st Century', Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 27th February 2010.</p> <p>杉原 薫 「20 世紀世界秩序とエネルギー節約型発展経路」科学研究費補助金・基盤研究A「グローバルヒストリー研究の新展開と近現代世界史像の再考」第 2 回研究会、箱根みたび荘、2010 年 3 月 2 日。</p> <p>杉原 薫 「グローバルな資源制約と東アジアの台頭—持続型の長期発展経路を求めて—」、財務省財務総合政策研究所「経済社会の基礎的な変化」ワーキングショップ、第 1 回会合、2010 年 3 月 3 日。</p> <p>杉原 薫 「グローバルな資源制約と東アジアの台頭」、[グローバルイノベーションと市民社会]研究会、国際高等研究所、2010 年 3 月 5—6 日。</p> <p>Sugihara, Kaoru (Chair) "Panel 3", Conference "To Seek Harmony and Prosperity in Pacific Region— From the Nanyang Commodity Exposition of 1910 to the World Expo 2010 Shanghai—", Fudan University, Shanghai, 12th March 2010.</p> <p>Sugihara, Kaoru (General comments) "From Industrial Development to Environmental Sustainability: Changing Ideas behind Great Asian Exhibitions", Conference "To Seek Harmony and Prosperity in Pacific Region— From the Nanyang Commodity Exposition of 1910 to the World Expo 2010 Shanghai—", Fudan University, Shanghai, 13th March 2010.</p> <p>杉原 薫 「グローバルヒストリーとアジア間貿易論」帝國書院「新しい歴史教育を考える会」、ホテルアイビス、六本木、2010 年 3 月 20 日。</p> <p>杉原 薫 「人類社会の持続型生存基盤パラダイム」国立大学共同利用・共同研究拠点協議会設立記念 一般公開シンポジウム「地球環境変化と人類社会」、東京大学安田講堂、2010 年 4 月 3 日。</p>
水野一晴	<p>水野一晴 (2010) : ケニア山とキリマンジャロにおける近年の氷河変動と植生遷移, 日本地理学会春季学術大会, 東京 (法政大学) (2010 年 3 月 27 日) .</p> <p>水野一晴 (2010) : インド, アルナチャル・プラデシュ州(アッサム・ヒマラヤ), デイラン ソーン地方における牧畜民と農耕民の関係, 日本地理学会春季学術大会, 東京 (法政大学) (2010 年 3 月 27-28 日) .</p> <p>水野一晴 (2009) : ナミブ沙漠の季節河川, クイセブ川流域の環境変化と樹木枯死, 第 19 回日本熱帯生態学会年次大会, 大阪 (大阪市立大学) (2009 年 6 月 21 日) .</p> <p>水野一晴 (2009) : インド, アルナチャル・プラデシュ州(アッサム・ヒマラヤ), デイランソーン地方における自然環境と人間活動について, 第 19 回 日本熱帯生態学会年次大会, 大阪 (大阪市立大学) (2009 年 6 月 20 日) .</p> <p>水野一晴 (2009) : ナミブ沙漠の季節河川, クイセブ川流域の環境変化と植生遷移, 日本アフリカ学会第 46 回学術大会, 東京 (東京農業大学) (2009 年 5 月 24 日) .</p> <p>水野一晴 (2009) : ナミブ沙漠の季節河川, クイセブ川流域の環境変化と植生遷移, 日本地理学会春季学術大会, 東京 (帝京大学) (2009 年 3 月 28 日) .</p> <p>水野一晴 (2009) : インド, アルナチャル・プラデシュ州(アッサム・ヒマラヤ), デイランソーン地方における自然環境と人間活動について, 日本地理学会春季学術大会, 東京 (帝京大学) (2009 年 3 月 28-29 日) .</p>
海田るみ	<p>海田るみ、阿部賢太郎、矢野浩之、馬場啓一、林隆久、谷口亨、栗田学、石井克明、近藤慎二、山本茉莉、磯貝明 2010 年 3 月 18 日「キノグルカナーゼ構成発現によるポプラ木部セルロース繊維の構造変化」第 60 回 日本木材学会大会</p> <p>池谷仁里、林 隆久、海田るみ、石井 忠、古西智之 2010 年 3 月 18 日「琵琶湖の水草・藻類を利用したバイオエタノール」第 60 回 日本木材学会大会</p> <p>池谷仁里、馬場啓一、海田るみ、古岡康一、阿部賢太郎、瀧田政三、渡邊隆司、矢野浩之、林 隆久 2010 年 3 月 18 日「熱帯自然林から採取した樹木の糖化性」第 60 回 日本木材学会大会</p> <p>Hanata R., Sudammonwati E., Kaide R., Baba K., Ikegaya H., Hayashi T., Chigira O. 2010 年 3 月 18 日 Transgenic mangiums overexpressing xyloglucanase. 第 60 回 日本木材学会大会</p>
甲山治	<p>甲山治, 佐原博史, 寶賢, 2009. 「高時川流域における融雪浸透過程の検討と分布型流出モデルへの導入」『水文・水資源学会 2009 年研究発表会要旨集』, pp.144-145.</p> <p>甲山治, 手計太一, 山崎大, 2009. 「若手ネットワークの構築—異分野協力から異分野融合へ—活動報告書」『水文・水資源学会 2009 年研究発表会要旨集』, 2pages.</p>
小林知	<p>小林知 「カンボジア農村における社会構造研究の展望」G-COE イニシアチブ 1 および公募共同研究「アジア農村社会構造の比較研究—権力統治下の村落形成」合同研究会 (於東南アジア研究所)、2010 年 1 月 30 日.</p> <p>国際シンポジウム「カンボジアにおけるガバナンス改革の現状と課題: 平和と開発における ODA、NGO、民間投資の役割」(於東京大学駒場キャンパス 18 番館ホール)、2010 年 2 月 27 日. (主催: 東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム(HSP)・(株)法学館・共同</p>

小林知 川井秀一	<p>研究「研究と実践をつなぐ難民・移民に関するデータ・ベース(CDR)の開発」、文部科学省科学研究費補助金(新学術領域研究)「国連平和活動とビジネス:紛争、人の移動とガバナンス」、共催:カンボジア市民フォーラム、後援:外務省、独立行政法人 国際協力機構 (ICA)、株式会社朝日新聞社、特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター (JANIC)、平和構築研究会、「平和構築とビジネス」研究会</p> <p>鈴木玲治, 竹田晋也, フラウンテン「ミャンマー・カレンの営む伝統的焼畑システムにおけるタケの役割」日本熱帯農業学会, 三重大学, 2009 年 10 月</p> <p>松尾美幸, 梅村研二, 杭迫和樹, 川井秀一: 促進劣化処理をした中国宣紙の物性評価およびその応用, 文化財保存修復学会第 31 回大会, 2009.06.13-14 (會勤)</p> <p>Junji Sugiyama and Suyako Mizuno: Synchrotron X-ray tomography - wood identification for cultural heritage, Annual 2009 IAWWS Plenary Meeting and Conference, 2009.06.15-21 (Saint-Petersburg, Moscow)</p> <p>Gril J., Yokoyama M., Matsuo M., Umemura K., Clair B., Sugiyama J., Mitsurani T., Kubodera S., Ozaki H., Sakamoto M., Inamura M., Kawai S.: On the ageing of Hinoki wood from the Japanese cultural heritage, Annual 2009 IAWWS Plenary Meeting and Conference, 2009.06.15-21 (Saint-Petersburg, Moscow)</p> <p>横山操, 松尾美幸, 矢野浩之, 杉山淳司, 川井秀一, Joseph Gril, 種寺茂, 光谷拓実, 尾崎大真, 坂本穂, 今村基雄: 経年による木材の強度特性の変化 - 歴史的建造物由来古材を用いた検討 -, マテリアルライフ学会第 20 回研究発表・特別講演会, 2009.07.10-11 (京都)</p> <p>Gril J., Yokoyama M., Matsuo M., Umemura K., Clair B., Sugiyama J., Mitsurani T., Kubodera S., Ozaki H., Sakamoto M., Inamura M., Kawai S.: On the ageing of Hinoki wood from the Japanese cultural heritage, XIXth French Congress of Mechanics, 2009.08.24-28 (Marseille, France)</p> <p>Yokoyama M, Gril J, Matsuo M, Yano H, Sugiyama J, Clair B, Kubodera S, Mistutani T, Sakamoto M, Ozaki H, Inamura M, Kawai S: Mechanical characteristics of aged Hinoki (Chamaecyparis obtusa Endl.) wood from Japanese historical buildings - Comparative analyses with accelerated ageing wood, Wood CuiTheR COST IE0601 Symposium, 2009.10.7-10 (Hamburg, Germany)</p> <p>Miyuki Matsuo, Misao Yokoyama, Kenji Umemura, Junji Sugiyama, Shuichi Kawai, Joseph Gril, Ken'ichiro Yano, Shigen Kubodera, Takumi Mistutani, Hiromasa Ozaki, Minoru Sakamoto, Mineo Imamura: Evaluation of the aging wood from historical buildings as compared with the accelerated ageing wood and cellulose - Analysis of color properties., Wood CuiTheR COST IE0601 Symposium, 2009.10.7-10 (Hamburg, Germany)</p> <p>Misao Yokoyama, Shuichi Kawai, Junji Sugiyama: Making of the wood collection from historical buildings in Japanese context, Wood CuiTheR COST IE0601 Symposium, 2009.10.7-10 (Hamburg, Germany)</p> <p>Miyuki Matsuo, Kenji Umemura, Hakuju Kuiseko, Shuichi Kawai: Artificially aged paper by heat treatment: Evaluation and application for calligraphy, 東アジア文化遺産保存学会第 1 回大会, 2009.10.17-19 (Beijing, China)</p> <p>Shuichi Kawai, Miyuki Matsuo, Misao Yokoyama, Junji Sugiyama: Database on the Aged Wood from Historical Buildings, 東アジア文化遺産保存学会第 1 回大会, 2009.10.17-19 (Beijing, China)</p> <p>Yokoyama M, Gril J, Matsuo M, Yano H, Sugiyama J, Clair B, Kubodera S, Mistutani T, Sakamoto M, Ozaki H, Inamura M, Kawai S: Mechanical Characteristics of Aged Hinoki (Chamaecyparis obtusa Endl.) Wood from Japanese Historical Buildings, 東アジア文化遺産保存学会第 1 回大会, 2009.10.17-19 (Beijing, China)</p> <p>横山 操, 杉山淳司, 中野隆一, 川井秀一: 歴史的建造物由来古材の材質評価(VI) - 経年による水分吸着特性の変化 -, 第 60 回日本木材学会年次大会, 2010.3.17-19, (宮崎)</p> <p>松尾美幸, 横山操, 梅村研二, 川井秀一, 矢野健一郎: 歴史的建造物由来古材の材質評価(VII) - 心材形成後および伐採後のヒノキ材の色変化 -, 第 60 回日本木材学会年次大会, 2010.3.17-19, (宮崎)</p> <p>Kenji Umemura, Hidefumi Yamauchi, Takeshi Ito, Masaaki Shibata, Shuichi Kawai: Photodegradation of Isocyanate Resin Adhesive for Wood, The Third Asian Conference on Adhesion, Hamamatsu, Japan, June 7-10 (2009)</p> <p>Sasa Sofyan Munawar, Kenji Umemura, Shuichi Kawai: Development of molded products from bio-based renewable resources, 第 27 回日本木材加工技術協会年次大会, 2009.10.8-10, (熊本)</p> <p>Sasa Sofyan Munawar, Shuichi Kawai, Kenji Umemura: Development of molded products made from acacia mangium bark and maleic acid, 第 60 回日本木材学会大会, 宮崎, 3/17-19 (2010)</p> <p>上田智英, 梅村研二, 川井秀一: クエン酸を用いた木質成形材料の開発研究, 第 60 回日本木材学会大会, 宮崎, 3/17-19 (2010)</p> <p>杉原理, 梅村研二, 川井秀一: クエン酸とスクロースを接着剤としたパーティクルボードの開発, 第 60 回日本木材学会大会, 宮崎, 3/17-19 (2010)</p>
-------------	--

川井秀一	<p>Rohy S. Maail, Kenji Umemura, Shuichi Kawai: Curing and degradation of cement-bonded particleboard by supercritical CO2 treatment, 第 60 回日本木材学会大会、宮崎、3/17-19 (2010)</p> <p>西園美銘、梅村研二、川井秀一、辻野善夫: スギ材の二酸化窒素吸着における種々の因子の番号、第 60 回日本木材学会大会、宮崎、3/17-19 (2010)</p> <p>梅村研二、上田智英、川井秀一: クエン酸を結合剤としたスギ樹皮粉末および米粉による木質成形体の特性、第 60 回日本木材学会大会、宮崎、3/17-19 (2010)</p> <p>川井秀一: 木と200年住宅一超長期住宅のコンセプト一、みどりすまいの環境フォーラム総会講演会、平成 21 年 7 月 23 日 (大阪)</p> <p>Shuichi Kawai: Sustainable Production and Utilization of Forest Biomass in Tropics Riau Biosphere Project , Humansphere Science School (Riau, Indonesia) 04 August 2009</p> <p>川井秀一: スギ材の新たな需要開拓に向けて、京都府林業振興会講演会、平成 21 年 8 月 25 日 (京都)</p> <p>川井秀一: 木材の調湿機能と空気浄化機能について、第 30 回住居医学研究会、平成 21 年 9 月 4 日 (奈良)</p> <p>辻野善夫、中戸靖子、畑瀬繁和、根来好孝、川井秀一、中村幸樹、藤田佐枝子、山本豊子、服部幸和: スギ木口スリット材の室内空気 (NO2) 浄化性能 (I)、スギ木口スリット材の室内空気 (O3, HCHO) 浄化性能 (II)、第 50 回大気環境学会、平成 21 年 9 月 15 日</p> <p>川井秀一: 木材による調湿と空気浄化、室内環境学会 基調講演 平成 21 年 12 月 14 日 (奈良)</p> <p>川井秀一: 熱帯森林生命圏と人間圏・地球圏の繋がり、G-COE バラダイム研究会 平成 22 年 1 月 18 日 (京都)</p> <p>川井秀一: 木材流通システムの現状と今後の展開、(社)京都府木材組合連合会、平成 22 年 1 月 28 日 (京都)</p>
山田協太	<p>山田協太、[植民都市研究、開発と近代]、第 80 回アジア都市建築研究会 (布野修司先生還暦記念研究会)、キャンパスプラザ京都、2009 年 9 月 26 日</p> <p>山田協太、[近代都市あるいは都市の近代]、第 2 回若手研究者合宿シンポジウム「人間圏を解き明かすー人間の生存、人びとのつながり」(京都大学グローバル COE「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」)、KKR ホテルびわこ、2010 年 3 月 15 日</p> <p>山田協太、[近代都市あるいは都市の近代一南アジアのオランダ植民都市、コロンボ、コーチン、ナーガパッタヤム]の経験を通じて、現代インド地域研究、京大拠点・研究グループ1 第三回定例研究会、京都大学東南アジア研究所、2010 年 3 月 28 日</p>
水野広祐	<p>Mizuno, Kosuke, 2009, "Conflict Resolutions in Post-Authoritarian Regime in Indonesia: Institutional Changes and People's Organizations", The First KASEAS and CSEAS Joint International Seminar, Jinju, South Korea.</p> <p>Mizuno, Kosuke, 2009, "People's Management of Natural Resources; the Case of Peatland Conservation and Restoration" Scientific Exploration and Sustainable Management of Peat Land Resources in Giam Siak Kecil-Bukit Batu Biosphere Reserve, Riau, The 3<sup>rd</sup> Humanosphere Science School, Pekanbaru, August 4-5, 2009</p> <p>Mizuno, Kosuke, 2009, "Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University" 2009 Sogang International Conference on Southeast Asian Studies Southeast Asia as an Open System, September 18-19, 2009, Sogang University, Seoul, Korea</p> <p>水野広祐, 2009, 『経済の被災から被災の経済へー西ジャワの文化・社会・経済』『理學・防災・地域研究ワークショップ』、「インドネシアにおける震災防災・復興研究への総合的アプローチ」東京大学地震研究所、2009 年 9 月 26 日</p> <p>Mizuno, Kosuke, 2009, "Towards a New Model of East Asian Economy, and Challenges to Current Global Economic Crisis", at the session of The Crisis and Transformative Opportunities-Historical Relations and Contemporary Challenges-, The Harmony of Civilizations and Prosperity for All-Looking beyond the Crisis to a Harmonious Future, November 6<sup>th</sup>-8<sup>th</sup>, 2009, Beijing, China</p> <p>水野広祐, 2009, 「世界金融危機とアジア」国立大学附置研究所・センター長会議 第三部会(人文・社会科学)第6回シンポジウム 世界金融危機とアジア、2009 年 11 月 13 日 (金) 於、如水会館</p> <p>Mizuno, Kosuke, 2010, "Risk Aversion and Earthquake in Indonesia"; The 5<sup>th</sup> Kyoto University Southeast Asian Forum Conference of the Earth and Space Sciences, Bandung Institute of Technology, January 7<sup>th</sup>, 8<sup>th</sup>, 2010, Bandung, Indonesia</p> <p>Mizuno, Kosuke, 2010, "Potentiality of REDD program at Giam Siak-Bukit Batu Biosphere Reserve of Riau", in International Workshop on Sustainable Forest Tree Plantation in the Giam Siak-Bukit Batu Biosphere Reserve of Riau in Indonesia, Organized by GCOE Program In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa February 4, 2010 Inamori Foundation Memorial Hall, Kyoto University</p>



水野広祐	<p>Mizuno, Kosuke, 2010, "Comparative Study on Forest Management Between Indonesia and Japan -Deforestation or Multifunction of the Forest?-", in Japanese Area Studies UI &amp; CSEAS Kyoto University International Symposium on theme: "New Frontiers of Indonesia-Japan Relationship" Organized by CSEAS, Kyoto University and Kajian Wilayah Jepang Universitas Indonesia, supported by JSPS and Japan Foundation, 15-16 February 2010, University of Indonesia, Indonesia</p> <p>Mizuno, Kosuke, 2010, "Global Imbalance and Export-oriented East Asian Model revisited-Twelve Years' Change since Economic Crisis in 1997 and Indonesian Alternative-", in International Symposium on "Tackling the Financial Crisis in East and Southeast Asia Assessing Policies and Impacts," organized by Department of Japanese Studies, SMLC, The University of Hong Kong &amp; Venue: Council Chamber 8/F Meng Wah Complex HKU Institute of Southeast Asian Studies, Singapore, February 24<sup>th</sup>, 25<sup>th</sup>, 2010, Hong Kong University, Hong Kong</p> <p>Mizuno Kosuke, 2010, "Global Imbalance and East Asian Growth Model revisited -Twelve Years' Change since Economic Crisis in 1997 and Alternative Models-", Analyzing Global Financial Crisis and East Asia: Twelve Years' Change Since the 1997 Economic Crisis and Ideas for a New East Asian Economic Model, in First Joint International Workshop of the JSPS Asian Core Program CSEAS Kyoto University, Japan, Thammasat University, Thailand, LIPI, Indonesia, CAPAS Academia Sinica, Taiwan, Asian Connections: Southeast Asian Model for Co-Existence in the 21st Century, Co-sponsored by GCOE Program "Towards a Sustainable Humanoosphere" February 26th-27th, 2010, CSEAS, Kyoto University, Japan</p> <p>Mizuno Kosuke, 2010, "Tahun, Swidden Agriculture and Rural Economy in Wet Java, Indonesia", in KSI International Workshop on Swidden Agriculture in Southeast Asia, CSEAS, Kyoto University March, 15th, 2010</p>
谷 誠	<p>Tani M.: Analysis of non-monotonic dependency of runoff-buffering potential on the hillslope length using the runoff-storage relationship, HW, 8 (Hydrological theory and limits to hydrological predictability in ungauged basins) in 8th IAHS Scientific Assembly, Hyderabad, 2009.</p> <p>谷 誠: 傾斜透水層における水理学的相似性、日本森林学会大会 121, 2010。</p> <p>松本一穂・小杉 綾子・谷誠: 分光指標による常緑針葉樹林における生理学的フェノロジーの変動の評価、日本森林学会大会 121, 2010。</p> <p>Tani M: Effects of forest and its human disturbances on water cycle, Symposium on Extreme Weather and Impact Assessments - for better future projection -, Kyoto 2009.</p> <p>谷 誠: 森林の水体全機能は神話なのか - 環境・資源危機時代における森林長期戦略 -, 森林と水に関する勉強会、林野庁、2009。</p>
林 隆久	<p>T Hayashi: Bioethanol Revolution, 2<sup>nd</sup> Humanoosphere Science school, Cibinong, Indonesia, March 26-27 (2009)</p> <p>T Hayashi: Case study on bioethanol production in Riau, 3<sup>rd</sup> Humanoosphere Science school, Pekanbaru, Indonesia, August 4-5 (2009)</p> <p>T Hayashi: Transgenic trees overexpressing AaXEG, Plant Science and Genetic Seminar, the Hebrew University of Jerusalem, November 25 (2009)</p> <p>T Hayashi: Our strategy on Riau Biosphere Reserve, International Workshop on Sustainable Forest Tree Plantation in the Giam Siak-Bukit Batu Biosphere Reserve of Indonesia, Kyoto, Japan, February 4 (2010)</p>
足立 透	<p>Adachi, T., M. Yamamoto, U. Iman, Y. Otsuka, and Y. Takahashi, Possible VHF radar echoes in the lower ionosphere associated with lightning discharges - Preliminary results -, <i>American Geophysical Union Chapman Conference on Effects of Thunderstorms and Lightning in the Upper Atmosphere</i>, EV-01, University Park, PA, USA, 12 May 2009.</p> <p>Adachi, T., S. Cummer, J. Li, N. Lehtinen, Y. Takahashi, R. Hsu, H. Su, A. Chen, S. B. Mende, H. U. Frey (2009), Current moment waveforms in sprite/halo producing lightning derived from satellite optical measurements, <i>American Geophysical Union 2009 Fall Meeting</i>, San Francisco, CA, USA, 16 December 2008.</p>
山本博之	<p>YAMAMOTO Hiroyuki. 2010 "The Role of Houses in the Post-Tsunami Reconstruction in Aceh, Indonesia". The Indian Ocean Tsunami: 5 Years Later. (RIHN Research Project), Grand Pacific Hotel, Singapore. 1-2 March, 2010.</p> <p>YAMAMOTO Hiroyuki. 2010 "Earthquake as an Opportunity of Social Reform". Conference of the Earth and Space Sciences. (Kyoto University &amp; Institut Teknologi Bandung). Institut Teknologi Bandung, 8 January, 2010.</p> <p>YAMAMOTO Hiroyuki &amp; NISHI Yoshimi. 2009 "Bridging gaps between science and local knowledge in disaster management in Indonesia". International Workshop on Multi-disciplinary Hazard Reduction from Earthquakes and Volcanoes in Indonesia and Beyond. (JICA 地球規模課題 対応国際科学技術協力事業「インドネシアにおける地震火山の総合防災策」). Syiah Kuala University. 13-14 October, 2009.</p>

山本博之	西芳美・山本博之 2009 「災害対応を通じたコミュニティ再編の可能性」日本災害復興学会 2009 長岡大会 (日本災害復興学会)、2009 年 9 月 18 日。
蓮田隆志	蓮田隆志「九博所蔵文書から見るベトナム史」福岡県一ノ宮市友好提携「ハノイ・ベトナムフェア」文化講演会、2009/10/11、於九州国立博物館。
浜元聡子	HASUDA, Takashi "Waterway Control and Coastal Village in Central Vietnam during The Seventeenth and Eighteenth Centuries&rdquo;. CAPAS-CSEAS 2009 International Symposium on Maritime Links and Trans-nationalism in Southeast Asia: Past and Present, 28 Oct. 2009, Academia Sinica, Taiwan.
藤田幸一	浜元聡子 2009 年度次世代研究インシニアティブ助成の研究報告会浜元聡子(東南アジア研究所・研究員)「被災地に生きる選択ー一生存基盤の確保と地域防災対策をめぐる研究」
梅村研二	藤田幸一「インドの高度経済成長と農村ー所得格差問題と貧困人口のゆくえー」人間文化研究機構プログラム「現代インド地域研究」2009 年度全体集会、京都大学東南アジア研究所、2009 年 12 月 6 日。
	Sasa Sofyan Munawar, Kenji Umemura, Shuichi Kawai: Development of moulded products from bio-based renewable resources, 第 27 回日本木材加工技術協会年次大会、熊本、108-10(2009)
	松尾美幸、横山操、梅村研二、川井秀一:歴史的建造物由来木材の材質評価(VII)-心材形成後および伐採後のヒノキ材の色変化、第 60 回日本木材学会大会、宮崎、3/17-19(2010)
	Sasa Sofyan Munawar, Shuichi Kawai, Kenji Umemura: Development of moulded products made from acacia mangium bark and malic acid, 第 60 回日本木材学会大会、宮崎、3/17-19(2010)
	上田智英、梅村研二、川井秀一:クエン酸を用いた木質成形材の開発研究、第 60 回日本木材学会大会、宮崎、3/17-19(2010)
	杉原理、梅村研二、川井秀一:クエン酸とスクロースを接着剤としたパーティクルボードの開発、第 60 回日本木材学会大会、宮崎、3/17-19(2010)
	Rohy S. Masil, Kenji Umemura, Shuichi Kawai: Curing and degradation of cement-bonded particleboard by supercritical CO2 treatment, 第 60 回日本木材学会大会、宮崎、3/17-19(2010)
	西岡美銘、梅村研二、川井秀一、辻野善夫:スギ材の二酸化炭素吸着における種々の因子の寄与、第 60 回日本木材学会大会、宮崎、3/17-19(2010)
	川原藤朗、足立幸司、蓮池健、井上雅文、森拓郎、梅村研二:木質シートによる集成材フィンガージョイントの補強、第 60 回日本木材学会大会、宮崎、3/17-19(2010)
	梅村研二、上田智英、川井秀一:クエン酸を結合剤としたスギ樹皮粉末および木粉による木質成形体の特性、第 60 回日本木材学会大会、宮崎、3/17-19(2010)
清水 展	清水 展「日本人高齢者のフレイビリンロングステアー夢と幻滅のあいいで揺れる人、狭間を生きる人ー」The First KAEAS-CSEAS Joint International Symposium on "Interdependency of Korea, Japan and Southeast Asia: The Migration, Investment and Cultural Flow," held at Gyeongsang National University on June 19-20, 2009.
	清水 展「資源としてのオフガオの棚田ー遺産相続者たちの思惑ー」国際文化学会・分科会「世界遺産への視線」於佐賀大学、2009 年 7 月 4-5 日。
	Hiromu Shimizu "Paradise in Dream or in Reality? Historical Perspectives on Japanese Retirees' Migrating to the Philippines," the International Symposium of Transnational Mobilities for Care: State, Market and Family Dynamics in Asia," held at Asian Research Institute, National University of Singapore, September 10-11, 2009
大村善治	Y. Omura, "Nonlinear particle dynamics associated with electrostatic solitary waves and whistler-mode chorus emissions in the magnetosphere", 17th Cluster Workshop, Uppsala, Sweden, 2009.5.12-15
	Y. Omura, "Theory and simulations of nonlinear whistler-mode chorus waves in the magnetosphere", Modern Challenges in Nonlinear Plasma Physics, A Conference honoring the Career of Dennis Papadopoulos, Sani Resoni, Halkidiki, 2009.6.15-19
	Yoshiharu OMURA, Mitsuru HIKISHIMA, Yuto KATOHI, Danny SUMMERS, Susoshi YAGITANI, "Nonlinear Mechanisms of Lower Band and Upper Band VLF Chorus Emissions in the Magnetosphere", Asia Oceania Geosciences Society, Singapore, 2009.8.11-15
	Masafumi SHOJI, Yoshiharu OMURA, "Coalescence of Mirror Mode Structures: Nonlinear Particle Motion in the Magnetic Structures", Asia Oceania Geosciences Society, Singapore, 2009.8.11-15

大村善治	<p>Yoshiharu Omura, "Nonlinear Wave-Particle Interactions in the Magnetosphere" (Meeting Room 301, 14:45 - 15:30, 12 August, 2009) (基調講演), Asia Oceania Geosciences Society, Singapore, 2009.8.11-15</p> <p>Yoshiharu Omura, "Theory and simulations of nonlinear whistler-mode chorus waves in the radiation belts", WCU International Workshop, Jeju, Korea, 2009.10.26-28</p> <p>Yoshiharu Omura, Mitsuru HIKISHIMA, and Yuto Katoh, "Electromagnetic particle simulations of whistler-mode chorus emissions", 2009 Conference on Computational Physics (CCP 2009), Kaohsiung, Taiwan, 2009.12.15-19</p> <p>HIKISHIMA, M., S. Yagitani, Y. Omura, I. Nagano, "Coherent nonlinear scattering of energetic electrons in the process of whistler-mode chorus generation", The 9th International School for Space Simulations, Paris, 2009.7.3-10</p> <p>Omura, Y., M. HIKISHIMA, Y. Katoh, D. Summers, S. Yagitani, "Nonlinear mechanisms of lower band and upper band VLF chorus emissions in the magnetosphere", The 9th International School for Space Simulations, Paris, 2009.7.3-10</p> <p>Katoh, Y. and Y. Omura, "Relationship between the frequency sweep rates and the wave amplitude in the generation process of whistler-mode chorus emissions", The 9th International School for Space Simulations, Paris, 2009.7.3-10</p> <p>Masafumi Shoji and Yoshiharu Omura, "Coalescence of Mirror Mode Structures: Nonlinear Particle Motion in the Magnetic Structures", The 9th International School for Space Simulations, Paris, 2009.7.3-10</p> <p>K. H. Lee, Y. Omura, L. C. Lee, and C. S. Wu, "Nonlinear saturation of cyclotron maser instability associated with energetic ring-beam electrons", The 9th International School for Space Simulations, Paris, 2009.7.3-10</p> <p>Miyake, Y., H. Usui, and Y. Omura, "Development of Electromagnetic Spacecraft Environment Simulator (EMISES): application to the analysis of antenna-plasma interactions", The 9th International School for Space Simulations, Paris, 2009.7.3-10</p> <p>Ghosh, S. S., Y. Omura, A. Sen, G. S. Lakhina, "Numerical analysis of electron acoustic dromions and its application for boundary layer waves", The 9th International School for Space Simulations, Paris, 2009.7.3-10</p> <p>Yuto KATOH, Yoshiharu OMURA, "Amplitude Dependence of Frequency Sweep-Rate of Whistler-Mode Chorus Emissions", Asia Oceania Geosciences Society, Singapore, 2009.8.11-15</p> <p>Mitsuru HIKISHIMA, Satoshi YAGITANI, Yoshiharu OMURA, Isamu NAGANO, "Coherent Nonlinear Scattering of Energetic Electrons in the Process of Whistler-Mode Chorus Generation", Asia Oceania Geosciences Society, Singapore, 2009.8.11-15</p> <p>Yoshiya KASAHARA, Akihiko MURO, Yoshitaka GOTO, Kozo HASHIMOTO, Yoshiharu OMURA, Aisushi KUMAMOTO, Takayuki ONO, Hideo TSUNAKAWA, "Electron Plasma Wave and Electron Density Profile Around the Moon Observed by KAGUYA LRS/WFC", Asia Oceania Geosciences Society, Singapore, 2009.8.11-15</p> <p>Yoshiharu Omura, Mitsuru HIKISHIMA, Yuto Katoh, Danny Summers, Satoshi Yagitani, "Nonlinear Mechanisms of lower band and upper band VLF chorus emissions in the magnetosphere", 11th Scientific Assembly of International Association of Geomagnetism and Aeronomy, Sopron, Hungary, 2009.8.23-30</p> <p>Masafumi Shoji, Yoshiharu Omura, "Nonlinear Evolution of Mirror Mode Structures", 第126回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会(2009年秋学会), 金沢大学, 2009.9.27-30</p> <p>大村善治; 足島亮; 加藤雄人; Summers Danny; 八木谷聡, "磁気赤道域における上側周波数帯コア放射の発生機構", 第126回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会(2009年秋学会), 金沢大学, 2009.9.27-30</p> <p>Yuto Katoh; Yoshiharu Omura, "Study of the threshold of wave amplitude in generating chorus emissions", 第126回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会(2009年秋学会), 金沢大学, 2009.9.27-30</p> <p>笠原禎也; 室晶彦; 後藤由貴; 西野真木; 橋本弘藏; 大村善治; 熊本弘志; 小野高幸; 細川秀夫, "かぐや LRS/WFC で観測された月ウェイク境界領域の電子密度分布の非対称性", 第126回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会(2009年秋学会), 金沢大学, 2009.9.27-30</p> <p>橋谷真紀; 橋本弘藏; 大村善治; 笠原禎也; 小嶋浩嗣; 細川秀夫, "かぐや衛星で観測される静電孤立波(ESW)に関する研究", 第126回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会(2009年秋学会), 金沢大学, 2009.9.27-30</p> <p>吉川真登; 大村善治, "内部磁気圏におけるホイッスラーモード・コーラス波によるマイクロロン共鳴電子加速", 第126回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会(2009年秋学会), 金沢大学, 2009.9.27-30</p> <p>Mitsuru HIKISHIMA; Yoshiharu Omura, "Formation of pancake distribution of electrons through nonlinear trapping by chorus emissions", 第126回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会(2009年秋学会), 金沢大学, 2009.9.27-30</p> <p>広野哲也; 三宅壮聡; 大村善治; 小嶋浩嗣, "ビーム不安定性からの低周波波動励起に関する粒子シミュレーション", 第126回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会(2009年秋学会), 金沢大学, 2009.9.27-30</p> <p>三宅洋平; 白井英之; 大村善治; 中島浩, "衛星周辺プラズマ電磁環境解析のための粒子シミュレーション技法の開発と応用", 第126回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会(2009年秋学会), 金沢大学, 2009.9.27-30</p>
------	---

大村善治	堀江広貴; 笠原利也; 後藤由貴; 井町智彦; 小嶋浩嗣; 橋本弘蔵; 大村善治; 熊本篤志; 小野高幸; 細川秀夫; カハベヤ・WFC—L 波形捕捉器で観測されたノイズボラ型パルス波形の解析”, 第 126 回 地球電磁気・地球惑星圏学会 総会・講演会(2009 年 秋学会), 金沢大学, 2009.9.27-30
佐藤孝宏	佐藤孝宏 「What changed agriculture, How agricultural water use adopted: A Case study of Tamil Nadu, India」現代インド地域研究京都大学拠点 第 2 回特別研究会「南インドの灌漑農業について」2009 年 9 月 24 日、京都大学
渡辺一生	佐藤孝宏 「GPS とカシミール 3D を使ったオゾンマップの作成」京都大学国際交流科目「中国雲南省における持続的農業」2009 年 6 月 18 日、京都大学農学部 渡辺一生、河野泰之、舟橋和夫、宮川修一、星川和俊 (2009): タイ国東北部水田集落における過去 20 年間の水田耕作の変遷—農社統合 GIS データベースを用いた世帯レベルでの把握—, システム農学会誌, 25(別号 2), 29-30. (査読なし) 渡辺一生 (2009): 東北タイ・ドーン村におけるコメ生産/消費活動の軌跡—20 年間の定点調査情報の統合と分析—, 限界地の生存研究第 1 回研究会, 京都大学東南アジア研究所. (査読なし) 渡辺一生 (2009): 東北タイ農民の生存戦略における自給的稲作の位置づけ, 京都大学グローバル COE プロジェクト「生存基盤持続型発展を目指す地域研究拠点」次世代イニシアティブ助成報告書.(査読なし)
宮本万里	宮本万里「ブータンの社会組織とチャム」, 「国際シンポジウム」, 「国際シンポジウム」, 日本使業とチベット仏教チャムの比較研究—仮頭に注目して—, 於立教大学アジア地域研究所, 2010 年 1 月 16 日。 宮本万里「現代ブータンにおける自給的稲作の位置づけ」, 京都大学総合研究 2 号館大会議室, 2009 年 11 月 13 日。 宮本万里「自然環境保護」をめぐる文化の政治—ブータン、信仰・開発政策」, 現代インド地域研究「多文化世界としてのインド」第 2 回研究会, 於京都大学総合研究 2 号館大会議室, 2009 年 11 月 13 日。 宮本万里「現代ブータン」の環境主義と国民形成—国立公園政策からみた自画像のポリテクス」, 宮城学院女子大学付属キリスト教文化研究所共同研究「多民族社会における宗教と文化」主宰、東北人類学談話会・南アジア学会東北支部例会共催、於宮城学院女子大学付属キリスト教文化研究所, 2009 年 11 月 7 日。
梶 茂樹	Miyamoto Mari, “Self-Portrait of a Nation in Contemporary Bhutan: Citizenship Figured by Cultural Heritage and Environmentalism” in The 38 <sup>th</sup> Annual conference on South Asia at Madison, Wisconsin, USA in Oct 23, 2009. 宮本万里, 「環境にやさしい勤勉な身体へ向けて—ブータンの国立公園に生きる焼畑耕作民とチャム」日本南アジア学会第 22 回全国大会、於北九州市立大学北方キャンパス, 2009 年 10 月 3 日。 宮本万里, 「現代ブータンにおけるナショナルイズムと環境主義 —自然環境保護をめぐる文化の政治—」日本文化人類学会第 43 回研究大会、於大阪国際交流センター, 2009 年 5 月 30 日。 Kaji, Shigeki “Tone Loss in Tooro, a West Ugandan Bantu Language”, 6th World Conference on African Languages, University of Cologne, August 19, 2009. KAJI, Shigeki “A Comparative Study of Tone in West Ugandan Bantu Languages”, Bantu Tone Workshop, Centre National de Recherche Scientifique, January 9, 2010. KAJI, Shigeki “On the Intransitive Usage of Transitive Verbs in Tooro, A Bantu Language of Western Uganda”, University of Leyden, October 2, 2009. KAJI, Shigeki “Typology of Tone and Pitch Accent of Japanese Dialects and African Bantu Languages”, University of Nijmegen, October 5, 2009. KAJI, Shigeki “Can Japanese Dialects and African Languages Go Together in Terms of Pitch and Tone, A Typological Overview”, University of Leyden, October 7, 2009.
細田尚美	細田尚美「オーブン・シティ」の発展: ドバイ在住フィリピン人の移住過程から」ドバイ移民社会研究会 2009 年度第 2 回研究会(京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科) 2009 年 9 月 18 日 Naomi Hosoda, “How Do Filipino Nurses and Caregivers Do “Cross-country” in the World?” International Symposium on “Maritime Links and Transnationalism in Southeast Asia: Past and Present”(台湾中央研究院) 2009 年 10 月 27 日。 細田尚美「看護学生のキャリアプランから見るとフィリピン看護人材の重層性」, 在日平和財団「人口変動の新潮流の対処」事業第 2 回委員会報告会(日本財団ビル) 2009 年 12 月 22 日 細田尚美「国境管理と違法」移民: ドバイ・ブームに乗ったフィリピン移民への聞き取りから」東南アジアにおける観光ゲーム状況の人類学的研究 研究会(京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科) 2010 年 1 月 23 日 細田尚美「合法/違法、正当/不当の間で: アラブ首長国連邦で働くフィリピン出稼移民」, 「国際ワークショップ」アジアにおける非伝統的安全保障問題」(政策研究大学院大学) 2010 年 3 月 19 日

柳澤雅之	柳澤雅之、「自然生態資源の利用における地域コミュニティ・制度・国際社会」平成20年度京都大学地域研究統合情報センター・全国共同利用研究報告会、2009年4月25日～26日、京都大学稲盛財団記念館
柳澤雅之	柳澤雅之、「地域研究の客観性を考える」、地域研究方法論研究会(第3回)(京都大学地域研究統合情報センター共同研究会『地域研究方法論』、2009年6月26日、上智大学
柳澤雅之	柳澤雅之、「ベトナム北部の生産・生存・環境-デルタと山地部-」(京都大学地域研究統合情報センター萌芽研究『グローバル経済下における生産・生存・環境』2009年7月3日
柳澤雅之	柳澤雅之、「自然科学者による地域研究方法論研究会(第1回)」(京都大学地域研究統合情報センター共同研究会『自然科学者による地域研究方法論研究会』2009年10月22日、京都大学
柳澤雅之	柳澤雅之、「地域理解のための自然科学者によるアプローチ」、地域研究方法論研究会(第5回)(京都大学地域研究統合情報センター共同研究会『地域研究方法論』、2009年12月19日、大阪大学
柳澤雅之	柳澤雅之、「自然科学者による地域研究方法論研究会(第2回)」(京都大学地域研究統合情報センター共同研究会『自然科学者による地域研究方法論研究会』2010年1月8日、東京大学
柳澤雅之	柳澤雅之、「ベトナム北部山地における商品作物導入過程」(京都大学地域研究統合情報センター萌芽研究『グローバル経済下における生産・生存・環境』2010年2月17日、京都大学
柳澤雅之	柳澤雅之、「フロートストックからみる自然資源利用」(京都大学地域研究統合情報センター共同研究『ストックとフロートからとらえる東南アジア大陸部山地:自然資源利用におけるストック概念の再検討』2010年3月1日、名古屋大学
黒崎龍悟	黒崎龍悟 2009 農村開墾実践の副次効果と内発性の発現プロセス 国際開発学会第20回全国大会 於立命館アジア太平洋大学、別府 11月21-22日
黒崎龍悟	黒崎龍悟 2010 「住民参加のデモクラシー」民族学博物館共同研究「デモクラシーの人類学」第2回研究会 於国立民族学博物館 2月2日
佐川 徹	佐川 徹 2009 「東アフリカ牧畜社会における小型武器問題と武装解除政策」、日本ナイル・エチオピア学会第18回学術大会、京都、2009年4月25-26日。
佐川 徹	佐川 徹 2009 「東アフリカ牧畜社会における戦いと和解の作法」、日本文化人類学会近畿地区研究懇話会(博士論文発表会)、大阪、2009年6月27日。
佐川 徹	佐川 徹 2009 「紛争下に生きる人たちの戦いと和解の作法」、京の府民大学、京都大学アフリカ地域研究資料センター公開講座第2回『『和する』:アフリカの人びとの争いと和の作法(講演者:佐川徹・中山裕美・太田至)、京都、2009年11月28日。
佐川 徹	佐川 徹、2010 「大規模開墾プロジェクトが潤縁地域に与える影響:エチオピアのダム/農場建設とダサネッチ」、在米知研究会、京都、2010年3月3日。
籠谷直人	Sagawa, Toru 2009 Local order and human security after the proliferation of automatic rifles: A case of East African pastoral societies. <i>International Seminar on Human Security and Peacebuilding: Rhetoric and Realities in Peacebuilding</i> , Centre for Peace and Reconciliation Studies, Coventry University, Coventry (UK). 14-16. Dec. 2009.
籠谷直人	籠谷直人「神戸華僑歴史博物館創設30周年記念ワークショップ」(2009年10月3日)『日本華僑華人関係資料の収集・整理・保存・公開』、2010年3月、1-50頁。
籠谷直人	籠谷直人「近代東アジアにおける自由貿易原則の浸透と華僑」総合地球環境学研究所・深見奈緒子編『第三回全球都市全史研究会報告集 生態系からみた都市とそのネットワーク』2010年3月、32-42頁。
古市剛久	Naoto Kagotani "Japan's Commercial Penetration of South and Southeast Asia and the Cotton Trade Negotiations in the 1930s: Maintaining Relations between Japan, British India and the Dutch East Indies" Shigeru Akita and Nicholas J. White (eds.) <i>The International Order of Asia in the 1930s and 1950s</i> . Ashgate, 2010. pp.179-206.
古市剛久	Furuichi, T., Wasson, R.J., 2009. Can 137Cs be used for the study on soil and sediment movement in Southeast Asia? International Workshop on Low-level Measurement of Radionuclides and its Application to Earth and Environmental Sciences, November 2009, Kanazawa University, Kanazawa.
古市剛久	Furuichi, T., Wasson, R.J., Olley, J.M., 2009. Sources of fine sediments in the Lake Inle catchment, Myanmar(Burma). Japan Geomorphological Union Fall Meeting, October 2009, Kyoto University of Education, Kyoto.
古市剛久	Furuichi, T., Pleisch, T., Wasson, R.J., and Olley, J. 2009. Sedimentation in Lake Inle, Myanmar: Analysis using optical and 137Cs dating. Abstract for the 7th International Conference on Geomorphology, Melbourne, Australia (Session: Tropical Geomorphology).
古市剛久	古市剛久、2009a. ミャンマー-国サイクロン・ナルギス関連情報ウェブサイトに於ける外邦国の提供。第11回外邦国研究会(2009.5.23.於お茶の水女子大学)。

古市剛久	古市剛久, 2009b. 土砂の化学性をいれた土砂起源地特定手法(2)ー化学性保存からの検討ー. 日本地球惑星科学連合 2009 年大会(セッション:地形)(2009.5.19 於 幕張メッセ).
古市剛久	古市剛久, 2009c. 東南アジアでの自然災害に即応する情報提供ーミャンマー国サイクロン・ナシギス関連情報ウェブサイトの経験ー. 2009 年度ビルマ研究会(2009.5.16.於立命館大学).
田中耕司	Koji Tanaka, "Inflow of Agricultural Technologies and Outflow of Natural Resources: Observation in a Border Region of Northern Shan State, Myanmar." Joint-seminar held at the Ministry of Agriculture and Irrigation, Nay Pig Taw, Myanmar, August 22, 2009.
田中耕司	Koji Tanaka, "Development of Sulawesi Area Studies: Fifty-Year Collaboration between Indonesian and Japanese Scholars." Joint-Workshop on Sulawesi Area Studies held at Makassar by Ehime University and Hasanuddin University, October 8, 2009.
田中耕司	田中耕司「アジア船作の重層化:『マレー型船作』の到来から『日本型船作』の導入まで」民族自然誌研究会第 57 回例会「アフリカで育ったアジアのわざーマダガスカル島の農業」於京大会館, 2009 年 10 月 24 日。
古市剛久	Koji Tanaka, M. Shimigami, and Keron Petrus, "National Forest Park and Local Communities: A Case from Lampung Province, Indonesia." The 2nd International Conference on Forest-Related Traditional Knowledge and Culture in Asia held at Kunming by United Nations University and Kunming Institute of Botany, November 3, 2009.
古市剛久	Koji Tanaka, M. Shimigami, and Keron Petrus, "Role of Local Communities toward Sustainable Use of Forest Area: Community Forest Program in Decentralizing Indonesia." International Workshop on Sustainable Land Management in Marginal Mountainous Region held at Shillong by United Nations University and Northeastern University, November 9, 2009.
藤田素子	藤田素子・宇野裕美・北山兼弘 熱帯山地林における鳥類によるシロンの運搬. 第 57 回日本生態学会, 東京 2010 年 3 月 (ポスター番号 P3-331)
藤田素子	Motoko Fujita, Dewi M. Prawiradilaga and Tsuyoshi Yoshimura. The Role of Remnant Forest in Conserving Bird Diversity in Acacia Plantation in Indonesia. 10th International Congress of Ecology, Brisbane, Australia, 2009 年 8 月
石川 登	Ishikawa, Noboru 2009. "Where Natural and Social Systems Meet." JSPS Global COE Program In Search of Sustainable Humankind in Asia and Africa, The Third International Conference Changing Nature of Nature: New Perspectives from Transdisciplinary Field Science, December 15 - 17, 2009. Inamori Foundation Memorial Hall, Kyoto University.
石川 登	Ishikawa, Noboru 2009. Equatorial Blessings or Woes? The Regime Shift of a Biomass Society in Southeast Asia A Presidential Session, The American Anthropological Association (AAA), Dec.2, 2009 Philadelphia, TEN YEARS AFTER: THE LEGACY OF ERIC R. WOLF, Organizer:
石川 登	Gustavo Lins Ribeiro (U of Brasilia), Chair: Sydel Silverman (City U of New York)
石川 登	Ishikawa, Noboru 2009. (co-authored with Gaku Masuda), Malaria, Mosquitoes and Communities: the Flows of Pathogens and Human across the Sarawak/West-Kalimantan Border, Oct.29, 2009, Center for Asia-Pacific Area Studies, Academia Sinica, Taipei, Taiwan.
石川 登	Ishikawa, Noboru. 2009 The Social Resiliency of High Biomass Society: An Historical Analysis, May 19, 2009, Institute of East Asian Studies, Universiti Malaysia Sarawak, Kuching, Sarawak.
柴山 守	(単著)Mamoru Shibayama: Hanoi Urban Transformation in the 19th and 20th Centuries: An Area Informatics Approach, Proceedings of PNC2009 Annual Conference and Joint Meetings, pp.80-83, October, 2009
柴山 守	(共著)柴山 守, 米澤 剛: ハノイ・プロジェクト: GIS による都市形成過程の復原, 情報処理学会研究報告, Vol.2009, No.13, pp.180-195, 2009.7
柴山 守	(共著)米澤 剛, 柴山 守: ハノイの地形と水文環境 -3 次元都市モデルの構築-, 情報処理学会研究報告, Vol.2009, No.13, pp.180-195, 2009.7
柴山 守	(共著)原 正一郎, 関野 樹, 久保 正敏, 柴山 守: 地域研究支援のための時空間情報処理ツールの構築, 情報処理学会人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 Vol.2009, pp.73-80, 2009.12
柴山 守	(共著)河野泰之, 柴山 守, 浜口俊雄, 米澤 剛: 持続可能な生態資源の利用のための技術融合と制度設計, 生存基盤科学研究ユニット平成 21 年度研究成果報告会講演要旨集, pp.55-61, 2010.3
柴山 守	(共著)関野 樹, 原正一郎, 久保正敏, 柴山 守: 時間情報解析ツール Hufime, 東京大学空間情報科学研究センター 全国共同利用研究発表大会 CSIS DAYS 2009 研究アブストラクト集, p.32, 平成 21 年 11 月
柴山 守	(単著)柴山 守: 巻頭言ー地域・環境ー情報で読み・語る新たな地平, 雑誌 Seeder, 昭和堂, p.1, No.1, 2009
柴山 守	Mamoru Shibayama, Hanoi Urban Transformation: An Area Informatics Approach, Workshop on Hanoi Studies, Sakura-Festival, Hanoi, 2009.4.11, Hanoi, Vietnam

柴山 守	<p>柴山 守 地域・文化・デジタルの連携科学ー見えぬモノの可視化、国立情報学研究所 ワークショップ「分野横断データ連携ユビキタス研究・教育環境」、Trans- Disciplinary Data Federation for Ubiquitous Research and Education, 2009.4.22, 学術総合センターー備記念講堂</p> <p>柴山 守 京都大学東南アジア研究所の所蔵地図資料、一地図・航空写真の収集・蓄積・提供についてー、JICAS 地域研究コンソーシアム年次集会、京都大学、稲盛財団記念館、2009年11月8日</p> <p>Mamoru Shibayama, Hanoi Urbanization in the 19 – 20 Centuries on Area Informatics Approach, HOI AN INTERNATIONAL SYMPOSIUM 2009,2009.8.15, Hoi An, Vietnam</p> <p>Mamoru Shibayama, Hanoi Urban Transformation in the 19-21th Centuries: An Area Informatics Approach, PNC2009 Annual Conference and Joint Meetings, 2009.10.6-9, Taipei, Taiwan.</p> <p>柴山 守 「地域環境情報 差異をみる、さく、はかる、しる方法」へのコメント、総合地球環境学研究所コロキウム、2009年11月10日</p> <p>柴山 守 「ハノイプロジェクト・GIS による都市形成過程の復原」、ベトナム社会科学学院漢喃研究所、2009年12月21日</p> <p>柴山 守 「地域をく説む」&gt;&lt;解む&gt;&lt;語る&gt;情報学ーあらたな研究パラダイムの構築を目指してー、熊本県立大学 PD 研修、2010年1月26日</p> <p>Mamoru Shibayama, "Hanoi Project and Digital Material", International Workshop 2010 on Area Informatics Exploring Humanosphere and Urbanization of Hanoi -, 2010.02.01-02, Hanoi, Vietnam</p> <p>Mamoru Shibayama, "Hanoi Project in Area Informatics", International Workshop 2010 on Area Informatics Exploring Humanosphere and Urbanization of Hanoi -, 2010.02.01-02, Hanoi, Vietnam</p>
片岡 樹	<p>片岡樹(2009)「謎を愉しむータイ山地民のフィールドで出会った変な話ー」日本文化人類学会第43回研究会(於大阪国際交流センター)</p> <p>Tatsuki Kataoka (2010) "Border Crossing and Labor Migration of the Lahu Hilltribe." paper presented at the international workshop "Informal Human Flows between Thailand and Its Neighbors", 18-19 Jan. 2010, Kyoto University</p> <p>Tatsuki Kataoka (2010) "The Making of Statelessness among the Lahu." paper presented at the International Workshop "Asian Connections: Southeast Asian Model for Co-Existence in the 21st Century", 26-27 Feb. Kyoto University.</p>
北村由美	北村由美、「ジャカルタの「言語景観」にみられる中国語使用と華人」、日本 インドネシア学会、京都外国語専門学校、2009年11月4日
福島 万紀	福島万紀、「焼畑耕作が輸出する空間的多様性ータイ北部の「焼畑休閑林」および「焼畑停止林」に存在する植物資源ー第140回東南アジアの自然と農業研究会」、京都 2009年6月。
木谷公哉	木谷公哉、「東南アジア研究逐次刊行物総合目録データベース」試作検討」、東南アジア研究所共同研究・第2回共同研究会「東南アジア研究資料の共有化と図書館間協力」、2010.1.18
Wil de Jong	Wil de Jong, 2010. "Theoretical Framework for Analysis of Forest Transition" International Workshop Transitions to Sustainable Forestry in Developed and Developing Countries: Resolving Challenges with Lessons from Europe and Asia"; 18-20 Jan, Seoul National University, South Korea.
竹田晋也	第120回日本森林学会大会(京都大学)竹田晋也、名村隆行、岩佐正行、渡辺盛晃、ブーマワゴン・ブーンシット、ボムチャン・トゥイ。「ラオス北部カム村藩における焼畑土地利用の4年間の動態」2009年4月
	Takeda, Shinya. Mapping changes of altitudinal land use zonation in the Himalayas: Progress report from the Ladakh and Arunachal study sites. The First High-Altitude Project International Conference, Global Environmental Issue in the human body –Disease and aging manifested by the imbalance between high-altitude adaptation and recent life-style change, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto. 3 <sup>rd</sup> December 2009
	Takeda, Shinya. Local management of forested wetland in tropical Asia. International workshop on Local Management of Forested Wetland in Tropical Asia. Co-organized by Plant Ecology Research Center, Department of Botany, Faculty of Science, Chulalongkorn University, ASAFAS, Kyoto University and FFPRI, Ranong. 19 December 2009
	Takeda, Shinya. NTFPs for the 'stabilization' of swidden farming in a Khmu village of northern Lao PDR. International Workshop on the alternative value of traditional agriculture for education, research and development. Faculty of Agriculture, National University of Laos, Vientiane. 17 February 2010
	Takeda, Shinya. NTFPs for the 'stabilization' of swidden agriculture in northern Lao PDR. Kyoto Sustainability Initiatives(KSI) International Workshop on Swidden agriculture in Southeast Asia- Sustainability and Contribution towards Agroforestry and Forestry. CSEAS, Kyoto University. 15 March 2010.

連水洋子	連水洋子 2009年3月20日「ヒルマのキリスト教と民族・カレンにみる民族と宗教」国立民族学博物館共同研究「キリスト教文明とナショナルリズム—人類学的研究」 Hayami, Yoko 2009年6月19日「Social and Cultural Practices among Labor Migrants in the Thai-Myanmar Borderland」The First KASEAS-CSEAS Joint International Symposium, "Interdependency of Korea, Japan and Southeast Asia: Migration, Investment, and Cultural Flow"18-20 June 2009 Gyeongang National University, Jinju Hayami, Yoko 2009年9月10日「Gender and Changing Families in Southeast Asia」The 33rd Southeast Asian Seminar on "Region" and Regional Perspectives on from Southeast Asia. CSEAS, Kyoto University September 7-11. Hayami, Yoko 2009年9月14日「The Present and Future of Area Studies in Asia: From Perspectives on Gender and Family」JASSO International University Exchange Seminar, Kyoto Field School, ASAFAS, Kyoto University September 11-24, 2009 Hayami, Yoko 2009年10月28日「Asian Connections as both Subjects and Tools for Fruitful Collaborative Research」CAPAS-CSEAS 2009 International Symposium on Maritime Links and Trans-nationalism in Southeast Asia: Past and Present. CAPAS, Academia Sinica Taiwan. 連水洋子 2009年11月7日 地域研究コンソーシアム年次集会—般公開シンポジウム「地域研究の国際化」 連水洋子 2009年12月19日「タイ社会の人類学「コミュニティ」と「ネットワーク」の交差—南山大学人類学研究所60周年記念連続シンポジウム第一回「21世紀アジア社会の人類学: 回顧と展望」 Hayami, Yoko 2010年3月3日「"Reality or Mirage" Family in Southeast Asian Society」paper given at the International Workshop on Southeast Asia, "Regions", and Social Theory. The Hebrew University of Jerusalem, March 3-4.
Patricio N. Abinales	Patricio N. Abinales "Rodents, Pestilence and Politics in Postwar Philippines," in Interdependency of Korea, Japan and Southeast Asia: Migration, Investment and Cultural Flow," First Korean Association of Southeast Asian Studies and Kyoto University Center for Southeast Asian Studies Joint International Symposium, Gyeongang National University, June 18-20, 2009
岡本正明	岡本正明、「インドネシア、4度目の「正義」の時代: イスラーム主義政党の均衡と現実主義の政治」、東南アジア学会全国大会、京都大学船盛財団記念館 3階大会議室、5、2009年6月6-7日 Okamoto Masaaki, Rise of An Islamist Party, PKS in the Democratized Indonesia: The First KASEAS-CSEAS Joint International Symposium: "Interdependency of Korea, Japan and Southeast Asia: The Migration, Investment and Cultural Flow", 2009年6月19-20日 岡本正明、「インドネシアの分権化と住民参画の可能性」、平成21年度ジェトロ・アジア研夏期公開講座「東南アジアのローカル・ガバナンスの新地平—タヒセイインドネシアを中心に」、2009年7月23日、ジェトロ東京本部5階ABC会議室 岡本正明、「上と下からのローカル主義: 民主化時代のインドネシア国家統合プロジェクト」、シンポジウム「東南アジアとヨーロッパのリージョナリズム——相関地域研究の試み」、2009年10月31日～11月1日、東京大学駒場キャンパス18号館ホール、主催: 京都大学地域研究統合情報センター 全国共同利用複合ユニバーシティ・アジアの歴史制度論的比較」(代表: 小森宏美)、共催: 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻
東長 靖	Okamoto Masaaki, Politics of Stabilization in the Democratized Indonesia, Seminar of Indonesia: Observing Today' Indonesia, a Projection Into The Future, 2010年2月6日, Indonesian Student Association of Japan and Asia Pacific Ritsumeikan University Okamoto Masaaki, New Types of Local Leadership and Governance in Indonesia and Japan, International Symposium: New Frontiers of Indonesia-Japan Relationships, 2010年2月15-16日, Auditorium Center for Japanese Studies, University of Indonesia 岡本正明、「インドネシア民主化時代の私的暴力の行方」、JANNI 連続講座 72, 2010年3月17日, JICA 地球ひろば セミナールーム 202
梅澤 俊明	岡本正明、「アラバヤン・ブランテーションの拡大政策とその正当化のロジック」、International Workshop on Non-traditional Security Issues in Asia, 2010年3月19-20日、政策研究大学院大学、主催: 政策研究大学院大学、「非伝統的安全保障と国家の対応能力」(基盤 A: 代表: ハリン オ・アピナールス) 東長 靖「現代イスラームの靈性と広域タリカ」NIHU プログラム・イスラーム地域研究 2009 年度第 1 回合同集会、2009 年 7 月 11 日 (於 京都大学百年時計台記念館) (Invited) Toshiaki Umezawa, "Enantioselective Control in Phenylpropanoid Biosynthesis", RIKEN PSC Seminar, RIKEN, Yokohama, 2009.10.22 (Invited) Md. Mahabubur Rahman, Shiro Suzuki, Takefumi Hattori, Masahiro Mii and Toshiaki Umezawa, "Regeneration and Genetic Transformation of <i>Acacia</i> spp.", 1st International Symposium of Indonesian Wood Research Society, Jakarta, Indonesia, 2009.11.2-3



<p>梅澤 俊明</p> <p>(招待) 梅澤俊明, “リグニン生合成の代謝工学”, 日本応用細胞分子生物学会第7回大会, 宇治, 京都, 2009.12.12</p> <p>(招待) 梅澤俊明, “熱帯地域でのアカシア資源の有効活用と課題”, 平成21年度第3回ちばバイオテクノロジーセミナー, 千葉, 2010.2.5</p> <p>(依頼) 梅澤俊明, 服部武文, 鈴木史朗, 坂本正弘, “イネ細胞壁の改変による高効率糖化に向けた 先導的技術の研究開発”, 平成21年度バイオマスエネルギー関連事業成果報告会, 東京, 2010.2.11</p> <p>山村正臣, 鈴木史朗, 服部武文, 梅澤俊明, “セルレジンノール合成酵素のキヤラクタリゼーション”, 日本農芸化学会関西支部第459回講演会, 2009.5.30</p> <p>鈴木史朗, 鈴木直樹, 服部武文, 坂本正弘, 梅澤俊明, “オオグロコロール酸リグニン法による幅からリグニンによる幅からのリグニン定量”, 第27回日本植物細胞分子生物学会(藤沢)大会, 2009.7.30-31</p> <p>村上真也, 鈴木史朗, 山田竜彦, 服部武文, 西川智太郎, 廣近洋彦, 坂本正弘, 梅澤俊明, “近赤外分光分析法を用いた幅からのリグニン分析”, 第27回日本植物細胞分子生物学会(藤沢)大会, 2009.7.30-31</p> <p>山村正臣, 鈴木史朗, 服部武文, 梅澤俊明, “アスバラガス Hinokiresinol synthase の立体化学に関する研究”, 第27回日本植物細胞分子生物学会(藤沢)大会, 2009.7.30-31</p> <p>Rahman Md. Mahabubur, 鈴木史朗, 服部武文, 三位正洋, 梅澤俊明, “Regeneration and Genetic Transformation of Tropical <i>Acacia</i>”, 第27回日本植物細胞分子生物学会(藤沢)大会, 2009.7.30-31</p> <p>Masaomi Yamamura, Shiro Suzuki, Takehumi Hattori, Toshiaki Umezawa, “Subunit Composition of Hinokiresinol Synthase Controls Enantiomeric Compositions of Hinokiresinol Formation”, 49th Annual Phytochemical Society of North America Meeting and Symposia, Towson, USA, 2009.8.9-12</p> <p>村上真也, 服部武文, 向井まい, 宮尾安藝雄, 池正和, 鈴木史朗, 徳安健, 廣近洋彦, 坂本正弘, 梅澤俊明, “イネ CAD 遺伝子変異体 <i>gt2</i> の幅からの糖化効率”, 第54回リグニン討論会, 静岡, 2009.10.29-30</p> <p>鈴木史朗, 服部武文, 梅澤俊明, “次世代シークエンサーによるヒノキアスナロのジュート頂の EST 解析”, 第60回日本木材学会大会, 2010.3.17-19</p> <p>Md. Mahabubur Rahman, Shiro Suzuki, Takefumi Hattori, Masahiro Mii, and Toshiaki Umezawa, “In vitro regeneration and Agrobacterium-mediated genetic transformation of tropical <i>Acacia</i> spp.”, 第60回日本木材学会大会, 2010.3.17-19</p> <p>山村正臣, 服部武文, 鈴木史朗, 柴田大輔, 梅澤俊明, “ミクロスケール・ハイスループット・オートメーション酸化法”, 第60回日本木材学会大会, 2010.3.17-19</p> <p>小篠真臣, 大和麻子, 大和政秀, 岩瀬剛二, 鈴木史朗, 梅澤俊明, 服部武文, “アルミニウムによる外生菌根菌の有機酸代謝変動”, 第60回日本木材学会大会, 2010.3.17-19</p> <p>野田壮一郎, 鈴木史朗, 西藤伸之, 山口雅利, 出村拓, 服部武文, 梅澤俊明, “木化初期に発現する RING finger タンパク質の機能解析”, 第60回日本木材学会大会, 2010.3.17-19</p> <p>Ivón Hassel, Akihisa Kitamori, Kiho Jung, Kohei Komatsu : Shear Performance of Prefabricated Japanese Mud Wall Units – Superficial Fissure Growth Evaluation Using DSP, Proceedings of the 11th International Conference on Non-conventional Materials and Technologies (NOCMAT 2009), 6-9 September 2009, Bath, UK</p> <p>Takuro Mori, Akihisa Kitamori, Kiho Jung, Munekazu Minami, and Kohei Komatsu : Enhancing The Bending Stiffness of A Compound Timber Beam Using A Pin-Keyed Joint, Proceedings of the 11th International Conference on Non-conventional Materials and Technologies (NOCMAT 2009), 6-9 September 2009, Bath, UK</p> <p>Kohei Komatsu, Akihisa Kitamori, Kiho Jung and Takuro Mori: Estimation of The Mechanical Properties of Mud Shear Walls Subjecting to Lateral Shear Force, Proceedings of the 11th International Conference on Non-conventional Materials and Technologies (NOCMAT 2009), 6-9 September 2009, Bath, UK</p> <p>Akihisa Kitamori, Kiho Jung, Kohei Komatsu : Utilization of Compressed Wood as Mechanical Fasteners of Friction Joints in Timber Buildings, Proceedings of the 11th International Conference on Non-conventional Materials and Technologies (NOCMAT 2009), 6-9 September 2009, Bath, UK</p>	<p>小松幸平</p>
--	-------------

小松幸平	Kiho Jung, Satoru Murakami, Akhisa Kitamori, Kohei Komatsu: Improvement of Glued In Rod (Gir) Joint System Using Compressed Wooden Dowel, Proceedings of the 11th International Conference on Non-conventional Materials and Technologies (NOCMAT 2009), 6-9 September 2009, Bath, UK
荒木茂	荒木茂, ヴカメルーン東南部のサンバンナー森林境界地域における耕地化の現状 (第2報) "日本アフリカ学会第49回学術大会, 2009.5.23, 研究発表要旨集, pp.9.
角田邦夫	Y. S.Hadi and K. Tsunoda 2010. Comparison of the Termite Test Methodology of Japanese and Indonesian National Standards. <i>The 7th Termite Research Group Conference</i> , March 1-2 March 2010, Singapore. A. Yamada, S. Satoh, G. Tokuda, S. Fujii, Nobu Endo, E. Ueshima, Y. Tawa, M.Miyagi, H. Makiya, N. Shinzato, C.-Y.Lee and K. Tsunoda 2010. Genetic Diversity of the Formosan Subterranean Termite, <i>Coptotermes formosanus</i> Shiraki in Relation to the Distribution of Staphylinid Termitophiles. <i>The 7th Termite Research Group Conference</i> , March 1-2 March 2010, Singapore. A.Yamagawa, F. Yokohari, K.Tsunoda, Y. Inamura and T. Yoshimura: Role of antennae in the detection of ambient humidity by the termite, <i>Coptotermes formosanus</i> . The 7th Termite Research Group Conference, March 1-2 March 2010, Singapore.
神崎 護	山田昌郎, 角田邦夫, 今村祐嗣 2010. 木材プラスチック成形複合材(WPC), 耐水合板, プラスチック, ゴムの耐海虫性 - 海中浸漬2年後の結果-。第60回日本木材学会年次大会2010年3月17日,宮崎。 丸 尚孝, 角田邦夫, 吉村 剛, 今村祐嗣 2010. ベイト工法における誘引・滞留物質の検索。第60回日本木材学会年次大会2010年3月17日,宮崎。 神崎 護, 安藤菜穂, 秋山弘之, 原正利, 大久保達弘, Prachaya Srisanga, Piyakaset Saksathan, Kriangsak Sri-ngernyuang. タイ熱帯山地林の林冠部植物のインベントリーとモニタリングプロジェクト。日本熱帯生態学会第19回年次大会, 大阪市立大学田中記念館, 2009年6月20日。 KANZAKI Mamoru, ANDO Naho I. AKIYAMA Hiroyuki, HARA Masatoshi, OHKUBO Tatsuhiro, Prachaya SRISANGA, Piyakaset SUKSATHAN, Kriangsak SRI-NGERNYUANG. Inventory and habitat analysis of epiphytic plants in the canopy of a tropical montane forest of Thailand. International Workshop on Forest Watershed 2009.カンボジア, プノンペン Forestry and Wildlife Training Center. 2009年11月9日。 K. Hashimoto, M. Hashitani, Y. Kasahara, Y. Omura, M.N. Nishino, Y. Saito, S. Yokota, T. Ono, H. Tsunakawa, H. Shibuya, M. Matsushima, H.Shimizu, and F. Takahashi, Electrostatic solitary waves associated with magnetic anomalies and wake boundary of the Moon observed by KAGUYA, The 4th KAGUYA(SELENE) Science Working Team Meeting, Sagamihara, 2010/1/31-2/2 Y. Kasahara, H. Horie, K. Hashimoto, Y. Omura, Y. Goto, A. Kumamoto3, T. Ono3, H. Tsunakawa4, Bipolar-pulses caused by lunar dust impact observed by the LRS/WFC-L onboard KAGUYA, The 4th KAGUYA(SELENE) Science Working Team Meeting, Sagamihara, 2010/1/31-2/2 Masaki N. Nishino, Masaki Fujimoto, Yoshifumi Saito, Shokuro Yokota, Yoshiya Kasahara, Yoshiharu Omura, Yoshitaka Goto, Koza Hashimoto, Atsushi Kumamoto, Takayuki Ono, Hideo Tsunakawa, Masaki Matsushima, Futoshi Takahashi, Hideroshi Shibuya, Hisayoshi Shimizu, Toshio Terasawa, Effect of the solar-wind proton entry into the deepest lunar wake, The 4th KAGUYA(SELENE) Science Working Team Meeting, Sagamihara, 2010/1/31-2/2 室晶彦, 笠原禎也, 後藤由貴, 井町智彦, 橋本弘藏, 大村善治, 熊本篤志, 小野高幸, 細川秀夫, かぐや衛星で観測された月ウェイク境界領域の電子密度分布の研究, 日本地球惑星科学連合 2009年大会, 千葉市, 2009/5/16-21 森岡昭, 三好由純, 三澤浩昭, 土屋史紀, 門倉昭, 松本敏, 橋本弘藏, 湯元清文, Substorm onset and pseudo breakup, 日本地球惑星科学連合 2009年大会, 千葉市, 2009/5/16-21 橋本弘藏, 熊本篤志, 笠原禎也, 小野高幸, かぐや(SELENE)によるAKRの掩蔽観測, 日本地球惑星科学連合 2009年大会, 千葉市, 2009/5/16-21 白石隆文, 三宅壮徳, 石坂圭吾, 岡田敏美, 笠原禎也, 室晶彦, 後藤由貴, 橋本弘藏, 熊本篤志, 小野高幸, 細川秀夫, かぐや搭載 LRS/WFC 観測装置によって観測された低周波波動の解析, 日本地球惑星科学連合 2009年大会, 千葉市, 2009/5/16-21 橋本弘藏, 熊本篤志, 笠原禎也, 後藤由貴, 小野高幸, かぐや(SELENE)による月の影響を受けた高周波波動の観測, SGEPS 総会・講演会, 金沢市, 2009年9月27-30日 笠原禎也, 室晶彦, 後藤由貴, 西野真木, 橋本弘藏, 大村善治, 熊本篤志, 小野高幸, 細川秀夫, かぐや LRS/WFC で観測された月ウェイク境界領域の電子密度分布の非対称性, SGEPS 総会・講演会, 金沢市, 2009年9月27-30日 橋谷真紀, 橋本弘藏, 大村善治, 笠原禎也, 小嶋浩嗣, 細川秀夫, かぐや衛星で観測される静電孤立波(ESW)に関する研究, SGEPS 総会・講演会, 金沢市, 2009年9月27-30日 熊本篤志, 小野高幸, 中川広務, 橋本弘藏, 笠原禎也, 後藤由貴, Reflectivity of the lunar surface measured by active and passive radio wave observations of the Kaguya spacecraft, SGEPS 総会・講演会, 金沢市, 2009年9月27-30日
橋本弘藏	

<p>白石 隆文, 三宅 壯徳, 石坂 圭吾, 岡田 敏美, 笠原 禎也, 後藤 由貴, 橋本 弘蔵, 熊本 篤志, 小野 高幸, 綱川 秀夫, かべや搭載 LRS/WFC 観測装置によって観測された低周波波動の解析, SGEPPSS 総会・講演会, 金沢市, 2009 年 9 月 27-30 日</p>	<p>堀江 広貴, 笠原 禎也, 後藤 由貴, 井町 智彦, 小嶋 浩嗣, 橋本 弘蔵, 大村 善治, 熊本 篤志, 小野 高幸, 綱川 秀夫, かべや・WFC-L 波形捕捉器で観測されたバイポーラ型パルス波形の解析, SGEPPSS 総会・講演会, 金沢市, 2009 年 9 月 27-30 日</p>
<p>北口 直, 笠原 禎也, 後藤 由貴, 橋本 弘蔵, 熊本 篤志, 小野 高幸, 綱川 秀夫, かべや衛星 LRS/WFC による月の磁気異常帯での波動現象の解析, SGEPPSS 総会・講演会, 金沢市, 2009 年 9 月 27-30 日</p>	<p>橋本 弘蔵, (基調講演 2)、波動研究、宇宙太陽発電所とシミュレーションへの期待, STE シミュレーション研究会, 仙台, 2009 年 10 月 28-30 日</p>
<p>橋本 弘蔵, 藤田 辰人, SPS に関する ITU での活動報告, 第 12 回宇宙太陽発電システム(SPS)シンポジウム, 宇治市, 2009 年 11 月</p>	<p>橋本 弘蔵, 宇田太陽発電所とマイクロ波電力伝達の地上応用に関する話題, 第 6 回持続的生産創成のためのエネルギー循環シンポジウム, 宇治市, 2010(平成 22)年 3 月 4 日</p>
<p>星川 圭介</p>	<p>Hoshikawa Keisuke and Kitamura Yumi, "Database of Historical Documents in Kyoto University", Thailand Palmleaf Database in Japan, Maharakham University, Maha Sarakham, Thailand 18 December 2009</p>
<p>渡辺 隆司</p>	<p>Watanabe, Takashi, H. Yanase, "Bioethanol production process from woody biomass using fungal and microwave irradiation pretreatments and genetically engineered bacteria", SIM Annual Meeting &amp; Exhibition, 2009.6.26-30</p>
<p>渡辺 隆司, ユスオリアファイナリーの展望～フィンランドのイノベーション動向から～, BioFuels World 2009 Conference &amp; Expo, 2009.7.24</p>	<p>Watanabe, Takashi, "Microbial and microwave-assisted degradation of lignin for lignocellulosic biorefinery", Finnish-Japanese Workshop on Functional Materials, 2009.7.25-26</p>
<p>渡辺 隆司, ヲリグ/セルロース系バイオリアファイナリーにおけるケミカルプラントフォーラム開発の動向と展望", 再生可能エネルギーフォーラム 2009, 2009.10.21</p>	<p>渡辺 隆司, "Contribution of Microwave Technologies to Bio-ethanol Production from Woody Biomass", MWE 2009, 2009.11.25-27</p>
<p>渡辺 隆司, 三谷 友彦, 藤原 真蔵, "マイクロ波を利用した木質バイオリアファイナリー", 第 3 回日本電磁波エネルギー応用学会研究会, 2010.3.5</p>	<p>Watanabe, Takashi, "New technologies for 2nd generation biofuels &amp; biorefineries: Disintegration of plant cell walls and characterization of surface carbohydrates by fluorescent-labeled carbohydrate-binding modules (CBMs)" ASEAN Korea Symposium and workshop on biorefinery technology for sustainable production of biofuel and industrial biochemicals "Converging biorefinery to response climate change" 2010.2.18</p>
<p>高田 理江, 川久保 武, 瀬田 政二, 渡邊 崇人, 本田 与一, 萩田 修一, 渡辺 隆司, "レーザー脱離イオン化法を用いたバイオマス前処理物の表面解析", セルラーゼ研究会第 23 回大会, 2009.6.19</p>	<p>渡辺 隆司, 三谷 友彦, 藤原 真蔵, "マイクロ波を利用した木質バイオリアファイナリー", 第 3 回日本電磁波エネルギー応用学会研究会, 2010.3.5</p>
<p>吉岡 康一, 安東 大介, 西村 裕志, 岸本 崇生, 渡邊 崇人, 本田 与一, 渡辺 隆司, "レーザー脱離イオン化法によるリグニンの質量分析", 第 54 回リグニン討論会, 2009.10.20-30</p>	<p>高田 理江, 川久保 武, 瀬田 政二, 渡邊 崇人, 本田 与一, 萩田 修一, 渡辺 隆司, "レーザー脱離イオン化法を用いたバイオマス前処理物の表面解析", セルラーゼ研究会第 23 回大会, 2009.6.19</p>
<p>大橋 康典, 渡邊 崇人, 本田 与一, 渡辺 隆司, "フリーラジカルによるリグニンモデル化合物の反応部位に関する研究 (2)", 第 54 回リグニン討論会, 2009.10.20-30</p>	<p>吉岡 康一, 安東 大介, 西村 裕志, 岸本 崇生, 渡邊 崇人, 本田 与一, 渡辺 隆司, "レーザー脱離イオン化法によるリグニンの質量分析", 第 54 回リグニン討論会, 2009.10.20-30</p>
<p>大橋 康典, 内藤 喜之, 渡邊 崇人, 本田 与一, 渡辺 隆司, "マイクロ波増感触媒反応を利用したバイオリアファイナリーシステムの開発", 第 54 回リグニン討論会, 2009.10.20-30</p>	<p>大橋 康典, 渡邊 崇人, 本田 与一, 渡辺 隆司, "フリーラジカルによるリグニンモデル化合物の反応部位に関する研究 (2)", 第 54 回リグニン討論会, 2009.10.20-30</p>
<p>内藤 喜之, 大橋 康典, 吉岡 康一, 渡邊 崇人, 本田 与一, 渡辺 隆司, 菅原 智, 小池 謙造, ヲリグニンからの紫外線吸収剤の開発", 第 54 回リグニン討論会, 2009.10.20-30</p>	<p>大橋 康典, 内藤 喜之, 渡邊 崇人, 本田 与一, 渡辺 隆司, "マイクロ波増感触媒反応を利用したバイオリアファイナリーシステムの開発", 第 54 回リグニン討論会, 2009.10.20-30</p>
<p>Watanabe Takashi, R. Takada, Takahito Watanabe, Y. Honda and H. Yanase, Characterization of surface carbohydrates in pretreated woody biomass by fluorescent-labeled CBMs and cellulosic bioethanol production via ethanologenic bacteria, Lignobiotech one, 1st Symposium on Biotechnology Applied to Lignocelluloses 2010.3.28-4.1</p>	<p>内藤 喜之, 大橋 康典, 吉岡 康一, 渡邊 崇人, 本田 与一, 渡辺 隆司, 菅原 智, 小池 謙造, ヲリグニンからの紫外線吸収剤の開発", 第 54 回リグニン討論会, 2009.10.20-30</p>
<p>Nishimura, H., Takahito Watanabe, Y. Honda and Takashi Watanabe, Structural and functional analyses of secondary metabolites involved in extracellular glucan sheath produced by Cerioperopsis subvermispora, Lignobiotech one, 1st Symposium on Biotechnology Applied to Lignocelluloses 2010.3.28-4.1</p>	<p>Watanabe Takashi, R. Takada, Takahito Watanabe, Y. Honda and H. Yanase, Characterization of surface carbohydrates in pretreated woody biomass by fluorescent-labeled CBMs and cellulosic bioethanol production via ethanologenic bacteria, Lignobiotech one, 1st Symposium on Biotechnology Applied to Lignocelluloses 2010.3.28-4.1</p>
<p>Honda, Y., E. Tanigawa, J. Watari, Takahito Watanabe and Takashi Watanabe, Genetic transformation and promoter assay systems in selective lignin degrader, Cerioperopsis subvermispora, Lignobiotech one, 1st Symposium on Biotechnology Applied to Lignocelluloses 2010.3.28-4.1</p>	<p>Nishimura, H., Takahito Watanabe, Y. Honda and Takashi Watanabe, Structural and functional analyses of secondary metabolites involved in extracellular glucan sheath produced by Cerioperopsis subvermispora, Lignobiotech one, 1st Symposium on Biotechnology Applied to Lignocelluloses 2010.3.28-4.1</p>

渡辺隆司	吉岡康一, 岸本崇生, 渡邊崇人, 本田与一, 渡辺隆司, “MALD)-TOD MS によるリグニンの質量分析”, 第 60 回日本木材学会大会, 2010.3.17-19 谷川瑛二, 川邊陽文, 渡利純子, 渡邊崇人, 本田与一, 渡辺隆司, “選択的リグニン分解菌 <i>Ceriporiopsis subvermispora</i> の安定形質駆逐系とプロモーターアッセイ系の開発”, 第 60 回日本木材学会大会, 2010.3.17-19 池谷仁里, 馬場啓一, 海田るみ, 吉岡康一, 阿部賢太郎, 親泊政二, 渡辺隆司, 矢野浩之, 林隆久, “熱帯自然林から採取した樹種の糖化性”, 第 60 回日本木材学会大会, 2010.3.17-19 西村裕志, 佐々木碧, 瀬戸川雄一, 渡邊崇人, 本田与一, 渡辺隆司, “選択的的白色腐朽菌が産生するエポキシ化セロリグ酸関連代謝物の同定”, 第 60 回日本木材学会大会, 2010.3.17-19 西村健, 加藤英雄, 白井伸明, 渡辺隆司, “ケミカルセンサーによる木材初期腐朽見地の試み”, 第 60 回日本木材学会大会, 2010.3.17-19 堀川祥生, 今井友也, 渡辺隆司, 高田理江, 高野圭司, 小林良則, 杉山淳司, “ケモメトリックスによるバイオマスのハイスループット解析”, 第 60 回日本木材学会大会, 2010.3.17-19 渡辺隆司, “木質バイオマスからの高効率バイオエタノール生産システムの研究開発”, 平成21年度バイオマスエネカギ等高効率転換技術開発(先導、要素)成果報告会, 2010.2.11 畑 俊充, 梶本武志, Yasin Eker, Sylvie Bonnamy, Francois Beguin, 高圧下で焼結したリチウムイオン電池用 Si/乳酸蒸解リグニン炭素材料の特性, 電気化学会第77回大会, 富山市, 2010.3.29 畑 俊充, 焼結条件によるスギ炭素化合物の表面化学構造の変化, 第7回木質炭化学会研究発表会, 2009.6.11, 京都市 梶本武志, 畑 俊充, 今村祐嗣, 乳酸蒸解炭素化合物の構造分析, 第7回木質炭化学会研究発表会, 2009.6.11, 京都市 Toshimitsu Hata, Yasin Eker, Sylvie Bonnamy, Francois Beguin, Lithium insertion characteristics of carbonized Sugi wood sintered under high pressure, CARBON2009, Biarritz, France, 2009.6.15 橋 典哲, 木島正志, 畑 俊充, 水溶性セルロース-リグニン複合材料の成形・構造化とその炭素化合物の性質, 第36回炭素材料学会, 仙台, 平成21年12月1日~3日 Toshimitsu Hata, Tomokazu Fukutsuka, Yoshiharu Uchimoto, Sylvie Bonnamy, N-doped carbonized Sugi wood prepared by pulse current sintering, the Carbon for Energy Storage and Environment Protection 2009 Conference(CESEP09), Torremolinos, Spain, 2009年10月25-29日 Toshimitsu Hata, Development of Advanced Carbon Materials from Carbonized Sugi (Cryptomeria japonica) Wood, "Finnish Japanese Workshop on Functional Materials" フィンランド/ヘルシンキ, 2009/5/25-27 梶本武志, 畑 俊充, 田川雅人, 小嶋浩嗣, 山川宏, 上田義勝, 宇宙木質材料への原子状酸素の照射効果, 第133回生存圏シンポジウム, 2009.12.4, 宇治, p.20-23 (2009) 西真如「不一致を生きる—HIV 検査の普及はエチオピアの地域社会をどう変えたか」第23回日本エイズ学会学術集会, 於名古屋国際会議場, 2009年11月27日. 西真如「エチオピアの住民組織運動—地域開発における政治実践、交渉、ローカルな知識」第20回国際開発学会全国大会, 於立命館アジア太平洋大学, 2009年11月22日. 西真如「明日の私を繋ぐ—エチオピアの都市住民による準備講義活動の経緯」日本文化人類学会第43回研究会, 於大阪国際交流センター, 2009年5月30日. 山根悠介・林泰一・水口雅司・Ashraf Mahmood Dewan・Yeud Arefin・Tahaub Rahman「バンガラデシュにおける竜巻被害についての現地調査報告」第135回生存圏シンポジウム・第5回国際研究集会「南アジアの気象環境と人間活動に関する研究集会」 山田明徳, 2010, タイの熱帯林に生息するキノコシロアリの生態とその機能, 第214回生態研セミナー, 京都大学生態学研究センター(京都) Yamada, A., 2010, Abundance and biomass of termites and their role in the decomposition processes in dry evergreen and dry dipterocarp forests, The 1st Sakaerat Researchers' meeting, Sakaerat Environmental Research Station (Thailand) 山田明徳, 2010, 昆虫共生系を考える—イエシロアリの起源と好白蟻性昆虫, シンポジウム「ウイルスベクターとトランスポソンがもたらすゲノム・インパクションと生物進化のバラダイミシア」, 琉球大学(沖縄) Yamada, A., 2010, Termites and carbon cycling, シンポジウム「Effects of ants and termites in ecosystem process and biodiversity」, 日本生態学会第57回大会, 東京大学(東京) Yamada, A., Saitoh, S., Tokuda, G., Fujii, S., Endo, N., Ueshima, E., Tawa, Y., Miyagi, M., Makiya, H., Shinzato, N., Lee, C.-Y. and Tsunoda, K., 2010, Genetic Diversity of the Formosan Subterranean Termite, <i>Coptotermes formosanus</i> , Shiraki in Relation to the Distribution of Staphylinid Termitophiles, The Seventh Conference of the Pacific Rim Termite Research Group, Singapore.
畑 俊充	
西 真如	
山根悠介	
山田明徳	

井合 進	Iai S., "Introduction to geotechnics/earthquake geotechnics towards global sustainability" Proc. Kyoto Seminar 2010: Geotechnics/Earthquake Geotechnics towards Global Sustainability, Kyoto, 1-10, (2010)
帯谷知可	Iai S., "KSI overview of its activities" Cambridge Kyoto symposium, Pathways to a Low Carbon Society, Cambridge, U.K., (2010)
孫 晴剛	帯谷知可 「フジエムの頃」連体制下の中央アジア女性解放運動と現代(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所中東・イスラーム教育セミナー講義, 2009年9月14日) 孫晴剛 「アフリカの入びとは何を食べてきたのか」遊牧民の食」, 平成21年度京の府民大学京都大学アフリカ地域研究資料センター公開講座「アフリカ研究最前線」, アフリカ, 2009年10月17日 孫晴剛 「リスクマネジメントと不確実性」に生きるー東アフリカ乾草地帯の遊牧社会の事例から」, 国立民族学博物館共同研究「リスク・不確実性および未来についての人類学的研究」, 2009年11月8日
山本 衛	SUN Xiaogang "Rethinking Drought Coping Strategies and Risk Management among Nomadic Pastoralists of East", International Workshop "Integrating Local Practice and Scientific Technologies for Sustainable Development among Pastoral Societies in Africa", 2010.03.15 (Invited) Liu, H., S. V., Thampi, and M. Yamamoto, Anomalous Phase Reversal of the Diurnal Cycle in the Mid-latitude Ionosphere, IRI 2009 Workshop, Kagoshima, November 2-7, 2009. (Invited) Thampi, S. V., C. Lin, N. Balan, M. Yamamoto, and H. Liu, Ionospheric variability over Japan during summer - Observations and Modeling, IRI 2009 Workshop, Kagoshima, November 2-7, 2009. (招待) 山本衛, GNU Radio / USRP の応用電離圏観測用衛星ビーコン受信機の開発, 電子情報通信学会通信ソフトウェア研究会「GNU Radio と USRP を利用した無線通信プログラミング」チュートリアル, 仙台, 2009年10月21日. Yamamoto, M., and S. V. Thampi, Development and International Networking of GNU Radio Beacon Receiver, IRI 2009 Workshop, Kagoshima, November 2-7, 2009. Mizutani, N., Y. Otsuka, K. Shiokawa, T. Yokoyama, M. Yamamoto, A. K. Patra, T. Maruyama, and M. Ishii, Occurrence statistics and drifts of daytime 150-km echoes studied using observations from the Equatorial Atmosphere Radar in Indonesia and ionosonde network, IRI 2009 Workshop, Kagoshima, November 2-7, 2009. Balan, N., D. Vijaya Lekshmi, V. Sreeja, K. Shiokawa, Y. Otsuka, T. Kikuchi, and M. Yamamoto Positive ionospheric storms: 2 - Comparison with observations and IRI, IRI 2009 Workshop, Kagoshima, November 2-7, 2009. N. Mizutani, Y. Otsuka, K. Shiokawa, T. Yokoyama, M. Yamamoto, A. K. Patra, T. Maruyama, and M. Ishii, Occurrence statistics and drifts of daytime 150-km echoes studied using observations from the Equatorial Atmosphere Radar in Indonesia and ionosonde network, AGU Fall Meeting 2009, San Francisco, December 14-18, 2009. Tsunoda, R. T., D. M. Bubenik, S. V. Thampi, and M. Yamamoto, First Observations of Large-Scale Wave Structure Using the CERTO Beacon on the C/NOFS Satellite and a Longitudinal Chain of Stations in Pacific Region, AGU Fall Meeting 2009, San Francisco, December 14-18, 2009. Yamamoto, M., S. V. Thampi, C. Lin, and H. Liu, First Tomographic Observations of the Midlatitude Summer Nighttime Anomaly (MSNA) over Japan, AGU Fall Meeting 2009, San Francisco, December 14-18, 2009. Thampi, S. V., M. Yamamoto, R. T. Tsunoda, Y. Otsuka, T. Tsugawa, J. Uemoto, and M. Ishii, First observations of large-scale wave structure and equatorial spread F using CERTO radio beacon on the C/NOFS satellite, AGU Fall Meeting 2009, San Francisco, December 14-18, 2009. Saito, A., T. Tsugawa, Y. Otsuka, and M. Yamamoto, Solar cycle dependence of medium-scale traveling ionospheric disturbances observed by GPS receivers in Japan, AGU Fall Meeting 2009, San Francisco, December 14-18, 2009. 山本衛・S. V. Thampi・津川卓也・上本純平・石井守, GNU Radio ビーコン受信機の東南アジアネットワーク観測, 日本地球惑星科学連合 2009 年大会, 幕張, 2009年5月16-21日. Balan, N., K. Shiokawa, Y. Otsuka, M. Yamamoto, and S. Watanabe, Super plasma fountain, F3 layer and ionospheric storms during prompt penetration electric field events, 日本地球惑星科学連合 2009 年大会, 幕張, 2009年5月16-21日. 水谷徳仁・大塚雄一・堀川和夫・横山竜宏・山本衛・A. K. Patra・丸山隆・石井守, 赤道大気レーダーで昼間に観測された高度 150km の沿磁力線不規則構造, 日本地球惑星科学連合 2009 年大会, 幕張, 2009年5月16-21日. Thampi, S. V. and M. Yamamoto, Tomographic Observations of a 'Mid-latitude Summer Nighttime Anomaly' over Japan, 日本地球惑星科学連合 2009 年大会, 幕張, 2009年5月16-21日. 山岡雅史・足立透・山本衛・大塚雄一・堀川和夫・A. Chen・C.-C. Hsiao・R. Hsu, 衛星・地上同時観測に基づく 630nm 大気光の三次元構造の解析, 日本地球惑星科学連合 2009 年大会, 幕張, 2009年5月16-21日.

山本 衛	<p>齊藤昭則・阿部琢美・坂野井健・大塚雄一・田口真・吉川一朗・山崎敦・鈴木隆・菊池雅行・中村卓司・山本衛・河野英昭・石井守・星野尾一明・坂野井和代・藤原均・久保田美・江尻省・IMAP ワーキンググループ・ISS-IMAP による地球超高層大気撮像観測計画, 日本地球惑星科学連合 2009 年大会, 幕張, 2009 年 5 月 16-21 日.</p> <p>坂野井健・大塚雄一・山崎敦・田口真・齊藤昭則・阿部琢美・武山芸英・小淵保幸・江尻省・中村卓司・鈴木隆・久保田美・吉川一朗・星野尾一明・坂野井和代・藤原均・山本衛・石井守・河野英昭・ISS-IMAP 搭載 VISI による大気光観測: 開発の現状と観測シミュレーション, 日本地球惑星科学連合 2009 年大会, 幕張, 2009 年 5 月 16-21 日.</p> <p>齊藤昭則・阿部琢美・坂野井健・大塚雄一・田口真・吉川一朗・山崎敦・鈴木隆・菊池雅行・中村卓司・山本衛・河野英昭・石井守・星野尾一明・坂野井和代・藤原均・久保田美・江尻省・IMAP ワーキンググループ・中間圏・熱圏・プラズマ圏の衛星からの撮像観測, 日本地球惑星科学連合 2009 年大会, 幕張, 2009 年 5 月 16-21 日.</p> <p>山本衛, GNU Radio ビーコン受信機の自律観測システム開発, 第 126 回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会, 金沢, 2009 年 9 月 27-30 日.</p> <p>深尾昌一郎・H. Luce・中村卓司・山本真之・山本衛, MU レーダーとライダ同時観測で捉えられた巻雲のことも晴大気乱流, 第 126 回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会, 金沢, 2009 年 9 月 27-30 日.</p> <p>橋口浩之・森谷祐介・山本真之・妻鹿友昭・脇阪洋平・山本衛・今井克之・H. Luce, 足立アホロ・柴垣佳明, イメージング・ウインドプロファイラーの開発, 第 126 回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会, 金沢, 2009 年 9 月 27-30 日.</p> <p>水谷徳仁・大塚雄一・塩川和夫・榎山竜宏・山本衛・A. K. Para・丸山隆・石井守, 赤道大気レーダーで昼間に観測された高度 150km 沿磁力線不規則構造の統計解析, 第 126 回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会, 金沢, 2009 年 9 月 27-30 日.</p> <p>Shalimov, S. and M. Yamamoto, Influence of mid-latitude sporadic E layer mesoscale patches upon the F region plasma density, 第 126 回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会, 金沢, 2009 年 9 月 27-30 日.</p> <p>坂野井健・山崎敦・大塚雄一・久保田美・武山芸英・小淵保幸・阿部琢美・齊藤昭則, 江尻省・中村卓司・鈴木隆・山本衛・田口真・ISS-IMAP 搭載 VISI による大気光観測: 開発の現状と観測シミュレーション(2), 第 126 回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会, 金沢, 2009 年 9 月 27-30 日.</p> <p>齊藤昭則・阿部琢美・坂野井健・大塚雄一・田口真・吉川一朗・山崎敦・鈴木隆・菊池雅行・中村卓司・山本衛・河野英昭・石井守・星野尾一明・坂野井和代・藤原均・久保田美・江尻省・IMAP ワーキンググループ・ISS-IMAP ミッションとその宇宙天気研究への利用, 第 126 回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会, 金沢, 2009 年 9 月 27-30 日.</p> <p>田畑悦和・橋口浩之・山本真之・山本衛・山中大学・森修一・Fadli Syamsudin・Timbul Manik, 1.3-GHz ウインドプロファイラ及び TRMM 降雨レーダー観測による海洋大陸における地域的降水日変化, 第 24 回大気圏シンポジウム, 相模原, 2010 年 2 月 18-19 日.</p> <p>深尾昌一郎・H. Luce・妻鹿友昭・山本真之・橋口浩之・山本衛, 上部対流圏・下部成層圏ケルビン・ヘルムホルツ不安定波の形態学的研究, 第 24 回大気圏シンポジウム, 相模原, 2010 年 2 月 18-19 日.</p> <p>山本衛・S. V. Thampi・大塚雄一・津川卓也・上本純平・石井守・R. T. sunoda, 衛星ビーコン観測による電離圏大規模波動構造と赤道スプレッド F 現象の観測, 第 24 回大気圏シンポジウム, 相模原, 2010 年 2 月 18-19 日.</p> <p>池野伸幸・山本真之・妻鹿友昭・森谷祐介・古本淳一・橋口浩之・山本衛・H. Luce・下舞豊志・中里真久・田尻拓也・深尾昌一郎, 降水過程の定量化に向けたレーダー観測キャンペーン(REQUIPP)における, 気象レーダー初期観測結果の報告, 第 24 回大気圏シンポジウム, 相模原, 2010 年 2 月 18-19 日.</p> <p>妻鹿友昭・山本真之・阿保真・柴田泰邦・橋口浩之・H. Luce・山本衛・山中大学・深尾昌一郎, 赤道大気レーダー・偏光ライダーによる雲・降水領域内及びその周辺の鉛直流観測, 第 24 回大気圏シンポジウム, 相模原, 2010 年 2 月 18-19 日.</p> <p>森谷祐介・橋口浩之・山本真之・妻鹿友昭・山本衛・今井克之・足立アホロ・中里真久・田尻拓也・柴垣佳明・H. Luce, 大気境界層観測用レンジメイジング・ウインドプロファイラーの開発, 第 24 回大気圏シンポジウム, 相模原, 2010 年 2 月 18-19 日.</p> <p>水谷徳仁・大塚雄一・塩川和夫・榎山竜宏・山本衛・A. K. Para・丸山隆・石井守, 赤道大気レーダーで昼間に観測された高度 150km の沿磁力線不規則構造の統計解析, 第 24 回大気圏シンポジウム, 相模原, 2010 年 2 月 18-19 日.</p>
島上宗子	<p>島上宗子「インドネシアの村落: フィールドワークといふ実践」京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・大学院改革支援プログラム・研究と実務を架橋するフィールドスクール・インドネシア・フィールドスクール 2009 事前講義, 2009 年 6 月 13 日</p> <p>島上宗子「インドネシアと日本, 山村の経験に学ぶ」甲南女子大学「異文化の中に暮らす」リレー講義, 2009 年 6 月 30 日</p>

島上宗子	島上宗子「インドネシアの村落行政・自治」アジア経済研究所「東南アジアにおける自治体ガバナンスの比較研究」研究会、2009年7月10日
島上宗子	島上宗子「いりありあい交流」、これまでとこれから」一般社団法人あいあいネットワーク記念の集い「地域と地域をつなぐって?」2009年7月26日
島上宗子	島上宗子「いりありあい交流」つなぐ……インドネシアと日本での活動経験から、龍谷大学「まちおこし論」ゲスト講義、2009年11月27日
島上宗子	島上宗子「いりありあい交流」の取り組みから」コモンズ研究会・マッキーン氏山中湖村再訪企画「コモンズの教訓をつなぐ」、2009年12月9日
佐々木綾子	Sasaki, A. Mapping mangrove forest maintained by natural shrimp farming in Chanthaburi Province, Thailand. <i>International Workshop "Local Conservation and Sustainable Use of Swamp Forest in Tropical Asia"</i> , Ranong, Thailand. December 2009
伊藤義博	Yoshimasa Ito, Relationships among Natural Resources and Human Activities as a Complex System: Focusing on the Coffee Forest of Gera, Jimma zone, Proceeding of 17th International Conference of Ethiopian Studies. Addis Ababa, Ethiopia. Nov. 1-5 2009
伊藤義博	伊藤義博、エチオピア南西部における「コーヒーの森」の利用と植生への影響 第56回 民族自然誌研究会 京大会館 2009年7月25日
米澤 剛	エチオピア南西部における森林資源の利用とその保全 一在来知とボジティブな実践(6)ー 日本アフリカ学会 第46回学術大会 東京農業大学 2009年5月23日(土)・24日(日)。
米澤 剛	米澤 剛, 野々垣 進, 柴山 守, ベンカテッシュ ラカワン, 升本眞二: ベトナム・ハノイにおける地形・地質情報の活用, 第20回日本情報地質学会講演会, 2009年6月。
米澤 剛	米澤 剛, 柴山 守: ハノイの地形と水環境-3次元都市モデルの構築-, 第83回人文科学とコンピュータ研究会, 2009年7月。

4. プロシーディング等出版物	
篠原真毅	篠原 真毅, “生存圏に宇宙は必要なのか - イノチのつながり」と人と世界 -”, 京都大学東南アジア研究所 G-COE ワーキングペーパー, ISBN-978-4-901668-66-8, 2009
藤井千晶	Fuji, Chiaki. 2009 “The Practice of Prophetic Medicine in the Tide of Islamic Revival on the East African Coast.” in <i>Proceedings of SIAS-KIAS Joint International Workshop “Depth and Width of Islamic Culture and Society.”</i> : 27-33.
吉村 剛	Fuji, Chiaki. 2010. “The Medicine of the Sunna’ on the East African Coast during the Tide of Islamic Revival.” in <i>Proceedings of KIAS/SIAS Joint International Workshop, “Diversity in the Traditions and Reforms of Islam”</i> : 71-77.
白石壮一郎	Farah Diba and Tsuyoshi Yoshimura: Effect of oil palm vinegar on hydrogen and methane emission of <i>Coptotermes formosanus</i> Shiraki (Blattodea: Rhinotermitidae). Proc. 7th Conf. Pacific Rim Termit Res. Group, Singapore, March 1-2, 42-46 (2010).
高田 明	Aya Yanagawa, Fumio Yokohari, Kunio Tsunoda, Yuji Inamura and Tsuyoshi Yoshimura: Role of antennae in the detection of ambient humidity by the termite, <i>Coptotermes formosanus</i> . Proc. 7th Conf. Pacific Rim Termit Res. Group, Singapore, March 1-2, 170-172 (2010).  SHIRAIISHI Soichiro (2009) Discourse and Social Relationships in Land Tenure Evaluation: A Claim for Land Rights in an African Agrarian Society. Kyoto Working Papers on Area Studies, Kyoto University. 13p.  Takada, A. (2009). Commentaries on “To see ourselves as we need to see us: Ethnography’s primitive turn in the early cold war years,” by Edwin N. Wilmsen. <i>Critical African Studies</i> , 1, 52-57.
甲山治	高田 明 (2009). 赤ちゃんのエスノグラフィ: 乳児及び乳児ケアに関する民族誌的研究の新機軸. 心理学評論, 52(1), 140-151.
水野広祐	Osamu Kozan, 2009 “Heat, water and CO2 cycle in South East Asia” Humanosphere Science School 2009 -Scientific Exploration and Sustainable Management of Peat Land Resources in Giam Siak-Bukit Batu Biosphere Reserve of Riau, Sumatra-, Riau University August 4-5, 6 pages, 2009  Mizuno, Kosuke, 2009, “Conflict Resolutions in Post-Authoritarian Regime in Indonesia: Institutional Changes and People’s Organizations” <i>Proceeding of The First KASEAS and CSEAS Joint International Symposium, Interdependency of Korea, Japan and Southeast Asia, The Migration, Investment and Culture Flow</i> , 19-20 June 2009, Nammyung Hall, Gyeongsang National University, Jinju, South Korea, pp.113-127 (査なし)  Mizuno, Kosuke, 2009, “Towards a New Model of East Asian Economy, and Challenges to Current Global Economic Crisis”, <i>The Crisis and Transformative Opportunities-Historical Relations and Contemporary Challenges (I)</i> , <i>Collection of Papers and Abstracts</i> , Beijing Forum 2009, The Harmony of Civilizations and Prosperity for All-Looking beyond the Crisis to a Harmonious Future, November 6 <sup>th</sup> -8 <sup>th</sup> , 2009, Beijing, China, pp. 184-201 (査読なし)
谷 誠	鈴木玲治, 安藤和雄, 嶋田奈穂子 2, 藤井美穂, 増田和也, 今北哲也, 河原林洋, 原田早苗, 水野広祐, 2010, 「在地と都市がつくる循環型社会再生のための実践型地域研究」京都大学生存圏科学研究ユニット研究成果報告会論文集, 平成 21 年 3 月 1 日, 京都大学治おらばくプラザ, 京都大学生存圏科学研究ユニット, 13-16 ページ (査読なし)  谷 誠: 「森林小流域における水移動、及び、森林小流域の物質循環」6年間のまとめ、小橋澄治: 平成 20 年度森林の水環境保全機能調査業務報告書、31-32, 2009。  谷 誠・藤本時光: 花崗岩山地斜面における流出機構、小橋澄治: 平成 20 年度森林の水環境保全機能調査業務報告書、33-59, 2009。  谷 誠・小島永裕: 穂積山土地の信濃試験地流域の流出特性、小橋澄治: 平成 20 年度森林の水環境保全機能調査業務報告書、60-76, 2009。  谷 誠・川島茂人・籠谷泰行・長井正博・片山幸士・小橋澄治: 「森林の水環境保全機能調査」6年間のまとめ、小橋澄治: 平成 20 年度森林の水環境保全機能調査業務報告書、111-113, 2009。
石川 翠	Ishikawa, Noboru. JSPS Global COE Program. In Search of Sustainable Humansphere in Asia and Africa, The Third International Conference, “Changing Nature of Nature: New Perspectives from Transdisciplinary Field Science”, December 14 – 17, 2009, Inamori Foundation Memorial Hall, Kyoto University
速水洋子	Hayami, Yoko 2009” Relatedness and Reproduction in Rethinking “Families” in Southeast Asia: (with case studies from three Karen settings)” In Proceedings of the The Making of East Asia: from both macro and micro perspectives(Volume 2) PROJECT 8: Changing “Families” Kyoto March 2009 pp.72-95.  速水洋子 2009 「ビルマのカレン民族における文字と想像の共同体を再考する」特集「人類学とキリスト教」『民権通信』127 号 14-15 頁。



渡辺 隆司	Watanabe, Takashi, Ohashi, Y., "Energy development and associated environmental destruction in East Kalimantan, Indonesia", Kyoto University Global COE Program in Search of Sustainable Humansphere in Asia and Africa, Newsletter, No.3, 2009, pp.19-20
山田 明徳	Yamada, A., Saitoh, S., Tokuda, G., Fujii, S., Endo, N., Ueshima, E., Tawa, Y., Miyagi, M., Makiya, H., Shinzato, N., Lee, C.-Y. and Tsumoda, K., 2010, Genetic Diversity of the Formosan Subterranean Termite, <i>Coptotermes formosanus Shiraki</i> in Relation to the Distribution of Staphylinid Termitophiles, Proceedings of the Seventh Conference of the Pacific Rim Termite Research Group, Singapore, 89-94.
伊藤 義博	Boonriam, W., Yamada, A., Saitoh, S., Hasin, S., Wivattwitaya, D., Archarakom, T., Thaise, N., 2010, How Much Area Is Foraged by Termites in Tropical Forests?, <i>Proceedings of the Seventh Conference of the Pacific Rim Termite Research Group, Singapore</i> , 154-158.
米澤 剛	Yoshimasa Ito, Relationships among Natural Resources and Human Activities as a Complex System: Focusing on the Coffee Forest of Gera, Jimma zone, Proceeding of 17th International Conference of Ethiopian Studies, Addis Ababa, Ethiopia, Nov. 1-5, 2009
	Yonezawa Go: Generation of DEM for Urban Transformation of Hanoi, Vietnam, Kyoto Working Papers on Area Studies, 62, 2009, pp.1-10.

5. その他文章、および社会貢献	
篠原真毅	<p>園部太郎, 三谷友彦, 篠原真毅, “マイクロ波加熱による材料プロセス”, M&amp;E(工業調査会), no.3, 2009, pp.45-50</p> <p>篠原真毅, “宇宙太陽発電所 SPS からの無線電力伝送技術 (特集 ワイヤレス・エネルギー伝送技術 第5章)”, 電気学会誌, vol.129, no.7, 2009, pp.426-429</p> <p>篠原真毅, “パナレーラ社会に向けたエネルギーハーベスティング技術”, 電子情報通信学会誌, vol.192, no.8, 2009, pp.695-699</p> <p>篠原真毅, “宇宙太陽発電所 SPS からの無線電力伝送技術”, OHM, 2009.10., pp.56-59</p> <p>篠原真毅, “無線電力伝送の技術”, 電気学会誌, vol.130, no.2, 2010, pp.145-148</p> <p>篠原真毅, “本格化するワイヤレス電力伝送・技術の概要・開発動向と応用及び今後の展望”, 日本技術情報センター, 1 日集中, 2009.7.8</p> <p>篠原真毅, “マイクロ波無線電力伝送技術とその電気自動車・産業機器への応用例”, 産業科学システムズ, 半日講習, 2009.9.30</p> <p>篠原真毅, “マイクロ波を用いた EV 用無線充電システムの開発”, Electric Journal 主催 電気自動車&amp;充電システム★徹底解説, 2009.10.20</p> <p>篠原真毅, “非接触エネルギー伝送技術の基礎と無線充電システムへ応用”, 日本テクノセンター, 2 日集中, 2009.10.21-22</p> <p>篠原真毅, “マイクロ波を用いた無線電力伝送・ユビキタス電源から宇宙太陽発電まで”, 日経エレクトロニクス主催“電源ケーブルが消える日 ワイヤレス給電シンポジウム 2010-電磁誘導か磁気共鳴か”, 2010.3.26</p>
杉島敬志	<p>杉島敬志 2009 年 6 月 「健三と御住の不和—文化概念に対する漱石『道草』の批判的含意」  <a href="http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/asia/chiki/members/sugishima/essay.html">http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/asia/chiki/members/sugishima/essay.html</a></p> <p>杉島敬志 2009 年 6 月 「インドネシア/国立図書館および東スサ・テンガラ州での調査のための手続き」  <a href="http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/asia/chiki/PDF/sugishima1.pdf">http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/asia/chiki/PDF/sugishima1.pdf</a></p> <p>杉島敬志 2009 年 9 月 「人を駆める犬の出現—インドネシア・中部フロレスにおける犬—人間関係の変化」『東南アジア研究』47(2): 233-234.</p> <p>杉島敬志 2009 年 10 月 「インドネシア/国立図書館および東スサ・テンガラ州での調査のための手続き(後半部)」  <a href="http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/asia/chiki/PDF/sugishima2.pdf">http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/asia/chiki/PDF/sugishima2.pdf</a></p>
田中雅一	<p>田中雅一 2009 講演要旨 セックス——語りた？ 語れない？ 『京都大学附置研究所・センター第4回シンポジウム 紹介』『読売新聞』朝刊(28-29 面見開き)2009 年 4 月 4 日</p> <p>田中雅一 2009 インタビュー 政治家論 第1部イメージ&amp;メッセージ「誘惑の効用」『京都新聞』朝刊11面 2009 年 6 月 12 日</p> <p>田中雅一 2009 遊びと誘惑 連載 20 差異の詞典——二つの項目をくぐるとどう意味発生の現場「コトワリ—理—」(関西学院大学出版会) 20:16</p> <p>田中雅一 2009 寄稿 人類学者、クロード・レヴィ・ストロースを読む『京都大学新聞』4面 2009 年 12 月 1 日</p> <p>田中雅一 2009 講演再録「セックス——語りた？ 語れない？ 『京都大学・附置研究所・センターシンポジウム 京都からの提言——21 世紀の日本を考える 第4回「学問のつなごりのネットワーク」』, 京都大学東南アジア研究所内京都大学「京都からの提言」事務局, pp.5-13</p>

木村大治	木村大治 2010「つながること切ることーコンゴ民主共和国、ボングンドの声の世界」『FIELD+』pp.18-19 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
	木村大治 2010「エニツグ行」『森樫みの生誕誌ーアフリカ熱帯林の人・自然・歴史 I』(木村大治、北西功一編)pp.295-300 京都大学学術出版会
	木村大治 2010「インタラクシヨンの切り取り」『インタラクシヨンの境界と接続ーサル・人・会話研究から』(木村大治、中村美知夫、高梨克也 編) pp.107-108 昭和堂
	木村大治 2010「瓶、オカルタの起原」『インタラクシヨンの境界と接続ーサル・人・会話研究から』(木村大治、中村美知夫、高梨克也 編) pp.140-141 昭和堂
	木村大治 2010「行為の mass とその意味」『インタラクシヨンの境界と接続ーサル・人・会話研究から』(木村大治、中村美知夫、高梨克也 編) pp.163-164 昭和堂
	木村大治 2010「『会話をする』こと」『会話していること』『インタラクシヨンの境界と接続ーサル・人・会話研究から』(木村大治、中村美知夫、高梨克也 編) p.184 昭和堂
	木村大治 2010「音声的インタラクシヨンの境界と接続」『インタラクシヨンの境界と接続ーサル・人・会話研究から』(木村大治、中村美知夫、高梨克也 編) p.205 昭和堂
	木村大治 2010「観察の力」『インタラクシヨンの境界と接続ーサル・人・会話研究から』(木村大治、中村美知夫、高梨克也 編) pp.226-227 昭和堂
	木村大治 2010「沈黙と行為接続」『インタラクシヨンの境界と接続ーサル・人・会話研究から』(木村大治、中村美知夫、高梨克也 編) p.273 昭和堂
	木村大治 2010「『離れること』の物語」『インタラクシヨンの境界と接続ーサル・人・会話研究から』(木村大治、中村美知夫、高梨克也 編) pp.293-294 昭和堂
	木村大治 2010「インタラクシヨンの自由さと定型化」『インタラクシヨンの境界と接続ーサル・人・会話研究から』(木村大治、中村美知夫、高梨克也 編) p.317 昭和堂
	木村大治 2010「欲望の三角形?」『インタラクシヨンの境界と接続ーサル・人・会話研究から』(木村大治、中村美知夫、高梨克也 編) pp.355-356 昭和堂
	木村大治 2010「インタラクシヨンは続くよどこまでも」『インタラクシヨンの境界と接続ーサル・人・会話研究から』(木村大治、中村美知夫、高梨克也 編) pp.396-398 昭和堂
吉村 剛	吉村 剛:新しいシロアリ被害にどう立ち向かうか、青淵、No.722、18-21(2009).
白石壮一郎	白石壮一郎 (2010) 「路上、ゴンドールー川瀬慈による3つの短編」、『KG(GP)社会学批評』第2号、関西学院大学大学院社会学研究科、pp.50-52.
	白石壮一郎 (2009) 「誰が貧困者か?ーウガンダの参加型調査(UPPAP)報告書を題材として」、『第20回国際開発学会全国大会報告論文集』、国際開発学会実行委員会、pp.226-227.
	白石壮一郎 (2009) 「ある土地をめぐる村びとたちの審議/Dispute over Land?」 In <i>Newsletter</i> No.3, Kyoto University Global COE Program "In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa", pp.3-4.
高田 明	高田 明 (2010). 旅の間にも、第10回、朝のリズム: ナミビアの変わりゆく社会と子ども、月刊『地理』55(2), 東京: 古今書院, pp.98-104.
長岡慎介	長岡慎介 「読書案内:イスラーム金融」『歴史と地理』220、38-42 頁、2009 年.
和田泰三	長岡慎介 「実体経済のバフオーマンズに依拠するイスラーム金融」『週刊金融財政事情』61(1)、99-103 頁、2010 年.
河野泰之	ケア付き高齢者向けマンション ライブ・イン京都において 健康長寿事業 2009 年度を実施した。
	河野泰之、2010. 書評、新谷忠彦・クリスマス・ヤン・ダニエルス・関江満(編)『タイ文化圏の中のラオスー物質文化・言語・民族一』、図書新聞 2948 号.
伊藤正子	伊藤正子 2010 <i>Journalist Net</i> 金曜インタビュー2010年4月2日 <a href="http://www.journalist-net.com/editor_room/2010/04/post-24.html">http://www.journalist-net.com/editor_room/2010/04/post-24.html</a>
山越 言	若生謙二、山極寿一、伊谷原一、山越言、池谷和信 (2009) 「総合討論: 野生 動物の生息地域に暮らす人々の動物観」『人と動物の関係学会誌』23: 34-47.

杉原 薫	杉原 薫 「人類が生き延びてこられたのはなぜかーグローバル・ヒストリーの新しい問いー」(京都大学附置研究所・センター第4回シンポジウム)、『読売新聞』、2009年4月4日
水野一晴	水野一晴 (2009):『キリマンジャロとケニア山』、地図情報、29-3、11-15。 水野一晴(2009):『乾燥地の自然』(篠田雅人 編、古今書院)書評、地理学評論、82、494-495。
甲山治	川井秀一、大村善治、甲山治、小林祥子、2010、『琵琶湖集水域における森林バイオマスの動態評価と持続的利用モデルの構築』生存基盤研究ユニット2009年度研究成果報告、2pages 甲山治 チーム日本一水科学技術基本計画検討チームWS モデレーター(2010年2月5日、東京大学)
鈴木希治	鈴木希治 (2010)「地域の将来像をどう描くのか? - 2年間の活動を振り返って-」、『さいちのちら 実践型地域研究 中間報告書』79-84、京都大学東南アジア研究所 実践型地域研究推進室 鈴木希治 (2009)「焼畑の再考と再興」、『実践型地域研究ニューズレター さいちのちら』No.14:4、京都大学東南アジア研究所 実践型地域研究推進室 鈴木希治、竹田晋也、フラマウンディング(2009)「ミャンマー・カレンの営む伝統的焼畑システムにおけるタケの役割」、『熱帯農業研究』2(別2): 67-68。 鈴木希治 (2009)「奈良町の焼畑 - ミャンマーの焼畑との比較から -」、『実践型地域研究ニューズレター さいちのちら』No.10:4、京都大学東南アジア研究所 実践型地域研究推進室 鈴木希治 (2009)「里山の保全 - 誰のため何を守るのか? -」、『実践型地域研究ニューズレター さいちのちら』No.8:4、京都大学東南アジア研究所 実践型地域研究推進室
川井秀一	川井秀一 読売新聞 2009年7月3日夕刊「辻回し」世紀...強度の謎探れ 祇園祭船鉾車輪 京大に寄託 川井秀一 京都新聞 2009年7月3日夕刊「船鉾車輪 京大で余生 1892年製昨夏まで活躍 宇治の研究所、分析の資料に 見学者向け公開も」 川井秀一 朝日新聞 2009年7月4日朝刊「船鉾の神面、無事確認 車輪・車軸、京大研究所に寄託」 川井秀一 産経新聞 2009年7月3日夕刊「祇園祭 船鉾で「神面改め」」 川井秀一 京都新聞 2009年7月23日朝刊 インタビュー記事「文化、宗教、気候...異分野に学び知る 木を扱う先人の知恵」 川井秀一:日本林業の再生に向けて、季刊森林総研、第6号、巻頭言 p.1、森林総合研究所(2009) 川井秀一:森林を適切に管理し、持続させることが必要(インタビュー記事)、G front、No.49、p.6 June 2009 川井秀一:木づかいで地球温暖化を防ごう、木づかいセミナー 平成21年6月11日(大阪) 川井秀一:NPO法人の木トークカフェ「間伐材とカーボンビジネス」平成21年6月11日(東京) 06/11 川井秀一:学校に国産材を取り入れよう、子供をとりまく環境を考える会、平成22年1月30日(美面市) 川井秀一:スギ材の機能と材料開発 西粟倉村「森の学校」特別講演会、平成22年3月31日(岡山)
島田周平	遠藤賢、落合雄彦、島田周平、高橋基樹、松田素二 (2009) [座談会]ー総特集アフリカー(希望の大陸)のゆくえ:アフリカの変容ー都市・農村から国家まで『地域研究』9-1、pp.22-45)
水野広祐	水野広祐 福井ライフ・アカデミー現代課題講座「東南アジアはなぜ発展するのかーインドネシアを中心に」福井ライフ・アカデミー本部主催講座「経済・社会」近隣諸国と私たちの生活」、於ニュー・アイふくい(福井県生活学習館)2009年11月12日
谷 誠	谷 誠 森林の環境保全機能は神話なのか、しんりんまぜん 74: 3、2009。

林 隆久	林 隆久: バイオエタノール, サステナ, 11, 56-57 (2009).
	林 隆久: スマトラ島エコツアー, サステナ, 13, 44-45 (2009).
	林 隆久: 食べる幸せ, サステナ, 14, 58-59 (2010).
	林 隆久: 食べる楽しみ, サステナ, 特別号, 56-57 (2010).
玉田芳史	玉田芳史 2010. 「タツツシン」元首相資産没収判決をめぐって: 批判的論評の紹介『タイ国情報』44(2), 1-7 頁.
蓮田隆志	蓮田隆志 項目執筆: 徴姉妹の「反乱」、扶南の建国神話、林邑の自立。歴史学研究会(編)『世界史3 東アジア・内陸アジア・東南アジア 1』岩波書店, 2009 年 12 月。
清水 展	清水 展 「南の島の小さな喜び: キルト作りをとおした内的発展」『東南アジア研究』49 巻 1 号 pp.119-121. 2009 年 6 月
清水 展	清水 展 「旅する文化が花開くところ: カオハガンの宇宙」吉川順子・編『カオハガンのキルトたち』[1996-2009]: 南の島の小さな奇跡』セカンド(「カオハガンのキルト展: 持続可能な経済的自立のあゆみ」図録(2009 年 10 月 1 日~31 日, 於立命館大学国際平和ミュージアム) pp.112-118. 2009 年 10 月
	Hironu Shimizu "The Blossoming of a Traveling Culture: Quilt-making on Caohagan Island, Philippines," Yoshikawa Junko (ed.), Caohagan Quilts [1996-2009]: A Small Miracle of a Southern Island. Second, pp.113-119. October 2009
	清水 展 2009 年 7 月 座談会参加「学問の思い出し—中根千枝先生を囲んで—」『東方法学』11 8 輯 pp.151-182
梶 茂樹	梶 茂樹 「卜—口語」, 梶 茂樹・中島由美・林徹(編)『事典 世界のことば141』, 大修館, 2009.4, pp.502-505.
	梶 茂樹 「リンガラ語」, 梶 茂樹・中島由美・林徹(編)『事典 世界のことば141』, 大修館, 2009.4, pp.538-541.
	梶 茂樹 「テンボ族の「練り粥」」, Vesta, No.77 (特集: 世界の食を言語する), pp.38-39.
細田尚美	細田尚美, 2009. 「フリビン: ケアギババー」を世界に送り出す労働輸出大国の期待』『介護ビジョン』70(2009 年 4 月号): 24-25
	細田尚美, 2009. 「トバイ OFW 物語①: 中東随一のオーブン・ジッティ、心強いカバヤン・ネットワーク」日刊マニラ新聞 2009 年 7 月 23 日
	細田尚美, 2009. 「トバイ OFW 物語②: 幅を利かせず専門職組、深まる母国への失望感」日刊マニラ新聞 2009 年 8 月 3 日
柳澤雅之	柳澤雅之, 2009. 「研究・教育・社会貢献」『京大広報』No.647: 2960
	柳澤雅之, 2010. 「(地域研究の国際化) 特集号について」『地域研究コンソーシアム・ニューズレター』No.08: 2
黒崎龍悟	黒崎龍悟 2009 「貧困削減戦略の現場から」『京都大学 GCOE プログラム・生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点』ホームページ <a href="http://www.humanosphere.cseas.kyoto-u.ac.jp/article.php?story=20090105">http://www.humanosphere.cseas.kyoto-u.ac.jp/article.php?story=20090105</a>
	黒崎龍悟 印刷中 松園万亀雄・細田浩志・石田慎一郎編著『みんなばくち実践人類学シリーズ第 2 巻 アフリカの人間開発: 実践と文化人類学』(明石書店 2008 年) 『JANES ニューズレター』『日本ナイル・エチオピア学会
	黒崎龍悟 2009 「地域発展に向けた住民主導の活動—タンザニア南部の農村から」 京都府国際センター「アフリカ理解講座」於京都府国際センター 8 月 4 日
	黒崎龍悟 2010 「タンザニアにおける農村開発の展開と人びとの取り組み」 京都大学アフリカ地域研究資料センター公開講座「解るアフリカ: アフリカ研究最新前線」第 5 回 於京都大学アフリカ地域研究資料センター 2 月 20 日

黒崎龍悟	黒崎龍悟 2010 「開発をめぐる地域社会の動態と研究者の役割—タン ザニアでのフィールドワークからの着想」長崎大学国際戦略本部国際連携セミナー 於長崎大学 2月
佐川 徹	佐川 徹 2009 「書評: 風戸真理著『現代モンゴルの民族誌—ボスト社会主義を生きる』2009年、世界思想社」、『人文学報』98: 341-344。 佐川 徹 2010 「新刊ライヴラリ—; 福井勝義、竹沢尚一郎、宮脇幸生(編) 2008 『講座世界の先住民族アースト・ビープルズの現在 05、サハラ以南アフリカ』明石書店」、『JANES ニュースレター』18: 36。 佐川徹・榎本稔良 2010 『東アフリカ紛争多発地域において外部介入が生存基盤の再生に果たす役割』、京都大学グローバル COE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」次世代研究イニシアティブ成果報告書、21p。 佐川 徹 2010 「東アフリカ牧畜社会の武力紛争と人びとの対応」、『京都サステイナビリティ・イニシアティブ報告書』
古市剛久	古市剛久・星川圭介、2009、島嶼部東南アジアにおける流域スケールの土地利用変遷とその主要な影響としての表土流出、京都大学東南アジア研究所グローバル COE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」2008年度次世代研究イニシアティブ研究助成報告書。
田中耕司	田中耕司「アジアの稲作と日本への伝播」縄文文化研く会 松久保秀風(監修)『縄文 謎の扉を開く』置山房インターナショナル、pp.202-220、2009年12月(査読なし) 田中耕司「作付体系研究から日本農業の永続性を考える」『日本農業の永続可能性をめぐって』(日本農業研究所シリーズ No.15)、pp. 225-239、2009年6月(査読なし) 田中耕司「サバでは出会いから始まった: 地域研究はデザインからアリアーナか?」、『Seedler』(昭和堂)No.1: 67-71、2009年12月(査読なし)
片岡樹	田中耕司「研究資源アーカイブ映像ステーションと学術映像」京都大学東京オフィス「京都大学と学術映像: 記録の保存に向けて」於京都大学東京オフィス、2009年11月14日。 田中耕司「アジア稲作圏という一つの東アジア共同体」第56回京都大学サロントーク、2009年12月8日。
荒木茂	片岡樹(2009)「新刊レビュー」塚田誠之編『民族表象のポリテクニク—中国南部における人類学・歴史学的研究—』『月刊みんぱく』125号: 25 片岡樹(2009)「南タイ・ブークツのババにみる土地崇拜」『フィールドプラス』2: 8。 片岡樹(2009)「麻葉」日本タイ学会編『タイ事典』めこん、p.369。 片岡樹(2009)「ラフ」日本タイ学会編『タイ事典』めこん、pp. 396-397
神崎 護	荒木茂、*8、拠点基盤整備部会の活動”、G-COE2008年度自己点検評価報告書、pp.55-59。 神崎 護、2010、インドネシア伐採天然林における集約的植栽法: 持続的林业へのチャレンジ、日本熱帯生態学会ニュースレター78: 7-12。
池野 旬	池野旬(2009)「タンザニアの食糧問題の『失われた環』」『アフリカレポート』第49号 pp.8-11。
山田明徳	池野 旬 国際協力機構 「国際協力人材赴任前研修(タンザニア国概要)」事業 講師 山田明徳、2009、タイ東北部のスミオオキノアリの塚の構造と内部環境、しるあり(日本しるあり対策協会協会誌)第152号、p.37-39。 山田明徳、2009、琉球列島におけるタイワンシロアリの隔離分布について、しるあり(日本しるあり対策協会協会誌)第152号、p.40-42。 山田明徳「幻のキノコ」を辿る—琉大 COE 若き研究者たち⑥— 琉球新報 2009年4月20日朝刊掲載 山田明徳「京の人今日の人: 京都大大学院でシロアリを研究、山田明徳さん」、毎日新聞京都版 2009年9月2日朝刊掲載

帯谷知可	<p>帯谷知可 2009 「5 『近代』への胎動：権民地経緯、革命、民族」間野英二・堀川徹編『中央アジアの歴史・社会・文化』（韓国語版）、ソウル：Gum Libro、117-134 頁</p> <p>帯谷知可 2009 「10 現代の中央アジア社会：社会主義時代からグローバリ化時代へ」間野英二・堀川徹編『中央アジアの歴史・社会・文化』（韓国語版）、ソウル：Gum Libro、195-214 頁</p> <p>帯谷知可 2010 「書評 高倉浩樹・佐々木史郎編『ポスト社会主義人類学の射程』（国立民族学博物館調査報告 78）、国立民族学博物館、2008 年、551 頁」『東北アジア研究』第 14 号、227-233 頁</p>
太田 至	<p>太田至、2009「日本学術振興会ナイロビ研究連絡センターの役割とその存続 問題」『地域研究学会連絡協議会ニューズレター』第3号：7-10.</p> <p>太田至、2009「アフリカ人が活用へ：日本で学んだ研究者のネットワーク設立」『毎日新聞(朝刊)』2009 年 4 月 23 日</p>
米澤 剛	<p>米澤 剛、『SEEDer—地域環遊情報から考える地球の未来』研究レポート・変化を読む、「1」地形変化から見るハノイの都市変遷」、2009, pp.70-73.</p>

6. 受賞	
吉村 剛	吉村 剛：(社)日本しろろ対策協会創立50周年記念表彰「建築物の耐久性向上ならびに協会の業務運営に関する功績」、2009年4月6日
	吉村 剛：(社)日本木材保存協会第25回年次大会ポスター発表優秀賞「アフリカヒラキクイムシの分布拡大と被害生態」(共同受賞)、2009年5月21日
	吉村 剛：日本環境動物昆虫学会賞「シロアリの生態とその防除方法に関する研究」、2009年11月14日
宮本万里	宮本万里、2008年度日本南アジア学会賞(「森林放牧と牛の屠殺をめぐる文化の政治—現代ブータンの国立公園における環境政策と牧畜民」『南アジア研究』第20号)、2009年10月受賞。
	宮本万里、「現代ブータンにおける開発政策と環境政治」(2009年3月、京都大学、博士(地域研究))
岩田明久	岩田明久 亀岡市市政功労者(環境部門) 表彰



G-COE ワーキンググループメンバーリスト

CSEAS No.	G-COE No.	発行年月	タイトル	名前	所属
3	1	March 2008	STUDIES ON HANOI URBAN TRANSITION IN 20th CENTURY BASED ON GIS/RS	Ho Dinh Duan/Mamoru Shibayama	Institute of Resources Geography, HCMC, Vietnam/CSEAS
4	2	March 2008	Beyond the Sunni-Shiite Dichotomy: Rethinking al-Afghani and His Pan-Islamism	Junichi Hirano	ASAFAS
5	3	June 2008	Impacts of the Tank Modernization Programme on Tank Performance in Tamil Nadu State, India	Kuppanan Palanisami/Muniandi Jegadeesan/ Koichi Fujita/Yasuyuki Kono	CSEAS
6	4	September 2008	Struggle for Political Space in post-War Iraq: Contending Relations between ex-Exile Ruling Parties and Later-formed Parties	Dai Yamao	ASAFAS
7	5	September 2008	The Institutional Formation Process of Communal Forest Management in Northeast Thai Villages	Fumikazu Ubukata	CSEAS
8	6	October 2008	Pagodas and Wedding Vows: Buddhist and Sectarian Practices in Karen State	Yoko Hayami	CSEAS
9	7	October 2008	Health Hazards in 19th Century India: Malaria and Cholera in Semi-Arid Tropics	Kohel Wakimura	Graduate School of Economics, Osaka City University
10	8	December 2008	Centering Peripheries: Flows and Interfaces in Southeast Asia	Noboru Ishikawa	東南アジア研究所
11	9	December 2008	A virus, Democracy, and Sustainable Society: the Experience of Community-based HIV/AIDS Programs among the Gurage, Southern Ethiopia	Makoto Nishi	東南アジア研究所
12	10	December 2008	Historical Formation of Pan-Islamism: Modern Islamic Reformists Project for Intra-Umma Alliance and Inter-Madhahib Rapprochement	Junichi Hirano 2	アジア・アフリカ地域研究研究科
13	11	December 2008	Monitoring of Lightning Activity in Southeast Asia: Scientific Objectives and Strategies	Toru Adachi/Yukihiko Takahashi/Hiroyo Ohya/ Fuminori Tsuchiya/Kozo Yamashita/Mamoru Yamamoto/Hiroyuki Hashiguchi	IRSH
14	12	December 2008	Cambodia Area Studies I カンボジアにおけるコメ産業の現状とその課題 Present Condition and Problems of Rice Industry in Cambodia	石川 晃士	名古屋大学院 国際開発研究科
15	13	December 2008	Prospect of Building a Local Self-government at the Upazila/ Thana Level : Towards a Decentralized Rural Administration in Bangladesh	Md. Taufiqul Islam/Koichi Fujita	CSEAS

16	14	January 2009	Transformation of the Iraqi Islamist Parties and their Framing in the Changing Regional and International Political Environments	Dai Yamao 2	ASAFAS
17	15	January 2009	東北タイにおける信用組合の展開 Rural Credit Unions in Northeast Thailand	大野 昭彦/Patcharin Lapanun	青山学院大学国際政治経済学部
18	16	February 2009	「アーユルヴェーダ」をいかに現代に活かすか- インド、アメリカ、日本における実践からの一考察 How to Utilize Ayurveda in Contemporary India, United States and Japan	加瀬澤 雅人	東南アジア研究所
19	17	January 2009	Enzymatic Saccharification and Ethanol Production of Trunk in Tropical Trees	Rumi Kaida/Tonomi Kaku/Kei'ichi Baba/ Masafumi Oyadomari/Takashi Watanabe/Sri Hartati Emy Sudarmo wati/Takahisa Hayashi	IRSH
20	18	January 2009	Depression of Community-Dwelling Elderly in Three Asian Countries: Myanmar, Indonesia, and Japan	Taizo Wada	東南アジア研究所
21	19	February 2009	トルコにおける地震の記憶の活用をめぐって Utilizing Disaster Memory as Cultural Resource in Turkey	木村 周平	東南アジア研究所
22	20	March 2009	可能性としてのハイパースペシフィックバイオ燃料: 持続可能な社会の潜在力の表現としての人の移動に関する広域比較研究・序説 Perspectives from Hyper Mobile Societies: Towards Sustainable Humanosphere Paradigm	石橋 誠/小塚 順弘/渡邊 晴子/畑田 尚美	東南アジア研究所
23	21	February 2009	Improving Primary Raw Materials for Biofuels	Rumi Kaida/Takahisa Hayashi	生存圏研究所
24	22	February 2009	インドネシア南洋大陸域における日変化特性の研究 A Study on Characteristics of Diurnal Variations over Indonesian Maritime Continent	田畑 悦和	生存圏研究所
25	23	February 2009	現代アラブ世界の展開と学術用語の整備- タアリーブ(アラビア語化)による外来語受容とナハトによる造語法を中心に- The Growth of Modern Standard Arabic and the Adaptation of Scientific Terminology with Special Reference to Ta'rib and Naht	竹田 敏之	アジア・アフリカ地域研究研究科
26	24	February 2009	Land-use Change in the Lake Inle Catchment, Myanmar: Implications for Acceleration of Soil Erosion and Sedimentation	Takahisa Furuichi	アジア・アフリカ地域研究研究科
27	25	February 2009	The Making of 'Itai Siki' as a National Tradition	Junko Koizumi	東南アジア研究所
28	26	February 2009	リスク人類学シリーズ 1 2004 年インド洋大津波のブーケット観光への影響 Effect of the 2004 Indian Ocean Tsunami on Phuket Tourism	市野澤 潤平	東京大学大学院総合文化研究科

29	February 2009	27	February 2009	リスク人類学シリーズ 2 生活を脅かす「リスク」と浮遊する「安全な水」～ベンガララシユ飲用水砒素汚染問題の事例から～ “Risk” in life and “Safe Water” in uncertainty: A Case Study on Arsenic Contamination Problem of Drinking Water in Bangladesh	松村 直樹	名古屋大学大学院国際研究科
30	February 2009	28	February 2009	リスク人類学シリーズ 3 老いはリスクか？ Is “Growing Old” the Risk?: From the Viewpoint of Nursing Care	福井 栄二郎	島根大学法文学部
31	February 2009	29	February 2009	リスク人類学シリーズ 4 生命という不確実性とリスク:インドにおける代理懐胎をめぐる Uncertain Life and its Risk: A Study of Surrogacy in India	松尾 瑞穂	人文科学研究所
32	February 2009	30	February 2009	リスク人類学シリーズ 5 日本における HIV/AIDS とリスクの構築—「ガイ・コミュニティ」言説の生成プロセスに関する視点から— HIV/AIDS and the Construction of Risk in Japan: From the Perspective of Process of Forming Discourses on “Gay Communities”	新ヶ江 章友	名古屋市立大学大学院看護学研究科
33	February 2009	31	February 2009	リスク人類学シリーズ 6 不一致と関与—エチオピアのグラガ県住民による HIV/AIDS への取り組み— The Involvement Approach to HIV/AIDS	西 真如	東南アジア研究所
34	February 2009	32	February 2009	リスク人類学シリーズ 7 不安・リスク・不確実性:人類学的リスク研究への考察 Angst, Risk, and Uncertainty: A Step toward Anthropology of Risk	木村 周平	東南アジア研究所
35	February 2009	33	February 2009	リスク人類学シリーズ 8 降りる、逃げる、旅立つ—リスク社会の人類学的オルタナティブ構想— Quit, Escape or Go on a Journey: Toward an Anthropological Alternative to the Risk Society	東 賢太郎	宮崎公立大学人文学部
36	March 2009	34	March 2009	生存圏に宇宙は必要なのか—ノチのつながり—と人と世界— Do We Really Need to Develop Space for Sustainable Humanopshere?	篠原 真敏	生存圏研究所
37	March 2009	35	March 2009	Nomadic Pastoralists Adapting to the Challenge of Sedentarization in Arid Area of East Africa	SUN Xiaogang	東南アジア研究所
38	March 2009	36	March 2009	タイにおける持続可能な稲作由来バイオマス発電の現状と展望 Current Status and Future Perspective of Sustainable Biomass Power Generation derived from Rice Field in Thailand	園部 太郎/佐藤 孝宏/奥村 与志弘/広田 勲/ 津田 冴子/小石 和成/大村 善治	東南アジア研究所

39	March 2009	37	タンザニア南部、マテンゴ高地における農村開発の展開と住民の対応—住民参加型開発プロジェクトの「順次効果」分析から— People's Response to Rural Development Dynamics in the Matengo Highlands, Southern Tanzania: with Special Reference to the "Side Effect" of the Participatory Rural Development Project	黒崎 龍悟	アジア・アフリカ地域研究研究科
40	March 2009	38	Getting Villagers Involved in the System: the Politics, Economics and Ecology of Production Relations in the Thai Pulp Industry	Fumikazu Ubukata 2	東南アジア研究所
41	未	39	ナミビア乾燥地域に暮らす農牧民の自然資源利用におけるフロントティアの役割とその変化 Changes in Natural Resource Use in the Local Frontier among Agro-pastoralists of North-Central Namibia	藤岡 悠一郎	アジア・アフリカ地域研究研究科
42	March 2009	40	Reconsidering <i>Mudharaba</i> Contracts in Islamic Finance: What is the Economic Wisdom ( <i>Hikma</i> ) of Partnership-based Instruments?	Shinsuke Nagaoka	アジア・アフリカ地域研究研究科
43	March 2009	41	熱帯アカンガの青種 Molecular Breeding of Tropical Acacia	鈴木 史朗/服部 武文/梅澤 俊明	生体圏研究所
44	March 2009	42	Cultural Politics of Life: Biomoral Humansphere and Vernacular Democracy in Rural Orissa, India	Akio Tanabe	人文科学研究所
45	March 2009	43	技術と社会のネットワーク—研究課題と展望— Network between the Technological and the Social: Research Agenda and Perspective	田辺・加藤澤 編	人文科学研究所・東南アジア研究所
46	March 2009	44	The Potential of Ambiguous Identities among Pastoralists in the Modern State: a Case Study of the Emergence of New Ethnic Identities in Northern Kenya Following a National Election	Naoaki Naito	アジア・アフリカ地域研究研究科
47	March 2009	45	生存を支える地域/社会シリーズ 1 ザンビアにおける食糧安全保障体制と生存基盤 Food Security Institution and Humansphere in Zambia	松村 圭一郎	人間環境学研究科
48	March 2009	46	生存を支える地域/社会シリーズ 2 友を待つ—ダサネツチによる「敵」への敵(待)と贈与— Waiting on a Friend: Gift and Hospitality to the 'Enemy' in the Dasnamach of Southwestern Ethiopia	佐川 徹	大学院アジアアフリカ地域研究研究科
49	March 2009	47	生存を支える地域/社会シリーズ 3 野宿者にとつてく地域福祉とは何か What is "Community Welfare" for Homeless People?	山北 輝裕	関西学院大学大学院社会学研究科
50	March 2009	48	生存を支える地域/社会シリーズ 4 公共空間をつくる—ポスト社会主義期モンゴル・ウランハートル市の事例から— Making Public Spaces: A Case Study in Ulaanbaatar City, Post-Socialist Mongolia	西垣 有	大阪大学大学院人間科学研究科

51	49	March 2009	生存を支える地域/社会シリーズ 5 ビルマ:紛争の現代的特徴と難民キャンプの生活世界 Current Features of Conflict in Burma and Social World of Refugee Camp in Thailand	久保 志行	神戸大学大学院国際文化科学研究科
52	50	March 2009	生存を支える地域/社会シリーズ 6 薪畑耕作がミャンマー・バゴー山地カレン村落周辺の森林植生の長期的変化に与える影響 Effect of shifting cultivation on long-term change in forest vegetation around Karen village in the Bago Mountains, Myanma	鈴木 玲治/竹田 晋也	東南アジア研究所/アジアアフリカ地域研究研究所
53	51	March 2009	生存を支える地域/社会シリーズ 7 レバノン内戦の記憶に関する予備的考察—宗派という視点— A Preliminary Study of Civil War Memory in Lebanon: Sect as a Viewpoint	池田 昭光	東京都立大学大学院社会科学科学研究科
54	52	March 2009	生存を支える地域/社会シリーズ 8 レント山岳地の生業とその変遷 Changing Livelihoods in a Mountain Area of Lesotho	長倉 美子	アジア・アフリカ地域研究研究所
55	53	March 2009	Coal, Firewood and Plant Stalks: Availability of Fuel and Development of Industries in Early Nineteenth-Century Bengal	Sayako Kanda	慶應義塾大学経済学部
56	54	未	Transformation of Clan Politics into Party Politics in Kyrgyzstan (2005-2008)	Esen Urmanov	東京外国語大学
57	55	March 2009	現代中央アジアにおける女性の仕事:ウズベキスタン、ホラズム州ヒヴァ市の絨毯工房を取り上げて Work and Women in Contemporary Central Asia: A Case Study of Carpet Factories in Khiva, Khorazm Province, Uzbekistan	宗野 ふもと	アジア・アフリカ地域研究研究所
58	56	March 2009	Islam and Democratization in Contemporary Kuwait: The Political Participation of Women and the Formation of the Civil Society	Aiko Hiramatsu	アジア・アフリカ地域研究研究所
59	57	March 2009	Games to get Hegemony in Iranian Politics: Participation of Islamic Jurists after the Revolution	Kenji Kuroda	アジア・アフリカ地域研究研究所
60	58	March 2009	SCM(Supply Chain Management)による緊急医療体制の最適化 Optimization of Emergency System by SCM (Supply Chain Management)	亀井 敬史	生存基盤科学研究ユニット
61	59	March 2009	Ethnobotanical Study of Local Practices Maintaining Landrace Diversity of Bananas ( <i>Musa spp.</i> ) and Enset ( <i>Ensete ventricosum</i> ) in East African Highland	Yasuki Sato	アジア・アフリカ地域研究研究所
62	60	March 2009	Generation of DEM for Urban Transformation of Hanoi, Vietnam	Go Yonezawa	生存基盤科学研究ユニット
63	61	March 2009	West African Rice Green Revolution by Sawah Eco-technology and the Creation of African SATOYAMA Systems	Toshiyuki Wakatsuki/Moro M. Buri/Oladimeji I. Olatole	近畿大学農学部

64	62	March 2009	東南アジアの農村はどれくらい自給的か How Did Peasants in Southeast Asia Change their Subsistence Agriculture?	星川 圭介	地域研究総合情報センター
65	63	March 2009	Occupational Change and Upward Mobility of Low Income Residents in Bangkok	Tamaki Endo	埼玉大学経済学部
66	64	March 2009	The Impact of CPA's Power Sharing Arrangements on the Process of Democratic Transformation in Sudan	Mohamed Omer ABDIN	東京外国語大学大学院 平和構築・紛争予防プログラム
67	65	March 2009	Cambodia Area Studies 2 カンボジア王国の精神医学・医療についての報告 A Report on the Mental Health Situation in Cambodia Nao fumi Yoshida	吉田 尚史	早稲田大学大学院文学研究科
68	66	未	19世紀の東アジアにおける自由貿易原則の浸透と華僑の移動	籠谷 直人	人文科学研究所
69	67	March 2009	アイデンティティの柔軟性と重層性に関する研究—東アフリカの牧畜社会における他者と自己の構築 Construction of Self and Others in the East African Pastoralists' Societies: Flexibility and Plurality of Identities	中村 香子/内藤 直樹	アジア・アフリカ地域研究研究科
70	68	March 2009	タイ国・バンコクにおける沿岸域利用 Coastal-zone use of Bandon bay. Area Study in SuratThani Province, South Thailand	渡邊 一哉	東南アジア研究所
71	69	March 2009	Cambodia Area Studies 3 カンボジア農村におけるベトナム人と地方行政の間わり「不当な」料金徴収とその影響をめぐって Ethnic Vietnamese and Local Authorities A Look at B Village, Prey Veng, Cambodia	松井 生子	広島大学大学院
72	70	未	A Multivariate Model of the Integrated Radiometric Correction Method of Optical Remote Sensing Imageries with Consideration to Terrain Irradiance	Shoko Kobayashi/Kazadi SANGA-NGOIE	生存圏研究所
73	71	March 2009	Aspects of Labour Intensive Economy around Bicycles in Modern India with Special Focus on the Import from Japan	Takashi Oishi	神戸市立外国語大学
74	72	March 2009	生のつながりへの想像力 1 生のつながりへの想像力—再生産の文化への視点 Imagining Relatedness of Life: New Perspectives towards the Culture of Reproduction	速水 洋子	東南アジア研究所
75	73	March 2009	生のつながりへの想像力 2 人の断片化か、新たな関係性か：イタリアの生殖技術論争の事例から Fragmentation of Person or Generation of New Relatedness ? Through the Debate on the Reproductive Technology in Italy	宇田川 妙子	国立民族学博物館

76	74	March 2009	生のつながりへの想像力3 同性愛者のパートナーシップと家族、次世代への継承 Partnership, Family and Continuity to the Next Generation among Gay Men and Lesbians	砂川 秀樹	実践女子大学
77	75	March 2009	生のつながりへの想像力4 トランスナショナルな家族にみる“つながり”の生成と再編：パキスタン人男性と日本人女性の国際結婚の事例から (Re)Creating “Relatedness” through a Transnational Family: Case Studies of Pakistani Migrants and Their Japanese Wives	工藤 正子	東京大学大学院総合文化研究
78	76	March 2009	Series on Imagining Relatedness of Life 5 Creating a New Life through Persimmon Leaves The Art of Searching for Life-design for Greater Well-being in a Depopulated Town	Nanami Suzuki	National Museum of Ethnology
79	77	March 2009	災害に立ち向かう地域／研究 生存基盤持続型の発展に向けた再想像＝創造のための素描 Tackling Natural Disasters Re-Imagining Area Studies for Sustainable Humano-sphere	清水 展	東南アジア研究所
80	78	April 2009	Living in an Occupied Hometown, Jerusalem: A Study on the Lives of Palestinians under the Israeli Policy of the “Residency Right”	Hiromi Tobina	ASAFAS
81	79	June 2009	Aspects of Tank Irrigated Agrarian Economy in Tamil Nadu, India: A Study of Three Villages	Munandi Jegadeesan/Koichi Fujita	東南アジア研究所
82	80	June 2009	Discourse and Social Relationships in Land Tenure Evaluation: A Claim for Land Rights in an African Agrarian Society	Shiraishil Soichiro	関西学院大学
83	81	June 2009	Islamic Higher Education in Contemporary Indonesia: Through The Islamic Intellectuals of al-Azharite Alumni	Kinoshita Hiroko	連環地域論講座
84	82	November 2009	アフリカ地域社会における資源管理とガバナンスの再編—住民の生計戦略をめぐる協働とコンフリクト Reforming Resource Management and Governance in African Rural Societies: Collaboration and Conflict in Livelihood Strategies	白石 壮一郎 編	関西学院大学大学院社会学研究科
85	83	November 2009	植民地期のカンボジアにおける対仏教政策と仏教界の反応 The Policies toward Buddhism and the Responses of the Buddhist Monks in Colonial Cambodia	笹川 秀夫	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部
86	84	February 2010	Media History of Modern Egypt: A Critical Review	千葉 悠志	ASAFAS 博士一貫課程
87	85	February 2010	モンゴル牧畜社会における銀製品 —その経済的な価値と文化的な価値 Silver goods in Pastoral Society in Mongolia: Their Economic values and cultural meanings	風戸 真理	地域研究統合情報センター
88	86	February 2010	The Reconfiguration of Cambodian Rural Social Structure: With the Special Focus on the People called as Chen and <i>Khmer</i>	小林 知	東南アジア研究所

89	87	March 2010	地球圏・生命圏・人間圏の世界地図-生存基盤指針の構築に向けて- The Atlas of Geosphere, Biosphere and Humanosphere - Toward	佐藤 孝宏・和田 泰三・黒崎 龍悟	東南研/東南研/京大アフリカ地域研究 資料センター
90	88	may 2010	東南アジアでの自然災害に即応する情報提供: ミャンマー国サイクロン・ナルギス関連情報ウェブサイトの経験 Potential of a website for disaster relief and restoration in Southeast Asia: Experience of Cyclone Nargis, Myanmar	古市 剛久	東京農工大学 環視リサーチ・育成セン ター
91	89	may 2010	依存から「自律」へ-難民の自助的活動に関する人類学考察- From Dependence to "Autonomy" of Refugees: An Anthropological Study on Refugees' Self-help Activities	久保 忠行	神戸大学大学院
92	90	may 2010	祭りの「参加」制度の変更と「関与」の連続性-三重県熊野灘沿岸部・相賀浦地区を例として- Change and Continuity in a Local Village Festival: A Case Study of the Okaura Area in Mie Prefecture	中川 千草	関西学院大学大学院社会学研究
93	91	may 2010	都市に/が居座ること-出来事としての都市についての試論- Obduracy in/of City: An Anthropological Essay on the City as a Chain of Events	木村 周平	富士常葉大学社会環境学部



発行日：平成 21 年 5 月 31 日

発行者：グローバル COE プログラム

「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」事務局

住 所：〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町 46

U R L : <http://www.humanosphere.cseas.kyoto-u.ac.jp/>